

一一 石井・ランシング協定廃棄ニ関スル交渉一件	六二四
附録 日本外交文書大正十一年第三冊日附索引	

事項一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件

附 歐洲復興國際会社設立問題一件

一 一月四日 閣議決定

カンヌ最高會議ニ於ケル日本代表者ニ対スル

訓令ノ件

訓令

客年石井大使發本大臣宛第一七六四号^(註)ニ関シ

(一)賠償問題ニ関シテハ

(イ)独逸カ支払計画書ニ基キ一月十五日ニ支払フヘキ五億金貨^(註)麻及二月十五日ニ支払フヘキ八、九、十三箇月間ノ輸出總額ノ二割六分ノ支払ニ関シテハ帝國政府トシテハ独逸ノ支払能力ノ存スル限りニ於テ支払ハシメテ可ナリト認ムルモ尚絶対ニ不能ナル事情アラバ延期ヲ承認シテ差支ナシ但シ適當ノ保障アラバ成ルヘク之ヲ取付ケ置クコト然ルヘシ

(ロ)賠償方法トシテ列國ガ現物勞力等ヲ受領スル方針ヲ執ラムトスルトキハ帝國政府ニ於テハ之ニ対シ異存ナシ尤モ帝國トシテハ此際右現物又ハ勞力ヲ受領スル希望ナキモ品物ニ依リテハ尚考慮ヲ要スルモノアルヘキニ依リ独逸ヨリ

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一

提供シ得ヘキ品目電報アリタシ

(ハ)独逸ノ支払フヘキ賠償債務總額千三百二十億金貨^(註)麻ノ減額ノ問題起リタル場合ニ於テハ其ノ減額方法カ關係國ニ対シ公平ニ処理セラルル限り且列國力之ヲ承認スル以上帝國政府ノミ敢テ反対スルノ要ナキモノト認ム

(ニ)前記ノ賠償總額減少又ハ現物受領等ノ決定ヲ見ル場合ハ勿論然ラサル場合ニ於テモ從來ノ方針通り現金吐出ヲ避クルコトニハ充分努力セラレ度シ

(ホ)帝國政府ノ大体方針トシテハ賠償問題ニ関シ独逸カ誠意ヲ以テ履行スル以上独逸ニ対シ余ニ苛重ナル条件ヲ強ヒ從テ其財政及經濟上ノ危機ヲ招クカ如キ措置ハ之ヲ避ケ度ク殊ニ此ノ際若シ仏國ヨリ「ルール」占領等ノ如キ強制手段ヲ申出ツルコトアルモ俄ニ賛同スルヲ得サル次第ナリ

(ロ)財政復興問題ニ関シテハ帝國政府ハ各國互ニ協力シテ其ノ財政狀態並國際經濟關係ヲ常態ニ復歸セシメントスル趣旨ニハ全然同感ナルモ帝國政府トシテ此ノ際具體的ニ如何ナル計画ニ加担スヘキヤ將又如何ナル援助ヲ為シ得ヘキヤ

一

ヲ予定シ難キニ付此等ノ点ハ箇々ノ場合ニ就キ御請訓ヲ俟テ決定スルコトト致度シ

註一 日本外交文書大正十年第三冊下巻五九四文書(六九三頁)

二 右訓令全文ハ大正十年十二月三十一日内田外務大臣発在仏国石井大使宛電報第一〇四八号ヲ以テ電送セラレタリ但シ其ノ末尾ニ於テ「以上諸項ハ一月四日ノ正式閣議ヲ經タル上何分ノ儀申進ムル迄ハ貴官限リノ御含ト御心得置相成度」旨書添ヘラレタリ

二 一月四日 内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛(電報)

對露問題ノ處理ニ對スル我方針訓令ノ件

附記 大正十年十二月二十六日在英國林大使發内田外務大臣宛電報第二二八〇号

露國問題ニ関スル我政府ノ方針ニ付請訓ノ件

第二号

貴電第一二八〇号ニ関シ

對露問題ノ帝國ニ及ホス影響甚大ナルニ顧ミ同問題ノ處理ニ関スル列強間ノ協議ニハ常ニ之ニ参加シ出来得ル限リ我方ニ有利ナル様之ヲ誘導スルコト必要ナルニ依リ貴官ハ大体左記趣旨御含ノ上可然御措置アリ度シ

一、勞農政府承認問題ニ付テハ列強協同ノ措置ニ出テ我國ノ孤立ヲ避クルコト肝要ナリ而シテ右承認ノ条件ニ付テハ帝國トシテハ少クトモ勞農政府ヲシテ左ノ諸項ヲ承認セシムルヲ要ス

(1) 過激派宣伝禁止

(2) 戰時中及其前後ノ債務

(3) 旧政府ノ条約上ノ義務

(4) 外國人ノ身体財産ノ安全保障

(5) 外國人ノ既得權尊重

(6) 勞農政府ノ不法行為ニ基ツク損害賠償

(7) 尼港虐殺事件ノ責任

(8) 極東露領ニ於ケル地方の政府ノ許諾セル權利利益

尤今次最高會議ニ愈々本件承認問題上程ノ場合ニハ右条件等ニ付確定議ヲ加フル必要アルニ付改メテ請訓セラル様致度シ

二、極東露領ニ於ケル帝國從來ノ措置ハ露國ノ一般狀態並ニ極東地方ノ特殊事態特ニ帝國カ同地方ニ對シ有スル地理的關係ニ基ツク緊切ナル利害關係ニ鑑ミ必要已ムヲ得サルニ出テタルモノナルカ故ニ前記ノ如ク極東露領ニ於

ケル地方の政府ノ許諾セル權利利益ハ勞農政府ヲシテ之

ヲ認メシムルト共ニ將來ニ於テモ帝國ハ同地方ノ特殊事態ニ応シ必要ノ措置ヲ執リ得ル余地ヲ存シ置キ度ク尚ホ同地方ニ於ケル商業並產業上ノ門戸開放及帝國ヲ脅威スル如キ施設廢止等ニ付何等カノ方法ニ依リ勞農側ノ保障ヲ得ルコト必要ナルニ付右ニ就キ予メ列強ノ諒解ヲ得置度キ希望ナリ

三、露國饑饉救済問題ニ付テハ露國民ノ窮狀ハ同情ニ堪ヘサルモ帝國政府ハ過去ニ於テ西比利亞露人救済ノ為メニ百万円余ノ物資及衛生材料等ヲ供給シ且ツ鐵道財政援助資金トシテ一千余万円ヲ支出シタル外鐵道守備ノ為ニハ出兵ニ伴フ數億円ノ費用及數千ノ人命ヲ犠牲ニ供シタル次第ニシテ此ノ上歐露救済ノ為メ資金支出ノ儀ハ目下財政緊縮ノ際甚困難ナル事情アリ民間ニ於テモ土地遠隔經濟界不況等ノ為メ思ハシキ結果ヲ得サル次第ナリ尤モ右救済事業ニ關聯シ列強ヨリ視察員ヲ露國ニ派遣スル場合ニハ是非共我方委員ヲ加フル様御尽力アリタシ

在歐米各大使瑞典波蘭ヘ転電アリタシ

(欄外註記)

「十一年一月四日ノ閣議ニテ承認済(内田大臣)」

註 大正十年十二月二十六日在英國林大使發内田外務大臣宛電報

第二二八〇号ニ付テハ左掲ノ附記參看

(附記)

十二月二十六日在英國林大使發内田外務大臣宛電報第二二八〇号

露國問題ニ関スル我政府ノ方針ニ付請訓ノ件

第一二八〇号 (十二月二十七日接受)

最近露國問題ハ独逸賠償問題ニ關聯シ漸ク關係列國ノ間ニ論議セラレントスル傾向アリ曩ニ勞農政府ノ英仏政府宛申入ニ關シテモ早晚何等發展アル可シト思考セラルルニ付テハ政府ノ一般的對露方針本使心得ノ為御内示アリタク尚帝國ノ對露債權其ノ他右ニ關シ本省ニ於テ調査ニ係ル資料等至急御送付アリタシ本件ハ今回ノ最高會議ニ於テモ論議セラル可キコト殆ンド確ナルガ如キモ未ダ当國政府ヨリハ何等申来リ居ル次第第二非ズ

在仏大使ヘ転電セリ

三 一月四日 内田外務大臣ヨリ
在仏国石井大使宛(電報)

對露問題ニ關シ措置振訓令ノ件

第三号 至急

貴電一七八二号末段ニ関シ篤ト攻究ノ上何分ノ議申進スヘキモ差当リノ処米國ニ於テ参加ノ場合ニハ日本モ参加スルコトト致度内意ナルニ付最高會議ニ於テハ大体其御含ヲ以テ往電第一〇四八号(ニ)^(註2)ノ趣旨ニ從ヒ可然応酬相成様致シタシ

右訓令トシテ在英大使へ転電シ参考トシテ貴電第一七八二
号ト共ニ欧米各大使へ転電アリタシ

註1 大正十年十二月二十九日在仏國石井大使筵内田外務大臣宛
電報第一七八二号ニ付テハ日本外交文書大正十年第三冊下
卷五九六文書(六九三頁)參看

2 前記一月四日閣議決定ノ註ニ参看

四
一月四日
内田外務大臣ヨリ
在仏国松田臨時代理大使宛（電報）

カン又最高會議ニ対スル日本政府ノ方針ニ関
シ林石井両代表ニ訓令ノ件

第四号

往電第一〇四八号ニ関シ林石井両代表へ左ノ通
閣議ニ於テ同電(一)ノ(四)ヲ「賠償方法トシテ列国カ現物勞力
等ヲ受領スル方針ヲ執ラントスルトキハ帝國政府ニ於テハ

六
一月五日
在カンヌ林石井両最高会議代表ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

賠償問題ニ関シカン又最高會議ニ於テ日本政

府ノ採ルベキ方針ニ付稟申ノ件

附記一 一月六日在仏国佐藤臨時代理大使筵内田外務大

臣宛電報第八号（賠實第二三五号）

大正十年十二月十六日在仏国石井大使發内田外

務大臣宛電報第一七三二號（賠實第二三三三號）

三月六日在仙國佐藤臨時代理大使發内田外務大

臣宛電報第一四号（賠案第二三六号）

第二号

(二月六日接受)

客年巴里宛貴電第一〇四八号ニ関シ

、同電(一)(ロ)ニ拠レバ如何ナル実物ヲ提供セシムルヲ有利トスルヤノ問題ニ就キ且下帝国政府ニ於テ慎重御審議中ナル趣列国カ実物受領ニ依リ賠償方法ヲ定メ独逸ト之ニ関スル特別ノ協定ヲ締結スルヲ概括的ニ承認セシムル方針ナルコト巴里発賠案第二三五号ノ如シトセバ御垂示ノ我方主張ノ提出ニ好都合ノコトト存ス

二、加之賠案第二三五号^(註一)所報九ニ抛レハ賠償分配率ノ如何ニ拘ラス(尤モ千九百二十三年以後ノ計算ニハ入レルヘキモ)千九百二十二年ハ各国共ニ其実物受領額ヲ留保

一 歐洲復興及賠償問題
二 関スル諸會議開催ノ件
六

之ニ対シ異存ナシ尤モ帝國トシテハ此ノ際右現物又ハ勞力ヲ受領スル希望ナキモ品物ニ依リテハ尚考慮ヲ要スルモノアルヘキニ依リ独逸ヨリ提供シ得ヘキ品目電報アリタシ^(註)ト訂正シタル外他ハ凡テ同電通決定シタルニ付右ノ趣旨ヲ以テ御措置相成度シ

本電右往電第一〇四八号ト共ニ英独白伊ヘ転電アリ度シ

註訂正前ノ閣議案原案ハ左ノ通

(四)賠償方法トシテ列國ガ現物勞力等ヲ受領スル方針ヲ執ラム
トスルトキハ各國ニ於テ帝國政府力將來独逸ト之ニ関スル
特別ノ協定ヲ締結スルノ權利ヲ明ニ承認シ且独逸ヲシテ之
ヲ認メシムルノ手續ヲ執ルコトヲ條件トシテ之ニ贊同セラ
レ差支ナシ帝國政府ニ於テハ目下如何ナル現物又ハ勞力ヲ
提供セシムルヲ有利トスルヤノ問題ニ付テ慎重審議中ナ

五
一月五日
在カンヌ林石井両最高會議代表ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

最高會議代表一行力ン又到着ノ件

第一号
(二月六日接受)

本使等一行本五日午前当地到着セリ

英仏獨へ転電セリ

スルコトトナルヘキ故実物ヲ全然受領セザル国ハ夫レ丈
 不利益ナル地位ニ立ツヘシト思惟セラル

三、右ノ諸点仮ニ一致ヲ見又本邦ニ於テ此際実物ノ受領ヲ可トセラルル御方針ナルニ於テハ出来得ル限り速ニ御決定アルコト有利ナリト存セラル

四、優先權ノ満足ニスラ不充分ナル今日ニ於テ賠實第二三
五号ノ十二所報伊国ガ伊太利銀行保有ノ一七五、〇〇〇、
〇〇〇「リラ」ヲ受領スル事情ニ就テ目下取調中

英独へ転電セリ

註↑ 左掲ノ附記一參看

2 左掲ノ附記ニ參看

3 左掲ノ附記ニ参看

(附記一)

一月六日在仏国佐藤臨時代理大使発内田外務大臣宛電報第八号
賠実第二三五号ノ件

第八号
(二月七日接受)

賠實第二三五號

客年十二月英仏首相倫敦会合ノ際英仏専門家ノ起草セル草案大要左ノ通り

本案ハ賠償委員会ニ於テ入手シタルモノナルガ英仏政府ノ意見未ダ一致セズ賠償委員会モ何等承認シタルモノニ非ズト雖モ「カンヌ」會議ニテ討議セラルベキ雲行ナリ

第一、客月十五日独逸政府ノ申出アルニ拘ラズ（賠実第二三三三号）^{（註2）} 聯合國ハ規定額五億金貨馬克ヲ要求スベク之ガ為メ独逸帝國銀行金準備金ノ一部ヲ提供スベシ其支払ハ一九二二年一月十五日、二月十五日、三月十五日及四月十五日ノ四期ニ均分シテ履行ス但シ聯合國ハ一九二二年中右以外ノ現金要求權ヲ拋棄ス

第二、独逸政府ハ支払一部延期許可ノ条件トシテ附屬書（賠実第二三三六号）^{（註3）} ノ手段ヲ直ニ採ルベシ

第三、聯合國ハ次ノ保障ノ下ニ「ウィスバーデン」協定ニ関スル抗議ヲ撤回ス

(イ) 一九二六年以降ハ新タナル債務ノ延期ナキコト

(ロ) 仏国ノ延期債務額ハ如何ナル時期ニ於テモ四十億金貨馬克ヲ超過セザルコト

(ハ) 仏国ハ一九二六年末ニ於ケル延期債務總額ヲ十回ノ均分割賦年金ヲ以テ毎年ノ賠償受領勘定ト相殺シ決済スベシ同年以降ハ現金タルト現物タルトヲ問ハズ仏国ノ受領額ト右

割賦年金トノ合計ガ國際協定ヲ以テ定マレル同國賠償分配率ニ超過スルコトヲ許サズ

(ニ) 一九二二年中仏国ニ引キ渡サルヘキ現物價格ハ十二億五千万金貨馬克ヲ限度トス

第四、賠償要求權アル凡テノ國ハ賠償委員会ノ同意ヲ得現物引渡シニ関シ「ウィスバーデン」協定同様ノ協定ヲ為スヲ得但シ仏国以外ノ各國ノ一九二二年中ノ受領總額（賠償回收法收入金ヲ含ム）ハ五億金貨馬克ヲ超ユルヲ得ズ独逸ハ右協定締結ノ為メ直ニ最善ノ努力ヲ尽スヘク若シ独逸ガ不當ニ協定ノ締結ヲ遅延スル場合ニハ關係國ハ其ノ補欠トシテ本年中ニ二億五千万金貨馬克ヲ要求スヘシ

第五、一九二二年五月一日以降ノ米國ヲ除ク各國占領軍費ハ一ヶ月一千六百万金貨馬克ニ削減シ各國ハ現物受領額ト相殺スルコトヲ得

第六、英國ハ次ノ条件ノ下ニ大蔵大臣協定ノ承認ヲ得ントス

(イ) 昨年支払済ミノ十億金貨馬克ニ前述五億金貨馬克（第一）ヲ合算シ此ノ中ヨリ英仏兩國各五億金貨馬克ヲ受領シ兩國ノ一九二二年五月一日以前ノ占領軍費ニ充當ス但シ

「ザール」炭鉱價格ハ聯合國ノ計算ニ於テ占領軍費勘定トシテ仏国ニ借記セズ之ヲ一九二二年同國ノ賠償勘定借方トシ之ガ決済ハ一九二三年以降ニ行ハルベク其ノ方法ハ今後ノ國際協定ニ依リ定ム

(ロ) 右ノ残額中ヨリ約一億五千五百万「リラ」（目下伊太利銀行ニアリ）ヲ控除シタルモノヲ白耳義優先權ニ充當ス
在欧米各大使ヘ転電セリ

（附記一）

大正十年十二月十六日在仏国石井大使宛内田外務大臣宛電報第一七三二号
賠実第二三三三号ノ件

第一七三二号

賠実第二三三三号

独逸政府ハ十五日賠償委員会ニ対シ来年一月及二月ニ於ケル支払ヲ履行シ得ザル旨左記ノ通り通告セリ

独逸政府ハ伯林ニ於ケル會議ノ際賠償委員会ニ対シ説明シタルガ如ク来月一月及二月ノ支払ヲ確保スル為メニ有ラユル手段ヲ講ジタリ右努力ノ成功ハ一ニ外債ノ成否ニ依リ且之ガ為メニハ英國資本家ノ積極的努力ヲ絶対的ニ必要トスルニ依リ独逸政府ハ起債ニ関シ英國ニ於テ交渉ヲ開始シタ

リ然ルニ有力ナル筋ヨリ将来ノ独逸ノ債務即チ賠償委員会ニ対スル独逸政府ノ財政上ノ義務ニ鑑ミ斯ル起債ハ長期公債又ハ短期ノ銀行借入金何レニ依ルモ之ヲナスコト能ハザル旨ノ回答ニ接セリ右ノ如クナルヲ以テ独逸政府ハ来月一月及二月ノ支払ニ対シ必要ナル資金ヲ得ルノ可能ヲ予知スル能ハズ總テノ手段ヲ尽シ且ツ自國ノ要求ヲ度外視スルモ独逸政府ハ之等年金支払ノ為メ実物并済及賠償回收法ニ依ル收入ノ外ニ一億五千乃至二億金貨馬克以上ノ金額ハ之ヲ得ルコト能ハズ故ニ独逸政府ハ右期日ノ支払ニシテ支払不能ノ部分ニ付テハ期日延期ノ要求ヲ為スノ已ムヲ得ザルニ至レリ独逸政府ハ其ノ後ノ支払ニ付テモ同様ノ困難アルヲ知ルト雖モ目下其ノ要求ヲ本件ニ限ルモノナリ

（附記二）

一月六日在仏国佐藤臨時代理大使宛内田外務大臣宛電報第一四号
賠実第二三三六号ノ件

第一四号

賠実第二三三六号

往電第八号第二ニ関シ附屬書ノ大要左ノ通り

第一、独逸政府ハ十五日以内ニ左ノ点ニ関シ賠償委員会ヲ

満足セシムル為ノ手段ヲ採ルベシ

(f)金貨払ノ関税ヲ有効ニ徴収シ且石炭価格、鉄道及郵便料金ヲ引上グルコト

(g)帝國銀行ノ政府貸上金一ヶ月増加額ハ客年十二月中ニ為セル貸上金額ヲ越エザルコト

(h)正貨準備ナクシテ紙幣ヲ発行スル場合ニハ一ヶ月ノ増加額ハ客年十二月ノ増加額ヲ越エザルコト

第二、独逸政府ハ六週間以内ニ賠償委員会ニ対シ次ノ諸点ニ関スル計畫書ヲ提出スベシ

(i)帝國銀行財政監督ノ為同銀行及賠償委員会ノ承認スル専門家ヲ任命スルコト

(k)予算ノ均衡ヲ得ル為内債ヲ発行スルト同時ニ不急事業ニ対スル経費及補助金ヲ廃スルコト

(h)資本ノ国外移転ヲ禁ジ通貨ノ濫発ヲ抑制シ且時々財政経済ニ関スル統計ヲ公表スルコト

賠償委員会ハ一ヶ月以内ニ右計畫書ニ対スル意見ヲ提示スベシ

第三、右賠償委員会ノ意見ニ対シ独逸政府ガ之ニ対スル計畫書ノ提出ヲ怠リ若ハ期間内ニ計畫ヲ実行セザルトキハ賠償

八 一月六日 在カンヌ林最高會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

独逸ノ提供シ得ベキ品目中ノ我所要品ニ関ス

ル件

第三号 (一月七日接受)

仏宛貴電第四号ニ関シ

独逸ノ提供シ得ヘキ品物モ我ニ用無キモノアルヘキニ付我ヨリ我所要ノ品目ヲ決定シテ独逸ト交渉スルヲ自然ノ順序ト存ス差当リ電気機械染料薬品等ハ我所要品カト存スルモ右ハ主管庁ニ於テ定見アルヘク何ノ道在独大使ヲ通シテ独逸政府ニ対シ我ヨリ交渉ヲ開クコト捷徑ナルヘシ

九 一月六日 在カンヌ林石井両最高會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

カンヌ最高會議ニ於テ賠償歐洲復興及露国承認ノ諸問題ニ付討議ノ要領報告ノ件

第四号 (一月八日接受)

カンヌ最高會議第一

一月六日午前十一時「セルクル、ノーチック」ニ於テ

仏「ブリアン」「ドーメル」「ルーシュール」

英「ロイド、ジョージ」「カーゾン」「ホルン」「ウォーシ

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 八 九

償委員会ハ直ニ支払計畫ニ依ル金額ヲ要求シ条約第八編第二附属書ノ「サンクシヨ」ヲ伴フニ至ルベシ

在米大使ヘ転電セリ

在欧各大使ヘ郵送セリ

七 一月六日 内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛(電報)

日本ノ對露債權其他ニ関スル調査通報ノ件

第三号

貴電第一二八〇号末段ニ関シ一応ノ調査ニ依レハ旧露国政府ノ債務ハ大正六年中本邦ニ於テ発行シタル露国政府大蔵省証券約二億二千万円民間当業者ニ対スル債務約七千万円又本邦銀行ニ現存セル旧露国政府資金ノ判明セルモノ約五十万(尚右ノ外横浜正金銀行ニ預金約六千万円アレトモ右ハ各種露国証券所持者ニ引換ヘ交付シタル臨時国庫証券ヲ同銀行ニ於テ買取リタル資金ノ引当トナリ居リ其他ノ預金ト同一ノ取扱ヲ為スヲ得サルモノニツキ貴大使限リノ含ミニ留メ外部ヘハ絶対ニ言明セラレザル様致度シ)ナリ
巴里ヘ転電アリタシ

ントン」「エヴァンス」

伊「ボノミ」「トレッタ」「ライネリ」

日 林、石井

米「ハーヴェー」

白「チュニス」「ジャスパル」

出席

「ブリアン」議長開会ノ挨拶ト共ニ今回會議ノ主要目的ハ賠償及ヒ歐洲復興ノ問題ナリ細目ハ専門委員ノ報告ヲ要スルモ大体方針ニ付討議シ度シト述ベタリ「ロイド、ジョージ」ハ賠償問題ニ付各国其固有ノ地位ヲ承認シ各国間ニ充分ノ了解ヲ得ザレバ本問題ノ解決不可能ナリ又各国何レモ戦争ノ為多大ノ犠牲ヲ払ヒ為ニ産業上財政上非常ノ困難ニ立チ居ルコトハ相互ニ之ヲ認メザルベカラザルト共ニ独逸ヲシテ其能力ノ限度迄賠償仕払ヲ為サシメザルベカラザルノ要アルヲ述ベ次テ歐洲經濟復興ニ関シ歐洲各国會議開催ノ必要並該會議ニ露国ヲモ参加セシムルノ必要ヲ述ヘ一ノ決議案ヲ提出シタリ(決議案ハ午後ノ會議ニ修正ノ上通過セリ往電第六号参照)「ボノミ」ハ伊国カ現ニ未曾有ノ困難ノ地位ニ立チツツアリ經濟復興ノ為是非共同等カノ方法

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一〇

ヲ講ズルノ要アリトテ熱心ニ復興ニ関スル「ロイド、ジョージ」ノ提議ニ賛同シ「チュニス」亦歐洲復興ニ賛意ヲ表シ石井ハ歐洲復興ニ付テハ日本政府ニ於テ目下考究中ナルモ原案ニハ単ニ歐洲各国ノ會議トアリ從テ日本ハ直ニ賛否ヲ表スベキ地位ニ非ズ唯勞農露西亜承認ノ条件ニ付テハ追テ意見開陳ノ機會ヲ留保シ置クヘシト述ヘ置ケリ終ニ「ブリアン」ハ歐洲復興ニ付滿腔ノ賛意ヲ表シ唯露國ノ参加無クシテハ本件會議ノ成功ヲ期シ難キモ参加ノ条件ハ慎重考究ノ要アリト述ヘ賠償ニ関スル專門委員會ノ外歐洲復興國際會議ニ関スル委員會ヲ構成センコトヲ提議シ全会ノ承認ヲ得タリ右ニテ午後一時一先ツ散會

在歐米各大使ヘ転電セリ

一〇 一月七日 在カンヌ林石井兩最高會議代表ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

カンヌ最高會議ニ於テ歐洲經濟財政復興ニ関スル英國提案ヲ審議可決ノ件

別電 同日林石井兩代表宛内田外務大臣宛電報第六号
右英國提案修正並全歐諸國代表者参加ノ經濟財政會議開催ヲ必要トスル旨ノ決議ニ関スル件

第五号

（一月八日接受）

一〇

「カンヌ」最高會議第二

六日午後三時半開會出席者大体前回ニ同シ歐洲經濟復興ニ関スル英國提案ヲ逐条ニ審議シタル結果要領別電第六号ノ通ニシテ可決サレタリ

右決議第六項ニ関シ石井ハ右ハ自明ノ理ニシテ特ニ是ヲ存シ置ク実益ナキノミナラズ西比利ニ駐在セシメ居ル日本ノ特殊地域ニ鑑ミ露國ニ於テ西比利撤兵ヲ日本ニ迫ル利器トナル恐アリ仍テ削除ヲ希望スル旨陳述シタル処「ロイド、ジョージ」ハ本決議ハ日本ノ西比利ニ於ケル行動ヲ妨グルモノニ非ズ「ソヴィエツト」政府ガ波蘭羅馬尼等隣國侵略ヲ不可能ナラシムル為必要ナリト主張シ伊國外相ハ日本ノ心配ヲ満足スル為本項ノ「ネーションズ」ハ歐洲諸國ニ限リ日本ヲ含マズト了解ヲ附シテハ如何ト折衷説ヲ出シ石井ハ此ノ了解アラバ本項ニ異議ナシト述べ滿場此ノ了解ニ決ス又決議末項露國政府承認問題ニ関シ石井ハ日本政府ニ於テ承認ノ条件ヲ目下考慮中ニ付今日ノ席上本項ヲ無条件ニ承認スルコト困難ナリト述ヘ「アド、レフ、エレンダム」ニテ同意シ置ケリ本件ニ関シ別ニ電稟ス可シ尚右午後ノ會議ノ半バニテ休憩ノ折石井林ヨリ夫々「ブリアン」及

第六号 別電

（一月八日接受）

冒頭本會議參列聯合諸國ハ中欧並東歐經濟復興ノ為來ル二月又ハ三月初全歐諸國（独、露、埃、洪、勃ヲモ含ム）ノ經濟會議ヲ召集スルコトニ意見一致シ尚該會議決議迅速実行ノ為メ成ル可ク各國總理大臣之ニ出席スルコトヲ必要ト認ムルコトヲ記シ次テ歐洲國際貿易ノ恢復並ニ各國資源ノ開發ハ生産ノ増進全歐國民救済ノ為メ必要ニシテ之カ為ニハ各強國協力ヲ要スルノミナラズ通商ニ関スル一切ノ障害ヲ除去シ弱國ニ對シテ信用貸付ヲ為シ生産狀態ノ恢復ニ資セザル可カラズ而シテ之ヲ公然実行スルニ欠ク可ラザル条件トシテ左ノ各項ヲ挙グ

一、各國ハ他國內ノ經濟並ニ其ノ政治ノ根本原則ニ関シ互ニ之ヲ掣肘スルノ權利ヲ主張スルヲ得ズ各國ハ自ラ其ノ欲スル制度ヲ採択スヘシ

二、尤一國援助ノ為メ外國資本ヲ利用スルニハ先ツ以テ外國投資者ハ其ノ財産及權利ヲ尊重セラレ且ツ其ノ企業利得ノ確保セラルルヲ要ス

三、右ノ資本利用ハ外國ノ投資ヲ希望スル國民（又ハ政府）ニ於テ左記条件ヲ任意ニ約スルニ非ザレバ實現セラ

「カーゾン」ニ對シ本件提案ノ歐洲經濟會議ハ事歐洲ノミニ限ル以上日本トシテハ当然是ガ討議決定ニ参加スル限ニハ非ザル可キモ尠クトモ露國問題ニ關シテハ一面歐洲ニ關スル事項モ間接ニ延イテ西比利方面ノ事態ニ影響スルヲ免レザル事實ニ鑑ミ又他面將來西比利方面ノ復興ニ關シ該方面ニ最モ關係深キ日本ヲ中心トシテ類似ノ措置ニ出デザル可カラザルガ如キ場合ヲ慮リ尠クトモ是ガ參考トシテ歐洲復興ニ關スル討議ニ列席シ置クコトヲ帝國政府ニ於テ希望スルヤモ知レザル旨述ベタル処「ブリアン」ハ直ニ同意ヲ表シ「カーゾン」又考慮シ置ク可キ旨ヲ答ヘタリ尤モ散會後「ロイド、ジョージ」ハ「ブリアン」等ノ面前ニテ石井ニ對シ米國ニ對シテモ聯合國ノ名ニ於テ案内ヲ發シ異存ナキヤト尋ネタルニ付石井ハ勿論異存ナキ旨ヲ答ヘ置キタリ尚歐洲復興會議地ハ「ゼノア」ト決定シ其ノ時期ハ大体三月初旬ト定メタリ

在歐米各大使ヘ転電セリ

（別電）

一月七日在カンヌ林石井兩代表宛内田外務大臣宛電報第六号
英國提案修正並全歐諸國代表者参加ノ經濟財政會議開催ヲ必要トスル旨ノ決議ニ関スル件

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一〇

一一

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一一一二
レザルヘシ

(a) 国及自治体其他ノ公ノ団体ノ締結又ハ保障セル過去及将来ノ負債ヲ承認シ財産押収又ハ抑留ノ為ノ外国利益(フォレン、インタレスト)ニ対シ生ゼシメタル損害ノ原状恢復又ハ之カ賠償ノ義務ヲ承認スルコト

(b) 商取引其他ノ契約ノ公平ナル履行ヲ強制確保スル為メ公正ナル司法制度ヲ確立スルコト

四、為替相場ニ関シ適當ノ手段ヲ講シ一般ニ通商ニ充分ノ保障ヲ与フベキ財政上並ニ貨幣制度上ノ条件ヲ維持セザル可カラズ

五、各国ハ他国ノ政治上ノ組織及秩序ヲ破壊スルガ如キ宣伝ヲ行ハザルコトヲ約スルコト

六、各国ハ其隣接国ニ対シ一切ノ侵略ヲ為サザルコトヲ共同ニ約スルコト

若シ露国政府ガ其通商開発ノ為メ必要ナル条件ヲ確保スル国ノ正式承認ヲ求ムルニ於テハ聯合國ハ露国政府ニシテ上述ノ約束ヲ受諾スルニ非ザレバ之ガ承認ヲ与フルコト能ハザルベシ

在欧米各大使ヘ転電セリ

一一 一月七日
在カンヌ林石井両最高會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

歐洲復興問題ニ関シ米国政府ノ態度ニ付同国大使ニ尋ネタル件

第七号 (一月八日接受)

歐洲復興問題ニ関シ御返電ノ次第モアリ先以テ米国大使ノ態度ヲ知ルノ必要アルニ付六日開会早々列席ノ同大使ニ本問題ニ関スル米国政府ノ態度ヲ問ヒタルニ同大使ハ本件ニ関シ未タ何レノ方面ヨリモ交渉ヲ受ケタルコトナク米政府ノ態度ハ自分ノ毫モ知ラサルコロナリト答ヘ會議中議長ヨリ同大使ノ発言ヲ求メタル際ニモ同大使ハ何等云フ可キコトナシトテ発言ヲ避ケタリ御参考迄

一二 一月七日
在カンヌ林石井両最高會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英國首相提出ニ係ルソヴィエト政府承認問題

ニ関シ稟申及請訓ノ件

第八号 (一月八日接受)

往電第五号ニ関シ

「ロイド、ジョージ」提出ニ係ル「ソヴィエト」政府承認

ノ件ハ大体林宛貴電第二号ニ列挙セル一ノ(1)乃至(6)ノ条件ヲ具備スルコト御承知ノ通(7)尼港虐殺ノ件ハ帝國政府ガ「ソヴィエツト」政府ヲ承認シタル上之ト直接交渉スベキ性質ヲ有シ此ノ際最高會議ノ承認ヲ受ク可キモノニ非ズト存ゼラル、次ニ(8)極東ニ於ケル地方的政府ノ許諾セル我權利々權ハ如何ナルモノナルヤ本使等ノ存ゼザル所ナルガ此ノ際漫然斯カル事項ヲ提出スルハ徒ラニ列国ノ猜疑ヲ招キ之亦列国ノ承認又ハ諒解ヲ得ルノ見込ナシト認メタルニ付本使等ハ右両項ニ論及スルヲ避ケタリ而シテ會議ニ於ケル列国ノ態度ハ何レモ英國提案ニ雷同スルコト明瞭ナル傾向ニ鑑ミ本件ニ関スル帝國ノ孤立ヲ避クル為本使等ハ「アド、レフエレンダム」トシテ同意シタル次第ニ付本使等ノ行動ヲ是認セラレ政府ノ御承認アラバ議長「ブリアン」ニ

対シ条件解除ノ通告ヲ為スベキ手順ニ付何分ノ御電訓ヲ待ツ將又露國極東地方ニ於ケル帝國ノ特殊事態ハ事頗ル機微ニ属シ伊白等ノ列席スル會議ニ於テ之ヲ論スルモ左程ノ効果ナカルベク本件ハ一面英米仏政府個々ノ懇談ニ依リテ諒解ヲ遂ゲ一面承認後ノ「ソヴィエツト」政府ト交渉ヲ要スル儀ト存ゼラルルニ付昨六日ノ會議席上ニ於テハ輕ク西比

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一三 一四

利亞出兵ニ言及シ伊國首相ヨリ吾人ハ西比利亞ニ於ケル日本ノ行動ヲ妨ゲントスルモノニアラズトノ言アリシヲ幸イ深ク論及セザリシ次第ナリ
在欧米各大使ヘ転電セリ

一三 一月七日
在カンヌ林石井両最高會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

最高會議延期ノ件

第九号

賠償問題ニ付英仏白専門委員會間ニ意見ノ一致ヲ見ズ最高會議一兩日延期ノ見込ナリ

一四 一月八日
在カンヌ林石井両最高會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

カンヌ最高會議ニ於ケル賠償問題ニ関スル件

別電 同右電報第一一号
白国首相ニ依ル賠償問題ニ関スル経過及現況報告

第一〇号

最高會議第三

一月七日午後七時開会

前回出席者ノ外賠償専門委員出席

一三

賠償専門委員及歐洲復興ニ関スル専門委員ノ報告ヲ聴取スルコトトシ賠償問題ニ付白国首相「チュニス」ハ委員会大

代表者ヲ任命シ巴里ニテ符合ハスヘキ旨電報スルコトニ決セリ

在欧米各大使へ転電セリ

(別電)

一月八日在カンヌ林石井両最高會議代表発内田外務大臣宛電報

第一一号

白国首相ニ依ル賠償問題ニ関スル経過及現況報告

第一一号 別電 (一月九日接受)

賠償問題経過左ノ通

第一、仏国ヲ除ク外各国賠償委員「カンヌ」ニ集リ英仏政府当局中心トナリテ内交渉ヲナシ居リタルガ六日ヨリ五国専門家會議開催賠実第二三五号所報ノ草案ヲ附議シタリ然ルニ白国専門家ハ極力分配問題ニ触ルルヲ避ケ之首相ノ専権ニ属シ同国専門家ニハ決定ノ権限ナシトシ分配問題ヲ以テ一般討議ノ前提トスル態度ニ出デタルヲ始メ議論多ク議事為ニ進捗セズ依テ現金実物ニ関スル各国分配問題ハ後廻シトナシ七日朝一先ツ左記事項ニ関スル簡單ナル報告ヲ当地ニ於ケル大蔵大臣會議ニ提出シタリ

一、専門家會議ハ独逸財政ノ不整理ニ関シテ責任ヲ判定スル地位ニ非ザルモ其責独逸政府ニアルコト明ナレバ財政

シ英國之ニ反対シ結局前項五ノ趣旨ヲ是認シ次ニ支払能力ニ関シ英國ハ実物弁済額ヲ制限スル態度ナルニ対シ仏国賠償大臣ハ一九二二年ニ於ケル仏国ノ実物受領額ハ条約ニ依ルモノト「ウィースバーデン」協定ニ依ルモノト合シ九億五千万ヲ上ルコトナカルヘシト明言シタル処英國ハ実物及「ウィースバーデン」協約ノ引渡シヲ合シテ十七億五千万、現金五億計二十二億五千万ヲ以テ独逸支払能力ノ最大限ナリト云ヒタルニ対シ白国ハ担保支払ハ担保委員会ノ決定ノ如ク独逸政府ニ輸出額百分ノ二十五ノ徴収トシテ十日毎ニ二千五百万金貨馬克一年九億金貨馬克ヲ現金支払トシテ要求スヘシト述ヘタルモ議纏ラス又更ニ白国ハ条約第二

ノ改善ヲ期スルヲ以テ讓歩ノ条件トスルヲ正当ト認ム

二、専門家會議ハ独逸ニ対シ一九二二年ニ於テ一定額ノ支払猶予許容方ヲ考慮スル理由アルヲ認ム

三、独逸ハ一九二二年ニ於テハ五億金貨馬克以上ノ現金支払ニ耐ヘ得ザルヤノ問題ニ付テハ実物払ト現金払トヲ別箇ニ考慮スルコト不可能ナリ之ト同時ニ独逸財政復旧ノ点ノミヨリ考フレバ一九二二年ニ於ケル現金払ハ可成減スルヲ可トス然カモ又他ノ一方ニ於テ賠償ヲ要求スル各国側ノ実状ヲ見ルニ現金ニ対スル需要頗ル旺盛ナル事実ヲ認メザルヲ得ズ

四、独逸ガ外債ヲ募集シ得ルヤ否ニ付テハ未ダ然ラザルヲ信ズ

五、独逸ニ課スヘキ条件ニ関シテハ委員会ハ倫敦提案ノ主旨ニ同意スト雖モ一部ノ委員ハ同案ヲ以テ独逸政府ノ当然負フベキ責任ヲ賠償委員会ニ転嫁スル危険アリトノ見解ヲ有ス

第二、財政及賠償關係大臣會議(白国首相兼蔵相議長)ハ從テ遅延シ漸ク七日午前十一時半初会ヲ開キタルカ支払猶予ノ条件ニ関シ白仏ハ支払計画第七条ノ具体的実行ヲ提唱

第三、然ルニ各専門家ハ問題カ最高政策ナル以上最早専門的知識ヲ待ツ事項ニ非ストシテ開会セス大臣會議モ流会ニ終リ午後七時ヨリ最高會議ノ召集ヲ見ルニ至レリ之白国優先權ヲ始メ分配問題ニ付各国間協調ヲ得サルニ起因スルモノナリ

在欧米大使へ転電セリ

註 客年十二月英仏首相倫敦会合ノ際英仏専門家ノ起草シタル草案ナリ

一五 一月八日 在カンヌ林最高會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

カンヌ最高會議ニ於ケル賠償問題中ノ伊国賠償ニ関シ石井代表ブリアン氏会談ノ件

第一二号

(一月十日接受)

往電第二号ノ四ニ関シ石井ハ去五日「ブリアン」ニ面会ノ折独逸ノ支払ヒタル金額ガ優先權ニスラ充当スルニ足ラザル今日伊国ニ分配スルハ「スパー」協定ニ一致セズト認ム若シ此際各国ガ条約又ハ協定ニ依ラズ夫々分ケ前ヲ得ントスルニ於テハ同協定ニ依ル各国ノ權利ヲ忠実ニ尊重スル日本ハ不利益ヲ招クベキヲ以テ勢ヒ黙視スルヲ得ザル地位ニ

立ツニ至ル可シト述べタルニ彼ハ斯カル日本ノ正当ナル權利ハ會議ニ於テ主張セラルル余地充分アリ倫敦会談ハ何事モ決シタルモノニ非ズト答ヘタリ

然ルニ本邦ノ不同意ヲ伝聞シタリトテ伊国賠償副委員ハ会见ヲ申込ミ述ブル所大要左ノ通

伊国財政經濟ハ甚シキ苦境ニ陥リ殊ニ最近ノ「パンカ、デスコント」ノ支払停止以來殆ンド危殆ニ瀕シ「リラ」著シク下落セリ此窮狀ニ於テ賠償委員(脱)ヲ払出スコトハ為替ノ損失ハ兎モ角之ガ財源ヲモ見出シ難キ有様ナリ然ルニ一方ニ於テ償還ヲ期待シ居リタル独逸ニ対スル「スパー」協定ニ依ル石炭前渡金約同額ハ現狀ニ於テ之カ見込ナキニ至リタルヲ以テ此ノ境遇ニ同情シテ伊国ノ主張ニ支持ヲ与ヘラレンコトヲ切望スト

依テ本邦側ハ

伊国財政ノ窮狀ニ対シテハ深く同情ヲ表スルノミナラズ兩國ノ親交ハ常ニ之ヲ念トスル所ナルモ「スパー」協定變更ノ端ヲ開クコトニ付テハ日本ハ主義トシテ反対セザルヲ得ズ尤本件ハ専ラ白国ノ利益ニ関スルガ故ニ伊白間ニ於テ白国優先權ヲ其金額丈拋棄シテ之ヲ伊国ニ与フルコトニ同意

決議事項ヲ条件付承認方回訓ノ件

第二二号

「カンヌ」来電第八号稟申ニ関シ該決議ハ各個ニ特殊ナル問題ニ付条件追加ヲ妨グルニ非ズトノ諒解ノ下ニ之ヲ承認スルニヨリ右ノ趣旨ヲ以テ通告方取計ハレタシ
欧米各大使ニ転電アリタシ

一八 一月十一日

神野大藏次官ヨリ

カンヌ最高會議ニ対スル大藏省ノ意見回答ノ件

附記

大正十年十二月二十九日附田中臨時平和条約事務局長代理宛
務局長代理宛神野大藏次官宛公信和一機密第一九六号

官房秘丙第二号

(一月十二日接受)

大正十一年一月十一日

大藏次官 神野勝之助(印)

外務省臨時平和条約事務局局長代理 田中都吉殿

「カンヌ」最高會議ニ関スル件

一七 一月十日 内田外務大臣ヨリ

在カンヌ林石井両最高會議代表宛(電報)

英国首相提出ノソヴィエト政府承認ニ関スル

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一六 一七 一八

催セラレタル趣ニ付既ニ事後ニ属スルモ同會議審議ノ事項殊ニ歐洲ノ經濟復興計画ノ審議ハ右最高會議ニ依リ最終ノ結末ニ達スルコト不可能ト被察候条右議題ニ関スル当省ノ意見左ノ通及回答候也

第一、一月及二月ノ独逸賠償義務履行不能通告ニ基ク事態

(一)在仏大使發第一七九五号ニ依レハ賠償支払ニ関シ最高會議ニ於テ附議セラルヘキ案ノ趣旨ハ(イ)支払計画ヲ變更シ本年四月末日迄ニ独逸ハ五億金麻ヲ支払フコト(ロ)右五億麻ハ昨年中ニ支払ヘル十億麻ト共ニ「プール」トシテ新ナル分配率ニ依リ配分ス即英國ハ五億麻伊國ハ一億七千五百万「リラ」仏國ハ三億麻ヲ受取り残余ヲ白國ニ割当ツ(ハ)独逸ノ金錢支払ヲ少額ニスルコトヲ認ムルト同時ニ仏國ハ本年中現物ニ依リ十二億五千万麻一九二三年及一九二四年ニハ十五億麻ヲ受取ルコトトスルニ在リ

(二)果シテ右ノ如シトセハ昨年及本年四月末日迄ニ独逸ノ支払フ金錢ノ總額ハ單ニ十五億金麻ニシテ之ヲ英仏白伊ノ四ヶ國ニ分配シ大藏大臣協定署名國中独リ本邦ノミ一毫ノ分配ヲモ受ケサルコトナル且又本邦ハ実物

邦モ亦之ニ出席審議ノ上徐ロニ可否ヲ決スル必要アリト認ム

(三)歐洲戰爭ニ基ク國際債權債務ノ抹殺問題ハ問題トナラスト信スルモ若シ問題トナラハ本邦財政經濟上最重大ナルモノナリ戰時中本邦金融業者ノ引受ケタル聯合國政府債券アリ又臨時國庫証券特別會計ノ所有スル露國大藏省証券、露國政府五分半利付短期軍事公債、露貨預金証書、露國政府仕払証明書、仏國大藏省証券アリ本邦金融業者ノ引受ケタル聯合國政府債券ニ關スル債權ハ固ヨリ抹殺ノ問題ヲ生スル理由ナシ臨時國庫証券特別會計ニ付テモ同様ニシテ其資金ハ國庫証券ヲ市場ニ売出シテ之ヲ調達スルモノナルカ故ニ其ノ所有ニ係ル聯合國政府証券ハ公衆ノ所有スル國庫証券ノ見返トナリ居ルモノニシテ該聯合國政府証券ハ恰モ公衆力之ヲ所有スルト同一結果ニ歸ス露國ニ對スル債券ニ關シテハ私人ノ對露債權ヲ政府ニ於テ身代リニ引受ケタルモノアリ其他尼港事件ニ基ク損害賠償權ノ存スルアリ未タ是等請求權ヲ行使スルコトナクシテ先ツ他ノ債權ヲ拋棄スルカ如キハ到底忍フ能ハサル所ナリ以上ノ理

賠償ヲ得ヘキ目途未タ立タサルヲ以テ昨年五月一日ヨリ本年四月末日迄ノ期間ニ於テ受領スヘキ金錢及実物共ニ一モ之レナキハ遺憾ノ感ナキ能ハス但シ斯ノ如キ新シキ協定成立スルトセハ之ニハ何等カ特別ノ事情アルヘキコトト信スルカ故ニ其ノ事情承知致度

第二、歐洲ノ經濟復興計画

(一)國際發券銀行ノ設立ハ本國ニ於テ之ヲ主張スルモノアレトモ英仏政府当局ニ於テ其ノ意向ヲ有セサルカ如キヲ以テ恐ラク最高會議ノ問題トナルコトナカルヘク万一之アリトスルモ本案ニ付テハ研究スヘキ廉多々アルヲ以テ本邦ハ俄ニ之カ設立ニ賛成スヘカラサルモノト認ム

(二)國際為替相場安定機關ノ設置ハ最高會議ノ問題トナル可能性頗ル多シ而シテ客年八月十三日署名大藏大臣協定第六條ニ規定スル為替委員會ニ對シテ本邦モ亦傍觀者トシテ参加スルノ有利ナルハ外務大臣發在仏大使宛電報第一〇〇七号ニ説クカ如シ從テ若シ最高會議ニ於テ右ノ為替委員會ニ類似スル若クハ之ヨリモ更ニ一步ヲ進メタル為替安定機關ノ設置ヲ議スルコトアラハ本

由ニ依リ本邦ハ俄ニ債權ヲ拋棄スルコト能ハスト認ム

註 左掲ノ附記參看

(附記)

大正十年十二月二十九日附田中臨時平和條約事務局長代理發神野大藏次官宛公信和一機密第一九六号
カンヌ最高會議ニ関シ大藏省ノ意見問合ノ件

カンヌ會議ニ関スル件

和一機密第一九六号

標記ノ件ニ関シ在仏石井大使ヨリ別紙写甲号及乙号^(註1)ノ通り來電有之候ニ付右ニ関シ在仏石井大使及在英林大使ヲ帝國政府代表者トシテ派遣ノコトニ決定致候條御了承相成度尚本會議審議ノ事項ニ関シ御意見有之候ハバ訓電ノ都合モ有之候ニ付至急何分ノ御意見御回示相成度右效ニ及照会候也

註1 別紙写甲号ヲ省略ス右ハ石井大使來電第一七六三号写ナリ

(日本外交文書大正十年第三册下卷五九二文書參看)

2 別紙写乙号ヲ省略ス右ハ石井大使來電第一七六四号写ナリ

(同右外交文書ノ五九四文書參看)

一九 一月十一日 在カンヌ林最高會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ゼノア會議ニ米國参加ノ有無ニ拘ラズ日本ノ
同會議參列確定方稟申ノ件

第一七号

(一月十二日接受)

在仏大使宛電第三号ニ関シ往電第五号末段ノ通電ノ趣旨ヲ体シ石井大使及本使ヨリ仏英兩國ノ諒解ヲ求メ置キタル次第ナルガ其後米國ノ参加ニ付テハ未ダ確答ナキ模様ナル一方往電第一八号ニテ御承知ノ通り本件ハ追々具体的討議ニ入り来リツツアリテ一面該會議ハ歐洲ノミニ関スルモノナルコトヲ標榜シ乍ラ往電第一八号ノ通り十日朝ノ本件委員會ニ於テモ又午後ノ本會議ニ於テモ我代表者ノ参列ヲ当然トナス意向顯著ニシテ全会我ニ対シ極メテ好意アル態度ニ出デ居ル次第ニテ米國不参加ノ場合ト雖モ我ヨリ進ンテ参列ヲ避クルガ如キ態度ニ出ヅルハ如何ニモ面白カラズ加フルニ本件「ゼノア」會議ハ少クトモ露國問題ノ関スル限リ極東露西亞問題ノ解決ト間接ニモセヨ妙カラザル關係ヲ有シ之ガ参考トモナル点ニ於テ決シテ等閑ニ附シ難キモノアルニ顧ミ且米國ノ参列決定ヲ見ル迄ハ我方ノ去就ヲ決シ得ズト云フガ如キハ帝國ノ立場上公然言明シ得ベキ次第ニモ無之尚該會議ニ於テ考慮セラルベキ具体的ノ各問題ハ日本ニ直接ノ關係ナキモノ多キニ居ルベキヲ以テ帝國トシテ之等各問題ノ実行ニ一々参加セズトモ他國ハ必ズシモ無

理トハセザルベク結局該會議参列ニ依リ帝國トシテ利スル所アルトモ何等不利益ノ生ズルガ如キ虞ナシト思ハルルニ付此際帝國ノ「ゼノア」會議参列ヲ確定議トセラルル様致シタシ

愈々右ニ御決定ノ上ハ往電第一八号ノ通り日本ヲ含ム七大國ノ代表者ノ数ヲ無制限トシタルハ小國同様二名ニテハ足ラザルコトアルヲ慮リテノコトナルニ顧ミ我代表者ノ数ハ少クトモ三名トシ會議ノ性質上財政經濟ニ亘ル専門知識ヲ要スベキハ勿論ニ付帝國代表者ノ一人トシテハ是非森財務官ヲ任命アリタク他ノ二名ハ在歐大使中ヨリ出ヅルモノナルベク尚各種分科委員會等同時ニ開カルヘキガ故ニ専門家委員トシテハ開場文ニテハ必ズ手廻リ兼ヌベキニ付在歐我銀行家中ヨリモ任命セラルルコト必要ト存ズ

在歐米各大使ヘ轉電セリ

聯盟總會代表ヘ轉電セリ

二〇 一月十一日 在カンヌ林最高會議代表ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

ゼノア會議ヘ勞農露國代表者派遣方招請案竝
歐洲復興計畫案可決ニ関シ報告ノ件

別電一

一月十一日在カンヌ林代表發内田外務大臣宛電
報第一九号

二 歐洲復興國際會社ニ関スル決議要旨

同日在カンヌ林代表發内田外務大臣宛電報第二
〇号

ゼノア經濟財政會議ニ代表者派遣方招請ノ勞農
露國宛公文案

同日在カンヌ林代表發内田外務大臣宛電報第二
一号

最高會議ニ於テ討議中ノ歐洲復興國際會社設立
目論見書

第一八号

(一月十二日接受)

最高會議第五

一月十日午後五時開會、出席者前回ニ同シ

十日午前英、仏、伊、白、日五國委員ノ會合ニ於テ「ゼノア」會議ニ對スル露國宛招待狀ヲ起草セリ最高會議ハ原案ニ多少ノ修正ヲ加ヘ大要別電第二〇号ノ通り可決シ伊國首相ヨリ勞農政府ニ送付スルコトセリ又露國以外ノ諸國ニ對スル招待狀ニハ單ニ一月六日「カンヌ」會議ノ決議ヲ通報スル旨及三月初メ「ゼノア」ニ開會ノ國際會議ニ委員派遣方ヲ招請スル旨ヲ記載スルコトトセリ招待狀ハ凡テ伊國首相ノ名ニ於テ差セラレ會議方端ノ準備ハ伊國政府ニ於テ担任スルコト招待ヲ受クベキ國ハ最高會議ニ列スル英、仏、

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 二〇

伊、日、白ノ五國及歐洲諸國並北米合衆國英領殖民地ト為スコト而シテ日、英、仏、伊、米、白、露ノ七國ニ對シテ

ハ派遣委員數ニ制限ヲ設ケズ西班牙葡萄牙諸威瑞典丁抹芬蘭瑞西「エストニア」波蘭「チエッコ・スロヴァキア」「ラトヴィア」壤地利洪牙利羅馬尼和蘭「ルクセンブルグ」及ヒ英領殖民地ニ對シテハ代表者ノ數ヲ二名ト為スコト旧露西亞帝國ヨリ發生セル新興國中「リシアニア」ハ未ダ法律上ノ承認ヲ得ズ「ジョルジア」「アルメニア」ハ亜細亞ニ屬スルヲ以テ招カザルコトニ何レモ決定サレタリ尚十日朝ノ委員會及午後ノ最高會議ニ於テ會議参列國ヲ原則トシテ歐洲諸國ニ限ルコトト為セルモ日本ノ参加ニ付テハ全会何人モ疑フモノナク最高會議ニ於テ「カーゾン」ハ特ニ日本及米國ヲ聯合ノ大國トシテ本會議ニ招請セザル可カラザル旨ヲ指摘セリ次テ最高會議ハ十日午後開會ノ「コンソルチアム」ニ関スル英、仏、伊、白、日五國委員提示ノ復興計畫案(別電第二二号)並右ニ関スル決議案(別電第一九号)ヲ可決セリ本使ハ「コンソルチアム」ノ問題概要政府ニ報告シタルモ細目報道ノ時ヲ有セザル為政府ノ確定意見ヲ承知セズ何分ノ決定ヲ留保シ置カザルヲ得ズトテ「コンソル

チアム」ノ問題全体ニ対シ「アド、レフェレンダム」ニテ承認ヲ与ヘ置ケリ

在欧米各大使へ転電シ在「ゼネヴァ」國際聯盟帝國代表へ転電セリ

(別電一)

一月十一日在カンヌ林代表内田外務大臣宛電報第一九号

歐洲復興國際会社ニ関スル決議要旨

第一九号 別電

(一月十二日接受)

一月十日最高會議ニ於テ議決セラレタル歐洲復興國際会社ニ関スル決議要旨

最高會議ハ歐洲ノ經濟の復興及常態の繁榮復旧ニ対スル各国民ノ協力ヲ目的トシテ一ノ國際会社並之ニ附随セル内國会社 (international corporation with affiliated national corporations) 設立ヲ承認シ又左記各項ヲ実行スル為英仏伊白各二名及日本一名 (初メ英仏ノミ二名トナリ居リタル処十日午後ノ委員會ニ於テ伊國ヨリ各二名ヲ出シ度キ旨提議アリ白國又之ニ便乗シ日本ノ意見ヲ求メタルニ付本使ハ特ニ一名ニテ十分ナリト述ヘ置ケリ) ノ代表者ヨリ成リ且他國ノ代表者ヲ加入セシムルノ權能ヲ有スル一ノ委員會ヲ

直チニ組織スルコト

一、本件計画ヲ詳細ニ審査スルコト

二、必要ナル各種ノ予備的調査ヲ実行スルコト

三、本件中央並附隨会社ヲシテ出来得ル限り速カニ活動ヲ開始セシムル為右会社組織事務ヲ処理スルコト

四、事業進行ニ関シ「ゼノア」會議ニ報告スルコト

五、關係各政府又ハ「ゼノア」會議ニ対シ本件会社事業ハ

「ゼノア」會議ノ目的ヲ促進スルニ効驗アリト認ムル意

見ヲ上申スルコト

最高會議ニ代表セラレタル各政府ハ前記組織委員會ノ事業ノ為平等分担ニ於テ一万磅ヲ速カニ出シ且ツ組織委員會及本件会社組織後ニ在リテハ同会社ニ対シ其權能内ニ於テ有ラユル支援ヲ与フルコトヲ企圖スヘシ

在欧米各大使へ転電セリ

(別電二)

一月十一日在カンヌ林代表内田外務大臣宛電報第二〇号

ゼノア經濟財政會議ニ代表者派遣方招請ノ勞農露國宛公文案

第二〇号 別電

(一月十二日接受)

一月十日最高會議ニ於テ議決セラレタル勞農露國宛公文案

聯合國最高會議ハ一九二二年一月六日「カンヌ」ニ於ケル

同會議ノ決議ヲ通告シ又右決議ニ從ヒ及ヒ一九二二年一月八日附「チチエリン」ノ電報(往電第一四号)ニ關聯シ來ル三月初旬「ゼノア」ニ開催セラルヘキ經濟財政會議ニ代表者ヲ出席セシメムコトヲ茲ニ公式ニ招請ス而シテ同會議ハ右代表者及隨員ノ氏名ノ通報ヲ得タク右通報及代表者ノ通路ニ關スル説明書接受ノ上ハ關係諸政府ト交渉シテ代表者一行ニ対シ一切ノ必要ナル便宜ヲ供与シ又之ヲシテ安全ニ行動シ得シムルタメ準備ヲ施シ且ツ之ヲ露國政府ニ通報スヘシ最高會議ヲ歐洲ノ商業的財政的復興事業ニ關スル聯合國及露國ノ有益ナル協力ニ欠クベカラザルモノトシテ其ノ提議セル保障ヲ露國政府ニ於テ承認スルコトヲ条件トシテ露國政府ガ各種決議ニ参与スルニ充分ナル權能ヲ有スル代表者派遣ノ提議ヲナシタルコトヲ満足ヲ以テ迎フルモノナリ在欧米各大使聯盟總會代表へ転電セリ

(別電三)

一月十一日在カンヌ林代表内田外務大臣宛電報第二二号

最高會議ニ於テ討論中ノ歐洲復興國際会社設立目論見書

第二二号 別電

(一月十三日接受)

歐洲復興ノ為ニスル國際会社設立計画案ニ關シテハ在仏大

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 二〇

使發客年往電第一七九二号並第一七九三号既報ノ処十日最高會議ニ於テ右ノ要旨ヲ説明ノ本文トシ更ニ左記要領ノ会社設立目論見書ニ付討議アリ未タ完結ニ至ラズ

一、名称、The Central International Corporation

二、住所、倫敦ニ其ノ本店ヲ置ク

三、設立許可、会社ハ英國特別法ニ依リテ設立セラレ之ニ依リテ其ノ職務權限並責任義務ノ範圍ヲ定ム尤モ英國会社法ノ規定ヲ出来得ル限り採用スヘク外國ノ持分ニ対シテハ所得税ヲ免除ス

四、組織、本会ハ附屬甲号表(右ハ同日ノ會議ニ提案セラレス)割当額ニ応シ各子会社ノ代表者ヲ以テ組成ス尤モ前記特別法制定後設置セラルル各子会社ノ代表權ニ關シテハ親会社ノ理事会之ヲ決定ス

五、各子会社ノ設立ニ参加スル各國ハ該親会社ノ資本ヲ讓出シテ其ノ委託セラレタル業務ヲ営ムヘキ一子会社ヲ各子國ニ設クヘキコトヲ約ス尤モ右子会社ハ親会社ヨリ委託セラレタル以外ノ業務ヲ営ムコトヲ得ス

六、資本、親会社ノ利用シ得可キ總資本額ハ最初先ツ二千

万磅相当額ヨリ少カラザルモノトス右資本額ハ各子會

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 二一

社ノ引受ク可キ資本ノ最少額トシテ附属甲号表ニ掲ケタル英貨勘定ノ割合ニ応シ各国子会社之ヲ提供スヘシ右甲号表所掲ノ各国小会社ハ親会社ト同時ニ設立セラルヘク少クトモ引受資本額ノ四分ノ一ハ直チニ払込ヲ要ス各国子会社ノ資本ハ各自國ノ通貨タルヘシ各国子会社ハ親会社ノ要求ニ応シ其ノ引受額ノ残高ヲ払込ミ親会社ニ融通セシムルコトヲ約ス親会社ニ対シ其ノ業務ヲ営ムヘキ資本ヲ供給センカ為メ各国子会社ハ割当資本額ニ比例シテ二百萬磅ニ相当スル額ヲ直ニ払込ムヘシ

七、親会社ノ業務、其ノ主要ナルモノ左ノ通り

イ、歐洲復興ニ関スル企業ノ機會ヲ調査スルコト

ロ、此種企業ノ財政ヲ幫助スルコト

ハ、企業ニ関スル支払ニ付充分ノ担保ヲ取付クルコト

ニ、取引ノ分配ヲ按配スルコト

ホ、多數ノ諸國ニ於ケル附属会社ノ発起ヲ促カシ又ハ援助スルコト

八、業務ノ執行、親会社ノ業務ハ子会社ノ代表者ニ依リテ

組織セラレタル理事会之ヲ執行ス

理事会ハ若干ノ會員ヨリ成リ各国子会社ハ親会社資本ノ

二四

引受高ニ凡ソ比例スル代表権ヲ獲得ス理事会ノ適法ノ決議ハ各国子会社ヲ羈束ス

在歐米各大使及聯盟總會代表ヘ転電セリ

二一 一月十一日

在カンヌ林最高會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

賠償分配問題ニ関スル專門家會議ノ進行狀況

報告ノ件

第 号(註)

(一月十二日接受)

賠償問題經過其二

一、八日午前十時賠償專門家會議開催議長(英國理財局長)ハ最高會議(七日夜)ノ希望ニ依リ再開セル旨ヲ述ヘ賠償金分配問題即チ倫敦案第十二項ヲ議題トスルヲ提議ス然ルニ白國側ハ依然倫敦案ノ討議ヲ否認シ原則ノ定ラザル以上分配計算ヲナス能ハズト主張シ漸ク種々ノ仮定ヲ用ヒテ計算ヲ作製スルコトニ落合ヒ各国一名宛代表者ヲ出シテ計算ニ当ラシムルコトニ決ス次ニ条件ニ移リ先ヅ英國賠償委員ヨリ賠償委員會及担保委員會ノ伯林移転並ニ權限統一ヲ期スル為其合体ヲ提唱シ之個々ノ条件

ヨリモ事務ノ實際ニ照シ肝要ナリト述ベ白國賠償委員之ニ賛成シタルモ仏國側ハ重大ナル政治問題ナリトシ伊國之ニ賛シ遂ニ又大臣會議ニ讓ル尚独逸ノ財政整理ニ付テハ聯合側若クハ賠償委員會ヨリ命令ヲ下シテ責任ヲ取ルカ如キ方法ニ反対スル外詳細ノ審議ハ之ヲ午後ノ會議ニ延期シタリ

二、然ルニ午後遂ニ再開ニ至ラズ關係國大臣ハ交渉ノ為非公式寄合ヲナシ英仏首相時々参加シツツアルモ未ダ局面ノ展開ヲ見ズ九日夕ノ最高會議ハ賠償問題ヲ延期セリ

三、九日仏國藏相議會用向ノ為婦巴同日仏國賠償委員「カンス」ニ來リ玆ニ全部揃ヒタルヲ以テ非公式ニ賠償委員會ヲ開キ倫敦案ニ付頻ニ審議中ニシテ十一日独逸代表者參集前ニ聯合側ノ步調ヲ整ヘンコトニ勉メ居レリ

四、十日ニ至リ各國ノ分配問題ノ交渉曙光ヲ見ルニ至レリ
其案ハ

支払済十億金貨馬克中

英國占領軍費用トシテ五億

白國優先權トシテ五億

内三千百萬(伊國銀行ヘ預入ノモノ)ヲ白國ヨリ伊國ニ

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 二一

貸与シ伊國ノ賠償現金收入ヨリ償還セラルヘシ

一九二二年ニ独逸ヲシテ支払ハシムヘキ現金ヲ七億二千萬トス内

英國占領軍費用一九二一年五月一日以降分一億四千馬克

此分ハ仏國ニ貸与スル条件ナリ

白國優先權トシテ五億八千万

右ハ大体交渉ヲ了シ目下仏國政府ノ同意ヲ求メツツアリ
五、一九二二年中ノ実物支払額五億金貨馬克ノ分配方ニ付

テハ

英國一億

伊國二億四千

白國一億二千

日本七百

其他千三百

ナル処交渉未タ結了ヲ見ズ

在歐米各大使ヘ転電セリ

聯盟總會代表ヘ転電セリ

註 番号不明

二二 一月十一日 在カンヌ林最高會議代表ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

最高會議ニ於ケル英國ノ態度ニ関スル觀測稟

申ノ件

第二三号

（一月十三日接受）

「カンヌ」最高會議ニ對スル英國側ノ根本精神ハ歐洲ニ平和ノ氣分ヲ鼓吹セントスルモノノ如ク經濟復興ノ問題モ根本ハ此ノ精神ニ依ルモノニ似タリ是レ十一日午前ノ最高會議ニ於テ「ロイド、ジョージ」ガ「ゼノア」會議録内冒頭ニ「歐洲ニ平和ヲ確立スル方法ノ研究」ナル一項ヲ加ヘンコトヲ主張シタル所以ナルヘシ一方仏國ハ常ニ國家ノ「セキユリチー」ヲ唱ヘテ独逸ニ對シ敵酷ノ政策ヲ繼續センコトヲ欲スルニ依リ英國ハ仏國ノ希望ニ応シ名ヲ英仏協定ニ藉リ仏國輿論ノ緩和ヲ計リナガラ他方該協定ニ依リ仏國ノ峻嚴ナル對独政策ヲ羈束セントスル底意アルモノノ如シ之カ為メカ独逸ハ今回ノ英仏協定ヲ以テ却テ仏國ヲ拘束スルモノトシテ樂觀シツアルモノニ似タリ經濟復興問題ニ関シ露國ヲ加ヘントスル英國側ノ提議亦歐洲和平ノ根本思想ニ出ヅルモノニシテ露國ヲ現状ニ放任シ置カバ到底歐洲ノ

復興ヲ望ミ難ク歐洲ノ經濟復興ヲ計ランガ為ニハ諸國間紛爭ノ虞ヲ除カザルベカラズトテ「ゼノア」會議ニ露國ヲ招致シ其ノ條件ノ一トシテ關係國ハ相互ニ隣接國ヲ攻略セザル旨ヲ約束セントスルニ至リシ次第ナリト觀測セラル
在歐米各大使ヘ転電セリ
聯盟總會全權ヘ転電セリ

二三 一月十二日 在カンヌ林最高會議代表ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

勞農露國承認問題ニ關連スル英國首相ノ提案

ニ對スル日本ノ態度ニ付稟申ノ件

第二七号

（一月十四日接受）

石井代表宛貴電第二二号ニ関シ
「ゼノア」會議ニ露西亞ヲ正式ニ招請スルノ問題ハ往電第一八号所報十日ノ最高會議ニ於テ討議セラレタル次第ナルガ其ノ際「ブリアン」ハ仏國ニ於テ最モ重キヲ置クハ露西亞ヲシテ外債ヲ承認セシムルニ在ルヲ以テ對露招請公文中ニハ特ニ右ノ点ヲ徹底セシムル必要アリト主張シタル処「ロイド、ジョージ」ハ之ニ對シ若シ露國ニシテ往電第六号所報ノ條件ヲ承認セザルニ於テハ到底之ヲ「ゼノア」會

議ニ参加セシムベキモノニ非ズ從ツテ又之ヲ承認シ得ベキニ非ザルヲ以テ「ブリアン」ノ主張ハ当然云フヲ俟タザル所ナリト答ヘ結局往電第二〇号ノ如キ招請公文ヲ發スルコトトナリタル次第ナリ右會議ノ模様ニ顧ミ將又本使ノ得タル印象ニ照ラシ勞農政府ニ於テハ列強這般來ノ出方ニ鑑ミ參列ヲ肯シシ來リ列強亦此機會ヲ取逃スマジト骨折リ居ル狀明白ナル此際帝國側ノミ横合ヨリ其ノ特殊地位ヲ云為シテ條件追加ヲ留保スルハ其ノ時機ニ非ズ然ラデダニ日本ノ行動ヲ批難攻撃セントスル勞農政府ヲシテ我野心ヲ疑ハシムルノミナラズ却テ愈彼ヲシテ文句ノ種ヲ作ラシムル虞アリ前記往電第八号ノ條件ハ「アド、レフエレンダム」ニテ承認シタル次第ニテ我方ハ何等「コンミット」シ居ル次第ニ非ザル故歟クモ差當リ其ノ儘ニ差シ置クコト然ル可シト存ジ且本使ノ所見ニ依レバ帝國ノ特殊地位ハ露國正統政府樹立後之ト直接交渉ニ依リ承認セシムベキ性質ノモノトモ存ゼラレ必ズシモ最高會議ヲシテ認メシムルヲ俟タザル儀ト認メラレタルヲ以テ右十日ノ會議ニ於テ御來示ノ次第言

明方差控ヘ置キタルニ付御含ミアリタシ
在歐米各大使及國際聯盟帝國代表ヘ転電セリ

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 二四

二四 一月十二日 在カンヌ林最高會議代表ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

賠償分配問題ニ関スル會議狀況報告ノ件

第二八号

（一月十四日接受）

賠償問題經過其三

一、關係國間ニ於ケル分配問題ノ交渉ハ順調トナリシモ尚
仏國政府内部ニ異論アリシ為英國ハ更ニ讓歩シテ
a、仏國ニ貸与スル條件ナル一億五千万ヲ仏國ノ千九百二十一年以前ノ占領軍費用ニ充当スルコト
b、「ザール」鉾山ノ仏國借記額ヲ三億トシ千九百二十二年一月一日ノ計算ニ上スコト
トナリシモ仏國以外ニ割当テタル実物弁済額五億（「リカヴァリー、アクト」ヲ含ム）伊白間尚折合ハズ英國調停ニ努力シツツアリ同時ニ英國側ハ倫敦提案ヲ參酌セル原案ヲ各國ニ内示シ居レリ

二、是ヨリ先大藏大臣協定中起草誤謬ニ関スル本邦ノ訂正案ハ各國側異議無ク右英國作成ノ原案ニモ明記シアリ千九百二十二年中ノ実物弁済額分配ニ付テハ此際權利ヲ保留シ置ク方安全ト存シ大体「スパー」協定ノ率ヲ基礎トシ他國ノ振合並ニ貴電仏宛第四号御垂示ノ次第ヲモ考慮シテ七百

万金貨馬克ト提示シ置キタル処英仏伊白専門家側ハ相当ノ要求ナリトハ認め居レドモ他ノ分配未ダ纏ラズ然カノミナラズ塞耳比亜ガ新ニ要求セル為全部トシテ未ダ決定セズ英國案ニハ単ニ伊国ノ分トシテ二億五千万ヲ掲ゲ其他ハ今後ノ商議ニ譲ルコトトナリ居レリ依ッテ本邦ノ要求ヲ明ニシ置ク為文書ニ認め之ヲ関係国大臣ニ送附シ置ケリ

三、賠償委員会ハ十一日正式ニ會議ヲ開キテ独逸ノ陳述ヲ聴取シタリ独逸委員ハ正確ナル数字ヲ基礎トセル説明ヲ為サズ賠償委員会側大体不満足ノ有様ナリ最高會議ハ十二日独逸側ノ要求ヲ聞ク予定ナリ

在欧米各大使聯盟總會全權ヘ転電セリ

二五 一月十三日 在カンヌ林最高會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

独国代表ニ賠償委員会ノ決議申渡及カンヌ會議終了並ゼノア會議開催期日等ニ付報告ノ件

別電 同日在カンヌ林代表宛内田外務大臣宛電報第三四号

第三三号 独国代表ニ申渡サレタル賠償委員会ノ決議
(一月十五日接受)

最高會議第九

(別電)

一月十三日在カンヌ林代表宛内田外務大臣宛電報第三四号
独国代表ニ申渡サレタル賠償委員会ノ決議

第三四号

賠償委員会ハ一九二二年一月十五日及二月十五日期限ノ割賦金ニ関シ現金実物及賠償回收法ニ依ル收入ヲ以テ右期日迄ニ弁済シ得ザル部分ノ支払ヲ次ノ条件ノ下ニ一時之ヲ猶予ス可シ

a、該猶予期間中独逸政府ハ十日毎ニ外国貨幣ヲ以テ三千万金貨馬克ヲ支払フ可シ右第一回支払期ハ一月十八日トス

b、独逸政府ハ十五日以内ニ其予算紙幣及共同公債ニ関シ相当ノ保障ヲ具シタル改革案並一九二二年度ノ現金実物弁済ニ関スル成案ヲ賠償委員会ニ提出スベシ

c、該猶予期間ハbノ提案ニ関スル賠償委員会又ハ聯合國政府ノ決議ノ時ヲ以テ終了ス

右決議ニ別段ノ定ナキ限り猶予期間中ニ於ケル支払額ト支払計画ニ依ル支払額トノ差ハ右決議後十五日以内ニ支払ハル可シ

一 欧洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 二六 二七

十三日午前十一時開会出席者前ニ同シ

議長「ロイド、ジョージ」ハ「ブリアン」辭職ノ結果會議ノ続行不能トナリ目的ノ一部タル欧洲復興經濟會議問題ハ議決シ得タルモ賠償問題未決定ノ儘トナリタルヲ遺憾トス就テハ独逸全權ニ対シ右事情ト共ニ賠償ニ関シ賠償委員会ノ決議ヲ申渡シテハ如何ト諮リ満場異議ナク依テ独逸全權ヲ呼寄セ賠償委員長ヨリ別電第三四号ノ通り通告シタル処独逸側ハ之ヲ諒承シ何分ノ回答ハ同委員会ニ対シ為スベキ旨答ヘタリ尚「ブリアン」ヨリ「ロイド、ジョージ」ニ対シ辭職ノ已ムナキコト及會議ノ中途ニテ出席不能トナリタルヲ遺憾トスル旨ノ來電アリタルヲ以テ「ロ」氏ノ名ニ於テ答電ヲ發スルコトトナシ以テ最高會議ヲ終了セリ

尚本日ノ會議中ニ「ゼノア」會議開催期日ヲ三月八日ト為スコト又大国ノ派遣委員數ヲ大体三人乃至五人ト為スコトナレリ「ゼノア」會議日程審議會ハ近日中巴里ニ又同會議準備委員會(往電第一九号参照)ハ倫敦ニテ開催ノ筈次回最高會議期日未定ナルモ三四週間内ニ開催サルヘント観測シ居ルモノアリ

在欧米各大使ヘ転電セリ

賠償委員会ガ独逸ヨリノ提案ヲ受領シタル時ハ遲滞ナク之ヲ聯合國政府ニ移牒スベシ各政府ハ自ラ之ヲ審査スルカ又ハ決定ヲ為サシムル為ニ之ヲ賠償委員会ニ回附スベシ

在欧米各大使、國際聯盟帝國代表ヘ転電セリ

二六 一月十三日 在カンヌ林最高會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

十三日夜カンヌ又發歸任ノ旨報告ノ件

第三五号

最高會議終了ニ付本使一行十三日夜「カンヌ」發歸任ス

二七 一月十七日 在本邦伊國大使ヨリ
内田外務大臣宛

ゼノア經濟財政會議ニ日本政府ノ代表者派遣
方招請ニ関スル件

附屬書 一月六日カンヌ最高會議ニ於テ採用ノ決議文写

N. 21. Tokyo, le 17 Janvier 1922.

Monsieur le Ministre,

Conformément aux instructions télégraphiques reçues aujourd'hui même, j'ai l'honneur de communiquer à Votre Excellence, au nom de mon Gouvernement,

l'invitation suivante adressée au Gouvernement Impérial :
 “A la suite d'une délibération du Conseil Suprême des Puissances Alliées, j'ai l'honneur de Vous faire tenir copie d'une résolution adoptée le 6 Janvier 1922 par les Gouvernements Alliés réunis en Conférence à Cannes. Conformément à cette décision j'ai l'honneur d'invier le Gouvernement du Japon à participer à la Conférence économique et financière qui s'ouvrira à Gènes le 8 Mars 1922.

Je Vous prie de me faire connaître les noms de Vos délégués et de leur personnel. Signé: Torretta”.

Je suis en même temps prié d'informer Votre Excellence que le Conseil Suprême a établi que les petites Puissances soient chacune représentées par deux membres de leur Gouvernement ou deux délégués, tandis que il serait désirable, pour les Grandes Puissances, de contenir le nombre de leurs représentants entre trois et cinq.

En portant ce qui précède à la connaissance de

Votre Excellence, j'ai l'honneur de transmettre, sous ce pli, le texte de la résolution adoptée par la Conférence de Cannes le 6 Janvier 1922, et je saurais gré à Votre Excellence de vouloir bien me faire savoir l'accueil que le Gouvernement Impérial voudra bien faire à l'invitation de prendre part à la Conférence de Gènes et les noms des Délégués et du personnel qui seront choisis pour composer la Mission Japonaise.

Veillez agréer, Monsieur le Ministre, les assurances de ma très haute considération.

L'Ambassadeur d'Italie
 (Signé) C. Aliotti

Son Excellence

Mr. le Comte Yasuya Uchida
 Ministre des Affaires Etrangères

編 右書翰冒頭余白ニ左ノ記入アリ
 「大正十一年一月十八日伊大使来談手交（内田外相印）」
 (平和訳文) (註 係官作成ノ仮訳文ナリ)

第二一号

以書翰啓上致候陳者本日接受シタル電訓ニ従ヒ本使ハ茲ニ

本國政府ノ名ニ於テ日本國政府ニ対スル左ノ招請ヲ閣下ニ傳達スルノ光榮ヲ有シ候

聯合國最高會議會議ニ於ケル審議ニ基キ本大臣ハ「カンヌ」會議ニ於テ聯合國政府カ一九二二年一月六日ニ採用シタル決議文ノ写一通ヲ閣下ニ送付シ右決議文ニ遵ヒ本大臣ハ一九二二年三月八日「ゼノア」ニ開催セラレハキ經濟及財政會議ニ参加方日本國政府ニ招請スルノ光榮ヲ有シ候就テハ貴國全權委員並隨員ノ氏名御回示相煩度候

「トリェッタ」(署名)

尚本使ハ最高會議カ小國ハ各政府員二名若クハ全權二名ニ依リ代表セラルヘキモ大國ハ其代表者數ヲ三名乃至五名ヲ為スコト望マシキコトヲ決定シタル旨閣下ニ通知スヘキ様命セラレ候

右閣下ニ通牒スルニ當リ一九二二年一月六日「カンヌ」會議ノ採用シタル決議正文ヲ茲ニ同封傳達スルノ光榮ヲ有シ候閣下ヨリ「ゼノア」會議参加方招請ニ対スル貴國政府ノ意嚮並日本使節一行ヲ構成スヘキ全權委員及隨員ノ氏名御通知ニ接スルヲ得ハ幸甚ニ有之候

本使ハ右申進旁茲ニ重テ閣下ニ向ッテ敬意ヲ表シ候 敬具

一九二二年一月十七日東京ニ於テ
 伊太利國大使「フリォッテ」(署名)
 日本帝國外務大臣伯爵 内田康哉閣下
 (附屬書)
 一月六日カンヌ最高會議ニ於テ採用ノ決議文写

Texte de la résolution adoptée par la Conférence de Cannes le 6 Janvier 1922.

Les Puissances Alliées réunies en Conférence sont unanimes à penser qu'une Conférence d'ordre économique et financier devrait être convoquée dans les premiers jours de Mars à laquelle toutes les Puissances Européennes, Allemagne, Autriche, Hongrie, Bulgarie et Russie comprises, devraient être invitées à envoyer des Représentants. Elles considèrent que pareille Conférence constitue une étape urgente et essentielle dans la voie de la reconstruction économique et industrielle de l'Europe Centrale et Orientale. Elles ont la ferme opinion que les Premiers Ministres de chaque Nation devraient, si ce sera possible, assister eux-mêmes à

cette Conférence afin que les recommandations de celle-ci puissent être suivies d'action le plus vite possible. Les Puissances Alliées considèrent que la reprise du commerce international à travers l'Europe ainsi que le développement des ressources de tous les Pays sont nécessaires pour augmenter la quantité de main d'oeuvre productive et pour alléger les souffrances endurées parmi les peuples Européens. Un effort commun des Etats les plus puissants est nécessaire pour rendre au système européen sa vitalité aujourd'hui paralysée. Cet effort doit s'appliquer à la suppression de tous les obstacles qui entravent le commerce; il doit s'appliquer à l'octroi des crédits importants consentis au Pays les plus faibles, ainsi qu'à la coopération de tous pour la restauration de la production normale. Les Puissances Alliées considèrent que les conditions fondamentales indispensables à la réalisation d'un effort efficace peuvent être définies dans leurs grandes lignes comme suit :

1. Les Nations ne peuvent pas revendiquer le droit

leur ont été causés du fait de la confiscation ou de la séquestration de la propriété; (b) à établir un système légal et juridique assurant l'exécution impartiale de tous les contrats commerciaux.

4. Les Nations devront disposer de moyens d'échanges convenables, et, d'une manière générale, des conditions financières et monétaires doivent exister qui offrent au commerce des garanties suffisantes.

5. Toutes les Nations doivent s'engager à s'abstenir de toute propagande subversive de l'ordre et du système politique établi dans d'autres Pays, et doivent prendre en commun l'engagement de s'abstenir de toute agression à l'égard de leur voisin.

Si, en vue d'assurer les conditions nécessaires pour le développement du commerce en Russie, le Gouvernement Russe, réclamait sa reconnaissance officielle, les Puissances Alliées ne pourraient accorder cette reconnaissance que si le Gouvernement Russe acceptait les stipulations qui précèdent.

de se dicter mutuellement les principes suivant lesquelles elles entendent organiser à l'intérieur leur économie et leur gouvernement. Il appartient à chaque Pays de choisir pour lui-même le système qu'il préfère à cet égard.

2. Toutefois il n'est possible de disposer de capitaux étrangers pour venir en aide à un Pays que si les étrangers qui fournissent les fonds ont la certitude que leurs biens et leurs droits seront respectés et que les bénéfices de leurs entreprises sont assurés.

3. Ce sentiment de sécurité ne peut être rétabli que si les Nations (ou les Gouvernements des Nations) désirant obtenir des crédits étrangers s'engagent librement (a) à reconnaître toutes les dettes et obligations publiques qui ont été ou qui seront contractées ou garanties par l'État, les municipalités et les autres organismes publics et à reconnaître également l'obligation de restituer, restaurer ou, au défaut, d'indemniser tous les intérêts étrangers pour les pertes ou les dommages qui

(右和訳文) (註 係官作成ノ仮訳文ナリ)

一九二二年一月六日カンヌ會議決議本文

本會議ニ參列セル聯合諸國ハ独、英、法、勃及露ヲ含ム歐羅巴各國ノ代表者ヲ招請スヘキ經濟及財政ニ関スル會議ヲ三月七旬開催スヘキコトニ一致ス聯合各國ハ此種ノ會議ハ中央及東部歐羅巴ノ經濟的產業的復興上緊急且必要ナル一階梯ヲナスモノナルコトヲ信ズ

聯合國ハ會議ノ決定ガ出来得ル限り速ニ実施セラレシムガ為ニハ各國總理大臣ガ可成自ラ本會議ニ出席スルヲ要スヘキコトヲ確信ス聯合國ハ全歐羅巴ニ亘ル國際通商ノ再開及各國ノ資源ノ開發ハ生産的労働ノ数量ヲ増加シ且歐羅巴諸國民ノ受ケシマル苦痛ヲ軽減センカ為ニ必要ナリト思考ス歐羅巴ノ組織ニ對シ現今奏微振ハザル活氣ヲ恢復セムカ為ニハ最モ強大ナル諸國ノ共同的努力ヲ要シ此努力ハ通商ヲ阻害スル總テノ障礙ヲ除去スルコト並最モ弱小ナル諸國ニ對シ大ナル信用貸付ヲ許シ且生産ノ常態ヲ復興スル為各自協力スルコトニ傾注セラルヘキモノトス聯合國ハ有効ナル努力ノ實現ニ欠クヘカラザル根本的条件ハ大要左ノ如クヲ決定メ得ハント思考ス

(一) 各国ハ各自ノ国内ニ於テ其ノ經濟及政治ノ組織ニ付遵守スヘキ諸原則ニ関シ互ニ強要スルノ權利ヲ主張スルヲ得ズ此点ニ関シテハ各国ハ自ラ其ノ欲スル制度ヲ採択スルノ自由ヲ有スヘシ

(二) 尤一國援助ノ為外國資本ヲ利用スルニハ先ヅ以テ外國投資者ハ其財産及權利ヲ尊重セラレ且ツ其ノ企業利得ノ保障セラルコト確実ナルニ非ザレバ之ヲ為スコト不可能ナリ
(三) 右ノ保障ハ外國ノ投資ヲ希望スル諸國(又ハ諸國ノ政府)ニ於テ左記条件ヲ任意ニ同意スルニ非ザレバ實現セラレザルベシ

(a) 國、自治体及其他ノ公ノ団体ガ締結又ハ保障セル過去及将来ノ負債ヲ承認シ財産押収又ハ抑留ノ為外國利益ニ對シ生ゼシメタル損失並損害ニ對スル償還、原状恢復又ハ之カ賠償ノ義務ヲ承認スルコト

(b) 凡テ商取引契約ノ公平ナル履行ヲ確保スル法律上並裁判上ノ制度ヲ設立スルコト

(四) 各国ハ適當ナル交易手段ヲ講スヘク且一般ニ通商ニ充分ノ保障ヲ与フヘキ財政上並貨幣制度上ノ条件存在セザルベカラザルコト

第二九号

(一月二十一日接受)

「ゼノア」會議我方代表者選任方ニ関シテハ「カンヌ」發本使往電第一七号末段ヲ以テ卑見申添ヘ置キタル次第モ有之処尚右ニ関シ心付キノ諸点左ニ電禀ス

一、代表全權ノ数ハ先ヅ三名ニテ宜シカルベク今回ハ独露方面ノ問題モ主要討議事項ノ中ニ置カルベキニ顧ミ日置大使ヲ其ノ一ニ加ヘラレ主タル聯合國タル英仏關係ノ問題ニ付テハ石井大使ノ外英國ノ事情ニ通ゼル森財務官出席セバ夫ニテ充分ナラント思考ス

二、開催地ガ伊太利ニ在ル關係上會議中ハ自然在伊大使館ヲ中心トシテ之ニ関スル諸務ヲ進ムル必要アリト存ゼラレ且會議中伊太利ノ關係モ亦相当重キヲナスベク旁々同會議中諸井參事官ヲ事務総長ノ格ニテ同地ニ派遣セラルルコト然ルベシト思考ス

三、該會議ハ從來ノ最高會議等ト異ナリ相当大規模ノモノトナルベキ見込ニ付在歐各館ヨリ繰合セ可ナリ多数「ゼノア」ヘ出張セシメラルベキ必要アルベク其ノ予算編成組織等ハ在歐各館間ニ打合セ事務所費見積リト併セ大体当方面ニテ決定ノ上稟請スルコトト致シタキニ付右御承知置ノ上

(四) 各国ハ他國ノ秩序及政治組織ヲ紊乱スルカ如キ宣伝ヲ行ハザルコトヲ約スベキコト且其ノ隣接國ニ對シ一切ノ侵略ヲ為サザルコトヲ共同ニ約スヘキコト

若シ露國政府ニシテ露國ノ通商開発ニ必要ナル条件ヲ確保スル為其正式承認ヲ求ムトスルモ聯合國ハ露國政府ガ上述ノ約束ヲ受諾スルニ非ザレバ之ガ承認ヲ与フルコト能ハザルヘシ

二八 一月十九日

在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本ノゼノア會議參加至急詮議方稟請ノ件

第二七号

(一月二十一日接受)

「カンヌ」本使發往電第一七号ニ関シ「ゼノア」會議帝國參加方至急御詮議相願度尚ホ仏國政局ノ變動ハ該會議開催ニハ何等影響無キ模様ナリ

在仏大使ヘ郵報セリ

二九 一月二十日

在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ゼノア會議ニ對スル日本側代表者選任方ニ付
意見稟申ノ件

成ル可ク右稟請ノ通取計アル様希望ス

四、同様ノ理由ニ依リ相当多数ノ各國新聞記者等モ入り込ムベク之ガ操縦其ノ他宴會等ノ為特ニ該費用トシテ機密費支出ヲ請フノ必要可有之ト存ズ之亦關係各館トモ打合セノ上更ニ具体的ニ意見上申スベキモ大体二万円位ニテ充分ナラント存ズ

在仏大使ヘ電報セリ

三〇 一月二十一日

内田外務大臣ヨリ
在伊國諸井臨時代理大使宛(電報)

ゼノア會議招請狀ニ對シ我方承諾ノ意向通報

並各國ノ態度ニ付査報方訓令ノ件

第四号

「ゼノア」會議ニ関シ在本邦伊國大使ハ本国政府ノ訓令ニ基キ一月十七日附招請狀ヲ持參セルニ付不日承諾回答ノ積ナル処(我代表委員及ヒ専門委員等ハ目下人選中)仏國政變ノ結果同國ノ右會議ニ對スル態度ニ變更ヲ来スコトアルモ難計又米國參加ノ有無ハ尠クトモ會議ノ結果ニ影響スル所多カルベキニ付各國ノ態度ニ関シ今後ノ形勢隨時御電報アリタシ

右在欧米各大使へ訓令トシテ転電アリタシ

三一 一月二十一日 在独国日置大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

独国政府ゼノア會議参加受諾ノ件

第一五号 (一月二十二日接受)

独逸政府ハ十八日附ヲ以テ「ゼノア」會議招待状ヲ受諾シ
右全權委員ハ任命次第通報スベキ旨伊国政府ニ回答セリ
在欧米各大使へ転電セリ

三二 一月二十六日 内田外務大臣ヨリ
在本邦伊国大使宛

ゼノア會議招請ニ対シ受諾ノ旨回答ノ件

欧二機密第一号

以書翰啓上致候陳者本月六日「カンヌ」ニ於ケル最高會議
ノ決議ニ基キ本年三月八日「ゼノア」ニ開催セラルヘキ經
濟財政會議ニ関シ本月十七日附貴翰ヲ以テ貴国政府ノ招請
御伝達相成敬承致候

帝国政府ハ貴翰附屬最高會議決議書及同會議ニ参列セル帝
国政府代表者ノ報告ニ基キ「ゼノア」ニ開カルヘキ會議ガ
中部及東部欧羅巴ノ經濟的復興ヲ計ラントスル目的ニ出テ

一、「ソビエツト」代表者ト同席スルコトヲ好マシカラズ
トナスコト

二、歐洲政治ノ渦中殊ニ対独賠償問題ニ関シ仏国ニ捲込マ
ルルニ至ラザルヤヲ懸念スルコト

三、華盛頓會議ノ成果ニ果ヲ及ボスニ至ラザルヤヲ懸念ス
ルコト

四、歐洲諸国ノ財政概シテ窮乏シ居リ且仏国ノ如キハ多大
ノ費用ヲ軍事費ニ振向ケ居ルニ鑑ミ輕々シク財政的援助ヲ
与ヘ得ザルコト

等ニ依リ「ゼノア」會議ニ参加スルハ考物ナリトナス向モ
尠カラズ目下ノ処輿論ノ動向判明スルニ至ラズ

尚新聞紙ノ伝フル所ニ依レバ政府部内ニ於テモ賛否兩派ニ
分レ未ダ何等一定ノ方針ヲ決定スルニ至ラザル模様ナリ本
問題ニ関シ「ハウス」大佐ハ最近「パブリック、レツジァ
ー」紙上ニ其意見ヲ公ニシ「ゼノア」會議ハ華盛頓會議ノ
如ク政治問題ヲ論議スルモノニ非ズシテ其目的專ラ經濟財
政問題ヲ論議スルニ鑑ミ米國ニ於テ共和民主兩派ヨリ代表
者ヲ選出シテ之ニ参加セシメ米國ノ資源ヲ利用シ世界ノ經
濟財政改造ニ貢獻セシムル方然ルベシト述ベ又紐育「ヘラ

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 三四

タルモノナル旨ヲ了承シ玆ニ其趣旨ニ賛同シ御招請ニ応シ
同會議ニ参加可致旨閣下ヲ通シテ貴国政府ニ回答スルノ光
榮ヲ有シ候

尚本件會議ニ参加スヘキ帝国政府ノ代表者及其隨員ニ関シ
テハ目下詮衡中ニ有之候条右決定次第之ヲ閣下ニ通告可致
候

右回答旁本大臣ハ玆ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

註 右ハ「大正十一年一月二十六日閣議決定」セラレタリ

三三 一月二十七日 在華盛頓華府會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ゼノア會議ニ対スル米國ノ輿論報告ノ件

會議第四九三号 (一月二十七日接受)

「ゼノア」會議ハ米國ニ於テ一般ニ重要視セラレ居リタル
処十七日伊国政府ヨリ公然案内ニ接シタル以來一層言論界
ノ注意ヲ喚起シ右ニ関スル論評連日新聞紙ニ掲載セラレツ
ツアリ之ヲ概觀スルニ歐洲ノ復興上經濟的援助ヲ与フルハ
米國ノ義務ニシテ且利益ナリトノ見地ヨリシテ問題ノ範圍
ヲ限定シテ参加スルコト然ルベシトノ説相当有力ナルモ同
時ニ

ルド」ハ其社説ニ於テ本會議ハ歐洲ノ回復換言スレバ世界

ノ經濟的回復ヲ策スルモノナルヲ以テ米國ニシテ之ニ加ハ
ラザルガ如キコトアラバ國際間ノ悲慘事ナリト述ベ米國銀
行家並商工業者ガ本會議ノ經過ニ重大ナル利害關係ヲ有ス
ルニ鑑ミ世界ノ利益並米國ノ利益ニ鑑ミ之ニ参加スル方然
ルベシト熱心ニ慫慂セリ

在欧洲各大使へ転電セリ

三四 一月二十八日 在白国安達大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

白国政府ノゼノア會議参加決定及日本ノ同會

議参加ヲ希望スル旨白国外相談話ノ件

第一五号 (一月二十九日接受)

在伊大使宛貴電第四号ニ関シ

二十八日当国外務大臣ニ面會シタルニ白国政府ハ夙ニ「ゼ
ノア」會議ニ参列スルコトニ決シ「カンヌ」ニ於テモ之ヲ
宣明シ且伊国政府ノ正式招待ニモ直チニ承諾ノ旨ヲ回答セ
ル処右ハ予メ「ゼノア」會議ノ成功ヲ信ズルニ起リタル次
第二ハ無之列國會議ニハ常ニ参加シ他國ト共ニ平和ノ基礎
ヲ確立スルノ策ヲ講ジタキ素志ニ依ルモノナリ仏国政府ノ

參列ハ毫無疑ナキガ米國ハ頗ル其ノ立場ヲ異ニシ要スルニ其ノ資本吐出シテ余儀ナクセラルルヲ怖ルルニ依リ未ダ其ノ態度ヲ決セザル由ナリ尚ホ「ゼノア」會議ニハ當国首相外相共ニ繰合セテ出席スル考ナルガ國際聯盟事業トノ關係最密接ナルニ顧ミ「イーマンス」氏ニモ同行方勸誘中ナリト内話シ且「カンス」ニ於ケル林大使ノ所言ノ如ク日本ハ間接ニ歐露ニ至大ノ利害關係ヲ有スル処米國ノ如ク資金吐出ヲ余儀ナクセラルルノ虞ナキニ付必ズ参加セラルベキモノト信ズルノミナラズ同會議成功ノ為メニ之ヲ希望シ居レル旨ヲ附言セリ

英米仏ヘ転電シ独伊ヘ郵送セリ

三五 一月二十八日 在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

独逸政府ヨリ財政改革案及賠償支払案ヲ賠償

委員會伯林出張所ニ提出ノ件

第六七号 (一月二十九日接受)

賠実第二四一号

一月十三日「カンヌ」賠償委員會決議ニ依ル支払猶予条件ノ第二タル財政改革案及賠償支払案ハ期限ノ最終日即チ一

月二十七日賠償委員會伯林出張所宛独逸政府ヨリ提出セル趣ノ報告ニ接シタリ本件書類要旨ハ巴里賠償委員會ヘ到着ノ上報告ス可シ

尚独逸ハ二十七日附ニテ二十八日ニ支払期限到来スル三千百万馬克ノ支払ヲ完了セル旨賠償委員會ヘ通告シ来レリ在英独各大使ヘ転電セリ

三六 一月二十八日 在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

リスニア國代表ヨリ同國ガゼノア會議参加

ヲ希望スルニ付日本政府ノ支持ヲ得度旨申出

ノ件

第七二号 (一月二十九日接受)

当地「リスニア」代表者二十八日日本使ヲ來訪シ同國ハ來ル「ゼノア」會議ニ參列シタキ希望ニテ仏國ノ關スル限リ異議ナキモ招集ニ付テハ伊國政府ニ交渉セラル可シト云ハレ更ニ伊政府ニ同國ヲ案内セラレタキ旨ヲ請求セルニ伊政府ハ「de jure」ニ承認セラレタル國ナラデハ招請スル能ハズト云ハレタル由ニテ茲ニ本代表ハ本國政府ノ命ニ依リ帝國政府ニ於テ(一)同國ヲ「ド、ジュリ」ニ承認セラレタク(二)伊

政府ニ対シ同國招請ヲ勸誘セラレタシトノ請求ヲ申込メリ本使ハ(一)ノ承認問題ハ帝國政府ニ於テ適當時機ニ考量スベキモ歐洲主要國ニ先ンジテ承認スルコトナカルベク(二)「ゼノア」會議ニ日本ガ參(不明)本件ハ歐洲ニ限ル問題ナレバ帝國政府ガ伊國政府ニ向ヒテ勸誘ヲ試ムルコトヲ避クルナラント答ヘタルニ兎モ角本國ノ命令ナレバ是非帝國政府ニ我希望ヲ取次ガレタシト求メラレタリ何分御訓示ヲ請フ英伊ヘ転電セリ

三七 一月三十日 在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

賠償問題ニ関シ独逸政府ヨリ提出ノ覺書概要

報告ノ件

第七七号 (二月一日接受)

賠実第二四五号

賠実第二四一号ニ関シ宰相ノ名ヲ以テ独逸ノ提出シタル

(a) 財政改革案

(b) 本年賠償支払計画

ノ概要左ノ通

第一、予算及紙幣流通ニ関スル改革

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 三七

独逸政府ハ帝國議會ノ協力ニ依リ非常ノ困難ヲ犯シ既ニ一

九一九年ニ開始セラレタル財政ノ根本的改革ニ成功スルヲ得タリ、此目的ノ為ニ極力歳入ヲ増加シ非常歳出ハ短期大蔵証券ノ發行ノミニ依ラズ出来得ル限り公債ニ依ルヘシ

(一) 歳入ノ増加

資本及所得ニ対スル租税ノ收入ハ目下帝國議會ノ審議中ナル法案(財産税、財産増加税、資本増加税及法人税)ニ依リ非常ニ増加セラルヘシ即チ(a)取引税率ハ百分ノ一、五ヨリ二ニ石炭税百分ノ二〇ヨリ四〇ニ増加ス(b)重要ナル関税ハ實際ノ金ノ価値ヲ基礎トシ徴収セラル

右ノ如クシテ独逸國民ノ消費税負担ハ其購求力ノ減少ニモ拘ラズ他ノ諸國孰レヨリモ輕キ事ナキニ至ルヘシ

一方租税法ノ適用モ確保セラレ各聯邦ノ租税行政ヲ帝國ノ中央行政ニ集中スル事ハ幾多ノ困難アリシニモ拘ラズ既ニ完成セラレ租税ノ徴収ハ大部分直接ニ其資源ヨリ行ハルル事トナリ又其ノ賦課徴収及申告ノ額ノ間ニ差額無カラシムル様監督ヲ嚴ニシタリ

資本ノ輸出及租税ノ遁脱ノ為ニ嚴格ナル手段ヲ講シ特ニ銀行ノ取引先ニ対スル秘密ノ義務ハ法律ヲ以テ之ヲ廃止シ銀

行ニ寄託セラレタル証券ハ大蔵省之ヲ監督ス又國際協定ニ依リ既ニ輸出セラレタル資本ノ回収ニ努メツアリ

通信及鐵道賃金ニ就テハ鐵道旅客運賃ハ戰前率ノ十五倍ヲ十九倍ニ同貨物運賃ハ同三十二倍トス郵便電信ニ就テハ同シク二十一倍トス

(二) 歳出ノ減額

(a) 官吏数ノ減少

(b) 食料品ニ對スル特別補助ノ廃止

一九二一年ノ右補助額ハ二百二十億紙幣馬克ナルモ向後馬克相場ノ下落無キニ於テハ此等補助ハ十倍ニテ足ルヘシ之カ為ニ本年二月十六日ヨリ麵麴ノ價格ヲ七割五分増加ス(c)失業補助ヲ廢止シ失業保險制度ヲ本年ヨリ実施シ其負担ハ主トシテ雇主及使用人ニ帰セシム

(d) 一般行政ノ非常經費ハ馬克相場ノ下落ニモ拘ラス前年ノ約三分ノ一ニ減少セシメタリ

(e) 通信鐵道ニ付テハ本年四月一日ヨリ作業費ハ收入ヲ以テ支弁シ得ル様改革ス臨時支出モ極力之ヲ制限ス

(f) 右ノ外予算ヲ經濟的ニ編成スル方策ヲ「ライヒスタット」ニ諮詢ス

右ノ如クニシテ一九二二年度予算ハ普通歳出八百六拾七億普通歳入千參拾貳億ニシテ百六拾五億ノ剩余アリ之ヲ條約上及賠償義務ノ履行ニ充ツルコトヲ得可シ

(三) 流動公債及紙幣流通額ノ減少

本年ハ内国公債募集ニ努力スヘシ而シテ自由公債ノ成否如何ヲ問ハス流動公債ノ増加ヲ避クルカ為メニ強制公債ノ發行ヲ企画ス可シ此ノ非常手段ハ之ヲ繰返シ行フコト能ハサルモノ少クトモ本年ノ賠償義務ヲ履行スル為メニ之ヲ採用スルコトトセリ

帝國銀行ノ法律上ノ獨立ニ付テハ法案ヲ提出シ宰相ノ帝國銀行ノ業務ニ干涉シ得ル權利ヲ消滅セシムル方策ヲ取ル可シ

右ノ方策ハ流動公債ノ増加及紙幣印刷ヲ防止スルニ付独逸政府カ出来得ル限りノ手段ヲ取り又ハ之ヲ取ル可キ保障タルヲ得可シ

独逸政府ハ戰前ト同様經濟財政狀況ニ関スル正確ナル統計ノ迅速ナル發表ニ付必要ナル手段ヲ取ル可シ

第二、本年ニ於ケル賠償支払ノ計画

右ノ如ク内國財政ノ基礎確定スルト雖モ歳入ハ紙幣馬克ナ

著シク減少セラルヘキモノトス

c、外國貨幣支払ノ條約上ノ他ノ義務特ニ清算上ノ支払金ハ特別ノ協定ニ依リ減少セシム実物弁済ニ付テハ荒廢地回復ノ為ニ努力スヘク又此種支払ニ關スル他聯合國トノ協定ヲ結フノ用意アリ実物弁済ノ總額ヲ定ムルニ就テハ原料輸入ヲ必要トスル限り金貨払ヲ要スルニ至ルヘシ故ニ各國ノ受領額ヲ定メ且ツ之ヲ一九二二年ニ於テ受領國カ使用シ得ル範圍内ニ止メンコトヲ要求ス

第三、本年ノ独逸支払ノ確定ノミニテハ賠償問題解決ノ第一歩ヲ示スニ過ギズ且独逸ノ支払能力ヲ甚シク害スル方策ヲ基礎トセルガ故ニ其方法ヲ變更シ且長期ニ亘ル計画ヲ立ツルハ關係國總テノ利益ナリ賠償義務完済ノ為ニハ大規模ニ於テ内債又ハ外債發行ニ依ルノ外手段ナシ然レドモ現在ニ於テハ内外資本家トモ独逸償還能力ニ信用ヲ置カザルガ故ニ本信用回復ヲ以テ本件解決ノ必要条件トス是レ独逸政府カ(c)ニ對シ此等事情ヲ要求シ独逸信用確立ノ途ヲ開キ國際協力ニ依リ賠償ノ為ニスル大規模ノ起債ヲ可能ナラシメンコトヲ説ク所以ナリ

尚本報告附屬書左ノ通

ルヲ以テ賠償支払ノ義務ヲ完済スルハ困難ナリ馬克相場ノ下落ハ賠償支払ヲ不可能ナラシムル主要ナル原因ニシテ輪出入ニ就テハ既ニ二十億金貨馬克ノ支払超過アリ故ニ此際外國貨幣ノ支払ハ益々馬克相場ヲ下落セシメ從テ歳入価値ノ減少支出ノ増加ヲ来シ又流動公債ノ増加トナル故ニ独逸ヲシテ尠クモ本年ハ現金支払ヲナサシメザルノ必要アルコト明ナルモ今日ノ狀態ニ於テ政治上ノ必要ヨリ右國民經濟上ノ必要ヲ度外視スルノ已ムナキヲ知ル「カンヌ」會議ニ於ケル提案タル七億二千金貨馬克ノ現金支払ハ是カ履行不可能ナル故必要ナルニ於テハ十四億五千万ノ実物弁済額ヲ之ニ応シテ増加セルモ現金支払額ヲ尚減少セシメンコトヲ要求スルノ已ムナキ狀況ニアリ本年ノ賠償支払ガ如何ニ決定セラルルヲ問ハズ支払条件トシテ左ノ通提案ス

a、本年一月及ヒ二月ノ支払ニ關シ既ニ為シ又ハ今後為スベキ現金又ハ実物弁済ハ此後ノ支払金額ヲ定ムルニ付考慮スルヲ要ス斯クシテ本年ノ現金支払ハ各月ニ亘リ均一ニ分配セラルヘシ

b、占領軍費用其他外國貨幣ニ依ル支払ハ本年ノ總支払金額ニ算入セラルヘク又紙幣馬克ニ依ル占領軍費用支払モ

一、租税制度概略、租税制度ノ法規ノ実行及資本ノ通脱防止ニ関スル法規及方法、租税負担表（英仏ト比較）

二、一九二二年度予算概略

三、通信鉄道ニ関スル改革案概略

四、食料価格低減ニ関スル補助廃止案

英独ヘ郵送セリ

三八 一月三十一日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ゼノア會議ニ関スル仏国首相ノ談話要領報告ノ件

第七九号

（二月二日接受）

三十一日「ポアンカレ」氏ニ面会新任挨拶ノ後同氏ガ本官ノ問ニ対シ「ゼノア」會議ニ関シ語レル要領左ニ

(一)「ソヴィエト」政府ヲ案内スルニ付テハ条件受諾ニ関スル先方ノ的確ナル声明ヲ欲ス「カンヌ」「プロトコール」ニ列挙シタル条件ヲ見タル上ノ参加ノ回答ハ条件ノ受諾ト認メラレザルニ非ズトスルモ尚的確ノ声明ヲ取付クルニ如カズ左ナクバ先方ヲシテ「ゼノア」ニ於テ条件ニ関スル事項ヲ根本的ニ論究スルヲ得セシムル虞アリ一度此根本問題ニ触ルレバ数週間ヲ費スモ議論ハ尽キザルベシ而シテ右声

ハザルモノナラン

(二)「ゼノア」會議延期ノコトハ新聞ニ見ル外何レヨリモ聞カズ思フニ「ロイド、ジョージ」氏ハ會議延期ナド夢想セザルベキモ予ハ延期ニ賛成ナリ今ヤ会期前一ヶ月シカナク一ヶ月ニシテ歐洲復興ハ不可能ナリ

(三)日仏兩國ハ是迄英國ヲ通ジテ間接ノ同盟關係ナリシガ太平洋協定ノ結果或意味ニ於テ直接同盟ノ關係ニ移レルハ予ノ慶賀スル所ナリ就テハ本件ヲ手始めトシテ勉メテ彼我相提携シテ満足ノ結果ヲ得ント欲スルガ本件ノ進捗ニ連レ追追ト御相談シタシ

要スルニ「ボ」氏ハ「ゼノア」會議殊ニ其露独ニ関スル部分ニ付満腔ノ反対ヲ感ズルモ既ニ前任者ガ同意ヲ与ヘテ毅然タル「プロトコール」ノ存在スルニ余儀ナク切メテハ今後蒙ルベキ不利益ヲ減縮セント苦慮シ居ルモノト思ハル在歐米各大使ヘ転電セリ
在欧洲各公使ヘ郵送セリ

三九 二月一日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ゼノア會議ニ対スル英米仏ノ態度並同會議ノ

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 三九

明ヲ要求スルハ未ダ時機ヲ逸シタリト云フベカラズ此際改メテ之ヲナスベシ

(二)「ソヴィエト」政府承認ニ関シテハ種々ノ考量ヲ要シ輕輕ニ決スベキ問題ニ非ズ貴大使ガ「カンヌ」ニ於テ留保セラレタルハ至極當ヲ得タリト存ズ本件ニ付テハ前内閣ニ於テ一応ノ同意ヲ表シアルモ尚列国トモ重ネテ考慮ヲ要スル儀ト存ズ

(三)「カンヌ」「プロトコール」第六項ニ関シ貴大使ハ貴国西比利亞駐屯軍ノコトヲ會議席上ニテ指摘セラレタル由ナルガ是亦尤ノコトニテ我國ニ於テモ「ライン」沿岸ニ対スル将来ニ想到セバ独逸ニ辭柄ヲ与フルノ虞アル本項ニ付考慮セザルヲ得ズ概シテ同盟側ノ協調ヲ破リ利益ヲ占メントスル独逸ト「ソヴィエト」トニ対シ一層同盟側ニ於テ慎重ノ熟議ト徹底的了解トヲ必要トス此点ニ付「カンヌ」會議ハ輕卒ニ失シタル感ヲ免レズ

(四)米國ノ参加ト否トハ「ゼノア」會議ノ運命ニ多大ノ關係アルハ勿論ナルガ米國ノ態度ハ華盛頓ニ問合セタルモ未ダ回電ナク当地ニテ「ヘリック」「ハーヴェー」兩大使ニ問ヒタルモ彼等ハ知ラズ思フニ米政府ハ未ダ態度ヲ決定シ能

前途ニ関スル観測稟申ノ件

第八七号

（二月三日接受）

「ゼノア」會議ニ関スル仏國ノ態度ハ既報ノ通ナルガ卑見ニ依レバ産業ヲ以テ立國ノ基礎トスル英國ハ其ノ産業ノ廢頽ト之ニ伴フ無数ノ失業者ノ始末ヲ控フルガ故ニ歐洲經濟復興ヲ先決問題トシ独逸賠償ノ如キ比較的第二位ノ問題ト見做シ得ルニ反シ仏國ハ痛ク破壊セラレタル財政ヲ整理スルニハ独逸ノ賠償ニ待ツノ外ナク独逸賠償ハ先決問題ニシテ産業又ハ失業問題ハ第二位ニ置キ得ル地位ニ在リ「ゼノア」會議ニ対スル英仏態度ノ懸隔ハ右根本的國情ノ差異ヨリ来ルガ故ニ其ノ調和ハ困難ナル可シ

次ニ英仏以外ノ諸國ノ態度ヲ見ルニ米國ハ乘氣セズ其ノ参加サヘ頗ル疑問ナリ他ノ中立諸國ニモ余リ重キヲ置カザルヤニ觀察セラルルアリ要スルニ會議ノ幹部タルベキ英仏ノ態度ニ如上ノ根本的差異アルカラニハ會議ハ完全ニ進行スベシト思ハレズ殊ニ各國首相等ノ会合ガ永ク続ク筈ナケレバ會議ハ大体方針ヲ決議シ実行ニ要スル重要ノ決議ハ多ク後日開カルベキ委員會ニ譲ルノ已ムナキニ至ランカト思考ス

就テハ前述ノ事情ニ加フルニ本件ガ歐洲復興ヲ主眼トスルニ顧ミ今後意外ノ発展ナキ限り此際吾ノ準備ハ御多分ニ洩レザル程度ニ止メ大ナル猷立ハ無用ナルベシト存ズ

四〇 二月三日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

仏国政府ハ独逸覺書ノ審査決定ハ賠償委員會ニ於テ為スヲ至当トスル旨英伊白三国政府ニ通知シタル件

第九二号 （二月五日接受）
賠実第二四九号

往電第七七号独逸ノ覺書ニ対シ其審査ヲ聯合國政府ニ於テ為スヘキヤ或ハ賠償委員會ニ一任スヘキヤニ関シ仏国政府ハ過日來考量中ナリシ由ノ処平和条約ノ精神ヨリ見テ前記独逸覺書ノ調査決定ハ賠償委員會ニ於テ為サシムルヲ至当トストノ趣旨ニ依リ右ノ趣英伊白国政府ニ通知シタルト尚賠償委員會ニ於テハ右審査手續ニ関スル各国政府間ノ決定ノ長引クヘキニ付テハ将来ノ用意ノ為各當局ヲシテ右覺書ノ研究ヲ為サシムルコトトシタリ
在英独伊白各大使ヘ郵送セリ

在仏大使ヘ転電セリ

四二 二月六日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

シベリア鉄道開通方ラゼノア會議ニ提出スル様各国政府ニ勸告スル電報ニ付伊国公使示唆ノ件

第七六号 （二月六日接受）

此ノ程伊国公使ニ面会ノ節同公使ハ西比利亞鉄道開通方ヲ来ルベキ「ゼノア」會議ニ提出ヲ勸告スル電報ヲ英仏公使ト協議各本国政府ニ発送スルコトニ申合セタルコロ本件ハ日本ニモ関係アルコト故賛成ナラバ日本政府ヘ右同様建議シテハ如何ト述ベタルニ付兎モ角本會議ノ次第ハ政府ヘ申送ルベシト答ヘ置ケリ

四三 二月六日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ゼノア會議ニ対スル各国ノ態度ニ関スル情報ニ付報告ノ件

第九七号 （二月七日接受）

「ゼノア」會議ニ関シ仏国政府ハ二月三日附ニテ覺書ヲ英一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 四二 四三

四一 二月三日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ゼノア會議ニ対スル日本政府ノ態度ニ付意見上申ノ件

第五七号 （二月五日接受）

「ゼノア」會議愈々開会ノ上ハ其（脱）ヲ中心トスベク英、伊ハ其予テノ態度竝内政上ノ必要引續キ切ナルモノアルニ顧ミ親露的ナルコト逆睹セラレ独逸又之ニ順応シ独リ權利ノ保護ニ努メ從來ノ主張ヲ固持スベキモノ仏アルノミナルベシ然ルニ同国最近ノ政變ハ愈々其決心ヲ固カラシメ現首相對露方針ノ強硬ナルモノアリ容易ニ英、伊ニ屈從スベシトモ思ハレズ將又米国ハ阪令圈外ニ立ツモ其對過激政府態度ノ峻嚴ナルハ周知セラレ歐洲復興ノ結局米ノ加勢ニ俟タザル可カラザルヲ知ル歐洲諸國ハ同国對露方針ニ背馳スルノ勇氣果シテアルベキヤ否ヤ彼此之ヲ考量スルニ「ゼノア」會議ハ我方主張貫徹上頗ル機微ナル掛引ヲ要シ單純ニ英國側ニ立タズ寧ろ巧ニ仏国ト氣脈ヲ通ズルノ得策ナルヤニ思考セラルルアリ我方針御決定ニ付右卑見御參考迄ニ尚右様ノ次第ニ付我在仏大使ノ同會議出席必要ト存ズ

国政府ニ送付セル趣報道セラルル処本件ニ関シ当館諜報者ノ語ル所左ノ通り

一月十五日「ポアンカレ」ハ「ロイド、ジョージ」トノ會談ニ於テ「カンヌ」會議ニテ議決セル「ゼノア」會議問題ヲ全ク覆サン考ヘニテ談合ヲ初メタルモ「ロイド、ジョージ」ハ本件ハ決定済ニテ今更ニ變更ノ余地ナキ旨ヲ述ヘ讓歩セズ但シ「ゼノア」會議ニテハ英仏提携シテ同一ノ態度ニ出ヅベキコトヲ約束セリ右約束ニ基ギ今回仏国政府ハ最高會議一月六日ノ決議書及「ゼノア」會議ノ日程ノ曖昧ナル点ニ付英國政府ノ注意ヲ喚起シタルモノナリト（右「ノート」ハ不日列強ニ移牒セラルル趣噂セラルルニ付後電ニ讓ル）

「タイムズ」ノ「スチード」ハ当館員ニ対シ「ゼノア」會議ハ米国ノ参加ナケレバ到底成功ノ見込ミ立タズ米国ヲ引キ入ルルニハ差当リ英仏間ノ関係ヲ融和シ「ゼノア」會議ノ成功ヲ予想セシムルコト必要ナルノミナラズ目下ハ其ノ時期ニ非ザルニ付帰國ノ上ハ「ゼノア」會議ノ延期ヲ主張シ熱心ニ「カンペーン」ヲ行フ積リナリト語レリト

他方面ノ報道ニ拠レバ仏国ハ「ゼノア」會議ヲ國際聯盟ノ

事業ト為スコトヲ希望シ居リ「カンヌ」會議當時ニハ「アノトー」同地ニ出張シテ其ノ希望ヲ述べタルモ英國側ノ容ルル所トナラズ最近ニハ「アルベール、トーマ」倫敦ニテ「ロイド、ジョージ」ニ面会同様ノ趣旨ヲ申入レタル趣ナルガ二三日来「レオン、ブルジョア」「ヴィヴィアニ」等ノ聯盟關係者「ボアンカレ」ト再三会见協議中ナルハ「ゼノア」會議ヲ聯盟ニ持込マン協議ナリト伝ヘラレツツアリ在英大使ヘ転電シ独伊米ヘ郵送セリ

四四 二月八日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

カンヌ及ゼノア會議ニ関スル仏国ノ対英覚書

概要報告ノ件

第一〇二号

(二月十日接受)

往電第九七号ニ関シ英國政府ニ対スル仏国ノ覚書ハ二月六日倫敦ニテ手交セラレタル趣ナルモ当方ヘハ移牒セラレズ依テ諸般ノ情報ヲ綜合シ其ノ内容トシテ伝ヘラルル点電報ス

右覚書ハ「カンヌ」最高會議ノ日程全部ニ亘リテ仏国側ノ解釈竝「オブザーヴェーション」ヲ列記セル一〇頁以上ニ

第六ハ謂ハバ無用ノ規定ナリ

四、會議ノ日程第二第三ハ寧ロ一箇条トスヘキモノナリ即チ歐洲平和ノ確立ト雖モ現存條約ヲ更改シテ之ヲ求ムル趣意ニアラザルベク「ゼノア」會議ニ於テ苟モ平和條約ヲ改訂スル如キ措置ニ出ヅルハ仏国ノ同意シ得ザル所ナリ

五、從テ又平和條約ニ定ムル賠償問題ハ「ゼノア」ニテ討議スルコトニ同意スル能ハズ又國際聯盟ノ權限ニ触ルル如キ行為アルベカラズ

六、同會議ニテ聯合國ノ協調ヲ保持スル為「ゼノア」ニテ討議セラルベキ事項ニ関シ予メ英仏伊三国間ニ主義上ノ諒解ヲ遂ゲ置クコトヲ有利ナリト思考ス

英独伊ヘ転電セリ

四五 二月八日 在波蘭国川上公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

露国勞農政府ノゼノア會議參列ニ関シ報告ノ件

第一七号

(二月十日接受)

(前略)

「レーニン」ハ健康勝レザルト国内飢饉問題ノ重大ナル為メ「ゼノア」ニ赴カザル可ク「チチュリン」ハ同人ニ代リ

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 四五

亘ル長文ノモノナル由ニ付左記ハ其ノ概要ニ過ギザルモノト御承知アリ度シ

一、仏国政府ハ「ゼノア」會議參加前ニ「カンヌ」一月六日ノ決議事項ノ実行ヲ確保スル方法ヲ列国ニテ考究スルヲ有益ト認ム

二、露西亞代表者カ一月六日ノ決議同十一日ノ宣言ニ掲クル条件ヲ前以テ完全ニ(complètement et au préalable)承認スル旨「ゼノア」會議ノ劈頭宣言セシムルコト而シテ個人所有權ノ尊重商業自由ノ保障等ハ現在露西亞ノ如ク国内法ニテ何等保障スル所無キ場合ハ條約ヲ以テ一種ノ「カピチュレーション」ニ等シキ制度ヲ定メ之ヲ保障セシムルコト必要ナルヘシ

三、一月六日ノ決議第六ハ旧敵国ガ條約義務ヲ怠ル場合(例ヘハ「ハプスブルグ」王朝ノ復興ノ如キ)ニ聯合國カ適當ノ手段ヲ執ルヲ妨ケザルコトト解ス但シ善隣相侵サザルノ精神ハ既ニ聯盟規約ニ依リ明白ニシテ規約第一一、一二、一三条ハ他國ノ侵略ニ対スル救済方法ヲ規定セル(脱)ナル英仏英白間ノ保障條約竝東歐諸國間ノ「ブチト、アントント」ハ皆此ノ精神ヲ具体化セルモノニシテ前掲ノ決議

「クラシン」(在英代表者)、「リトヴィノフ」(外務次官)、「ヨッフエ」、「ウオロフスキー」(在英代表者)、「ラコフスキー」(「ウクライナ」總理兼外相)、「ナリマノフ」(「アゼルバイジャン」)、「ムジウワニ」(「ジョルジア」總理)、「ベクサジザイン」(「アルメニア」外國貿易大臣)、「ホジヤエフ」(「ボハ」ノ總理)、「ヤンソン」(極東共和国外相)、「シリヤブニコフ」(勞働組合代表者)、「サプロウノフ」(同上)「ルドズタク」(同上)ヲ從ヘテ會議ニ參列スルコトトナレリ

「ゼノア」會議ハ露國ノ國際的地位ニ一新生面ヲ開クモノナルヲ以テ露國ハ極力自己ノ立場ヲ主張ス可シ

「カラハン」カ波蘭トノ通商談判委員ニ任命セラレザリシハ「チチュリン」ノ不在中代理ノ為メ歸國ノ要アルカ為メナリ

列國間ニハ勞農政府ヲ承認セントスル英國伊國ト之カ承認ニ反対ナル仏國米國白耳義トノ二派アリ英國ハ二百万ニ達スル無職業者ノ処分ニ窮シ切リニ露國ヲ世界經濟協調ノ中ニ引入レントシ居ルモ同國ノ政策ハ義理モ人情モ無キ勘定一方ノ政策ナレバ大イニ警戒ヲ要ス露國トシテハ将来仏國

米國ハ英國程ニ露國トノ通商ヲ必要トセザル理由アリ經濟上ノ情報機關タル飢饉救済委員會ヲシテ列國ノ露國ニ於ケル活動振リヲ監視セシムルヲ以テ満足シ居レリ

勞農政府ハ帝政時代ノ外交官ヲ招キ其ノ智識經驗ヲ利用セシコトヲ考ヘザルニ非ザルモ「サゾノフ」初メ未ダ其処迄觀念セザルモノノ如シ

在歐各大使及瑞典公使ヘ郵送セリ

四六 二月八日 内田外務大臣ヨリ
在伊國諸井臨時代理大使宛(電報)

ゼノア會議ニ派遣ノ勞農政府委員ノ問題ニ関

シ伊國大使來訪シテ我政府ノ意向ヲ尋ネタル

ニ對スル我回答ニ付通報ノ件

第七号

二月六日在本邦伊國大使本大臣ヲ來訪シ今般勞農政府ヨリ「ゼノア」會議ヘ派遣ノ委員中ニハ「ウクライナ」「ジョルジア」「アゼルバイジャン」「アルメニア」「ブハラ」極東共和國ノ代表者ヲモ包含セシメ合計十五名ナル旨通告シ來レル処「カンヌ」會議ノ決議ニヨレバ日米兩國以外ハ歐洲

ノ間ニ応シテ大要左ノ意味ヲ語レリ

一、目下鐵道瓦斯電氣水道等ノ「ストライキ」ニ對シ特ニ世ノ注意ヲ惹ケルハ(イ)曩ニ「ストライキ」勃発ノ際其取締ノ目的ヲ以テ公布シタル大統領令が却テ人心ヲ激昂セシメ予期ノ目的ヲ達セザリシコト及(ロ)緊急勞働制度(Technische Nothilfe 平常ヨリ學生其他ノ志願者ヲ各種ノ勞働者トシテ訓練シ置キ罷業ニ際シテハ之ヲ生活ニ必需ナル水道瓦斯電氣等ノ運動ニ當ラシムル制度ナリ)ニ依リ食料、石炭、水、瓦斯、電氣等ノ絶對的補給ヲ兎モ角モ維持シツツアルコトニシテ右ハ大ニ為政者ノ考察ヲ要スル問題タルヘシ

二、「ゼノア」會議ガ延期セラルルヤ又ハ取止メトナルヤハ独逸ニハ全然不明ナルガ仏國ハ余リ之ヲ希望セザルモノノ如ク又好意ハ有セザルモ米國ハ真面目ニ参加セザルモノノ如ク觀察セラレツツアリ独逸政府ハ同會議ニ對シ絶對的ニ大ナル期待ヲ置カサルモ道義的ニハ相當ノ効果アルヘキヲ慮リ「カンヌ」ニ於テ決議セラレタル同會議上議事項ニ就キ研究シツツアリ又独逸カ何人ヲ全權ニ任ス可キヤハ列國ノ振合ヲ見タル上ニテ決定スヘク譬バ各

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 四七

諸國ニ限り招請スルコトナリ居リ從テ右等亜細亞諸國及政權ノ代表者ヲ加フルコトハ同會議ノ決議ニ反スルニ付伊國政府ハ勞農政府ニ對シ代表者ノ數ヲ五名位ニ減シ且何レモ勞農政府ノ代表者トシテ出席スルコトトシ度旨回答シタキ考ナルガ帝國政府ニ於テ異議ナカルベキヤト尋ネタルニ付本大臣ハ実ハ日本ハ「ゼノア」會議ニ對スル關係左迄深カラザル次第ナル故極東共和國代表者ノ参加ニハ異議ナキモ其他ノ点ニ關シテハ伊國政府ニ於テ英仏兩國ト協議セラレ如何様ニ決定セラルルトモ異存ナキ旨答ヘ置ケリ
在歐米各大使ヘ転電アリタシ

四七 二月九日 在独國日置大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

独國新外相ノゼノア會議ニ對スル見解報告ノ件

第三六号 (二月十一日接受)

本使外相新任挨拶ニ對スル答礼トシテ七日「ラテナウ」ヲ往訪セリ同氏トハ外相就任前ヨリ相識ノ間ナルガ氏ハ実業家財政家學者ニシテ博識謙讓英仏語ニ精通シ且ツ從來ヨリ宰相「ウイルト」ノ黒幕タリシ關係モ有リ現下ノ独逸外交首班トシテ頗ル恰好ノ人物ト見受ケラレタリ尚同氏ハ本使

國首相自ラ出席スルニ於テハ宰相「ウイルト」自身之ニ當リ余ハ随伴者タルヘク又各國外相ヲ出スニ於テハ余全權ニ任スヘシ

此等會議ハ議論倒レトナリ実効ナキモノノ如クナルモ各國代表者一堂ニ会シ各自國ノ事情ヲ説明シ相互ノ諒解ト經濟的連帶關係ノ理解トヲ計ルコトハ仮令具体的ノ決議ヲ得ズトモ歐洲復興ニ大ナル貢獻アルベク余ハ此種會議ガ陸續実行セラレンコトヲ望ムモノナリ

歐洲復興ハ露國ノ協力ナクシテハ不可能ナル故「ゼノア」會議ニ露國ヲ参加セシムルコト絶對ニ必要ナリ或ハ過激派政府ノ性質ニ顧ミ共ニ事ヲ議スルニ適セズトナスモノアルモ同政府ガ尚永ク持續スベキハ現今ノ形勢ナルヲ以テ之ト交渉ノ外ナカル可シ余ノ見ル所ニテハ目下「ボルシェヴィキ」ト称スルモノノ内七割五分ハ共產黨ニ非ズ故ニ各國協力シテ当ルニ於テハ同政府ヲシテ所言ノ実行ヲ余儀ナクセシムルコト不可能ニ非ザル可シ云々右談話中「ストライキ」問題協議ノ為宰相ヨリ再々「ラテナウ」ノ出頭ヲ促シ來レル為本使ハ復興賠償等ノ諸問題ニ付更ニ他日ノ會談ヲ約シテ辭去セリ

在欧米各大使へ転電セリ

四八 二月九日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ゼノア會議ニ於ケル討議問題及其ノ範圍ニ付

テノ英仏ノ協議狀況報告ノ件

第一〇七号

(二月十一日接受)

「ゼノア」會議ニ関スル英仏協議ノ成行ニ付九日松田ヲシテ政務局長ヲ往訪セシメタル処仏国新内閣ノ意見ニテハ同會議ノ討議問題及範圍ヲ先ツ以テ正確ニ決定スルヲ必要ト認メ先日來英國ト内協議中ニテ其内容ハ二月六日附対英覺書(往電第九七号ニ二月三日附ト噂セラレタルモノナリ)ニ尽シ居レリ右覺書ノ写ハ同局長ヨリ送り越ス等ナリ右覺書ニ対シテハ英國政府ニ於テ研究中ナルガ同局長一己ノ觀測トシテハ英仏間ニ満足ナル一致ヲ見ル迄ニハ尙相当ノ時日ヲ要スヘク從テ予定ノ開會期日タル三月八日ハ延期セララルノ他ナカルヘシト物語レリ將又同會議ト國際聯盟トノ關係ニ関シテハ英仏間ニ余談トシテ多少之ニ触レタルコトハアレドモ未ダ正式ニ何等交渉シタルコトナシ仏國ノ意見トシテハ今回ノ會議ノ事業ニ関シ聯盟ヲ全然度外視スルコ

一ニハ非ザルモ大体同様ノ趣旨ヲ記述セルモノナリト云フ

五〇 二月十一日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ソヴィエト政府承認問題ニ関スル日本政府ノ

態度ニ付稟申ノ件

第一一四号

(二月十二日接受)

「ゼノア」會議ニ関シ「カンヌ」決議第六項「ソヴィエト」政府承認ノ件ニ関シ当方ガ為シタル留保ニ付テ貴電第二二号回訓ノ件ハ林大使發第二七号ノ如キ事情ニテ未ダ何レヘモ通牒ノ手續ヲ為サザリシガ過日「ボアンカレー」氏ハ右我留保ニ対スル政府ノ回訓アリ次第承知シタシト希望サレタリ然ルニ本件ニ関スル英仏意見ノ相異甚ダシキ今日貴電ノ趣旨ヲ彼ニ通ズレバ彼ハ日本ノ味方ヲ得タリトナシ益々強硬ノ態度ニ出デズトモ限ラズ依テ「ソヴィエト」政府承認ニ関スル帝國政府ノ態度ハ英仏協議ノ模様ヲ見定メタル上改メテ御詮議ヲ願フ事ニ致シ度シ

右欧米各大使へ転電セリ

五一 二月十二日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 五〇 五一

トハ不可ニシテ何等カノ「コーペレーション」ヲ必要ト認メ居レリ其程度ニ付テハ或ハ單ニ會議ノ準備行為ニ荷担セシムルヤ或ハ夫レ以上ニ荷担セシムルヤニ付テハ未ダ確定案ナシ何レ此等ノ点モ其中協定スルコトトナルヘシトノコトナリ

尚前記ノ覺書ニ付テハ篤ト研究ヲ要スルモノアルベキニ付当方ニ於テモ好ク考慮アリタシト附言セリ右覺書接手次第其内容ノ大要電報スヘシ

在英大使へ転電シ在欧米大使へ郵送セリ

四九 二月十日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ゼノア會議ニ関シ仏國政府ヨリ日本其他關係

國ニ覺書送付ノ件

第一〇九号

(二月十一日接受)

「ゼノア」會議ニ関シ仏國政府ハ二月九日附ニテ日本其他關係國ニ対シ在仏國代表者ニ覺書ヲ發送シ同日之ヲ公表セリ

右覺書ハ在本邦仏國大使へ電報セラレタル管ニ付当方ヨリハ電報セズ其内容ハ往電第一〇七号所載対英覺書ト全然同

専門的代表者派遣ニ日本政府同意ナリヤ英國

外相ヨリ問合ノ件

第七五号

(二月十三日接受)

在仏大使發閣下宛電報第一〇七号ニ関シ英國外務大臣ヨリ二月十一日公文ヲ以テ仏國政府ヨリ「ゼノア」會議討議事項中一層明確ニシ置キ度キ諸点アル旨申入レニ接シタル処右諸点ニ付關係各國中ニ了解ヲ得置クコト必要ト認ムルニ付既ニ英國政府部内ニテ研究用意セル細目ニ付仏國側ト更ニ協同審査ヲ進ムルコト有益ト認メ是カ為メ専門的知識ヲ有スル代表者(a representative or representatives)派遣方仏國政府へ請求セリ就テハ他ノ最高會議關係國ニ於テモ右ニ同意ノコトト存スルニ付日本政府ニ於テモ右ニ同意ナルヤ否ヤ同意トセバ是カ為メ委員選出方異存ナキヤ至急回報方並ニ右ハ在當地伊國大使及在白英國大使ヲ通シ伊白兩國政府へ申入レ置キタル旨申越シタルニ付本使ハ右提議ニ異存無キ旨回答シ我方ヨリハ他ノ振合ヲ參酌シ本使若クハ館員ノ中一名並ニ閱場ノ都合ツカハ同官ヲモ出席セシムル考ナリ

右在欧米各大使へ転電シ在歐洲各公使へ郵送セリ

五二 二月十四日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

聯合國専門家會議招集ニ関スル英仏ノ交渉ニ

付報告ノ件

第二二〇号 （二月十五日接受）

「ゼノア」會議ニ関シテ英仏其後ノ交渉ヲ十三日松田ヨリ
政務局長ニ尋ネタルニ英國政府ハ聯合國専門家會議ヲ招集
スヘシト提議シ之ニ対シ仏国ハ異議ナキモ先ツ以テ夫レ夫
レ専門家ヲシテ調査セシメ其上ニテ聯合國専門家會議ヲ招
集スルコト必要ナリトノ意見ナリシカノミナラズ去ル六日
ノ対英覚書ニ対シ英國未タ回答ヲ与ヘザルニ依リ先以テ之
ヲ催促セリ從ツテ右會議招集期日ハ不定ナルノミナラス其
開會ノ場所ニ付テモ倫敦カバリカ孰レナルヤサヘモ未決定
ナリ尚ホ會議ニハ聯合國ノ外「チェッコ」「ルーマニア」
「ポーランド」等ノ諸國ヲモ之ニ参加セシムルコト利益ア
ルヘシトノ仏國側ノ意見ナリ依ツテ仏國政府ニ於テハ右準
備ノ為ニ二個ノ委員會ヲ設ケタリ即チ一ハ外務省員ヨリ成ル
モノ他ハ關係省及ヒ民間關係者ヨリ成ルモノニシテ各別ニ
研究セシム關係者ハ本日午後既ニ會合セリ来ル十五日ニハ

委員任命アリ次第承知シタキコト並自分（大臣）ハ多分当
國代表員中ノ一人タルベキコトヲ附言セルニ付本使ハ之ニ
對シ賛成ノ意ヲ表シタルト同時ニ我委員ハ目下詮考中ノ由
ニテ未タ任命ナキモ英仏駐在ノ我大使ハ多分該會議ニ參列
スヘキコトト信ジ居レル旨答ヘ置ケリ

尚同大臣ノ話振ニ依レハ波蘭ニ於テハ「ゼノア」會議ヲ頗
ル重要視シ同會議ノ迅速円滑ナル進行ヲ希望シツアルモ
ノノ如ク殊ニ經濟上ニ於テ独逸ノ露國ニ於ケル勢力ニ對抗
セムガ為其力ノ及バザル点ヲ仏國ノ援助ニ依リテ補ヒ以テ
自然同國內地ニ於テ占メタル当地方工業品ノ地歩ヲ更ニ開
拓スルニ努力スベク最近仏波通商條約ノ調印（往電第一八
号参照）並玆數日中開始セラルベキ露波通商協定商議等ハ
右ノ目的ニ資スルコトコロ少カラザルベシ又政治上ニ於テモ
從來ハ或ハ親露主義ニ傾キ或ハ親独主義ヲ唱ヘ當國政界各
派ノ意見兎角区々ニ亘ルノ感アリシモ最近ニ至リテハ之又
大体ニ於テ一致ヲ見ムトスルノ傾向ヲ示シ露國ニ對シテハ
成ルベク平和關係ヲ増進スルニ努ムルト共ニ一方仏國ト提
携シ特ニ露國ニ向テ飽迄英独ニ拮抗セムトスルノ趨勢ヲ馴
致シツアルモノノ如シ故ニ来ルベキ「ゼノア」會議ニ於

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 五四

右兩委員會ノ總會ヲ開ク予定ナリト談話セリ依ツテ松田ヨ
リ聞ク処ニ依レハ英國政府ハ右會議ヲ倫敦ニ開ク意志ニテ
關係國ニ代表者ノ出席ヲ求メタル由ナルガ如何ト尋ネタル
ニ同局長ハ近頃ノ遣リ方ハ先走リノ事カ多クテ困リ居レ共
何レ専門家會議ハ開カルヘキニ依リ其準備トシテ英國政府
ハ右様ノ措置ヲ取リタルヤモ知レズト答ヘタリ
在歐米各大使及ヒ「ルーマニア」「チェッコ」「ポーランド」
各大公使ヘ転電セリ

五三 二月十四日 在波蘭國川上公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ゼノア會議ニ對スル態度ニ付波蘭国外務大臣
ト会谈ノ件

第一九号 （二月十五日接受）

貴大臣発在伊代理大使宛電報第四号ニ関シ
二月十二日當國外務大臣本使ヲ来訪シ談話ノ途次「ゼノ
ア」會議ニ參列スベキ日本委員ハ誰ナルヤヲ問合セ且當政
府ハ昨今右會議ニ関スル準備最中ナルガ露國ト密接ナル関
係ヲ有スル諸國殊ニ日波兩國委員ノ如キハ此際予メ意見ヲ
交換シ會議ニ臨ミテモ相互ニ協力支持スルノ必要ヲ説キ我

テモ場合ニ依リテハ波蘭ハ仏露ノ間ニ仲介ノ勞ヲ取ルニ至
ルコトモ有リ得ベク何レニスルモ同會議ニ於ケル波蘭ノ立
場ハ相當注意ノ要アリト認メラル

在歐各大使及在瑞典公使ヘ郵送セリ

五四 二月十七日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ソヴィエト政府承認問題ニ関スル日本政府ノ
対応策ニ付稟申及請訓ノ件

第八六号 （二月十八日接受）

在仏大使発閣下宛電報第一一四号ニ関シ同電ハ往電第七五
号英國申出ノ件同大使ノ承知ニ入ル以前ノ發電ニ係ルモノ
ト存ゼラルル処右英國申出ノ會議モ如何相成ルカ今日ノ処
尚不明ト云フノ外無キモ当地ニ於テナリ又ハバリニ於テニ
セヨ此ノ種會議ノ開催ヲ見タル曉ニハ自然露國問題ハ主要
討議事項ノ一タルベク勞農政府承認ノ件モ必ズ話題ニ上ル
ベク其ノ場合ニハ日本側留保ノ点モ公然問題ト成ルヲ免カ
レザルベク而シテ前記在仏大使電報末段ノ次第ハ有ルモ本
件ニ関シ右會議ニ於テ表明スヘキ我方ノ態度ヲ此ノ際明瞭
ニシ置クコト必要ト存ゼラルル処卑見ニ依レバ追加スルコ

トアルヘキ条件ノ何々ナルカモ明ニセズシテ在仏大使宛電報第二二号ノ如キ言明ヲナスコトハ「カンヌ」發往電第二七号稟申ノ通今日ニ於テモ面白カラズト存ゼラル去リトテ条件ヲ貴電第二号ノ如ク列挙スルコトハ是亦「カンヌ」發往電第八号ノ通望マシカラズト存ゼラル而シテ今回ノ「ゼノア」會議ガ歐洲復興ヲ主題トセルコト故西比利亜ニ対スル我カ緊密ナル關係ニ基キ将来實際問題トシテ我方ニ於テ別ニ条件ヲ付スルコトハ他列国ニ於テ異議有ルベシトモ思ハレズ又他面露国側ニ対スル關係トシテハ該条件ヲ「ゼノア」會議ノ問題トスルノ要無ク夫ハ寧ロ別ニ直接交渉ニ讓ルベキ次第ト存ゼラルニ付旁以テ本件予備會議ニ本件留保ノ点問題ト成リタル節ハ単ニ他列国ニ附随スルノ態度ヲ執リ即チ他ノ關係国ニ於テ異存無キニ於テハ帝國政府ニ於テ承認ニ異存無キ旨漠然開陳スルニ止メ可然カト思考ス何分ノ饒回訓ヲ請フ

在欧米各大使ヘ転電シ紐育ヘ郵送セリ

五五 二月十九日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ゼノア會議ニ関スル仏国政府覚書ノ要領報告

ルヲ防ガンガ為メニハ右宣明以外更ニ同盟国間ニ右原則ノ解釈ニ就テモ予メ合意ヲ遂ケ置クノ要アリ但シ今右原則ノ逐条審理ニ当ルニ先チ會議全体ニ適用スヘキハ日程第三即チ既存条約ニ触レズシテ信用ヲ恢復スルニ必要ナル条件是ナリ既存条約トハ講和會議ノ成果ニシテ歐洲ノ解放ヲ指スモノナリ之ニ触ルレバ歐洲ノ平和ヲ根柢ヨリ攪乱スヘシ殊ニ「ゼノア」會議ハ条約ニ定メラレタル國際聯盟ノ權限ヲ奪フヲ許サザルト共ニ独逸国其他殊ニ露国ヲモ含ム本會議ニ於テ苟クモ講和條約ノ条項ヲ討議スルヲ仏国政府ハ肯ズル能ハズ「カンヌ」原則ノ一ハ他国主權ノ尊重ナリ但シ之カ為メ協商国ガ独逸其他ニ於ケル(不明)ニ干涉セザルヲ約スルノ結果ヲ齎スニ至ルベク斯クノ如キハ歐洲平和ノ維持ニ危険ナルヲ以テ右非干涉ノ意義ヲ確ムルノ要アリ其「一ハ外国人私有財産尊重ノ原則ナリ本原則実行ハ各国々内法ヲ根拠トス然ルニ右主權尊重ノ第一原則ニ鑑ミ私有財産制度ヲ認メザル国アルベキヲ以テ斯カル国ニ対シテハ各国ハ右尊重ヲ保証セシムル為國際協定ヲ設クルノ要アリ即チ各国人ノ權利利益ヲ国内法ノ規定ニ委スルコト能ハズシテ各国人ノ自国法ノ支配ヲ受ケシムルノ要アリ換言スレバ治外法

ノ件

第一三二号 (二月二十日接受)

「ゼノア」會議ニ関スル仏国覚書要領左ノ通り
「カンヌ」ニ於テ同盟国政府(Gouvernements Alliés)ハ一月八日附「チチェリン」電報ヲ以テ勞農政府ガ同六日決定ノ諸原則ヲ受諾シタルモノト認メタルモ同政府ハ伊国宛正式回答ニ於テ右原則ニ言及セズ故ニ同政府若クハ其他或ル一国政府ニ於テ予メ完全ニ右原則ヲ受諾セザルノ態度ヲ表明センカ仏国ハ「ゼノア」ニ代表者ヲ送ラザルニ(脱)尚仏国ガ「ゼノア」會議ニ参加スル為メニハ同會議日程各項ノ解釈ニ関シ同盟国間ニ完全ナル了解アルヲ必要トス「ゼノア」日程第一ハ前記原則ノ実施ニ関スル審査トアル処當時議事ノ經過ヲ見ルニ右原則ハ「カンヌ」會議参加国ニ於テ既ニ承認セラレタルモノト解釈セラレ唯ダ審査スベキ点ハ右原則ノ適用ノミニ関スルモノナリ然レドモ右ノ解釈ハ同盟国ノ解釈ニシテ新ニ「ゼノア」ニ召集セラルベキ諸国ノ与リ知ラザルモノナリ故ニ「ゼノア」開會劈頭議事ニ入ルニ先チ全參列国ニ於テ同原則ニ関シ全然賛同ノ意ヲ宣明スルヲ要ス又同原則反對者ガ日程ノ不精密ナルニ乗ズ

權ノ制度ヲ容認スルノ結果ニ達著スヘシ

(a)公債承認ノ原則ニ関シ議スベキハ之ガ実行問題トシテ満足ナル方法ノ研究ニ在リ公債承認ノ原則ハ同盟国夙ニ之ヲ認メ之ガ為協定及條約ヲ結ビツアリ今更半公開ノ會議ニ於テ之ヲ議スルニ及バズ之ニ反シテ或ル国ハ從來右公債ヲ否認シ而シテ該諸国ガ今ヤ「カンヌ」原則ヲ受諾シタルニ依リ該公債ヲ承認シタルガ如キ結果ヲ生ズルモノアリ此公債ノ承認問題コソ前記原則ノ適用ヲ要求スルモノナリ損害補償及現状回復(reparation et restitution)ニ関シテハ独ノ提出セントスル要求ヲ如何ニ考慮スベキヤハ重要問題ナリ

(b)「カンヌ」ノ決定ニ係ル契約履行ヲ保証スベキ法制(?)ノ原則ニ関シテハ該原則ノ実行上曩ニ述べタル私人ノ權利利益ノ尊重ニ関スルト同様ノ意見ヲ述べザルヲ得ズ外国人ノ權利ガ国内法制上充分ニ尊重セラルルニ於テハ本件ハ日程第五ニ於テ論ゼラルベキ問題ナルモ其然ラザル国ニ対シテハ先ヅ以テ外国人ヲ其國ノ内國法制ヨリ脱却セシメ外国人所属本國法ニ依リテ其權利ノ尊重ヲ計ラザルベカラズ財政及貨幣問題ニ関スル原則ノ實現ニハ先ヅ以テ或國々ニ

於テ他國若クハ他國人ノ關係ニ於テ共通ニ実行ナル財政並貨幣制度ヲ認ムルヲ約スルヲ要ス而シテ若シ一切ノ諸國ニシテ斯カル制度(脱)以上本件ハ日程第四ノ問題ナリ破壊の宣伝抑制ノ件ハ各國自ラ直接間接之ヲナサザルヲ約シ又其人民ヲ以テ之ヲ為サシメザルガ為法律ヲ実施スルノ要アルトコロ「ゼノア」ニ於テ右條約ヲ結ブモノノ実施ヲ監視スルハ難事ナルベシ

隣國ヲ攻撃セザルノ件モ其為ニ條約ヲ結ブノ要アルベシ但シ之ガ為同盟國ハ独逸ノ賠償義務不履行ニ対シ「ヴェルサイユ」條約ノ与ヘタル制裁權ヲ失フモノニアラズ(第八編第二附屬書十八)而シテ本件ニ関シテハ尚聯盟規約ノ國際紛争解決ニ関スル一般の規定ヲモ併セ考慮スルヲ要ス歐洲關係事項 此際特ニ「ゼノア」會議ノ事項ニ付大陸諸國間ニ紛争ヲ生ゼバ右ハ鈔クモ聯盟内ニ於ケル一国ノ利害關係ヲ感ズベキ所ニシテ同國ハ常ニ聯盟規約ニ基ク措置ニ出ヅルヲ要スベシ(規約十一、十二、十三条)斯カル現状ニ対シ更ニ新事態ヲ攻究スルハ不可能ナリ尤モ數ヶ國間其領土保全ノ為特別條約ヲ結ブヲ妨ゲズ即チ小協商及仏白、仏英、英白間既存若クハ締結中ノ條約ノ如キ是レナリ

遂ゲ置クヲ要ス思フニ會議事項ノ複雑(脱)的ナル其成績ヲ挙ゲントセバ鈔クトモ三ヶ月間ノ準備時日ヲ要ス之レ會議延期ノ必要ヲ認ムル所以ナリ

五六 二月二十一日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

独逸覺書ノ審査決定ハ賠償委員會ニ於テ行フ
ベシトスル仏國政府ノ意見ニ対シ英國政府ノ
見解ヲ通告越ノ件

第九一号 (二月二十二日接受)

在仏大使發閣下宛電報第九二号ニ関シ本月十五日付ヲ以テ外務省ヨリ大要左ノ通牒アリタリ

英國政府ニ於テハ本件ハ最高會議ニ代表セラルル各國ノ大藏大臣ニ於テ之ヲ研究スルコト有益ト認ムルモ賠償委員會ニ審議セシメントスル仏國ノ提議ハ(一)聯合國間ニ賠償受領額ノ分配及ヒ占領軍ニ関シ將來独逸ニ負担セシムヘキ額ノ決定ニ関シテハ「カンヌ」最高會議ニ於テ審議セル所ニ依ルコト(二)客年八月十三日ノ財政協定ハ「カンヌ」ニ於テ提議セラレタル修正ヲ為シタル上直ニ批准セラルヘキコトノ二条件ノ下ニ之ヲ承諾ス但シ英國政府ハ「カンヌ」ニ於テ

次ニ「ゼノア」日程ノ第二強固ナル基礎ニ歐洲平和ノ確立ハ「カンヌ」原則ノ六ニ関スルモノト思考スルモ然ラザルニ於テハ尚其意義ヲ明確ニスルノ要アリ尚日程第三ノ信用確立ニ関シテモ諸國ノ民心ノ一変ヲ必要トス即チ從來ハ確立ヨリハ寧ロ破壊ニ勉メタルノ感アリ本日程ニ関シテモ既存條約ニ触レザルトノ制限ノ下ニ意義ヲ明確ニスルノ要アリ

日程第四以下ハ財政經濟交通ノ專門事項ニ関ス財政ニ関シテハ「カンヌ」財政會議研究ノ「プログラム」ヲ設クベク又經濟交通問題ノアルモノハ既ニ「ポート、ローザ」ノ會議事項タリシモノニシテ此等問題ニ関シテモ「プログラム」ヲ定ルノ要アリ但シ此「プログラム」ヲ露國ニモ提供スベシトセバ是レ旧來ノ經濟制度ノ復活ヲ意味スルモノナルカ故ニ先ヅ以テ勞農政府ニ於テハ果シテ商業上ノ便宜法律並ニ裁判上ノ保護工業並ニ文芸上ノ財産權ノ保護領事館ノ制度外國人ノ入國居住ヲ許容スベキヤ否ヤヲ知ルヲ要ス而シテ右ハ露國トノ通商再開ノ要件ニシテ此点ハ日程第四財政問題ニ関シテモ同様ナリ故ニ日程第四以下ニ関シテハ勞農政府ト會商以前同盟國及ビ他ノ文明國間ニ明確ナル了解ヲ

仮承認ヲ得タル賠償ニ関スル協定(在仏大使發貴大臣宛一月二十日付機密公第九号公信附屬書A、J、第三〇一号参照)第八条及ヒ第一五条乃至第一九条ハ既ニ確定シ從テ賠償委員會ノ權限ニ属セザルモノト認ム

右英國政府ノ意見ヲ仏國政府ニ通告セル際同政府ニ提議セル左ノ点ヲ日本政府ニ提議ス

之等各項ニ関スル協定ニ調印スルニ當リ附屬協定トシテ塞爾比、希臘、羅馬尼ニ配当スヘキ賠償額ヲ決定シ賠償ヲ受クル權利ヲ有スル諸國之ニ調印スルコト

尚ホ之カ為ニハ既ニ仮承認ヲ得タル希臘配当額ニ関シ仏國政府力正式承認ヲ為スコトヲ必要トス

以上在当地白耳義、伊太利両大使ニ同文通牒セリ
在仏大使ヘ電報シ独、伊、白ヘ郵報セリ

五七 二月二十二日 在本邦仏國大使ヨリ
内田外務大臣宛

仏國政府ハゼノア會議開會ヲ若干期間延期方
要請ヲ伊國政府ニ送りタル旨通報及日本政
府ノ意向問合ノ件

Tokyo, le 22 Février 1922.

Ambassade
de la
République Française
au
Japon

N°21

Monsieur le Comte,

Le Gouvernement de la République vient de faire parvenir au Gouvernement Italien une note demandant que la réunion de la Conférence de Gênes soit ajournée de quelque temps.

Il semble nécessaire en effet que les Alliés se mettent d'accord sur le programme et la marche des travaux de la Conférence avant qu'elle soit réunie. Un délai important doit être prévu car les commissions techniques françaises ne pensent pas pouvoir terminer avant trois semaines les études préliminaires qui leur ont été demandées et qu'elles ont entreprises sans délai.

Le Gouvernement Français a déjà consulté sur la date de la Conférence plusieurs des Pays qui doivent

y être représentés : Trois réponses lui sont parvenues jusqu'à ce jour. Les Gouvernements Roumain et Suisse sont en faveur d'un ajournement de deux à trois mois. Le Gouvernement de Washington a fait connaître officiellement qu'il préférerait également voir remettre à trois mois la réunion de la Conférence. Il n'a cependant pas encore notifié officiellement cette opinion au Gouvernement Italien car il réserve pour le moment sa liberté d'action, n'ayant pas encore décidé en principe s'il se rendrait ou non à la Conférence.

Mon Gouvernement m'a chargé de demander au Gouvernement Impérial de bien vouloir s'associer auprès du Gouvernement Italien à la demande d'ajournement qui lui a été présentée par M. Barrère. Je serais en conséquence très obligé à Votre Excellence de vouloir bien me faire connaître à ce sujet la décision du Gouvernement Impérial afin que je puisse la faire connaître à M. Poincaré.

Je me permets d'attirer l'attention de Votre Excellence sur le caractère d'urgence de la présente communication. /-
Veuillez agréer, Monsieur le Comte, les assurances

de ma très haute considération.

(Signé) P. Claudel

Son Excellence

Monsieur le Comte UCHIDA

Ministre Impérial des Affaires Etrangères

etc., etc., etc.,

Tokyo.

(右和訳文) (註 外務省係官作成ノ仮訳文ナリ)

一九二二年二月二十二日附在本邦仏国大使来翰第二十一号

訳文

以書翰啓上致候陳者仏国政府ハ伊国政府ニ対シ「ゼノア」會議ノ招集ヲ或ル期間延期スルコトヲ要請スル旨ノ覚書ヲ送付致候

蓋シ該會議開催前予メ議事日程及議事進捗ニ関シ聯合諸國間ニ協定ヲ了スルコト必要ナルベク仏国専門委員ハ彼等ガ命ヲ受ケ遲滞無ク着手セルニ拘ラズ其予備調査ハ今後三週間以内ニハ之ヲ完成シ得ザルベシト認メ居ルニ付相当長期間ノ延期ヲ予見スルヲ要シ候

仏国政府ハ該會議開催期ニ関シ参加諸國ノ意見ヲ徴シ候処

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 五八

今日迄既ニ三箇國ヨリノ回答接到致シ羅馬尼及瑞西兩國政府ハ孰レモニ三箇月ノ延期ヲ可トシ米国政府モ亦三箇月ノ

延期ヲ希望スル旨非公式ニ通告致越候尤モ米国政府ハ該會議ニ参加スベキヤ否ヤヲ未ダ主義上決定シ居ラザル為今尚其ノ行動ノ自由ヲ保留シ居ルニ付伊国政府ニ対シ右ノ意見ヲ公然通告致シタル次第ニハ無之候

仏国政府ハ其在伊大使ヲ経テ提出セル會議招集延期ノ要求ニ付帝國政府ニ於テモ伊国政府ニ対シ同様ノ措置ニ出デラレンコトヲ希望致候本使ハ本国政府ニ伝達スル為本件ニ関スル帝國政府ノ決定ヲ閣下ヨリ承知スルヲ得バ幸甚ニ候尚本件通牒ハ極メテ緊急ヲ要スルコトハ特ニ御留意相成度候

右申進旁本使ハ玆ニ閣下ニ向テ重ネテ敬意ヲ表シ候 敬具

五八 二月二十三日 内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛(電報)

英國政府ニ於テ伯亜西國ノゼノア會議参加ニ

同意ヲ与ヘタルヤ取調方訓令ノ件

第八〇号

二月二十二日在本邦伊国大使来訪西班牙国政府ヨリ「ゼノ

「ア」會議ニ伯刺西爾及重爾然丁ノ二國ヲ参加セシメラレ度キ旨伊國政府ニ申出アリタル処西班牙側ノ謂フ所ニ拠レバ英仏兩國政府ニ於テハ前記二國ノ参加ニ同意セル趣ニテ又伊國政府ニ於テモ西班牙政府ノ申出ニ対シ異存ナキ旨回答シ置キタルガ本件ニ関シ帝國政府ノ意嚮ヲ承知シタキ旨ヲ述ヘタルニ付本大臣ハ考量ノ上何分ノ回答ニ及ブベキ旨答ヘ置キタルガ責任國政府ニ於テ已ニ伯亞兩國ノ参加ニ同意ヲ与ヘ居ルヤ至急取調ヘ電報アリタシ

本大臣訓令トシテ在仏大使ニ転電シ參考トシテ在伊大使及在西、伯、亞各公使ヘ転電アリタシ

五九 二月二十三日 内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛（電報）

ゼノア會議開催期問題ニ関シ英國ハ延期ニ強テ反对セザルベキヤニ付觀測提示方訓令ノ件
第八一号

在本邦仏國大使ハ二月二十三日附書翰ヲ以テ仏國政府ハ準備ノ都合上「ゼノア」會議ノ開會ヲ延期セムコトヲ希望シ嚮ニ關係各國ノ意嚮ヲ徴シタル処今日迄ニ回答アリタルハ瑞西、羅馬尼及米國ノ三國ニテ瑞羅兩國ハ二三ヶ月、米國

ハ三ヶ月延期ヲ希望セリ（尤モ米國ハ未ダ参加ニ決定シタル次第ニアラザルヲ以テ右回答ハ非公式ニ為サレタルモノナリ）仍テ仏國政府ハ伊國政府ニ対シ可ナリ長キ延期ヲ申込居ルニ依リ帝國政府ニ於テモ伊國政府ニ対シ同様ノ措置ニ出デラレタキ旨本國政府ノ訓令ニ基キ申越セリ尚在本邦伊國大使ハ往電第八〇号会谈ノ際「ゼノア」會議ニ付種々延期説伝ヘラレ居ルモ今日迄何等公ノ報道ニ接セズ又仏國側ハ延期ヲ希望シ居ルモ「ロイド、ジョージ」ハ依然予定通開會シ度キ意嚮ナルガ如シト語レリ帝國トシテハ諸般ノ關係上寧ロ延期ヲ便トスル次第ナルモ英國政府ニ於テ果シテ延期ニ強テ反对ナカルベキヤ貴官ノ御觀測至急電報アリ度シ

仏伊ヘ転電アリタシ

六〇 二月二十三日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ゼノア會議開催時期ニ関スル伊仏英各國側ノ意嚮ニ付報告ノ件
第九四号

（二月二十四日接受）

二月二十一日復興会社設立委員會ノ模様ハ別ニ電報スヘキ

在歐洲各大使在紐育總領事ニ転電セリ
在歐洲各公使在米大使ニ郵報セリ

六一 二月二十三日 在波蘭國川上公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ゼノア會議ニ対スル波蘭ノ態度報告ノ件
第二二号

（二月二十五日接受）

「ゼノア」會議ニ関シ二月十八日當國外務大臣ガ新聞代表者ニ為シタル宣言ニ拠レバ波蘭ハ仏國及「プチット、アント」諸國トノ協調ヲ重要ト認メ「ベルグラード」會議ニハ其代表者ヲ参加セシムベク又客年中既ニ諒解アリタル「バルト」海諸國外務大臣會議ハ來ル三月五日ヨリ同十五日迄ニ「ワルソー」ニ於テ開催ノ予定ナルガ同會議ニ於テハ対露問題ニ付「バルト」諸國共同ノ利害關係ニ付協議スルトコロアルベシ「ゼノア」會議代表者ハ未ダ決定セザルモ最初ヨリ政治交通財政通商等ノ分科委員會ヲ設ケ熱心ニ研究ヲ続ケ居レリ波蘭ハ一方露國ノ復興ニ付テハ最善ノ努力ヲ致スベキモ他方歐洲ノ經濟的回復ノ点ヨリ今後更ニ列國ノ援助ニ俟ツトコロ甚ダ多シ云々

本件ニ関シ當館員ガ外務省内「ゼノア」會議準備委員中ノ

ガ同日夜英國委員主催ノ晚餐會ニハ本使モ招カレ出席シタル処英國側ハ内外政務ノ為殊ノ外多忙ナル首相迄出席シ居リタルハ人ヲシテ當國政府側ノ如何ニ本件促進ニ熱心ナルカラ窺ハシムルモノアリタルガ其節伊國大使ハ本使ノ問ニ対シ「ゼノア」會議ハ official ニハ今以テ三月八日開催ノ事トナリ居ルモ伊國政局ノ現況ニ顧ミ結局二週間前後ノ延期ハ止ムヲ得ザルベシト語レリ仏國大使館參事官ハ同日永井ニ対シ仏國政府ハ「ブリアン」ガ華盛頓「カンヌ」共ニ準備不充分ノ為失敗ヲ招キタルニ鑑ミ今回ハ先以テ準備ヲ慎重ニセントスル以外他意ナク「ゼノア」會議ヲ無意義ニ遷延セントスルガ如キ意図ナク寧ロ之カ迅速開會ヲ希望シ居ル次第ナリト陳弁シ然シ二十四日ノ予備會議三月八日ノ本會議ニハ到底間ニ合フベクモ非ズト語レル趣ナリ併シ新聞紙ノ報道及ビ「タイムズ」記者ガ二月二十二日首相秘書ヨリ聞キタル所トシテ確認内報シ來レル所ニ依レバ英國側ニテハ更ニ往電第九一号ノ提議ヲ變更シ今週末「バリ」ニ赴キ親シク仏國當局ト協議スル所アルベシトノ事ナリ尤モ外務省ヨリハ未ダ何等通知ナシ之ヲ要スルニ「ゼノア」會議ハ若干延期ノ外ナキコト今ヤ動カスベカラザルガ如シ

主ナルモノノ説ヲ聴クニ曰ク同會議ニ於テ既成条約ヲ論議セザルコトハ如何ナル方面ヨリ見ルモ第一ノ条件ナリ但同會議ニ際シ露国旧右党ハ仏国ノ一部委員ニ依リ代表セラレ旧債承認ノ問題ニ伴ヒ必ズ新興国ノ分担額ニ付問題起ルベク波蘭ハ「リガ」条約ノ規定如何ニ拘ラズ其責任ヲ免レザルベシ而テ波蘭ノ分担額ハ面積ニ依レバ約百分ノ六ナルモ租税額ノ比率ニ依レバ百分ノ十三ニ相当スベシト言フ尚會議ノ効果ニ付テハ英仏ノ確執今日ノ如クンバ到底大ナル望ヲ囑シ難ク殊ニ本件ニ関スル「ロイド、ジョージ」氏ノ言動ハ対内政策ヲ主眼トスルモノ少カラザルハ看過スベカラズ本問題ハ大体ニ於テ時機尚早ノ嫌アリ抑々露国ノ救済問題ハ「ロイド、ジョージ」ノ考フルガ如ク簡單ナルモノニアラズ最初ヨリ慈善事業トセバ兎ニ角苟モ経済的(脱)ヨリ現在ノ露国ニ対スル大々の投資ヲ觀察セバ單ナル投機以上ノ危険事業ナリ何トナレバ同會議ニ於テ露国ガ如何ナル約束ヲ為スモ其実行ハ何人モ保障シ得ザルベク又政治上現在ノ勞農露国ハ到底急遽立憲民主ノ法治国タルコト能ハズ此方面ニ向テ漸進スルノ他ナキガ如ク經濟上ヨリ觀ルモ徐々ニ復興スルヲ適當トス

外砂糖業ノ經營モ可ナリ此ノ場合波蘭ハ隣接国トシテ又通過貿易国トシテ最モ有利ナル条件ヲ提供スベシ極東露領ニ最モ密接ナル關係ヲ有シ且之ヲ了解スル者ハ日本ヲ第一トスベキモ實際事業ヲ起ス場合ニ日米共同ニテ投資シ現在ニテモ同地方ニ残留セル智識階級ニ属スル多数ノ波蘭人ガ其ノ先驅者トナリ得レバ極メテ幸ナリ云々 尚ホ波蘭ハ對露通商談判ニ着手スル旁從來露国ニ於テ商工業上ニ有力ナル地歩ヲ占メ居タル波蘭人ノ「リスト」ヲ作製中ナリト云フ

在歐各大使瑞典「チェッコ」ニ郵送セリ

六二 二月二十五日 内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛(電報)

ゼノア會議三個月延期方仏国ノ要請ニ対スル

日本政府ノ意向ニ付伊国大使問合ノ件

第八六号

往電第八一号ニ関シ

二月二十四日在本邦伊国大使次官ヲ來訪シ仏国ヨリ「ゼノア」會議三箇月延期ノ請求アリタルヲ以テ伊国外務大臣ハ三月八日開會ノコトハ最高會議ノ決定ナルニ付本件ハ他ノ

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 六二 六三

現今欧米ヲ通ジ真ニ露国ヲ解スルモノ波蘭ト独逸ニ如クモノナシ而シテ独逸ハ現ニ同問題ニ依テ英仏ヲ離間セントスル外交政策ト露国ヲ己ノ植民地トシテ開拓セントスル政治的年来ノ野心ヲ包藏スルモノナルガ此ノ野心ハ露国内ニテモ既ニ感知セラレ恐怖セラレ居ルヲ以テ独逸ノ露国ニ於ケル事業ハ将来必ズシモ平坦ナリト云フヲ得ズ之ニ反シ波蘭ハ露国ニ対シ全ク平和的經濟關係ヲ維持シ相互ノ繁榮ヲ念トスルモノナルコトハ近來勞農政府ニ於テモ了解シタルモノノ如ク最近同政府ノ波蘭ニ対スル態度ハ極メテ温和トナレリ元來露国ノ復興ヲ政治問題トスルハ波蘭ノ為メニ極メテ不利ニシテ飽ク迄經濟的見地ニ立チ千鈞ニ亘ル長大ナル国境ヲ利用シ漸次ニ露国ヲ開発スルヲ得策トス又世上單ニ「コンセッション」ノ獲得ト云フモ是亦甚ダ不安タルヲ免レズ故ニ波蘭ハ成ルベク英仏独露「チェッコ」等ト共同シテ目下全然流通資本ヲ有セザルニ等シキ露国ヲシテ天然資源ヲ提供セシメ其他ノ国ハ何等カノ形式ニ於テ夫々資本ヲ提供シ實際問題トシテ先ヅ西欧ヨリ露国ニ通ズル鐵道ヲ改築増設シ露波国境地方ノ木材ヲ搬出シ上「シレジア」ノ工業ニ必要ナル南露「ドンネッタ」地方ノ鉄鉱ヲ採取スル

主要聯合國ト協議スヘキ旨挨拶セリ就テハ帝國政府ノ意嚮ヲ承知シタシト申出デタルニ依リ次官ハ本件ニ付テハ既ニ仏国ヨリ直接申出ノ次第アリ目下考量中ナルニ付決定ノ上ハ何分ノ回答ニ及フヘキ旨答ヘ置ケリ尚伊国大使ハ其ノ際伊国政府ハ同国目下ノ政変ニ鑑ミ短時日ノ延期ヲ為スノ已ムヲ得ザルニ至リ招請国ニ其ノ旨ヲ通告シ且新ニ開會期日ヲ定ムル為主要聯合國ト協議中ナル処右ニ関シテモ帝國政府ノ意嚮ヲ承知シタキ旨申出デタルニ付(此点ハ更ニ二十四日附公文ヲ以テ申越セリ)次官ハ之亦考量ノ上回答スヘキ旨挨拶シ置ケル趣ナリ

仏伊ヘ転電アリタシ

六三 二月二十七日 在チエッコスロヴァキア國長岡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ゼノア會議ニ関スル英仏兩國首相ノ意見ニ付

ベネシユ首相談話ノ件

第一九号

(二月二十八日接受)

往電第一四号ニ関シ「ベネシユ」首相英訪問ヲ終リ二月二十四日帰還セルニ付其ノ模様ヲ尋ネタル処得意氣味ニテ左ノ通語レリ

六三

「ゼノア」會議ニ関スル仏英首相意見ノ相異ハ想像以上ニテ仏国覺書ニ対スル英國ノ回答ニ対シ「ポアンカレ」氏ハ更ニ書面ヲ送ル所存ナル旨ヲ語り頗ル興奮シ居タルガ斯ク文書ノ往復ヲ繼續シ居リテハ何時融合点ヲ見出し得ルヤ予知シ難キヲ以テ切ニ同氏ヲ説キ妥協案ヲ齎シテ英京ニ赴キ折衝ノ末英首相ノ同意ヲ得タル提案ヲ提ゲテ再ビ「ボ」氏ヲ訪ヒ玆ニ兩首相会见ノ運びトナルニ至レルハ満足ニ堪ヘザル所ナリ

「ボ」氏ハ勞農露國ト通商關係ヲ結バントスルノ考案ヲ絶對ニ排斥セルニ反シ英首相ハ勞農政府代表者ヲ會議ニ招致スル事ハ是ニ依リテ同政府ヲ *de jure* ニ当然認ムル事ナリト主張シ兩意見ノ距離頗ル大ナリシガ仲介ノ結果(一)仏國ハ露國ト通商關係ヲ結ブニ賛成スルコト(二)此ノ通商条件ハ各國トモ同一ナル可ク一國ガ他國ヨリモ有利ノ条件等ヲ提供シテ勞農政府ト協定ヲ結び他國ヲ出シ抜クガ如キコト無カラシムル為共通ノ条件案ヲ予備會議ニテ決定スルコト(三)勞農政府ヲ *de jure* ニ承認スルノ問題ハ通商關係ノ締結ト全然分離シ「ゼノア」會議参加國ノ議ニ附シ是ヲ決定ス可ク予備會議ニ附議セザル事ニ意見ヲ纏メ又對独賠償問題ニ関

シ「ボ」氏ハ一步モ仮借セズ飽ク迄独逸ヨリ取立ツルト同時ニ經濟的援助ハ毫モ之ヲ為サズトノ意氣込ナリシモ斯クテハ到底独逸ニ支払ノ出来ル見込ナキニ付此ノ点モ多少折合フコトナリ又國際聯盟ノ權限ハ「ゼノア」會議ニ依リテ毫モ侵蝕セラレザルコトシ此ノ基礎ニテ兩首相ノ会见成立スルニ至レルガ中央歐羅巴再設ノ件ニ付テハ兩國首相トモ何等具体案ヲ有セズ但シ一般問題トシテハ「ポルトローゼ」決議ニテ尽シ居リ是以上ニ渉ルコト能ハザル様思ハル而シテ今回ノ訪問ニ依リ予備會議ノ討議ニ小協商諸國ノ参加權ヲ得タルハ智慧古國直接ノ利益トシテ満足スルトコロナリ

在英米仏大使へ転電セリ

在独白大使へ郵送セリ

六四 二月二十七日 在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ブローニーニ於ケル英仏首相協議ニ関スル

コミュニケ報告ノ件

第一五四号 (二月二十八日接受)

「ロイド、ジョージ」「ポアンカレ」会见ハ予定ノ通二十

五日午後 Boulogne ニテ行ハレ約三時間半ニ亘ル協議ノ後左ノ趣旨ノ communiqué 公表セラル

(一)英仏兩國首相ハ「ゼノア」會議ニ於テ國際聯盟ノ特權ヲ犯シ平和後仏國ニテ調印セラレタル諸條約ヲ侵犯シ又ハ同盟國ノ有スル賠償權ヲ損傷スルガ如キ事勿ラン為政治的保障ヲ為ス事ニ就キ全然意見ノ一致ヲ見タリ

(二)専門家會議ハ近日倫敦ニ会合ノ上經濟及技術問題ヲ研究スベシ「ゼノア」會議ハ四月十日開会スル様伊太利政府ニ請求スル事

(三)兩國首相間ノ協議ハ極メテ懇懇ニ進捗國際諸問題ニ関スル兩國ノ協調ハ不日最良好ナル結果ヲ誘致スベシト期待セラル英仏兩國ガ共同シテ歐洲ノ經濟復興及平和確保ニ努力スルニ何等政治的困難ノ存セザル事ハ兩國首相ノ等シク認メタル所ナリ

紐育へ転電セリ

六五 二月二十七日 在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ブローニーニ於ケル英仏首相會議ニ関スル

情報報告ノ件

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 六五

第一五五号 (二月二十八日接受)

往電第一五四号「ブローニー」會議ニ関シ

一、新聞情報ニ依レバ公表書ノ(一)ニ國際聯盟ノ特權云々トアルハ專ラ仏國ガ陸軍縮少問題ヲ「ゼノア」會議ニテ討議スルヲ好マズ会谈ノ際「ポアンカレ」ヨリ英國ガ該問題提起ノ意向ヲ有スルヤ否ヤヲ尋ネタルニ右ハ全然聯盟ノ領域ニ屬スト答ヘ但シ露國ガ百五十万ノ兵力ヲ有シ亦聯盟規約ノ拘束ヲ受ケザルハ考慮スヘキ事態ナリト云ヘリト報ゼラル

平和後仏國ニテ調印セラレタル諸條約トハ文字上平和條約以後ノ諸條約ノ如ク見ユルモ諸新聞ノ報道ハ右ハ專ラ對独、塙、洪、勃四國ノ平和條約ヲ指スモノニシテ「セーヴル」條約ヲ含マズ又露西亜ト其隣接諸國トノ條約ヲ除外スル趣旨ニテ右ノ通り起草セラレタリト、英國ハ殊ニ波蘭ト露西亜トノ「リガ」條約ニ触ルルコトヲ忌ム旨ヲ洩ラセリト云フ

二、専門家會議ハ本週末頃会合スヘシ但シ政治問題ハ政府間ノ直接協議ニ譲リ専門會議ニ附スル事ナキ諒解ハ従前ノ通り

三、本会見ニテ話題ニ上レル事項ハ殆ンド仏英間ニ懸案タル全般ノ問題ニ亘ル(東方問題ニ関スル会合地(脱)コト往電第一三一号ノ通り)ト報ゼラルルモ賠償問題ハ近日仏英ノ大蔵大臣会合シテ之ヲ決スル筈ニ付全ク話題ニ上ラザリシ趣ナリ英仏保障条約ハ此会談ニテ事実上合意成立シタレバ「ゼノア」會議以前ニ調印セラルベク「ポアンカレ」ハ本件ノ最終的決定ヲ為スタメ遠カラズ倫敦ニ出張スヘシ四、「ソヴィエト」政府承認ニ付テハ「ロイド、ジョージ」モ莫斯科政府ノ連中ヲ余リ信用セザルモ直接彼等ト話シタキ考ナリト述ヘ結局「ソヴィエト」政府ガ會議ニ列ナル事実ヲ以テ当然ニ同政府ノ法律上ノ承認トナス見解ヲ棄テ「ソヴィエト」政府ヲ承認スルト否トハ各国ノ自由トシ會議ノ終結ノ際之ヲ議スル事ニ纏レルモノナリト五、「ソヴィエト」ハ戦前露西亜政府ノ有セル外債ヲ承認セザルベカラズ但シ戦時中聯合國ノ給与シタル債務ハ対独条約百十六条ノ規定ト聯合國ガ対独賠償ヲ独占シ居ル狀況トニ鑑ミ是ガ返済ヲ請求セザルヲ可トスベク且将来聯合國間ノ債務整理ニ当リ大部分打切りノ方針ト矛盾セザル様ニ注意スルヲ要ストノ趣旨ニ一致セリ

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

「ゼノア」會議ニ関スル件

「ゼノア」會議ハ「カンヌ」會議ノ結果トシテ其開催ハ既定ノ事実ナルモ其ノ時期ニ関シテハ未ダ確定セザルモノノ如ク右ハ仏国首相「ブリアン」氏ガ「カンヌ」會議ノ了ルヲ待タズ辭職スルノ已ムナキニ至リタル為同會議議題ノ細目ヲ定ムルニ至ラザリシニ因ル露国ニ対シ多クノ經濟關係ヲ有スル仏国ハ會議ノ現場ニ臨ミタル上ニ於テ「ソヴィエト」露国ニ条件ヲ課スルヲ以テ策ノ得タルモノニアラズトナシ前以テ条件ヲ提議シテ「ソヴィエト」政府ノ意嚮ヲ確メムコトヲ希望シ一方露国ニ向テ自国商品ノ販路ヲ求メ国内ノ失業者ヲ救ハムト焦慮スル英国首相「ロイド、ジョージ」氏ハ「ソヴィエト」政府ヲ會議ニ招致シ現場ニ於テ商議スル所アラムトスル為メ兩國ノ間纏リ附カザルニ加ヘ伊国「ボノミー」内閣ノ蹉跌ノ為メ一層進行ヲ妨ゲラレタル觀アリ遂ニ英国政府ニ対スル本月六日附仏国政府ノ照會トナリタル次第ハ仏往電一〇七号ノ通りニシテ其重点ハ要スルニ「ソヴィエト」政府招致ニ関スル条件ナル処之ニ附加シテ同會議ニ南米諸國ノ招致ヲ論ジ國際聯盟ヲシ

六、「カンヌ」一月六日ノ決議第六項ハ将来聯合國ガ条約履行ノ為メニ取ル制裁手段ヲ拘束スルモノニ非ズ露独其他ノ旧敵國ガ聯盟ニ加入シ居ラザル事情ニ顧ミ聯盟規約第十条以下ノ規定ヲ聯盟加入國以外ニモ拡張セントスル趣旨ナリト解釈スルニ決定セリ

七、本会見ハ「ジョージ」「ポアンカレ」兩氏ノ個人的意思ノ疏通ニ大ナル効果アリタルモノノ如ク「ジョージ」氏ハ「ゼノア」ヘ「ポアンカレ」自身出席スルノ望マシキヲ力説シ「ポ」氏モ短期間ナリトモ出席スル事ニ同意シタリト伝フ

在米大使及在紐育總領事ヘ転電シ在欧洲各大使ヘ郵送セリ

六六 二月二十七日

在巴里松田聯盟帝國事務局局長ヨリ
内田外務大臣宛

ゼノア會議ト勞農露國ニ対スル英仏兩國ノ態度ニ関スル件

聯本公第八拾貳号

(四月四日接受)

大正十一年二月二十七日

在巴里

國際聯盟帝國事務局長 松田道一(印)

テ本會議ニ関与セシムルヲ可ナリト為ス如キハ「ロイド、ジョージ」氏ガ所謂最高會議ノ変態様ノ會議ニ依リ本問題ヲ簡單ニ片付ケ露國ト關係ヲ結びテ自国労働者ノ満足ヲ買ヒ自己ノ立場ニ便セムトスルニ対シ就任勿々ノ「ポアンカレ」氏ハ先露國「ソヴィエト」ヨリ或種ノ保障ヲ得テ人心ヲ安ンゼムトシ予備交渉ノ必要ヲ説キ正義論迄持出シタルモノラシク國際聯盟ヲ云為シ南米諸國ヲモ招致スルガ如キハ徒ニ利害關係少ナキ彼等ニ容喙ノ機會ヲ与ヘ解決ヲ困難ナラシムベキハ仏國識者ト雖知ラザルニアラザルベキモ議論ノ進ム所遂ニ此所ニ至リタルモノナレバ英仏妥協ノ余地ハ充分ニアルベキコトト思料セラルルモ特ニ國際聯盟ニ言及シタル点ハ從來英國等ニ行ハレタル権原ナキ最高會議ハ最早國際聯盟ニ其役ヲ讓ルベキ時ナリトノ主張ニモ対応シ一顧ノ価値アリト思料セラレ候

右新聞切抜添附及報告候也

六七 二月二十八日

内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛(電報)

ゼノア會議開會三個月延期方仏國要請ニ関スル件

第八七号

往電第八一号及第八六号ニ関シ

帝國政府ハ仏國ノ対伊要求ニ関シテハ二月二十八日在本邦
仏國大使ニ宛テ英伊兩國ニ於テ同意ナル限リ別段異存ナキ
旨回答シ又伊國ノ提議ニ対シテハ同日在本邦伊國大使ニ宛
テ異存ナキ旨回答セリ

仏伊ヘ転電アリタシ

六八 二月二十八日

在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

仏国外務省政務局長ノ談トシテ他ヨリ聞込ミ

タル情報報告ノ件

第一五七号

(三月一日接受)

往電第一五五号ニ関シ

外務省政務局長ノ談トシテ信スヘキ筋ヨリ聞込ミタル情報
ハ大体往電第一五五号ト符合ス尚ホ右情報ニ依リ左ノ点ヲ
補足ス

一、賠償問題ニ関シ「ポアンカレ」ハ「ゼノア」會議ニテ
討議スルコトニ不同意ナルヲ述べタルニ「ロイド、ジョー
ジ」ハ「ゼノア」會議ハ賠償ニ関シテ何等ノ決定ヲ為シ得

首相及丁抹公使談話ノ件

第七四号

(三月三日接受)

二月二十四日当館晚餐会後瑞典首相ト談話ノ際「ゼノア」
會議ニ談及シタル首相ハ独逸ヲ破産ノ淵ニ沈淪セシメツツ
歐洲ノ經濟的復興ハ到底行ハレ難ク仏國自身ノ復興トテモ
独逸ノ復興ト甚大ノ關係ヲ有スト言ヒ引續キ談話中暗ニ
「ヴェルサイユ」条約一部ノ更改ヲ為シ独逸ノ負担ヲ軽減
スルニアラズンバ根本的ノ復旧ハ不可能ナルモ此事タル容
易ニ行ハレ難カルベシトノ意ヲ洩シ又瑞典ノ同會議ニ対ス
ル態度ニ関シテハ瑞典ハ大戰中終始中立ヲ維持シ来リタル
モノナルガ「ゼノア」會議ニ関シテモ列國ト協調ヲ失ハザ
ルコトハ之ヲ努ムベキモ同會議ニ於ケル議題ノ漠然タルニ
鑑ミ瑞典政府ハ目下傍觀の態度ヲ執リ委員ノ任命モ未定ナ
リト言ヒ會議地ニ関シテハ「ゼノア」ハ適當ナラズト言ヒ
一般ニ同會議ニ対シ氣乗セザル態度ヲ示セリ

又本使ハ二月二十六日丁抹公使ニ面会前記瑞典首相ノ内話
ヲ語リタルニ「スカンデナヴィア」三国ハ御承知ノ通り執
レモ其經濟状態未曾有ノ不良ナレバ大戰中中立タリシ關係
モ有リ歐洲復興ノ仲間入ヲ為シ種々ノ犠牲ヲ払ハシメラル

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 七〇

ベキニ非ズト雖モ参列國中本件ニ言及スルモノアルモ是ヲ
妨グルコト能ハザルベシト答ヘ「ポ」ハ更ニ右ノ場合ニ於
テモ該発足点ハ現行条約ナラザルベカラズト言ヘリ

二、「ゼノア」會議ニ於テ疊ヘバ常設ノ委員会ノ如キモノ
ヲ造ル必要ヲ生ジタル場合ニハ是ヲ國際聯盟ニ委託スルコ
ト然ルヘシト思考スル旨「ポ」ヨリ提議シタルニ「ロ」ハ
全ク同意ナルモ問題ニ依リテハ聯盟ニ附託シ得ザルモノア
ルベシ疊ヘバ露國ニ対シ資金供給ノ団体ヲ作ルガ如キ場合
ニハ是ヲ聯盟ノ一事業トナス時ハ波蘭ガ聯盟ヲ通シテ露西
亞ニ圧力ヲ及ボスガ如キコトアルヲ虞ルト述べ「ポ」是ヲ
諒トセリ

三、尚ホ今回ノ會談ヲ手始メトシテ今後ノ會談ニハ英仏側
ニテ「プロセ、ヴェルバル」ヲ造リ互ニ交換スルコトナ
レリ

英米各大使及在紐育總領事ニ転電シ独伊蘭白「チェッコ」
ヘ郵送セリ

六九 三月一日

在瑞典國畑公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ゼノア會議ニ対スル北歐三国ノ態度ニ付瑞典

ルコトハ其好マザルトコロナレバ丁抹モ亦瑞典ト同様ノ態
度ヲ執リ諾威トテモ同様ナルベク同國委員ノ果シテ何人ナ
ルヤ見当著カザルモ丁抹ハ外相瑞典ハ首相自ラ出馬スルナ
ラムト語レリ

在歐各大使ヘ郵送セリ

七〇 三月四日

在獨國日置大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ブローニニ英仏首相會議ニ関スル悲觀的新

聞論調報告ノ件

第五三号

(三月五日接受)

英仏首相 Boulogne 会見ノ結果ニ対スル当國新聞論調ハ概
シテ悲觀的ナリ就中右派諸新聞ハ之ヲ以テ「ポアンカレ」
外交ノ勝利ナリトシ從ッテ強圧政策ヲ捨テテ露獨兩國ト共
ニ歐洲ノ復興ヲ識セントスル「ゼノア」會議本来ノ調和的
精神ヲ没却スルニ至リタルモノナリト論シ筆法ヲ政府攻撃
ニ転シ「ウィルト」「ラテナウ」ノ所謂利用政策ノ失敗ヲ
表明スルモノト言ヘリ政府与党並ニ其他左派ニ屬スル新聞
紙モ Boulogne 会見ノ結果ニ対シ不滿ノ意ヲ表スルモノ尠
カラズ Berliner Tageblatt ノ如キ「ゼノア」會議ニ於テハ

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 七一

賠償問題ヲ議スル事ナクンバ同會議ハ全然其意義ヲ失フヘシ從ツテ独逸ノ参加ハ一種ノ形式的行為タルニ過ギズト為シ中央黨機關紙 Germania 及民主党系 Vossische Zeitung ノ如キハ兎モ角モ今回會議ノ開催ヲ見ルニ至レルコトハ独逸ニ取リテ喜ブベキコトナリト為シ又 Frankfurter Zeitung ハ Boulogne 會議ニ於テ「ポアンカレ」ノ取付ケタル保障ハ大体 Briand ガ「カンス」ニ於テ得タル保障ト相距ル事遠カラズ「ゼノア」會議ニ對シ独逸ノ期待スル所ハ此際實質的利益ヨリハ寧ロ調和的雰囲気醸成ニ在リト為シ又 Vossische Bernehard ハ Boulogne 会见ハ「ゼノア」會議ニ於テ賠償問題ヲ議セズト決定シタルモ本問題ヲ議スル事ナクシテ歐洲復興問題ヲ解決スルコト難キハ「ポアンカレ」ノ賢明ヲ以テシテ明ナル所ナルベク而シテ賠償問題解決ノ為ニハ International Credit ニ依ルノ外道ナキ処今次ニ於テハ恐ラクハ International Credit 其ノ他主要議題タルベシト為シ間接ニ賠償問題ノ同會議ニ於テ議セラルベキヲ仄メカシ居レリ官辺ニ於テハ「ゼノア」會議ニ對シテハ元來多クヲ期待セズ從ツテ Boulogne 会见ノ結果ニ就キテモ敢テ驚ク事ナシ兎ニ角同會議ノ開會ヲ見ル事ハ結構ナリ

事項ニ對スル同政府ノ実行振ヲ見定メタル上承認ヲ詮議スベシト提議シタルモ「ロイド、ジョージ」氏ハ英國民ノ承認ヲ急グ事情ヲ繰返シ之ニ同意スル能ハズ遂ニ會議末期ニ之ヲ議スルニ折合ヒタルモ仏國ハ其ノ際ニ於ケル完全ナル自由ヲ保留シ承認ト否トハ會議中「ソヴィエト」代表ノ態度ニ依リテ決スル積ナリト云フ本使ヨリ西比利ニハ現ニ二三ノ政府アリテ其ノ「ソヴィエト」政府トノ關係明カナラズ若シ「ソヴィエト」政府承認ヲ全露唯一ノ政府トシテノ承認ト解スベキモノトセバ面倒ヲ起ス可シ其ノ辺「ロイド、ジョージ」氏トノ談話中論及セラレタリヤト問ヘルニ類似ノ面倒ハ尚他ニモ起ル可シ之ニ關シテハ議場ニテ忌憚ナク論ズルヲ要スト云ヒ浮カト承認スルハ不用意千万ナリ(四)過日ノ「ブローニユ」會議議事録ハ英仏「テキスト」ヲ比較校正中ニテ出来上ラバ一部写ヲ本使ニ送ラル可シ在歐米各大使ニ転電シ在歐各公使ニ郵送セリ

七二 三月九日

在獨國日置大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ゼノア會議ニ關シ獨國外相ガ為セル議會演說

中注意スベキ點報告ノ件

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 七二

七〇

トテ大ニ冷靜ノ態度ヲ持シ居ルモノノ如シ
在歐洲各大使ヘ郵送セリ

七一 三月四日

在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ブローニユ英仏首相會議ニ關スル公式聲明

ニ對シ仏國首相更ニ附言ノ件

第一六九号

(三月六日接受)

四日面會本使ノ問ニ對スル「ボ」氏ノ返答ハ大体往電第一五四号ノ通りナルガ尚補遺トシテ同氏ハ左ノ通り附言セリ(一)「ゼノア」會議ノ期日ハ「ロイド、ジョージ」氏ハ四月十日迄延期ヲ最大限トシテ諾シタルコトナレバ四月二十五日ニ延期ノ新聞ハ想像ニ過ギザル可シ小「アントアント」諸國ヲ始メ伊太利迄延期ヲ好都合トスル模様ナルモ仏國ハ一旦四月十日ヲ諾シタル故自ラ延期ヲ提議セザルモ延期ニ異議ナキハ勿論ナリ

(二)「ゼノア」會議ハ臨時的トナシ委員會ヲ設ケテ永引カシ半永久的トナスコトヲ避ケ且問題ハ性質ノ許ス限り國際聯盟ニ委ヌルニ務ムルコト

(三)「ソヴィエト」政府承認問題ニ關シ「ボ」氏ハ會議決定

第五六号

(三月十一日接受)

三月七日議會ニ於ケル外務大臣ノ演說中注意スベキ點左ノ如シ

一、「ゼノア」會議ニ對シテハ吾人ハ初ヨリ賠償問題又ハ平和條約ガ議題トナルベキコトヲ期待シ居ラズ但シ「ゼノア」ニ於テハ各國民共同シテ世界ノ經濟的病患ノ原因並其ノ治療方法ヲ議スルニ至ルベシ尤モ直ニ決定的治療方法ノ講ゼラルベキニアラザルベキモ惟フニ「ゼノア」會議ハ今年年中ニ恐ラクハ数次開カルベキ此ノ種會議ノ先驅タルベシ尚「ゼノア」會議ガ世界平和確立ノ基礎トナルベキヤ否ヤハ一ニ米國ノ同會議ニ對スル態度ニ懸ル戰爭及平和ノ決定的勢力タリシ米國ハ歐洲全民族ノ幸福ニ對シテモ亦其ノ責任アリ

二、賠償問題ニ就テハ差当リ先ヅ一時的解決商議セラルベキモ結局終極的解決ヲ為サザルベカラズ但シ之ガ為ニハ先ヅ歐洲各國間ノ負債問題ヲ解決スルヲ要ス但シ右問題ハ米國ノ参加ナクンバ解決殆ド不可能ナリ蓋シ米國ニシテ参加セバ歐洲各資本國ノ援助ニ依リ恐ラク独逸ハ國際公債ヲ起シ其ノ債權者ヲ満足セシメ得ベキカ

七一

三、歐洲復興会社ヨリ独逸ヲ除外スルガ如キコトアランカ不当ナリ独逸ハ露国ノ心理状態ト利害トヲ能ク了解シ且ツ之ヲ尊重ス而シテ此ノ復興会社ヲ以テ所謂露国ノ植民地化ニ利用スルガ如キコトハ絶対ニ不可ナリ在欧米各大使へ郵送セリ

七三 三月十日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

伊國政府ノゼノア會議招請ニ対シ米國政府拒絶ノ件

第一一〇号 (三月十一日接受)

三月八日在当地伊國大使ニ交付セラレタル米國政府ノ「ゼノア」會議招請ニ関スル回答文翌日ノ新聞紙ニ發表サレタリ其要旨左ノ通り
米國政府ハ「カンヌ」決議及「ゼノア」會議議題ニ付考量ヲ遂ゲタル結果同會議ハ經濟會議ト云フヨリモ寧ロ米國政府ハ有効ニ参加シ得ザルベキ政治的性質ヲ有スルモノナリトノ結論ニ到達シタリ蓋シ米國政府ニ於テハ歐洲政治問題ノ渦中ニ深く卷キ込マルルヲ欲セズトノ米國民ノ明瞭ナル信念ヲ顧慮セザルヲ得ザルナリ

ルニ於テハ日本カ既ニ齊多政府其他ノ地方政權ヨリ得タル又ハ今後得ヘキ諸權利ハ勞農政府承認ノ際ハ其一条件トシテ若シ勞農露国ガ其版圖ヲ極東迄延長スル場合ニハ同地方ニ於ケル既成事実トシテ前記諸權利ヲ認メシムルコトト致シタキニ付貴地準備委員會ニ於テ本件上議セラルル場合ニハ右ノ趣旨ヲ列国ニ諒解セシムル様努メラレタク尚又「カンヌ」會議決議末項ニ就テハ石井大使宛在電第二二号所載ノ留保ヲナスコト必要ト認ムルニ付同大使ト協議ノ上適當ノ時機ニ於テ通告方取計ハラレタシ
本電訓令トシテ在仏大使へ転電アリタシ

七五 三月十二日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

米國政府ノゼノア會議不参加ニ関スル新聞ノ報道及論評ニ付報告ノ件

第一一一号 (三月十三日接受)

米國政府ガ「ゼノア」會議ノ招請ニ応ゼザルベシトハ当初ヨリ一般ニ期待セラレ居リタル所ニシテ八日ノ回答ハ格別当國言論界ヲ動揺セシメタル模様ナク只上院側ニモ良好ナリ印象ヲ与ヘタリト伝ヘラル

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 七五

將又米國政府ノ見解ニ依レバ露国ノ經濟状態ノ恢復ハ同國現時ノ經濟界ノ乱脈ニ対シ主トシテ責任ヲ有スル者ニ於テ適當ノ措置ヲ取ルニ非ザレバ是ヲ期シ難ク而シテ米國政府ハ一九二一年三月二十五日ノ宣言中ニ指摘シ居レルガ如ク露国生産力ノ基礎ニシテ確立セザル限り經濟復活ニ関スル一切ノ審議ハ無益ナリト認ム但右基礎確立スル迄ハ露国ニ於テ他人ノ正当ナル機會ニ累ヲ及ボスガ如キ經濟的利益ノ獲得ハ一切之ヲ避ケザルベカラザルト同時ニ將來ニ向テ露國資源ノ開發ニツキ露國民並各國ノ利益ノ為メ公正均等ノ經濟上ノ機會ノ確保セラルベキ事ヲ信ズ

七四 三月十一日 内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛(電報)

勞農政府ガ極東共和國併合ノ場合ニ於ケル日本側ノ諸權利承認方並カンヌ會議決議末項ノ留保ニ付訓令ノ件

第九七号

貴電第一〇九号ニ関シ

極東共和國ト勞農露国トノ事実上ノ關係殊ニ或ハ後者ガ前者ヲ併合スルコトアルヘキ等今後發生スヘキ事態ヲ考慮ス

米國政府ノ回答ニ関シ政府筋ヨリ出デタル説明ナリトシテ新聞紙ノ伝フル所並其論評ノ一斑ヲ見ルニ(一)歐洲諸国ガ其ノ財政ヲ整理セントセバ先ヅ以テ仏國波蘭ヲ始メ老ナナル軍備ヲ整理スルコトヲ要スル処「ゼノア」議題ヨリ軍備縮少又ハ独逸賠償改定等ノ問題ヲ除外シテ今日歐洲財政經濟ノ回復ヲ論ズ可カラズ之等問題ノ除外ハ昨今歐洲政治家間ノ往來會合ト併セテ「ゼノア」會議ガ益々政治的性質ヲ有スルモノトシテ米國ヲシテ其ノ参加ヲ躊躇セシメタル所以ナリ米國政府ノ回答ハ歐洲諸国ガ自ラ其ノ予算ヲ整頓スルニ非ザレバ米國ノ援助ヲ期ス可ラズトスル警告ニシテ或ハ歐洲諸国ニ軍備縮少ニ関スル會議ノ開催ヲ促ス婉曲ナル圧力ノ一端ト見ル可キナリ(二)「ゼノア」會議ノ重要問題ハ結局露國問題ナリ然ルニ歐洲ノ政治家ハ名ヲ財政經濟ニ借りテ一方「レニン」政府ヲ承認セントスルト同時ニ其ノ實露國利權ノ獲得ヲ計ラントスルモノニ外ナラズ米國政府ノ回答ハ過激派政府ガ先ヅ百万以上ノ軍備ヲ縮少シ其ノ經濟政策ヲ改メザル限り之ヲ承認スルノ意思ナキヲ明カニスルト同時ニ陽ニ露国ニ於ケル機會均等ヲ提唱セルハ蓋昨今ノ頻リニ独逸企業家 Hugo Stinnes 一派ノ露国ニ於ケル利權獲得

運動ニ対スル警告ト見ル可ク右ハ華府會議ニ於ケル露國問題ニ対スル米國政府ノ態度ト一致スルモノナリト一般ニ注目シ居レリ(三)招請拒絶内政上ノ理由トシテハ現ニ上院ニ於テ華府會議諸條約ガ討論中ノ今日更ニ歐洲問題ノ討議ニ参加センカ條約ノ反對者ニ有力ナル攻撃ノ材料ヲ与ヘ政局ヲ一層紛糾セシムルニ至ランコトヲ恐レタルニ在リ
在欧各大使ニ転電セリ

七六 三月十三日 在本邦伊國大使ヨリ
内田外務大臣宛

ゼノア會議開催期日ニ付伊國政府ヨリ通告

ノ件

(訳文)

第一一七号

(三月十四日接受)

以書翰啓上致候陳者本國政府ノ電訓ニ從ヒ「ゼノア」國際會議開催期日ハ諸聯合國政府ト協定ノ結果来四月十日ト決定セラレタル趣及御通報候

右申進旁本使ハ玆ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表候 敬具

一九二二年三月十三日 於東京

アリオッティ(署名)

外務大臣伯爵 内田康哉閣下

七七 三月十六日

在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

カンヌ會議決議末項ノ留保ニ付林大使ヨリ請
訓ノ件

第二〇二号

(三月十八日接受)

林大使ヨリ左ノ通

貴電第九七号ニ関シ右末段本件留保ノ通告ヲ為スニ於テハ我方ヨリ如何ナル条件ヲ提出スル積ナルカ明瞭ナラザル為徒ニ我國ニ対スル各國ノ感觸ヲ害スル惧アリ後日他列國ガ承認ヲ為ス段ニ至リ而カモ我方ノ条件容レラレザル場合我独リ承認ヲナサズ列外ニ立チテ迄右条件ヲ固執スルモ露國側ハ敢テ痛痒ヲ感ゼズトナスベク結局通告ハ無意味ニ終ルノ外ナカルベキカト存ゼラルルニ付「カンヌ」發往電第八号及第二七号並往電第八六号参照)右通告ハ之ヲ見合セ当地予備會議ニ於テ本件承認ノ一般条件討議セラレタル際貴電第九七号前段ノ次第ヲ述ブルト同時ニ往電第一二八号徳川ノ「チャップマン」ニ対シテ為シタル談話ノ形式ニテ即チ右一般条件ハ単ニ各國ニ共通ニシテ之ハ何レノ國ヘ

モ必要ナルモノトノ趣旨ニ諒解スル旨ヲ述ベシムルコトニ止メ度ク存ズル処右ハ結局ハ其趣旨「カンヌ」宛貴電第二二号留保ト同一ニ歸スベシト存ゼラルルニ付夫ニテ御異存ナキヤ重ネテ尊慮ヲ煩ハシ恐縮ナルモ折返シ何分ノ義電報ヲ請フ

七八 三月十六日 在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ゼノア會議ニ於テソヴィエト政府承認ガ問題
トナル場合ニ対スル我方ノ態度ニ付意見稟申
ノ件

第二〇三号

(三月十八日接受)

林大使宛貴電第九七号末段ニ関シ

「ソヴィエト」政府承認問題ハ「ゼノア」會議末期ニ議セラルベク其際仏國ハ諾否ニ付完全ナル自由ヲ留保スル事トシテ英仏首相間ニ協議成立セル事往電第一六九号ノ如クナル上ハ「カンヌ」決議第六項ハ根本ヨリ變更セラレタル事故今更我政府ヨリ留保解除ノ通告ヲ為ス義務無キニ至レリト見テ差支ナシ殊ニ貴電第二号ノ特殊問題留保ヲ持出ス如キハ外國ノ疑惑ヲ招キ我不利ヲ来スベク旁々右通告ハ為サ

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 七八 七九

ザル事ト致シタシ

尚會議末期ニ於テ承認問題上程ノ場合ニハ第一ニ承認スベキ領土の範圍ヲ考慮スル要アリ欧露ニ於テモ波羅の沿岸ノ四新興國ハ別トシ「ウクライナ」「ベッサラビア」等ハ問題トナルベク兎モ角日本方ハ會議ガ歐洲經濟復興ヲ目的トスルヲ楯トシテ承認ヲ成ルベク欧露ニ限ルニ努メ場合ニ依リテハ西比利亞中「ソヴィエト」權力ガ現ニ行ハルル部分ニ限り事實上ノ承認ヲ為スニ止ムベク此場合ニモ極東政府ヨリ得タル我權利ナルモノハ會議席上言及スルヲ避ケテ以テ外間殊ニ米國側ノ批難ヲ未然ニ防グヲ得策トス
在英大使ヘ転電セリ

七九 三月十六日 在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ゼノア會議ニ派遣ノ我方委員内命方稟請ノ件

第二〇四号

(三月十八日接受)

「ゼノア」會議ハ初メヨリ當國乗氣セズ米國ノ反對態度發表以來益々不評判トナリ「ポアンカレ」ハ自ラ出馬セズ委員ヲ派スルノ意ヲ漏セル位ナリ然シ英國內閣ニ移動ナキ限り兎モ角モ来月上旬ニ開會スルモノト見做サル就テハ我方

ニ於テモ此際少クモ委員ヲ内命セラレタシ其意見ニ依リ職員ヲ選定シ今ヨリ調査ニ着手セザレバ時機ヲ失スルヲ惧ル差出ガマシケレドモ卑見申上グ
在英大使へ転電セリ

ハ〇 三月十七日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

米國ノゼノア會議不参加ノ反響其他ニ関シ報

告ノ件

第二〇八号 (三月十八日接受)

一、「ゼノア」會議ニ参加セザル可キ旨ノ米國ノ回答ハ略予想セラレタル所ナリシモ右回答ニ依リ米國ガ歐洲ノ經濟財政援助ニ意ナキコト益々明白ニナレリトテ當國新聞ハ失望ノ意ヲ洩セルモノ多シ他方英國側モ仏國ノ異議ノ為右會議ノ目的ガ極メテ限局セラレタルト内政ノ状況不定ノ為「ロイド、ジョージ」ニ当初ノ意気込ナキヤニ伝ヘラレ旁々最近「ボアンカレ」ハ新聞記者トノ會談ニ於テ米國ノ不参加ヲ理由トシテ自ラ「ゼノア」會議ニ臨席スル意ナキコトヲ洩セリト云フ

二、往電第一八五号米國ノ「ライン」占領軍費ノ償還請求

可シ

五、英仏間保障條約ハ其ノ後調印方仏國ヨリ督促シタルモ英國ヨリ回答ナク「タンジエ」問題ニ付テハ倫敦ニテ會議ヲ開クニ異議ナキ旨仏國ヨリ通牒シタルモ是レ又今日迄回答ナキ趣信ズベキ筋ヨリ報道セラル
英米へ転電セリ独、伊、白へ郵送セリ

八一 三月十七日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

ゼノア會議開催ノ際配布セラルベキ英國提案

ノ概要ニ付報告ノ件

別電 同日林大使宛内田外務大臣宛電報第一六五号
ゼノア會議ニ提出セラルベキ諸決議案及協約案
ニ関スル件

第一六三号 (三月十九日接受)

往電第一四六号ニ関シ

外務大臣ヨリ本使極内密ノ参考迄トシテ二十日開會ニ當リ配布セラルベキ準備委員會英國提案概要を送附越シタル処
(全文写閣下並在歐各大使公使在米大使へ本日郵送セリ)
右ハ二部ニ分レ第一ハ露國ニ関スル經濟及財政條約ノ基礎タルベキ協定案概要第二ハ「ゼノア」會議ニ提出セラルベ

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 八一 八二

ハ仏國輿論ニ少カラズ不快ノ感ヲ与ヘタリ新聞ハ概シテ米國ガ「ライン」地方ニ駐兵スルハ聯合國ノ請求ニ基クモノナレバ独逸ヨリ占領軍費ヲ請求スル權アルヲ認ムルモ聯合國ガ「ヴェルサイユ」條約ニ依リ確保スル賠償權ヲ損傷シテ分配ニ参与シ得ベキモノニ非ズト云ヒ米獨間ノ講和條約ハ聯合國ヲ拘束セズト主張シ居レリ

三、賠償委員會内ノ米國代表者ノ意見ナリトテ米國新聞記者ノ云フ所ニ依レバ占領軍費用ノ請求ハ米國內政上ノ關係ヨリ來レル問題ニシテ米國ハ賠償委員會ノ保有スル(a)証券ノ引渡ヲ受クレバ満足スベク直ニ貨幣ノ支払ヲ受クルコトヲ期待シ居ラズト云フ

四、仏國民衆ノ米國ニ對スル態度ハ華盛頓會議以降著シク變化シ「ルーシヨール」ノ如キモ公然仏國ハ對米債務ヲ償還シ得ザル旨ヲ公言スルニ至レリ仏國新聞ハ最近米國新聞ノ論調ヲ見テ米國ガ甚ダシク仏國ヲ誤解セルコトヲ咎メ又米國ガ歐洲諸國トノ協調ヲ一切拒絶シナガラ其ノ權利ト信ズル点ハ不愉快ナル方法ヲ以テ主張スルヲ憚カラザルコト占領軍費請求ノ場合ノ如シト攻撃スルモノアリ之等ノ感情ハ海軍制限條約批准ノ上ニモ多少反響アル

キ諸決議案及之ニ關聯スル協約案(外ニ附屬書一アリ)ヨリ成リ其大要夫々別電甲及乙ノ通ナリ尚右ノ内回訓ヲ得置キタキ諸点別ニ電報ス

註 別電甲即チ三月十七日林大使宛内田外務大臣宛電報第一六四号ヲ省略ス右ニ付テハ別電乙ト共ニ三月十七日林大使宛内田外務大臣宛機密公第一二三号參看

(別電)

三月十七日在英國林大使宛内田外務大臣宛電報第一六五号
ゼノア會議ニ提出セラルベキ諸決議案及協約案ニ関スル件
第一六五号 別電乙 (三月十九日接受)

決議案ハ財政經濟交通ノ三部ニ分レ財政決議トシテハ通貨信用為替ノ三項、經濟決議トシテハ關稅、通商再興ニ關スル法的保障、商行為ニ關スル外國人ノ取扱、工業所有權及版權保護ノ四項、交通決議ハ一項ノミヨリ成リ此等決議ニ基キ且ツ其ノ即時実施ノ為メ一協約ヲ締結スルコトニアルトコロ該諸決議ハ總テ右協約案中ニ摘録シアルニ付重複ヲ避クル為協約案ノミ原文ノ儘電報スベシ(以下英文省略)

八二 三月十七日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛

ゼノア會議準備委員會ニ於ケル英國提案概要

七七

写送附ノ件

附屬書 右英國提案概要等

機密公第一三號

(四月十八日接受)

大正十一年三月十七日

在英

特命全權大使男爵 林 權助(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

ゼノフ會議準備委員會ニ関スル件

本件ニ関シ往電第一四六号及報告置候処今般英國外務省ヨリ右準備委員會英國提案概要極秘トシテ送附越候右ハ準備委員會會議事ノ中心タルヘキモノト被思考候ニ付不取敢写三部及送附候条御査閱相成度此段申進候也
本信写送附先 在歐各大「公使」在米大使

(附屬書)

ゼノフ會議準備委員會ニ於タル英國提案概要等

(As communicated unofficially to M. Seydoux
and Dr. Giannini, March 8th, 1922.)

SECRET.

SUMMARY OF SUGGESTIONS FOR

II. That the Russian Government shall accept liability for meeting the debts of municipalities and public utility undertakings due to foreigners. Accumulated interest to be dealt with as in the case of the State debt.

III. That the Russian Government shall admit a liability of
to the British Government:
to the French Government, etc., and no other claims shall be raised between Governments on the one side or the other.

Private Debts.

IV. That the Russian Government should accept liability to pay compensation in respect of goods supplied or services rendered to Russia; and also in respect of losses of private property, debts, etc., owing to the action or negligence of the Russian Government.

1. The basis of compensation is to be the value of the property on 1st November, 1917; or the amount of the debts on that date less any sums of money subse-

ARTICLES OF AGREEMENT TO FORM
THE BASIS OF A (ECONOMIC AND
FINANCIAL) RUSSIAN TREATY.

Recognition of Debts.

Public Debts.

1. That the Russian Government shall accept liability for the bonds of the public debt of its predecessors issued in foreign currencies and for such of the bonds in roubles as are held abroad.

The Russian Government shall give to the holders of bonds issued in foreign currencies New Russian Bonds for arrears of interest and for interest to accrue during, say, the next five years.

If the debt is in roubles, it is proposed that it be converted at an agreed rate of roubles to the £ and be covered by the Treaty in so far as the debt is held by foreigners, and was so held prior to the date of the repudiation of its debts by the Soviet Government.

quently received or set-off by the Creditor prior to the date of this Agreement.

2. At the option of the owner claims should be met in whole or in part by restitution of the same or equivalent property, wherever possible.

3. Failing agreement between the owner and the Russian Government on terms of restitution the claim should be referred to the Russian Debt Commission referred to below.

Other countries would recognise a similar undertaking towards Russian citizens, but, where a Government had to discharge a liability to a Russian citizen on account of one of its own subjects it should have the right to do this in the form of New Russian Bonds at their face value discounted in respect of interest.

Difficult questions arise as to the position of persons in this and other countries who have retained control of property belonging to Russian undertakings in which they were interested and which have been nationalised.

It is uncertain whether the grant of de jure recognition to the Soviet Government may not enable that Government to require the property of the undertakings to be handed over to them, and consideration is being given to the method by which the interests of the British subjects affected may be protected.

Debt Commission and Mixed Arbitral Tribunals.

V. That claims for compensation under IV and any disputes arising under I and II should be adjudicated upon by Mixed Arbitral Tribunals (one for each State) with impartial Chairmen.

A Russian Debt Commission composed of say five Russian representatives and an equal number of representatives of other countries, with an impartial chairman, should be appointed to set up the Arbitral Tribunals and co-ordinate their operations. The Commission should also deal with all questions arising out of the conversion of accepted claims into New Russian Bonds, the issue of bonds, and any other questions connected

with them.

Compensation Bonds.

VI. That New Russian Bonds expressed in sterling, francs, etc., should be issued for the purpose of compensation. Bonds given in respect of any allowed claim should cover the amount of the claim, as fixed by the Arbitral Tribunal or agreed or otherwise provided for, with funded interest from November, 1917, until five years from the present date. All accepted claims should rank equally. Bonds should be subject to redemption to be fixed by the Russian Debt Commission.

(It will probably not be feasible to secure cash payments—at any rate to any large extent—in respect of the claims against Russia during the first five years or so).

Restoration of Foreign Ecclesiastical and Charitable Property, etc.

VII. A clause dealing with the restoration of property in British churches, cemeteries, etc.

Trading and other facilities.

VIII. Provision for Consular Conventions.

IX. Provisions relating to the right of entry and egress of foreigners, communications, facilities for their trading operations, personal protection and protection from special taxation and from requisition of their goods.

X. Trading and other facilities for foreign joint stock companies.

XI. Foreign companies and individuals carrying on trade in Russia to be placed in the same position in relation to taxation as nationals or trading companies composed of Russian nationals.

XII. The adhesion of Russia to a number of International Conventions.

XIII. *Agreement relating to the early conclusion of commercial treaties.*

XIV. Mutual recognition of citizenship and kindred matters.

As communicated unofficially to M. Seydoux and Dr. Giannini, March 8th, 1922.

SECRET.

SUGGESTIONS AS TO RESOLUTIONS TO BE SUBMITTED AT GENOA TOGETHER WITH DRAFT CONVENTION EMBODYING THEIR SUBSTANCE.

A. FINANCIAL RESOLUTIONS

I. CURRENCY

(1) An essential requisite for the economic reconstruction of Europe is the achievement by each country of stability in the value of its currency. No country can gain control of its own currency so long as there is a deficiency in the annual budget which is met by the creation of paper money or bank credits. It is for every country to overcome such a deficiency by its own independent efforts, and only then will its way be open to currency reform.

(2) Measures of currency reform will be facilitated

tated if the practice of continuous co-operation among certain banks can be developed. A permanent association of central banks, not necessarily confined to Europe, would provide opportunities of co-ordinating credit policy, without hampering the freedom of the several banks.

(3) It is desirable that all European currencies should be based upon a common standard.

(4) Gold is the only common standard which all European countries could at present agree to adopt.

(5) In a number of countries it will not be possible for some years to restore an effective gold standard; but it is in the general interest that European Governments should declare now that this is their ultimate object, and should agree on the programme by way of which they intend to achieve it.

(6) In each country the first step towards re-establishing a gold standard will be the balancing of the annual expenditure of the State without the creation

of fresh credit unrepresented by new assets.

(7) The next step will be to determine and fix the gold value of the monetary unit. Each country must decide, according to its own circumstances, whether to adopt the old gold parity or a new parity approximating to the exchange value of the monetary unit at the time.

(8) These steps might by themselves suffice to establish a gold standard, but its successful maintenance would be materially promoted, not only by the proposed association of central banks, but by an international agreement. This agreement which might be based upon the system known as a gold exchange standard, should be framed with a view to centralising the demand for gold as currency, and avoiding those wide fluctuations in the purchasing power of gold which might otherwise result from simultaneous and competitive efforts of a number of countries to secure metallic reserves.

II. CREDITS

The Conference, while it is confident that private credit will again become available as soon as currencies are stabilised and confidence is restored, recognises the necessity under existing conditions of special machinery for facilitating the immediate co-operation of the economically stronger countries for reconstruction purposes.

The States here represented are therefore agreed

(a) to approve the scheme of the International Corporation now before them.

(b) to support the Corporation and facilitate its operations.

(c) that it is essential for countries in need of credits to take steps at once to make their assets available to serve as security for the assistance they require, whether through the International Corporation or other channels, and immediately to enter into consultation with the Corporation or other agencies for the purpose of securing such co-operation.

III. EXCHANGES

The Conference recognises that one of the chief obstacles in the way of the restoration of trade is the collapsed condition and instability of many of the European exchanges, and that this is due to the continual depreciation of currency, the failure of production for export and the lack of trade facilities. It affirms its conviction that attempts to limit fluctuations in exchange by imposing artificial control on exchange operations are futile and mischievous; that the only sure remedy is to remove the causes of instability. In the meantime the carrying out of the recommendation of the Conference relating to credits would afford some relief.

The Conference therefore recommends:—

(1) that all regulations attempting to limit fluctuations in exchange by means of artificial control of exchange operations should be abolished at the earliest possible date.

(2) that the States here represented should un-

der take to remove within twelve months after substantial progress has been made in the restoration of a country's exchanges any special restrictions imposed on imports from that country on the ground of depreciated exchange.

B. ECONOMIC RESOLUTIONS.

I. CUSTOMS TARIFFS AND RESTRICTIONS.

The Conference welcomes the decision reached at Portose by the States there assembled with regard to import and export restrictions and invites those States to take early steps to give effect thereto.

Inasmuch as the development of normal trade with all countries is only possible where traders are in a position to ascertain sometime in advance the conditions under which goods can legally be imported into and exported from each country, it is resolved that any Customs restrictions and Customs duties incident to importation and exportation should be regulated by the following principles:—

(i) All Customs Tariffs and Schedules of import restrictions should be made so far as possible applicable over substantial periods of time and changes both in rates of duty and in regulations with regard to restrictions should be made as rarely as possible, the practice of frequent modification to meet special circumstances being entirely abandoned.

(ii) Every country has the right subject to special agreements to prohibit absolutely the importation of goods of certain descriptions in the interests of national health, political security, national morals, or for other special purposes, or to allow the importation of specified commodities only if consigned to recognised organisations either for the purpose of giving effect to a State monopoly or for seeing that the whole importation is put to a specified use, but prohibitions framed for any such purpose should be publicly announced and as limited in extent as possible.

(iii) Where for any reason it is desired to limit

the amount of any article to be imported through ordinary trade channels such limitation should preferably be effected by the medium of Customs duties rather than by a system of prohibition modified by licences, and every country should at once examine the possibility of abandoning or reducing to the smallest possible dimensions the number of goods to which the latter system is applied, so that the general pre-war position in this regard may be attained so soon as possible save in so far as it has been modified by general International Conventions concluded since the outbreak of the war.

(iv) Where nevertheless a system of prohibition accompanied by licences cannot wholly be dispensed with, licences should be granted on conditions which are publicly announced, unambiguously stated, and uniformly applicable and those conditions should have no regard to the country of origin of the goods. Any trader should accordingly be in a position easily to

estimate in advance whether and under what conditions a licence is procurable. Administration should be on the simplest lines possible and every arrangement should be made to secure that applications for licences are dealt with expeditiously by competent bodies organised for the purpose.

(v) Similar provisions *mutatis mutandis* to those laid down in iii and iv should be applied in regard to any restriction of exportation which any country may find necessary for the purpose of conserving its economic resources.

With a view to securing the immediate application of these principles it is desirable that the League of Nations should be invited to arrange for enquiry to be made through a suitable organisation into the progress made by the various States in carrying them into operation.

All the countries here assembled should keep this organisation regularly informed of all changes in Customs

toms Tariffs or in the regulations relating to prohibition or restriction of imports or exports.

II. LEGAL GUARANTEES FOR THE RE-ESTABLISHMENT OF COMMERCE

Resolution regarding submissions to arbitration under consideration.

III. TREATMENT OF FOREIGNERS IN THE CONDUCT OF BUSINESS.

1. Foreign firms or individuals carrying on any permitted trade, profession or occupation should be subject only to the same taxation as is borne by nationals.

The taxation of foreign companies should be based on similar principles and the system of taxation so framed and administered that branches of foreign companies carrying on permitted trades, professions and occupations in the territory of any country should not bear a greater burden of taxation in that country than do the businesses carried on in the country by native

companies.

2. It is desirable that, in the matter of passport visa regulations, all countries should at once adopt and put into practice in their entirety the recommendations of the International Conference on Passports, Customs Formalities and Through Tickets held at Paris in October 1920, under the auspices of the Provisional Committee on Communications and Transit of the League of Nations.

(The more important of the Paris resolutions may be summarised as follows:—

(a) The abolition of the visa for exit.

(b) All entrance visas to be valid for one year unless limited to a shorter period for special reasons. The validity of a transit visa to be the same as the period of validity of the visa of the country of destination.

(c) The maximum fees charged for visas to be—
Entrance visa……10 franc (gold)

Transit visa …… 1 franc (gold)

(d) The transit visa, unless for exceptional reasons (e.g. undesirables), to be issued at once without enquiry solely upon production of the entrance visas for the country of destination in addition to transit visas for the intermediate countries.)

IV. PROTECTION OF INDUSTRIAL PROPERTY AND COPYRIGHTS.

It is desirable that all States that have not already done so should at once take steps to adhere to the International Convention of Paris of March 20th, 1883, as revised at Washington in 1911, for the protection of industrial property and to the International Convention of Berne of September 9th, 1886, revised at Berlin on November 13th, 1908, and completed by the Additional Protocol signed at Berne on March 20th, 1914, for the Protection of Literary and Artistic Work.

Pending such adhesion every State should, in so far as Industrial, Literary and Artistic property is not

now reciprocally protected as between itself and any other of the Signatory States, give effective protection to such property on condition of reciprocity; and should further—save in so far as such rights have been or shall be dealt with by the Treaties of Peace with Germany, Austria, Hungary, Bulgaria and Turkey:—recognise, restore and protect all rights in such property belonging to the nationals of other States which might now have been in force in its territory, except for any exceptional legislative or administrative action taken in consequence of war or revolution between August 1st, 1914, and the present date.

TRANSPORT RESOLUTIONS.

1. The Conference, recognising that efficient transport is the first requisite for the revival of production and trade, calls on the States to continue to devote their unremitting efforts to the restoration and improvement of the organisation of their railways, harbours and other means of communication, and recommends

that where the present resources of any State appear to be inadequate to restore the equipment and structure of these undertakings including the fuel supply, steps should be taken without delay to secure assistance, whether from the International Corporation or from other suitable sources.

2. The Conference approves the Agreement for the Regulation of International Railway Traffic signed at Portoroze on the 23rd November, 1921, and recommends that the principles of that Agreements should immediately be applied to all the European States represented at Genoa. It requests the Council of the League of Nations to enquire into the measures already taken to carry the Portoroze Agreement and Recommendations into effect.

3. The States concerned agree that representatives of their railway administrations will attend a conference to define what further steps are necessary to restore international traffic as nearly as possible to the condi-

tion existing before the war, and agree upon recommendations to their governments. Similar conferences shall be held in regard to water communications and harbours.

The States concerned agree to give favourable consideration to the recommendations of these conferences with a view to the conclusion of conventions to give effect to them.

The conferences shall be convened immediately by the League of Nations.

4. The Conference welcomes the Conventions concluded at Barcelona on the 20th April, 1921, regarding Freedom of Transit and the Regime of Navigable Waterways of International Concern, together with the additional Protocol to the latter Convention, and the Recommendations relative to the International Regime of Railways; it calls the attention of the Council of the League of Nations to the necessity of convening at the earliest possible date the proposed Conference for the

preparation and conclusion of a Convention on Railways.

PRELIMINARY SKETCH FOR

A DRAFT CONVENTION.

The Governments here represented, having regard to the necessity of giving immediate effect to the resolutions adopted by the Conference hereby agree as follows:—

1. The Governments signatory to this Convention undertake to co-operate in the establishment and working of the Central International Corporation and the Nation Corporations affiliated therewith, the constitution of which is scheduled to this Convention.

2. Those States which desire assistance will take steps at once to make their assets available to serve as security for the assistance required through the Corporation or other agencies.

3. The Signatory States agree to adopt gold as their eventual monetary standard, and, with this end in view, to set on foot an international gold standard monetary

convention the essential features of which are stated in the Annex to this Convention.

4. They further agree to do all in their power to promote the practice of continuous co-operation among central banks, if possible through a permanent association, with a view to co-ordinating credit policy, without hampering the freedom of the several banks.

5. The Signatory States are agreed that within twelve months after the depreciation of a country's currency in relation to gold has ceased and substantial progress has been made with the rectification of exchanges, they will abandon any policy of special protection against imports from that country on the ground of its abnormally depreciated exchange.

6. Those States whose representatives were signatories of the agreement relating to customs regulations and restrictions signed at Portoroze in November 1921, undertake, so far as they have not already done so, to adopt the recommendations of that agreement and to

take steps without delay for giving effect to them.

7. Inasmuch as the development of normal trade is only possible where traders are in a position to ascertain some time in advance the conditions under which goods can legally be imported into and exported from each country it is agreed that any Customs restrictions and Customs duties incident to importation and exportation shall be regulated by the following provisions :

(i) All Customs Tariffs and Schedules of Import Restrictions shall be made so far as possible applicable over substantial periods of time and changes both in rates of duty and in regulations with regard to restrictions shall be made as rarely as possible, the practice of frequent modification to meet special circumstances being entirely abandoned.

(ii) While every country has the right, subject to special agreements, to prohibit absolutely the importation of goods of certain descriptions in the interests of

national health, political security, national morals, or for other special purposes, or to allow the importation of specified commodities only if consigned to recognised organisations either for the purpose of giving effect to a State monopoly or for securing that the whole importation is put to a specified use, any prohibitions framed for any such purpose shall be publicly announced and as limited in extent as possible.

(iii) Where for any reason it is desired to limit the amount of any article to be imported through ordinary trade channels such limitation shall so far as possible be effected by the medium of Customs duties rather than by a system of prohibitions modified by licences, and every country shall at once examine the possibility of abandoning or reducing to the smallest possible dimensions the number of goods to which the latter system is applied, so that the general prewar position in this regard may be attained so soon as possible, save in so far as it has been modified by

general International Conventions concluded since the outbreak of the war.

(iv) Where nevertheless a system of prohibition accompanied by licences cannot wholly be dispensed with, licences shall be granted on conditions which are publicly announced, unambiguously stated and uniformly applicable, and these conditions shall have no relation to the country of origin of the goods. Any trader shall accordingly be placed in a position easily to estimate in advance whether and under what conditions a licence is procurable. Administration shall be on the simplest lines possible and every arrangement shall be made to secure that applications for licences are dealt with expeditiously by competent bodies organised for the purpose.

(v) Similar provisions *mutatis mutandis* to those laid down above shall be applied in regard to any restriction of exportations which any country may find necessary for the purpose of conserving its economic

resources.

(vi) The States signatory to this Convention will give all information and assistance to any appropriate international expert Committee to enable that body to enquire into the progress made by the various states in carrying the above provisions into operation, and to investigate complaints. A request shall be addressed to the League of Nations on behalf of the signatory States that the Provisional Economic and Financial Committee of the League of Nations may be authorised to act as this Committee.

(vii) This Committee shall be kept regularly informed of the changes in Customs Tariffs or in the regulations relating to the prohibition or restriction of imports or exports, and shall be authorised to make recommendations to the States concerned as regards any changes that may be proposed. It shall publish reports of its work from time to time.

8. (Commercial arbitration.)

9. Foreign firms or individuals carrying on any permitted trade, profession or occupation within the territory of any of the States signatory of the present Convention shall be subject only to the same taxation as is borne by nationals.

The taxation of foreign companies shall be based on similar principles and the system of taxation so framed and administered that branches of foreign companies carrying on permitted trades, professions and occupations in the territory of any country shall not bear a greater burden of taxation in that country than do the businesses carried on in the country by native companies.

10. Those States which have not yet done so undertake within six months from the coming into force of the present Convention to adopt and put into practice the recommendations of the International Conference on Passports, Customs Formalities and Through Tickets held at Paris in October, 1920, under

the auspices of the Provisional Committee on Communications and Transit of the League of Nations.

11. So far as they have not already done so, the signatory States undertake to adhere to the International Convention of Paris of March 20th, 1883, as revised at Washington in 1911, for the protection of industrial property and to the International Convention of Berne of September 9th, 1886, revised at Berlin on November 13th, 1908, and completed by the Additional Protocol signed at Berne on March 20th 1914, for the Protection of Literary and Artistic Work.

Pending such adhesion each of the Signatory States agrees that in so far as Industrial, Literary, and Artistic property is not now reciprocally protected as between itself and any other of the Signatory States it will in all such cases give effective protection to such property on condition of reciprocity; and further that,—save in so far as such rights have been or shall be dealt with by the Treaties of Peace with Germany, Austria, Hungary,

Bulgaria, and Turkey,—it will upon the same condition recognise, restore, and protect all rights in such property belonging to the nationals of other signatory States which might now have been in force in its territory, except for any exceptional legislative or administrative action taken in consequence of war or revolution between August 1st, 1914, and the date of this Convention.

12. (a) Those States which have not already

done so undertake within six months from the coming into force of the present Convention to ratify or accede to the Conventions concluded at Barcelona on the 20th April, 1921, regarding Freedom of Transit and the Regime of Navigable Waterways, of International Concern, together with the Additional Protocol to the latter Convention, and to accept the Recommendations relative to the International Regime of Railways ^x.

^x. Accession by States not members of the League of Nations can only be made if the Council decide officially to com-

municate the Instruments to them. It must be ascertained whether the Council has so decided, and if necessary the Conference should move it to do so.

(b) Those States parties to the Agreement signed at Portoroze on the 23rd November, 1921, for the removal of impediments to international railway traffic, who have not already ratified this Agreement undertake to do so within six months from the date of the present Treaty.

The parties to the Agreement undertake to afford all information and facilities to the League of Nations in enquiring into the measures already taken to carry the Agreement into effect.

ANNEX.

INTERNATIONAL GOLD STANDARD

MONETARY CONVENTION.

(1) The Governments of the participating countries declare that the restoration of an effective gold standard is their ultimate object, and they agree to

carry out, as rapidly as may be in their power, the following programme:—

- (a) In order to gain effective control of its own currency, each government must meet its annual expenditure without resorting to the creation of paper money or bank credits for the purpose.
- (b) The next step will be to determine and fix the gold value of the monetary unit. This will not necessarily be at the former gold par.
- (c) The gold value so fixed must then be made effective. The proof that this has been accomplished will be the free quotation of the national currency at par in the international exchange markets.
- (d) The maintenance of the currency at its gold value must be assured by the provision of an adequate reserve of approved assets, not necessarily gold.
- (2) Certain of the participating countries will be constituted gold centres and will bind themselves to maintain a free market in gold.

(3) The other members of the Convention, while they will not be precluded from retaining gold reserves at home, will maintain at the gold centres an adequate reserve of approved assets in the form of bank credits, bills, short-term securities or other suitable liquid resources.

(4) The ordinary practice of a participating country will be to issue additional paper money only against equal additions to its reserves of approved assets at the gold centres, and to offer credits on a gold centre within a prescribed fraction of parity in exchange for its own paper money on demand.

(5) The Convention will thus be based on a gold exchange standard. The condition of continuing membership will be the maintenance of the national currency unit at the prescribed value. Failure in this respect will entail suspension of full membership.

(6) The Government of each country will be responsible to the Convention for maintaining the inter-

national value of its currency at par, but will be left entirely free to devise and apply the means, whether through regulation of credit by central banks or otherwise.

(7) In the countries selected as gold centres credit will be regulated not only with a view to maintaining the currencies at par with one another, but also with a view to preventing undue fluctuations in the purchasing power of gold. It is not contemplated, however, that the discretion of the central banks should be fettered by any definite rules framed for this purpose.

八三 三月十八日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ゼノア會議ニ対スル露國ノ態度ニ付露国外相
ヨリ仏國首相宛ノ無線電信ニ関スル新聞報
告ノ件

第二一九号 (三月十九日接受)
新聞所報ニ拠レバ「ゼノア」會議ニ関シ露国外相「チチェリン」ヨリ仏國首相「ポアンカレ」宛無線電信ニテ大要左
一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 八三

ノ如ク申シ送リト云フ

露國政府ハ「ブルジョア」諸國政府ト其ノ政治的及經濟制度ヲ異ニスルモ相互間ニ經濟上ノ協力ヲ為スヲ得ベシト信ズ但シ「ゼノア」會議ハ從來ノ歐洲會議ト異ナリ總テノ參加國ハ平等ノ地位ニ於テ經濟的復興ニ努ム可シ然ルニ該會議以前ニ於ケル諸大國ノ行動ハ他國ヲシテ已ニ會議前ニ決定セラレタル決議案ニ服セシメントスルノ疑アルハ遺憾ナリ露國ハ自由意見ノ交換ノ代リニ更ニ新ナル「ボイコット」ニ遭遇ス新聞紙ハ大國及小協商諸國ガ會議ニ提出ス可キ對露決議ニ付会商セルヲ報ズ斯クテハ同會議ハ諸大國ノ既定ノ意思ヲ録スルニ止マル可シ諸大國ノ一団ガ露國ノ主權ト獨立トニ反スル案ヲ出スニ於テハ該會議參加國ノ平等及自由意見交換ハ失敗ニ終ル可シ(以下外間「ソヴィエト」政府ニ対スル非難ノ宣伝ヲ反駁シ現今露國ニ於ケル労働ノ自由通信ノ秘密刑事裁判外國人ノ利益及財産權保護公用徵收内國商業ノ自由及外國貿易ノ独占会社銀行ノ設立等ニ関スル法制備ハレル旨ヲ縷述ス)

最後ニ露國ハ「カンヌ」會議ノ決議ニ從ヒ國內ノ政治的及經濟的組織ニ干渉セザル保証ノ下ニ列國ト經濟的協力ヲナ

スノ決意ヲ以テ會議ニ臨ミ又該會議ト議題ニ関スル討議ニハ自由ニ参加セン事ヲ希望スルノ権利アリ云々
在英独伊各大使へ転電セリ

八四 三月十八日 在波蘭国川上公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ゼノア會議ニ於テ日本トノ協力ヲ波蘭外相希

望ノ件

第三五号

(三月二十二日接受)

十七日特ニ外務大臣ノ求メニ依リ会见セル処同大臣ハ近日中ニ当地出発巴里及倫敦ニ赴キ若シ帰国ノ違ナキ時ハ其儘「ゼノア」會議ニ参列スル心組ナル旨ヲ告ゲタル後曰ク波蘭ハ過般来「ゼノア」會議ニ関スル準備ニ汲々タルモノアリシガ其同盟国タル仏蘭西トハ勿論小「アンタント」諸国トノ協商ヲ円満ニ進メ更ニ今回当地ニ開催セラレタル「バルト」諸国外務大臣會議ニ於テモ大体ニ於テ意見ノ一致ヲ見一ノ協約ヲ取結ブ運ビトナレリ而シテ波蘭ト右中欧並東欧諸国トノ提携ハ歐洲全般ノ平和ニ貢獻スル所尠カラザルベク「ゼノア」會議ニ於ケル此「ブロック」ノ勢力ハ余リ輕視スベカラザルモノト確信ス又一方對露政策上ニ於テハ

波蘭ハ日本ト共同ノ利害關係ヲ有シ互ニ協力スルノ必要アルヲ痛切ニ感じ居ル処今回ノ會議ニ於テモ兩者協力相支持シテ露國ノ復興ニ貢獻シタキ希望ナリ

本件ニ関シテハ巴里及倫敦ニ於テ成ル可ク帝國大使ト面談ノ機會ヲ求メ懇談シタキ積リナルモ本使ヨリ予メ右ノ意味ヲ(以下脱)

八五 三月二十日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

エストニア公使來訪同国及露國間賠償問題ヲ

ゼノアニ於テ議セザル様我方ノ援助懇請及右

ニ付仏國政務局長談報告並露國承認ニ関シ請

訓ノ件

第二二〇号

(三月二十二日接受)

「エストニア」公使本使ヲ來訪シ同国ハ一九二〇年「ソヴィエト」政府ト結ビタル條約ニ於テ露國ガ聯合側ノ露國侵入「コルチャク」「ウランゲル」援助ニヨリ受ケタル損害ノ賠償ノ分前ヲ断念スル報酬トシテ旧露國負債弁済ノ分担ヲ免ゼラルヘキ保証ヲ有ス「カンス」決議中現存條約ヲ論議セズトアル以上前記「ソヴィエト」條約モ亦既定ノ事実

ナレバ論議スベカラズ此ノ点ニ付本使ノ援助ヲ得タシト云ヘルニ付本使ハ「ゼノア」會議ニ参列ノ命ヲ受ケ居ラズ若シ受ケタリトスルモ斯カル重大問題ニ予メ「コンミット」出来ズト断リ置キタリ

本件及類似ノ事件ハ「ゼノア」會議ニ於テ問題トナルベキ処「ブローニユ」会见ニ於テ「ポアンカレ」ハ所謂現存條約ヲ「ヴェルサイユ」外「サン・ゼルマン」「ヌイイー」「トリアノン」ノ四條約ニ限定シ「ロイド、ジョージ」モ之ニ同意ノ如ク見ユルニ付十七日政務通商局長ニ面会ノ節「ベッサラビア」條約ヲ初メ前記條約ヲ如何ニ扱フ積リナリヤト尋ネタルニ局長ハ「ベッサラビア」條約ニ付キテハ「ソヴィエト」政府ヨリ必ズ苦情アルベキモ本件ハ會議ニテ論ゼザル積リ「エストニア」條約及類似ノ條約ハ分割サレタル領土ハ分割前ノ負債ヲ分担スル義務アリトスル國際法ノ原則ニ違反スルガ故ニ第三国ニ對抗スルヲ得ズ吾人ハ之ヲ無効ト見ルモ之亦「ゼノア」ニ於テ論議セズ可成會議ノ紛糾ヲ避クル積リナリト云ヘリ

終リニ「ソヴィエト」承認ト假定シ如何ナル範圍ヲ限定スヘキヤ齊多及ヒ清湖ノ如ク表面「ソヴィエト」ニ属セザル

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 八六

政權ノ存スル方面ヲモ承認ノ範圍ニ入ルル積リナリヤトノ本使ノ問ニ對シ仏國ハ承認ニ付毫モ「コンミット」セザルモ承認ノ範圍ハ新問題ニ付考慮ノ上意見ヲ交換スヘシト答ヘタリ承認ト其ノ範圍トニ関シ御方針御電示ヲ請フ
在欧米各大使へ転電シ在歐洲各公使へ郵送セリ

八六 三月二十八日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ゼノア會議参加ニ関スル國際聯盟ノ態度討議

ノ件

聯第四三号

(三月三十一日接受)

第十七回理事會ハ巴里ニテ二十四日ヨリ二十八日迄開カレ會議ノ主タル問題ハ「ゼノア」會議ニ對スル國際聯盟ノ態度ナリ初メ伊國政府ハ英仏政府ニ對シ聯盟ハ國家ニアラザルニ付正式ニ「ゼノア」會議ニ案内スル能ハザルモ聯盟ガ既往ニ於テ交通及經濟財政ニ関シ「ブラッセル」及「バルセロナ」ニ會議ヲ招集シ若干ノ成績ヲ収メタルヲ以テ右兩項ニ関シ其ノ經驗ト智識トヲ借ルハ「ゼノア」會議ニ裨益大ナルヘシ依テ兩項ニ堪能ナル専門家及書記局員若干ヲ會議ニ派遣セラレタシト申込ムノ議ヲ提出セリ仏國理事ハ政

府ノ意ヲ受ケ「ゼノア會議ニ於テ其ノ議決セル事項ニシテ聯盟規約中其ノ活動範圍ニ属スルモノハ其ノ適用及実行ヲ聯盟ニ委スヘク且ツ該會議ハ一時的ノモノニシテ将来聯盟ノ競争者タルヘキ永久的機關タルベカラス」トノ二条件ノ下ニ「ゼノア」會議ノ求メニ応ズヘシト提議セル処他ノ理事ハ一般ニ「聯盟ガ兎角世間ニ重キヲナサズ僅カニ「シレシア」問題ノ解決ニ依リテ威敵ヲ保チ居ル今日「ゼノア」會議ニ補助ヲ与フル為不当ノ条件ヲ附シ却ッテ案内ヲ受ケザルニ至ラバ斯カル重大會議ヲ傍觀スルコトナリ愈々世間ノ評判ヲ落スヘシ」トナシ右二条件ヲ不可トスルニ傾ケリ而カモ仏理事ハ其ノ主張ヲ止メズシテ一致ヲ見ル能ハザリシ為折柄巴里ニテ会合中ノ三国外相ニ内交渉ヲ遂ゲシメタル処外相中「ポアンカレ」ヲ除キテハ条件ヲ不可トシ但シ希望ヲ提示スルナラバ異議ナカリシモ「カーゾン」卿ハ「ロイド、ジョージ」ノ承認ヲ留保セルガ右承認ハ今二十八日ニモ接到セズ英理事ハ已ムナキ公用ニテ帰英シ代理者ハ英大使館ヨリ出ス筈ナリシモ右承認不着ノ為出席セズ伊國理事ハ本国政府ノ名ニ於テ前述ノ意味ニテ「ゼノア」會議ニ援助ヲ与ヘラレタキ希望ヲ提出シ理事会ハ之ニ応シテ

専門家及書記局員ヲ「ゼノア」ニ派スルニ決シ仏理事ハ右決定ニ同意スルト同時ニ聯盟規約中其ノ活動範圍ニ属スル事項ニ関シ「ゼノア」會議カ採リタル決定ノ適用実行ハ聯盟ニ委託スヘキ筋合ナリトノ仏国政府ノ意見ヲ声明セリ在欧米各大使ヘ転電セリ

八七 三月二十九日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ゼノア會議準備委員會作成ノ報告書ニ関スル件
第一九七号 (三月三十日接受)

「ゼノア」會議準備委員會三月二十八日終了該委員會ノ作製セル報告書英文ノ分全文別電第一九八号^(註)ノ通り、右ハ「シークレット、エンド、コンフィデンシアル」トシテ本部内及關係各國委員會等ノ外ヘハ発表セザル打合ナリ

註 別電第一九八号ヲ省略ス右ハ後出ノ四月七日附徳川臨時代理大使發機密公第一八号ヲ以テ送付セラレタル英文報告書ト同文ナリ

八八 三月三十一日 内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛(電報)

英國案ニ関シ疑問点確メ方訓令ノ件

第二二六号 至急

貴電第一六五号ニ関シ

英國案第十一条第二項後段ノ意味並左記ノ点御確メノ上回電アリタシ

(一)中段 recognize, restore and protect トアルハ既往ニ於ケル政府ノ各種ノ処分ニモ遡リ其ノ効力ヲ及ボシ之ニ變更ヲ加フルノ趣旨ナリヤ或ハ今回ノ協約締結ノ時ヨリ効力ヲ生ズルニ過ギザルモノナリヤ

(二)本項中 property ト rights in property トノ間ニ意味ノ相違アリヤ若シアリトセバ後者ノ意味如何

(三) might not have been in force 云々トアルハ如何ナル場合ヲ指スモノナリヤ

八九 四月一日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ゼノア會議準備委員會作成ノ報告書ニ関シ説明及請訓ノ件

第二二一号 (四月一日接受)

往電第一九七号及第一九八号ニ関シ更ニ説明又ハ請訓ヲ要スト認メタル諸点左ノ通

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 八九

(一) Preamble 末項ハ往電第一八五号^(四)ノ通

往電第一七三号^(二)ノ点本文ヨリ削除セラレタル結果他面「ブレナンベル」ニ Instrument by which effect could be given to these conditions has not been considered, nor the extent to which any such instrument would be bilateral in its provisions. These with certain……ナル文句ヲ挿入シ以テ主トシテ仏白等委員ノ主張ヲ調和セムトスルノ案出デ更ニ討議ノ結果最後ニ至リ往電第一九八号ノ如キ文句ニ緩和セラレタルモノナリ從テ本件露國關係事項条件ハ如何ナル程度迄相互的トナスベキヤモ計リ難シ其ノ場合我方トシテハ如何ナル程度迄右条件ヲ相互的トナシ差支無キカハ依然往電第一七三号^(二)請訓通御考慮ノ上帝國政府ノ御意嚮御電示ヲ得置度シ

(二) Part 1 Section 2 Chapter 1 ノ直次ニ有ル「ノート」ハ本報告ノ性質ニ顧ミ各政府ガ別ニ本章所載ノ事項ニ関シ自國關係當事者ノ意見ヲ徵スルヲ妨ゲザル趣旨ヲ為念記入シタルニ過ギザルモノト御承知ヲ請フ

(三)同第五条ニ関シ該一覽表我方請求全額ハ「ゼノア」委員會等ニテ質問ヲ受クルコトアルベキニ付本件ニ付テハ糞ニ

当地財務官事務所ヨリ大蔵省へ問合ノ次第アルモ（往電第一七〇号末尾）此ノ際尚該条文ニ照シ右金額至急精細ニ御調査ノ上「ゼノア」開会迄二間ニ合フ様御回示ヲ受ケ置キタシ

(四)同第六条ノ文句ハ稍々難解ナルガ委員會ノ考ガ第八条及本条ニ依リ他締約国ノ戦争行為ニ基ク露国人ノ要償ハ一覽表掲記金額ヲ以テ「カバ」シ居ルモノトナシ露国側ヨリ更ニ右ニ該当スル損害要償ヲ聯合國側ニ提示スルヲ妨ゲントスルニアルト共ニ其ノ範圍ハ純然タル作戦動作ノ結果ニ基クモノ（若ハ之ニ類似スルモノ）ニ限ルコトトシ右範圍ハ之ヲ広カラシメザル主義ナルモ結局實際ニ於テハ Russian Debt Commission ニテハ勿論其前ニテモ露国側ヨリ西比利ニ於ケル我行動等ニ関シ種々ナル對抗要求ヲ提出スベシト存ゼラルル処貴方御見込ニテハ右ハ大体如何ナル事項及範圍ニ亘ルベキヤ大連會議ニ於ケル極東共和国側ノ云分等モ大イニ參考ニ相成ルベク又之等ニ対スル我方ノ具体的弁明ノ資料詳細電報ヲ請フ

(五)同電 annexes 冒頭ノ「ノート」ニ関シ該 annexes 中二案アル点即担保ハ一般ノ assets トナスベキヤ又ハ特殊ノ

ニ付可然措置可致ニ付御承知ヲ請フ
各大公使へ郵送ス

九〇 四月四日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

仏国下院ニ於ケルポアンカレ首相ノゼノア会
議ニ対スル方針答弁報告ノ件

第二六四号 （四月五日接受）

本月一日仏国下院ニ於テ「ブリアン」氏ノ華府會議英仏同盟並ニ「カンヌ」會議ノ經過ニ関スル弁明アリタル後「ポアンカレ」首相ハ華府會議ノ結果及「ゼノア」會議ニ対スル方針ニ付答弁シタルガ其要点大略左ノ如シ
(一)華府會議ノ太平洋協約ハ太平洋上ノ仏領殊ニ印度支那ヲ保護セズ然レドモ同条約ハ道德上及政治上有益ナルヲ以テ議會ノ批准ヲ希望ス其ノ他ノ諸条約案ニ付テハ列国トノ協調ヲ重ンズルト同時ニ仏国ノ自由裁量ニ依リ追テ審議スベシ

(二)「ゼノア」ニ於テハ仏国ハ自由ノ立場ニアリテ倫敦ニ於ケル専門家ノ審議ノ結果ニ拘束セラルル事ナク仏国ノ同意ハ何レモ議會ノ承認ヲ条件トス

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 九〇

assets ヲ選ベキカハ委員等ニ於ケル形勢ヨリ見レバ仏国側ハ特殊担保説ヲ主張シ英国其他ハ一般説ヲ固守スベシト認メラルル処我方トシテハ一般説ヲ取り大勢特殊担保ニ決セントスルニ至ラバ之ニ応ジ差支ナキカト存ズ

(六)Part 2 前文ニ関シ「ゼノア」ニ於テ之等決議ニ基キ協約ヲ締結スルコトナル場合我方亦之ニ加入調印セラルルヲ可トセラルルヤ否ヤ例ヘバ往電第一六五号協約案第三条及 annex ノ Monetary Convention ノ件ハ往電第一九六号(三)ノ通り今回ノ予備會議ニテハ削除セラレタルモ将来此ノ種 Monetary Convention 提唱セラルベキハ Part 2 第三十六条ニ予見セラレアリ従ヒテ「ゼノア」又ハ其ノ後ニ至リ之ガ提議ヲ見ルベキ処右第三十六条ト同趣旨ノ規定ヲ含ム協約ニ調印シタル後右規定ニ基ク貨幣協約ニ対シテハ之ニ参加ヲ躊躇スルヲ得ザルベク之等ノ關係ヲモ併セ御考量ノ上本件歐洲復興ニ関スル協約並貨幣協約成立ノ際ニ於ケル措置方至急御電訓アリタシ

(七)以上ハ当方心附キノ点ヲ列挙シタルモノナルガ其ノ他貴方御注意ノ点ヲモ併セ電報アリタク「ゼノア」ニ於テハ委員會等急速進行シ其ノ場ニ至リ一々請訓ノ暇ナキコト必定

(三)「ゼノア」會議ト英仏同盟ノ商議トハ其ノ間何等ノ關係ナク兩者ハ全然別個ノ問題ニシテ同盟条約案ニ付テハ英仏間ニ於テ其ノ相互のナラザルコト及期限ノ点ニ於テ未ダ意見合致セザルモ今尚ホ順調ニ商議継続中ナリ

(四)「ソヴィエト」政府代表ハ屢々種々ノ方面ヨリ仏国政府ト接触セント努メタルモ仏国政府ハ「ゼノア」會議以前ニ於テ聯合國以外ノ国ト商議スルヲ欲セズ從テ单独ニ「ソヴィエト」ト商議シタルコトナシ

(五)独逸ハ「ゼノア」會議ニ於テ窃ニ期待スル所アルガ如キモ仏国ハ同會議ニ於テ直接間接「ヴェルサイユ」条約ノ修正ヲ許サズ又同會議ヲシテ國際聯盟ニ代ルガ如キ常設機關タラシムルヲ得ズ又同會議ニ於テ聯合國ノ対独債権額及其ノ支払方法ヲ審議スルヲ許サズ賠償委員會ノ決定ヲ支持セザルベカラズ若シ仏国参加ノ主要条件ニシテ尊重セラレザル時ハ同會議ヨリ脱退スベシ

(六)「ソヴィエト」露国ノ承認ニ関シテハ露国ハ予メ「カンヌ」會議決定ノ条件ニ対シテ明ニ保障ヲ与ヘ且ツ其ノ實際ノ上ノ監督可能ニアラザレバ仏国ハ同問題ノ審議ニ関シ何等拘束セラルル事ナク之ガ拒否並ニ其ノ審議ノ結果ヲ採用ス

ルト否トハ全然仏國ノ自由ナリ

但「ゼノア」會議ノ討議事項ニ関シ一月三十一日ノ仏國覺書ノ声言ハ同會議ノ事業ヲ妨グルモノニ非ズシテ却テ之ヲ明確ニスルノ益アリ政治問題除外及財政經濟上ノ制限ヲ除クモ同會議ノ議題ハ莫大ナリ

米英独伊ヘ転電セリ

九一 四月四日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英國案ニ関シ疑問点確メ方訓令ニ対シ回答ノ件

第二二二号

(四月五日接受)

貴電第一二六号ニ関シ

一、貴電御問合せノ条項ハ最初ノ案ニテハ各署名國ニ適用アル形式ナリシモ其ノ後往電第二〇三号ノ通り(第五十七條)歐洲諸國ニノミ適用セラルルコトニ變更シタルニ付帝國トシテハ何等利害關係ナキコトナレリ

二、同条後段ハ歐洲戰爭開始ヨリ現在ニ至ル迄ノ間ニ戰爭若クハ革命ノ結果トシテ執ラレタル非常立法若クハ行政行為ナカリセバ其ノ領土内ニ現在ニ於テ効力ヲ有シタルベキ他ノ歐洲諸國ノ國民ニ屬スル工業所有權文學及美術的著作

九二 四月五日 内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛(電報)

ゼノア經濟財政會議全權委員及同隨員任命ノ件

附記一 三月三十日上奏及四月五日發表ノ右全權委員

任命方ノ上奏案

二 同右全權委員隨員任命方ノ稟申案

第一三六号

往電第一三五号ニ関シ

四月五日附ヲ以テ全權委員同委員隨員及同委員附夫々任命セラル

本電在仏大使ヘ転電アリタク又關係各館ノ分ハ其館長ヘ傳達アリタシ

(附記二)

三月三十日上奏及四月五日發表ノ全權委員任命方ノ上奏案

上奏案

特命全權大使 男爵林 權助
特命全權大使 子爵石井菊次郎
海外駐劄財務官 森 賢吾

「ゼノア」經濟財政會議ニ全權委員トシテ参列被仰付
右謹テ奏ス

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 九二

物ニ関スル權利ヲ認メ恢復シ及保護セントスルニ在リ、別段意味難解ト認メララルル箇所ナキガ貴電(四)ニ依レバ Might now have been 云々トアルベキヲ Might not have been トアルヲ以テ見レバ now ガ電報上 not ト現レタルニ依リ意味不明トナリタルモノナラン

三、以上ノ通り本条ハ帝國ニ執リ何等關係ナキコトナリタル結果一々御質問ニ答フルニ及バズトハ認ムルモ兎ニ角御参考迄ニ当方ノ見解ヲ陳ブレバ貴電(一)ハ適及セザルモノト解ス、(二)ハ意味ノ相違アリ、後者ハ広キモノト解ス、但シ正確ヲ期スル為必要トアラバ然ル可キ機會ニ英國側ノ見解ヲ質スベシ、(三)前述ノ通り not ハ now ノ誤リ、意味ハ二ノ通り但其ノ後 might ハ would トナレリ

四、貴電ハ往電第一六五号發送ヨリ二週近キ委員會終了数日後ニ接手シタル次第ナルガ本省御多忙ノ儀ハ恐察スルモ「ゼノア」會議開催目睫ノ間ニ逼リ且往電第二一一号末段ノ通り愈々會議開催ノ上ハ貴方ト往復ヲ重ヌルノ暇ナキコト多カルベキニ付往電第二一一号其ノ他今後該會議ニ関スル往電ニシテ御回示ヲ要スルモノハ成ルベク會議開催前ニ間ニ合ヒ時機ヲ失スルコトナキ様特ニ御注意ヲ切望ス

(附記二)

三月三十日上奏及四月五日發表ノ全權委員隨員任命方ノ稟申案

稟申案

大使館參事官 諸井 六郎
同 佐藤 尚武
大使館一等書記官 子爵武者小路公
大使館一等書記官 川島信太郎
商務官 松山晋二郎
大使館二等書記官 岡本 武三
同 堀田 正昭
同 芦田 均
大使館三等書記官 三枝 茂智
同 井上庚二郎
同 張間 利春
外交官 補 見田 寛
領事官 補 内田 五郎
外交官 補 鈴木 九萬
副領事 清野 元吉
大使館一等通訳官 井上 静一

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 九三

大藏書記官 神鞭 常孝
大藏事務官 荒井誠一郎
鐵道局參事 金井 清
從五位勲六等 鳩山 秀夫
從六位勲三等 深井 英五
勲 六 等 深尾隆太郎

門野重九郎
瀨古孝之助
大久保利賢
山内 恭治

「ゼノア」經濟財政會議ニ參列ノ全權委員隨員ヲ命ス
右之通発令相成候様致度此段及稟申候也

九三 四月五日 内田外務大臣ヨリ
在仏国石井大使宛（電報）

ゼノア會議參列日本全權ニ對シ訓令ノ件

別電一 四月五日内田外務大臣発在仏国石井大使宛電
報第一八〇号

露国勞農政府承認ニ関スル件

二 同右電報第一八一号

倫敦準備委員會ニ提出ノ英国案中对露協約案

一〇四

ニ関スル件
三 同右電報第一八一号
經濟財政協約案ニ関スル件

第一七九号

一、「ゼノア」會議ハ其ノ結果如何ニ由リテハ歐洲ノミナ
ラス広ク國際經濟ノ上ニ重大ナル影響ヲ及ホスヘキニ付
討議ノ經過ニ對シ終始周密ナル注意ヲ払ハレ殊ニ各国々
民經濟生活ノ安定、國際貿易ノ回復並通商ノ自由確保ノ
為ニハ各国協調ノ精神ニ基キ適切ナル協定ノ成立ヲ見ル
様尽力セラレタシ尤モ歐洲各国ノ復興事業ニ對スル物質
的援助ノ問題ニ関シテハ帝國現下ノ財政經濟狀態ニ鑑ミ
帝國ニ於テハ一般的ニ他國ト同様進テ之ニ參加スルヲ得
サルノ事情アルヲ以テ此点ハ參列各国ヲシテ充分諒解セ
シメラルル様致度シ

二、對露問題ノ帝國ニ及ホス影響甚大ナルハ勿論ノ義ナル
ニヨリ同問題ノ處理ニ膺リテハ極東ニ於ケル特殊ノ狀態
並將來露国國民トノ親善關係樹立ノ必要ヲ特ニ顧念シ且
列國トノ協調ニ意ヲ致シ適宜措置アリタシ尚露国承認
問題ニ就テハ別電甲号ノ趣旨ニヨリ適宜處理アリタシ

三、諸平和條約ニ基キ帝國ノ獲得シタル地位ヲ保持スルコ
トハ極テ肝要ナルヲ以テ一般平和ノ確立ノ為力メテ列國
トノ協調ヲ保ツト同時ニ苟クモ右地位ヲ害フカ如キコト
ナキ様特ニ御配意アリタシ

四、倫敦開催ノ準備委員會ニ提出セラレタル英國提案ニ関
シ對露協約案ニ就テハ別電乙号ノ通又經濟、財政及交通
ニ関スル一般協約案ニ就テハ別電丙号ノ通帝國政府ノ方
針決定シタルニ付右趣旨ニ基キ然ルヘク御措置相成度シ
本電別電ト共ニ欧米各大使ニ転電シ在歐各公使ニ郵報アリ
タシ

（別電一）

四月五日内田外務大臣発在仏国石井大使宛電報第一八〇号
露国勞農政府承認ニ関スル件

第一八〇号 別電甲

勞農政府ノ承認問題ハ結構列強ノ大勢ニ順応スルニ外ナラ
ザルモ「カンヌ」決議六簡条及倫敦準備委員會決議ヲ綜合
スルニ於テハ略ホ我希望事項ヲ包含スルニ依リ右両決議ヲ
承認条件ノ基礎トスルニハ異存ナシ尤モ極東ニ於ケル特殊
事態ト我國民ノ感情ヲモ顧念シ右以外左記事項ヲモ承認条

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 九三

件トシ度キ処右ハ列國トノ關係上頗ル機微ニ亘ルモノアリ

之カ處理ニ付テハ甚深ノ注意ヲ要スル次第ナルカ會議ノ形
勢ニ依リテハ之ヲ勞農承認ノ条件ト為シ得ル余地ヲ存シ置
キ度キ意向ナルニ付右趣旨ニ依リ可然御措置アリ度ク万一
我希望容レラレス他列國即時承認說ニ傾クトキハ帝國ノ関
スル限り承認ヲ留保シ請訓セラルル様致シ度シ

一、尼港事件ノ責任承認

尼港事件ニ付テハ極東共和国政府自ラ之ヲ解決ノ衝ニ当ラ
ンコトヲ申出テ居ル処果シテ同政府トノ間ニ満足ナル解決
ヲ期シ得ヘキヤ未タ明カナラス万一右解決困難ナルカ又ハ
同國カ勞農露國ニ併合セラルル場合ニハ結局勞農政府ト交
渉スルノ外ナカルヘク從テ本件ノ解決ヲ承認ノ条件トスル
コトアルヤモ知レサルニ付右御含ミノ上其余地ヲ取り置ク
様措置アリタシ又倫敦準備委員會ニ於ケル對露條約基礎案
第三条第三項ハ私人損害ニ限り國家ノ損害ハ之ヲ包含セサ
ル様解セラルルニ依リ旁々右措置ヲ必要トスル次第ナリ
尤モ勞農政府ノ不法行為ニ基ク國家ノ損害ハ尼港事件ノ外
在露各公館ノ損害等モアルニヨリ此等損害ヲ一括規定スル
趣旨ニテ各国ニ共通ナル一般承認条件ノ一トシテ勞農政府

一〇五

及其「エーゼント」等ノ不法行為ニ因リ諸国家ノ蒙リタル損害ニ就テモ勞農政府ヲシテ賠償ノ責ニ任セシムヘキコトヲ明確ニ規定セシムルヲ得ハ尤モ好都合ナリ

二、極東ニ於ケル既成事実ノ承認

極東共和国ノ将来如何ハ疑問ニ属スルモ同国自ラ独立国タルコトヲ宣言シ勞農政府ニ於テモ之ヲ承認シ居ル現在ノ事態ノ存続スル以上帝国トシテハ勞農露国承認ノ地理的範圍ハ極東共和国ノ領域ニ及ハスト解釈スルコト然ルヘク万一勞農露国カ極東共和国トノ合意ニ依リ之ヲ併合スル場合ニハ我方ハ強ヒテ之ヲ阻止スル必要ナキモ此場合極東共和国ト締結セル諸約定ハ勞農政府ニ於テ繼承スルコト必要ナルニ付此ノ点モ亦勞農政府承認ノ条件トシテ主張スルコトアルヘシ

(別電二)

四月五日内田外務大臣発在仏国石井大使宛電報第一八一号
倫敦準備委員会ニ提出サレタル英国案中ノ対露協約案ニ関スル件

第一八一号 別電乙

準備委員会作成対露条約草案ニ就キテハ全文到着ノ上更ニ訓令ヲ要スルコトト相成ルヤモ計リ難キモ差当リ左記ノ趣

規定ノ成立ヲ希望ス

(別電三)

四月五日内田外務大臣発在仏国石井大使宛電報第一八一号
經濟財政協約案ニ関スル件

第一八二号 別電丙

經濟財政協約ニ関スル英国原案ニ対シテハ左ノ趣旨ニ依リ措置セラレタシ

一、第一条及第二条復興会社ノ件ニ関シテハ追テ何分ノ議申進スヘキニ付夫迄ハ従来訓令ノ趣旨ニ依リ処理セラレタシ

二、第三条及附属ノ國際金貨本位制協約ノ実施ハ準備委員会ニ於ケル英国委員ノ主張ノ如ク金ノ約半分ヲ有スル米国力参加スルニ非サレハ実効挙ラサルモノト思考ス準備委員会ニ於テ英国側力字句再考ノ上更ニ提案スルコトトナレルハ好都合ナルニ依リ若シ新提案カ尚貨幣協約ノ実施ヲ主張スル場合ニハ米国ノ参加決定シタル後本邦ノ態度ヲ決スヘキ旨ヲ以テ応酬セラレタシ

三、第四条信用政策ノ協調ヲ計ル為ニスル中央銀行間ノ継続的協力ニ参加スルコトハ大体異議ナキモ其協力方法ニ

旨ニヨリ御措置アリタシ

一、公債及私債ニ関スル規定ニ就テハ大体異存ナキモ左記諸点御注意アリタシ

(a)我方ノ対露債権約四億円(詳細ハ大蔵省ヨリ森財務官宛電報ス)ハ英国旧案公債三ノ部門ヘ記入スルコト

(b)關係国政府ニ於テモ勞農政府ト同シク私債務ヲ引受クヘシトノ規定ハ確定草案ヨリ削除セラレタル趣ニシテ「ゼノア」會議上問題トナルコトナカルヘキガ更ニ問題トナル場合ニモ我方ニ於テハ右引受ニハ同意シ得サル義ニ付為念

二、対露条約効力存続問題ニ関スル準備委員会決定ニハ何等異存ナシ

三、債務委員会及混合仲裁裁判所ニ関スル規定ニ付テモ異存ナシ但シ債務委員会ニハ我方ヨリモ一名ノ代表者ヲ出し得ル様列国ノ了解ヲ得ラレタシ

四、英国旧案六補償公債ニ関スル規定以下各項ニ就キ内容判明セサルモノアルモ大体ニ於テ異存ナシ

五、林大使來電第一八五号白耳義提案過渡の規定ハ露国側承認ヲ得ルコト或ハ困難ナラムト思考スルモ成ルヘク右

付テハ具体的内容ヲ承知シタル上ニ非サレハ賛否ヲ決シ難キ旨留保シ置カレタシ

四、第五条為替相場ノ異常ニ低落シタル国ヨリノ輸入ニ対スル特別保護ノ制度ハ本邦トシテハ考慮シツアルモ未タ之ヲ実施シ居ラス將來スノ如キ制度ヲ採用スルコトアリト仮定スルモ其ノ之ヲ必要トシタル事由ノ消滅シタル上ハ本協約案規定ノ期限内ニ之ヲ廃止スルコトニハ異議ナシ

五、第六条「ポルトローザ」協定ニハ帝国ニ於テ關係ナシ六、第七条ニ関シ(一)ニ付テハ趣旨ニ於テ異議ナシ尤モ本邦ハ最近議會ノ協賛ヲ經テ銅、真鍮及青銅ノ輸入税ヲ当分ノ内改正スルコトトナシタルカ右ハ特別ノ事情ニ基キタルモノニシテ直ニ變更スル趣旨ニ非サルコト並將來特殊ノ事情発生シタル特殊ノ物品ニ対シテハ税率ノ變更又ハ輸入ノ制限ヲ行フコトナキヲ保セサルコトハ御含アリタシ

(二)ニ付テハ異議ナシ

(三)ニ付テモ其ノ趣旨ニ賛成シテ差支ナシ本邦トシテハ現今斯ノ如キ輸入禁止又ハ制限ノ制度ヲ存スルコトナシ

尤モ将来特殊ノ事態發生シタル場合ニハ特許制度ヲ採
ルノ已ムヲ得サルコトナキヲ保セサルニ付御含アリタ
シ

(四)ニ付テハ異議ナシ

(四)ニ付テハ輸入制限ニ関スル前記ノ趣旨ニ準シ適宜処理
セラレタシ

(六)ニ付テハ異議ナシ

(六)ニ付テハ異議ナシ

七、第八条商業仲裁ニ関シテハ内容ヲ承知シタル上ニテ訓
令スヘシ

八、第九条ニ付テハ本邦ニ於テ何等課税上ノ差別待遇ヲ為
シ居ラス尚将来ニ於テ内外人ニ対シ同一ニ課税スルコト
ニ異議ナシ

九、第十条ニ関シ本件協約ノ効力發生後六箇月以内ニ税関
手続及直通切符ニ関スル決議及勸告ノ趣旨ヲ実施スルコ
トハ我方ニ於テモ主義トシテ何等異存ナク現在ニ於テモ
大体其ノ精神ヲ実行シ居ルモ税関手続ニ関スル決議第十
五中輸出貨幣ニ関シテハ本件協約実施後六箇月以内ニ其
ノ手続ヲ為シ得ルヤ否ヤ疑問ナルニ依リ実施後可成速ニ

之ヲ為ス趣旨ヲ以テ適宜処置セラレタシ將又前記決議中
旅券ニ関スルモノハ我国ニ於テ出来得ル限り之ヲ採用シ
度キ意嚮アリ旅券発給手数料及査証料ノ如キハ既ニ決議
ノ趣旨ヲ採択シテ手数料規則ヲ改正シ本年一月一日ヨリ
実施シ居ル次第ナルモ該決議中(一)旅券ノ形式ノ如キハ我
国語ノ關係上到底統一的形式ニ從フコトヲ得ス(二)通過査
証ヲ与フルニ方リ身元調査ヲ行ハサルコトヲ規定セル条
項ノ如キモ我国特殊ノ地理の關係上実行シ難ク(三)旅券及
査証ノ有効期間ヲ二様ニスルコトモ其手続煩鎖ナルニ比
シ其ノ実益ヲ認め難キニ付我国ニ於テハ之ヲ採用スルコ
トニハ不賛成ナリ仍テ仮令多少ノ猶予期間ヲ与ヘラルル
モ我政府ハ右決議ヲ其儘採用スルコトハ出来難キニ付右
ハ単ニ「リコムメンデイション」ノ形ト成シ各国政府ニ
於テ出来得ル限り速ニ可成該決議ニ近キ制度ヲ採用スル
コトヲ勸告スルコトニ止メシメ度シ

十、第十一条ノ万国工業所有權保護同盟條約並文学的及美
術的著作物保護條約ニハ帝國ニ於テ已ニ加入シ居レリ尤
モ第二項ニ就テハ調査ヲ要スルニ付追テ訓令スル迄賛否
ヲ留保セラレタシ

十一、第十二条(a)ニ関シテハ(一)通過ノ自由ニ関スル條約ニ

付テハ我國ハ原署名國ノ一トナリ居リ目下批准ノ準備中
ナリ(二)國際河川條約及同追加議定書加入ノ件ハ六箇月内
ニ之ヲ行フコトヲ約束シ難キニ付今後ニ於テモ右含ニテ
然ルヘク御措置相成リ度シ(三)國際鐵道制度ニ関スル勸告
ニ付テハ目下當該官庁ニ於テ之カ採択方研究中ナルカ我
國ニ於テハ右勸告ヲ俟タス既ニ其ノ趣旨ヲ実施シ居ル点
モ有ル次第ナリ

十二、第十二条(b)ハ帝國ニ關係ナシ

註 右内田外務大臣発石井大使宛電報第一七九号及別電ノテクス
トハ四月四日閣議決定セラレ更ニ翌四月五日輕微ナル字句ノ
修正ヲ以テ外交調査会ノ決定ヲ経タルモノナリ

九四 四月五日

在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

對露戰前債權ト戰中債權ニ関スル問題ニ付請
訓ノ件

第二七〇号

(四月六日接受)

「ボアンカレ」氏ハ本使トノ會談ニ於テ常ニ戰爭前ノ對露
仏國債權ガ零細ナル貯蓄ヨリ成立スル特徵ヲ挙げ戰爭中ノ

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 九四 九五

債權ニハ言及セズ又昨四日「タン」ノ社説中ニ「ゼノア」

會議ニ於テ戰爭中ノ軍事債權ヲ断念スルハ聯合側ガ「ソヴ
ィエト」ノ脅迫ニ由ル讓歩ニアラズシテ露國人民ニ對スル
友誼ノ表彰ト見ルベシトノ句アル等ヨリ本使ハ仏國政府ガ
戰前債權ヲ以テ「ソヴィエト」政府ノ債務ノ第一位ニ置キ
戰爭中ノ債權ハ已ムナクバ断念スル底意アルニアラズヤト
ノ疑ヲ抱クニ至レリ日本ノ對露債權ノ全部ハ戰爭中ニ起リ
而モ細民ヨリ徴収シタル租税ノコトナレバ性質上仏國ノ債
權ト甲乙ナク且戰爭前ノ仏國債權モ亦露國ニ於テ来ル大戰
爭ノ準備トシテ使用シタルモノナレバ旁々以テ戰爭中ト戰
前トヲ區別スル強キ理由ナキ様思考セラル本件「ゼノア」
ニテ問題トナレバ右理由ニ依リ仏國ノ態度ニ對抗セザルベ
カラズト存ズルモ英國ハ元來戰爭中ノ對外債權ヲ挙げテ断
念スルニ吝ナラザル模様ナレバ右仏國ノ態度ニ賛成スルヤ
モ知レズ英仏一致セバ頗ル難問題トナルベキ虞アリ依テ此
点ニ就キ「ジャパニーズ、デレゲーション、ゼノア」宛ニ
テ精細御訓示ヲ請フ

九五 四月六日

在獨国日置大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

一〇九

独国政府ノ態度強硬ナル理由及日本ノ態度ニ

関スル独国外相トノ談話報告ノ件

第八五号

(四月八日接受)

往電第七二号及第七四号ニ関シ独逸政府ノ声明ハ從來ニ比シ大ニ強硬ノ態度ヲ示シ居ル処其理由ト認ムベキモノ左ノ通り

一、往電第六九号後段租税妥協ガ辛ウジテ成立シタル現時内政關係ニ於テ賠償委員會ノ新タナル要求特ニ六百億ノ新稅徵收ハ政府トシテ到底承諾困難ナルコト

二、「ゼノア」會議ニ付テハ独逸ハ表面ハ兎ニ角心中少カラザル期待ヲ為シ随ツテ同會議ニ於テ充分ナル活動ヲ為スタメニハ政府ハ議會大多數ノ応援ヲ必要トスル処政府与党及ビ從來「ウィルト」ノ外交政策ニ強テ反对セザル独立社会党ハ暫ク置キ独逸国民党ノ支持ヲ得ル為メニハ強硬ノ態度ヲ取ルノ必要アルコト

三、駐独英及伊大使ハ寧ロ親独の傾向ヲ有シ本使ト會談ノ際ニモ仏國ノ對独政策ヲ攻撃シテ憚ラザル程ナレバ本件ニ付テモ賠償委員會決定ノ経緯及英國ノ態度等ニ付キテモ或ハ英國筋ヨリ少クトモ何等カ暗示ニテモアリタルニ非ザル

カ又「ラテナウ」外相ノ本使ニ對スル口吻ニ見ルモ同人自身深ク「ロイド、ジョージ」ノ信認ヲ得居ルモノト信シ居ルモノノ如ク彼は思ヒ合ハスルニ英國ニ對シテ何等期待ヲ屬シ居ルモノノ如キコト現ニ仏國新聞中ニモ「タン」ノ如キハ独逸政府這般ノ態度ヲ以テ駐独英大使ノ教唆ニ出ヅルモノト唱ヘ居レリ

四、「ウィルト」内閣ハ由來万難ヲ排シ賠償義務ノ履行ヲ試ミ來ルニ係ラズ聯合側ハ何等之ニ斟酌ヲ加フル所ナク其要求ハ愈々峻嚴ヲ加ヘ到底独逸ノ堪フル所ニ非ズ寧ロ當ツテ碎クルニ如カズト言フガ如キ心理狀態當國一般ニ瀾漫シツツアルコト

過日モ「ラテナウ」外相ト會談ノ際外相ハ至極打解ケタル態度ニテ往電第六四号公文ニ署名セラレタル貴大使ノ真意如何ト尋ネ本使ハ右ハ大使會議ノ結果ニ基ク本國政府ノ訓令ヲ執行シタル迄ナリト簡單ニ答ヘ去リタル処外相ハ進ンデ大使會議ニ列席セラルル日本代表者ハ何故ニ日本ニ寸毫ノ關係ナキ此種問題ノ決議ニ加ハラルルニヤト云ヘルニ付大使會議ハ御承知ノ通り講和條約實施機關トシテ條約ト共ニ生レタルモノナレバ主要聯合國ノ一タル日本ガ大使會議

カ不満足ノ色ヲ見セタリ
在欧米各大使ヘ転電セリ

九六 四月七日 在英國德川臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛

ゼノア會議準備委員會報告書送付ノ件

附屬書 右報告書英文

機密公第一八号 (五月十五日接受)

大正十一年四月七日

在英臨時代理大使 德川家正(印)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

ゼノア會議準備委員會報告書英文正文送付ノ件

本件ニ関シ左記書類及送附候也

記 号	書 類 要 旨	備 考
	準備委員會報告書	三通

(附屬書)

ゼノア會議準備委員會報告書英文

SECRET AND CONFIDENTIAL.

Preliminary Meetings for the Genoa Conference. —
(Received in Foreign Office, March 30, 1922.)

Experts' Report.

The economic and financial experts of the Powers responsible for the summoning of the conference at their meeting for the exchange of views, after examining together a number of suggestions and schemes, have prepared draft resolutions embodying the ideas and proposals which met with general acceptance.

The drafts are set forth in the pages of this report arranged under the following headings: —

Part I.—Russia.

Section I.—Preamble.

Section II.—Conditions under which foreign enterprise and capital can be enlisted for the restoration of Russia.

Chapter I.—Liquidation of past obligations.

Chapter II.—Provisions for the future.

Section III.—Measures by which the speedy recovery of Russia would be facilitated.

Part II.—Restoration of Europe.

tation of Russia and the Russian people, which it is the purpose of the Governments represented at Genoa to avoid.

Effective co-operation between Russia and other European countries will be difficult to realise unless a determination is shown in Russia to set to work wholeheartedly to restore the economic life of Russia. The foundation is agriculture, and here, no less than elsewhere, security both in respect of holdings and of the disposal of crops is an essential pre-requisite of revival. Once this security is realised, there is no doubt that foreign help will be forthcoming in the shape of agricultural implements and loans.

In the industrial sphere it is even more apparent that revival cannot be expected in the absence of foreign assistance and capital, which will only become available when the goodwill and co-operation of the Russian Government can be relied upon. Active measures will be necessary for the protection and liberty of action of

Section I.—Financial provisions.

Section II.—Economic provisions.

Section III.—Transport provisions.

Part I.—Reconstruction of Russia.

Section I.—Preamble.

The question of Russia has been approached both from the point of view of what is equitable and from the point of view of what is necessary for the economic restoration of Russia.

The economic restoration of Russia is largely dependent upon her enlisting the support of foreign enterprise and capital. Without a considerable transformation of the prevailing conditions which affect particularly trade and industry, foreigners will be reluctant either to return to their former undertakings or to start fresh undertakings. So long as precarious and unstable conditions continue, only speculators will be willing to venture on trade, and there is a fear that the chief result would be, not the reconstruction, but the exploi-

employers, their employees, and for the protection of their industrial operations and their capital, combined with the right to hold the movable and immovable property necessary for the conduct of business and with the liberty to import what is requisite and to dispose of the products of their undertakings. Much the same may be said of transport, in which case foreign firms will have to be relied upon for the furnishing of material and plant, including fresh rolling-stock, and the setting up of repair shops; and it needs no emphasis that the reorganisation of transport is essential to the industrial and agricultural recovery of Russia.

The question of the instrument by which effect could be given to these conditions and to contingent provisions has not been considered, nor the relation of any such instrument to existing trade agreements with Russia. These, with certain other questions, have been reserved as political. Indications are given in the drafts which follow of some of the points reserved.

Section II.—Conditions under which Foreign Enter-

prise and Capital can be enlisted
for the Restoration of Russia.

The section is divided into two chapters : —

Chapter I.—Liquidation of past obligations.

Chapter II.—Provisions for the future.

Chapter I.

Note.—It will be understood that the proposals drafted relating to claims (articles 1-7 and the annexes) are without prejudice to any advice which Governments may think fit to obtain from the parties interested in the settlement, whether as being entitled under contracts with former Russian Governments or as having suffered loss since the events of 1917.

Article 1.

The Russian Soviet Government shall accept the financial obligations of its predecessors, viz., the Imperial Russian Government and the Russian Provisional Government, towards foreign Powers and their nationals.

Note.—The question whether the title “Russian

Soviet Government” applies only to the Soviet Government at Moscow or should include all other Soviet Governments in Russia is a political one which it is for the Governments to decide. Similarly, no precise definition is attributed to the words “Russia” and “Russian.”

The same applies to the question whether, and, if so, to what extent, new States which have been recognised as such and which were formerly part of Russia, as well as States which have acquired part of the former territory of Russia, should undertake part of the obligations dealt with in these provisions.

Article 2.

The Russian Soviet Government shall recognise the financial engagements entered into before this date by all authorities in Russia, provincial or local, or by public utility undertakings in Russia, with other Powers or their nationals, and shall guarantee the fulfilment

thereof.

Article 3.

The Russian Soviet Government shall undertake liability for all actual and direct losses, whether arising out of breach of contract or otherwise, suffered by nationals of other Powers, due to the action or negligence of the Soviet Government or its predecessors or of any provincial or local authorities, or of an agent of any such Government or authority.

Article 4.

The liabilities under the preceding articles will be determined by a “Russian Debt Commission” and by “Mixed Arbitral Tribunals” to be set up. A scheme for the establishment of these bodies is contained in Annexes I and II. They shall determine the amount and method of payment to be made, whether by way of compensation or otherwise as laid down in Annexes I-III.

Article 5.

All inter-governmental debts, liabilities and obligations of every sort which arose between the Russian

Government on the one hand and a foreign Government on the other hand after the 1st August, 1914, shall be considered to be completely discharged by the payment of the net sums laid down in a schedule to be agreed.

Article 6.

Without prejudice to the provisions of article 116 of the Treaty of Versailles, the net sums fixed under article 5 shall take into account all claims by Russian nationals for loss or damage arising directly from hostile military or naval operations, or from other operations of a similar nature and any other claims specified at the time of the adoption of the schedule referred to in article 5.

Article 7.

Balances standing to the credit of a former Russian Government in any bank situate in a country the Government of which made advances to a former Rus-

sian Government between the 1st August, 1914, and the 7th November, 1917, shall be transferred to the Government which made the advances, and the liability of the Russian Soviet Government in respect of the advances shall be *pro tanto* reduced.

The transfer provided for in the preceding paragraph shall not prejudice the rights of third parties.

This article shall also apply in the case of any country the Government of which has assumed responsibility for any Russian Government loan floated in that country in the period named.

Annexes.

Note.—With regard to the security on which the Russian debt is in future to be charged, two solutions have been put forward by different delegations. They are shown, where necessary, in parallel columns in Annexes I–III. Agreement has not been arrived at in favour of either of these two solutions or of any of the numerous intermediate solutions which might be devised.

Annex I. Russian Debt Commission.

1. A Russian Debt Commission shall be established consisting of members nominated by the Russian Government and members nominated by the other Powers, together with an independent chairman chosen from outside by agreement among the other members, or, in default, named by the League of Nations, either through the Council or through the Permanent Court of International Justice:—

2. The commission will have the following functions:—

(a.) To constitute and prescribe the procedure of the Mixed Arbitral Tribunals, to be set up in accordance with the provisions of Annex II, and to issue such instructions as may be necessary in order to secure uniformity in their proceedings.

(b.) To issue new Russian bonds in accordance with the provisions of Annex II to persons entitled

thereto, under awards of the Mixed Arbitral Tribunals, to holders of existing State bonds and other bonds and stock for which the new Russian bonds are to be given in exchange, and to persons entitled thereto in respect of funded interest and repayment of capital. The rate of interest adopted for the purpose of calculating the present value of claims shall be the same as that prescribed under Annex III, paragraph 2.

(c.) To determine all questions arising out of the issue, rates of interest and terms of redemption of the new Russian bonds referred to in paragraph (b).

(d.) Nil. (d.) To determine, if necessary, among the revenues of Russia, those which should be specially assigned to the service of the debt, for example, an allocation of certain taxes or of royalties or dues upon undertakings in Russia.

Should occasion arise to control,

if the commission thinks fit, the collection of all or part of these assigned revenues, and to deal with the proceeds.

These assignments and this control (if imposed) should cease as soon as the Russian debt service appears adequately assured by the inclusion of the appropriate sums in the Russian budget.

Annex II. Determination of Claims.

1. The liabilities of the Russian Government under articles 1 to 3 shall be assessed in accordance with the following principles:—

2. The responsibility for claims provided for in article 3 shall be determined by the Mixed Arbitral Tribunals in accordance with the provisions of this report, and in default with the general principles of

international law.

3. Russian Government bonds in foreign currencies will be revived with all the conditions of the contract, but interest and repayment of capital due from the date when payments ceased until [the 1st November, 1927] will be funded.

and the bonds will be secured in the same way as the new Russian bonds in accordance with Annex III, 5.

4. Provincial, municipal, railway or public utility bonds in foreign currencies will be revived with all the conditions of the contract, but interest and repayment of capital due from the date when payment ceased until [the 1st November, 1927] will be funded. All such bonds shall be guaranteed by the Soviet Government whether guaranteed by any former Government of Russia or not.

and the bonds will be secured in the same way as the new Russian bonds

1927].

7. Claims not provided for under paragraphs 3 to 5 of this annex in respect of injury to property, rights and interests shall, subject to any agreements between the Soviet Government and such of the other Powers as may be concerned, be dealt with on the following principles:—

Claimants will be entitled to demand the return of the property, rights and interests.

If the property, rights or interests are still in existence and capable of identification, they will be returned and compensation for their use or for injury thereto during the dispossession will, in default of agreement between the Soviet Government and the private party concerned, be settled by the Mixed Arbitral Tribunals. Agreements for concessions in relation to public utility undertakings shall be modified so as to be brought into harmony with present economic conditions, for example, as regards charges, duration

in accordance with Annex III, 5.

5. Russian Government rouble loans or provincial, municipal, railway or public utility bonds issued in roubles will, if proved to have been continuously in foreign ownership since the date of repudiation by the Russian Government, be exchangeable into new Russian bonds.

The present value of the obligations in respect of capital and interest embodied in the original bond, in so far as they have not been fulfilled, shall first be calculated in roubles, and then converted into the foreign currency at the rate determined in paragraph 16. The present value of the new bond should be equal to the present value in the foreign currency of the original bond, interest being calculated at the rate to be prescribed under the provisions of Annex III, 2.

6. New Russian bonds will be issued in respect of funded interest and capital due for repayment between the date when payment ceased and [the 1st November,

of concessions and conditions of operation.

If the property, rights and interests are not still in existence or cannot be identified, or the claimant does not desire their return, the claim may, by agreement between the Soviet Government and the private party concerned, be satisfied either by the grant of similar property, rights or interests, coupled with compensation to be agreed, or, failing agreement, to be fixed by the Mixed Arbitral Tribunals, or by any other agreed settlement.

In all other cases claimants shall be entitled to compensation on a monetary basis, to be fixed by the Mixed Arbitral Tribunals.

Note.—In the opinion of the experts, it may be necessary to add some condition in the case of claims for destruction, loss or damage of property, rights or interests which were acquired subsequent to the events of 1917. It might be desirable to give the Mixed Arbitral Tribunals a discretion, in some case at any rate, to

take the matter into account when they are satisfied that the price at which the property was acquired renders payment of compensation on the basis of the full value of the property inequitable.

8. The tribunal, in assessing compensation, shall take account primarily of the actual value in roubles of the property, rights or interests at the 1st November, 1917, but may make allowance for any temporary and special circumstances which may at that time have materially affected the value.

9. Where a debtor is entitled, or, if he had been a national of one of the other Powers, would have been entitled, to claim compensation under Chapter I, the creditor may (whether the debtor has claimed compensation or not) make a direct claim against the Soviet Government in respect of the loss arising from his unpaid debt instead of against the debtor.

Any property restored in accordance with paragraph 7 shall be subject to any charges or obligations attach-

ing thereto upon the 1st November, 1917, without prejudice to the rights of creditors to make a direct claim against the Soviet Government.

10. Any liability met by the Soviet Government under the preceding paragraph will be set off against the compensation payable to the debtor; but if the Soviet Government has already paid the compensation to the debtor, it may recover from the debtor the amount paid to the creditor, but the liability of the former may be discharged in new Russian bonds.

11. Russian financial, industrial and commercial companies, which on the 1st November, 1917, were controlled by nationals of other Powers, or in which at the same date such nationals possessed a substantial interest, shall, if the majority of the foreign interests (shareholders and bondholders) so desire, be covered by the term "nationals of other Powers" wherever used in Chapter I and the annexes.

12. In cases in which a claim is not made under

the preceding paragraph or other provision of this chapter or its annexes any national of the other Powers who is a shareholder in any Russian company whatever may claim compensation in accordance with article 3 for the injury done to his holding in the company.

13. Claims, excluding those referred to in paragraphs 3-5 above, but including claims for monetary compensation arising from death or personal injury, shall be referred by the commission for adjudication and assessment on a monetary basis as promptly as possible by Mixed Arbitral Tribunals.

14. All claims shall be registered with the Russian Debt Commission, and options shall be exercised within one year from the establishment of the commission or such longer period as may be permitted by the commission for particular cases or classes of cases. The Russian Soviet Government shall not be liable in respect of any claim not registered within the prescribed period.

15. No claim shall be recognised in respect of rights which had ceased legally to exist before March 1917.

16. The rates of conversion between paper roubles and the various foreign currencies will be fixed by the Russian Debt Commission at the time of issuing the new Russian bonds. For this purpose the commission will first ascertain the average gold value of the rouble in October 1917, and will then calculate the equivalent of that gold value in each of the foreign currencies at the time of the issue of the bonds.

17. Interest at the rate prescribed under paragraph (2) of Annex III shall accrue as from the 1st November, 1917, on all amounts awarded by the tribunal.

Annex III.

New Russian Bonds.

1. All accepted claims for monetary compensation against the Russian Soviet Government will be met by the issue of new Russian bonds up to the amounts

fixed by the Mixed Arbitral Tribunals. The terms of issue of the bonds, together with all questions arising out of the conversion of existing bonds, and out of the new issues, will be determined by the Russian Debt Commission.

2. The bonds shall carry a rate of interest to be determined by the Russian Debt Commission. They shall be free both as to interest and capital from all Russian taxation, both present and future, and shall be subject to redemption by annual drawings.

3. In general the bonds will be expressed in the currency of the holder's country. Nevertheless the Debt Commission may allow him, if he so requests, to take bonds in the currencies of certain specified countries.

4. In order to determine the value of the bonds for any payment under these provisions the bonds shall be discounted at the rate of interest prescribed under paragraph 2 above.

5. The bonds shall be a charge on the whole assets of the Russian State.

or 5. The bonds shall be a charge, primarily upon assets selected by the

giving priority to the inter-rum period; in such drawings priority shall est bonds.

be given to the interest bonds.

Chapter II.—(A) Administration of Justice.

Article 8.

The Russian Soviet Government shall undertake to provide for the good administration of justice in accordance with the following principles:—

(1) Independence of the judicial authority *vis-à-vis* the executive authority.

(2) Administration of justice in public by professional judges who must be independent and irremovable.

(3) The law to be applied must be known and published; it shall be equal between persons and have no retroactive effect. It shall afford adequate guarantees to foreigners against arbitrary arrests and domiciliary visits.

(4) Foreigners shall have free access to the

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 九六

[Download PDF](#)
[View Images](#)
[Download Images](#)
[View All Images](#)

Russian Debt Commission
in accordance with Annex
I, 2 (*d*), and secondarily
on the whole assets of the
Russian State.

6. Interest shall be funded and the Russian Soviet Government shall not be required to redeem any bonds until [the 1st November, 1927]. It shall be within the competence of the Debt Commission to issue bonds of a special series in respect of funded interest. Any such interest bonds shall carry the same rights and be in all respects the same as the new Russian bonds, except for a preferential right for redemption during the moratorium period if any redemption be then possible.

7. The Russian Debt Commission will decide whether the yield of the assigned revenues permits of drawings before the expiration of the moratorium period,

courts and no disability shall attach to foreigners as foreigners; they shall be entitled to be represented before the courts by counsel of their own choosing.

(5) The rules of procedure to be observed in the courts shall be such as to facilitate the thorough and rapid administration of justice. The right of appeal and of new trial shall be assured.

(6) The parties to a contract shall have the right to provide that a foreign law shall apply; the courts must in such case apply that law.

(7) Just procedure shall be established in order to ensure the execution of valid foreign judgments, including judgments of foreign courts based on a provision in a commercial contract conferring jurisdiction on that court.

(8) The validity of a clause in contracts for the arbitration of any or all disputes arising therein shall be recognised and shall be made for enforcing arbitration awards, including those given in a foreign country.

(B)—Conditions of Residence and

Trade in Russia.

Article 9.

The Russian Soviet Government shall undertake to permit the entry and egress of foreigners into and from its territory in accordance with the usual practice of States.

Article 10.

Foreigners while sojourning in Russia shall be exempted from all kinds of compulsory services and from any contributions whatever imposed as an equivalent for personal service; they shall not be subject to any forced loans.

Article 11.

Foreigners shall be at liberty to communicate freely by post, telegraph or wireless telegraph, and to use telegraph codes under the conditions and subject to the regulations laid down in the International Telegraph Conventions.

Article 12.

Foreigners shall enjoy all protection, rights and facilities which are necessary to enable them to carry on any permitted trade, profession or occupation in accordance with the usual practice of States; they shall not be subject to any discriminating legislation or restrictions on account of their nationality. They shall not be compelled to join any local organisation.

Article 13.

No discrimination against the workmen employed in undertakings belonging to foreigners or directed by foreigners shall be exercised in respect of military service, or forced labour; nor shall any taxation be levied in lieu thereof.

Article 14.

Foreigners shall have adequate facilities for travelling on Russian railways, roads and waterways, and for the carriage of their goods and merchandise. These facilities shall not be less than those accorded to Rus-

sian Government enterprises or Russian nationals, and shall be applied without discrimination.

Article 15.

Requisitions shall not be imposed save in exceptional circumstances and subject to adequate compensation payable at the time.

Article 16.

Foreign companies and associations duly constituted shall be allowed to carry on any business open to foreigners in Russia, and for this purpose shall have the same rights as private individuals, including that of appearing before the tribunals.

Article 17.

Foreign firms or individuals, and also foreign companies and associations, carrying on any permitted trade, profession or occupation in Russia shall be subject to no higher taxation than is borne by Russian nationals.

The system of taxation shall not in practice impose

on branches of foreign companies carrying on permitted trades, professions and occupations in Russia any greater burden of taxation than on similar businesses carried on there by Russian companies.

Article 18.

The Russian Soviet Government shall be invited to become a party to the international conventions for the protection of industrial, literary and artistic property.

(C)—Treaties and Conventions.

Note.—All questions concerning political treaties and conventions are reserved.

Article 19.

The multilateral conventions and agreements of an economic, technical or legal character to which the former Russian Governments were parties shall be regarded as still binding on Russia.

Article 20.

Contributions owing by Russia in respect of the upkeep of any central bureau or office established by

any treaty or convention referred to in article 19 shall be paid. All other claims by or against Russia arising out of the non-fulfilment of the provisions of such treaties or conventions shall be waived.

Article 21.

Subject to the provisions contained in chapter 1, any bilateral treaties, conventions or agreements of an economic, technical or legal character between Russia and a foreign Power not already denounced shall not be regarded as having lost their force, but their continuance shall be dealt with independently between Russia and the Power concerned.

Section III.—Measures by which the Immediate

Restoration of Russia would be facilitated.

The re-starting at the earliest moment of undertakings of all kinds, which belonged to foreigners before the events of 1917 and the establishment of fresh undertakings, would be of the greatest assistance in bringing about the speedy reconstruction of Russia.

This being so, in the present situation the speedy recovery of Russia would be facilitated by the following:—

Article 22.

Foreigners, who enter Russia to practice their profession, trade, industry or occupation, shall be free to import into Russia such food, apparel and tools as are necessary for their personal use, and these shall not be liable to any kind of requisition.

They may, under the same conditions, import food and apparel for the exclusive use of their staffs or of the workmen whom they employ, whether Russian or foreign. The same shall apply especially to medicines, surgical dressings, &c., which they may need for themselves and for their staff.

Article 23.

The visa of passports by the competent Russian authorities shall confer on holders complete protection by the Russian authorities, and the free exercise of their industry, trade, occupation or profession.

Article 24.

No domiciliary search may be made in the residence or establishment of a foreigner settled in Russia, nor may his arrest be carried out without the assistance or consent of his consul.

In the case of an appearance before a Russian court on a criminal charge, judgment can only be carried out with the consent of the consul concerned.

The only punishment that may be inflicted as a result of a prosecution on political grounds is expulsion, subject to the above condition.

Article 25.

Undertakings belonging to foreigners or directed by them shall be worked under conditions of freedom, including freedom of engagement or discharge of workmen subject only to the application of laws of hygiene, and to conditions of labour in accordance with the general practice of other countries.

In case of need, wages shall be fixed by committees

representing employers and employed.

Article 26.

The acquisition in Russia and abroad of all products and raw material necessary for the restoration of industry and their transport shall be specially facilitated by the Russian Government.

Article 27.

Duties, taxes and other charges on the industry, trade or occupations of foreigners settled in Russia shall not be such as to prevent a reasonable return on invested capital.

Article 28.

Free zones shall be created in a certain number of ports.

Part II.—Restoration of Europe.

The drafting of a convention has not been attempted, but the resolutions are in such a form that their substance could, if it were thought desirable, be embodied in a convention.

The resolutions are arranged in three groups, viz:—

Section I.—Financial.

Section II.—Economic.

Section III.—Transport.

Section I.—Financial Section.

Chapter I.—Currency.

Article 29.

An essential requisite for the economic reconstruction of Europe is the achievement by each country of stability in the value of its currency. No country can gain control of its own currency so long as there is a deficiency in the annual budget which is met by the creation of paper money or bank credits. It is for every country to overcome such a deficiency by its own independent efforts; only then will its way be open to currency reform.

Article 30.

Measures of currency reform will be facilitated if

ments should declare now that this is their ultimate object, and should agree on the programme by way of which they intend to achieve it.

Article 34.

In each country the first step towards re-establishing a gold standard will be the balancing of the annual expenditure of the State without the creation of fresh credit unrepresented by new assets.

Article 35.

The next step will be to determine and fix the gold value of the monetary unit. This step can only be taken in each country when the economic circumstances permit; for the country will then have to decide the vital question, whether to adopt the old gold parity or a new parity approximating to the exchange value of the monetary unit at the time.

Article 36.

These steps might by themselves suffice to establish a gold standard, but its successful maintenance would

the practice of continuous co-operation among central banks can be developed. A permanent association or *entente* for the co-operation of central banks, not necessarily confined to Europe, would provide opportunities of co-ordinating credit policy, without hampering the freedom of the several banks. It is suggested that an early meeting of representatives of central banks should be held with a view to considering how best to give effect to this recommendation.

Article 31.

It is desirable that all European currencies should be based upon a common standard.

Article 32.

Gold is the only common standard which all European countries could at present agree to adopt.

Article 33.

In a number of countries it will not be possible for some years to restore an effective gold standard; but it is in the general interest that European Govern-

be materially promoted, not only by the proposed association or *entente* of central banks, but by an international convention to be adopted at a suitable time. The purpose of the convention would be to centralise and co-ordinate the demand for gold, and so to avoid those wide fluctuations in the purchasing power of gold, which might otherwise result from the simultaneous and competitive efforts of a number of countries to secure metallic reserves. It is suggested that the convention should embody some means of economising the use of gold by maintaining reserves in the form of foreign balances, such, for example, as the gold exchange standard, or an international clearing system.

Chapter II.—Credits.

Article 37.

Whilst private credit will undoubtedly again become available as soon as currencies are stabilised and confidence is restored, it is recognised that under existing

conditions special machinery is necessary for facilitating the immediate co-operation of the economically stronger countries for reconstruction purposes. The negotiations now proceeding for the establishment of an International Corporation are accordingly to be welcomed.

Article 38.

It is essential for countries in need of credits to take steps at once to make their assets available to serve as security for the assistance they require, whether through the proposed International Corporation or through other channels; for this purpose they should enter into consultation at the earliest possible moment with the corporation when established or with other agencies for the purpose of securing such co-operation.

Chapter III.—Exchanges.

Article 39.

One of the chief obstacles in the way of the restoration of trade is the collapsed condition and instability of many of the European exchanges, and this is mainly

due to the continual depreciation of currency, the failure of production for export, and the lack of trade facilities.

The artificial control of operations in exchange, whether by requiring a licence for transactions in exchange or by limiting the prices at which transactions may be effected, or by preventing free dealings in forward exchange, is futile and mischievous.

It is therefore recommended that all regulations of the kind indicated attempting to limit fluctuations in exchange by means of artificial control of exchange operations should be abolished at the earliest possible date.

Article 40.

Within twelve months after substantial progress has been made in the restoration of a country's exchanges any special restrictions imposed on imports from that country on the ground of depreciated exchange should be removed.

Note.—Some of the experts desired to add that the

prohibition of transactions for any specified purposes was equally to be condemned, but others were unable to accept this without the qualification that it was subject to any regulations which may be adopted solely for the purpose of preventing the export of capital.

Section II.—Economic Section.

Chapter I.—Custom Tariffs and Restrictions.

Article 41.

In view of the agreement relative to restrictions and prohibitions signed by the representatives of certain States at the Conference at Porto Rosa (protocol No. 1) in November 1921, it is suggested that those States should adopt the recommendations of that conference and should take the necessary measures to give effect to them without delay.

Article 42.

Inasmuch as the development of normal trade with all countries is only possible where traders are in a position to ascertain some time in advance the condi-

tions under which goods can be legally imported into and exported from each country, it is proposed that any customs duties and customs restrictions incident to importation and exportation should be regulated by the following principles:—

(A.)—Customs Tariffs.

Article 43.

All customs tariffs should be published; such publication should be accompanied by a clear and precise indication in regard to each category of goods of all the duties which are leviable on the importation or exportation of the goods concerned.

Article 44.

The tariffs should be made, so far as possible, applicable over substantial periods of time, and changes in rates and in customs regulations should be made as rarely as possible and duly published, the practice of frequent modification for the purpose of economic warfare being entirely abandoned.

Article 45.

No duties should be maintained or imposed after... on the exports of raw materials other than such duties as are found desirable for revenue purposes; export duties imposed for such purposes should be applied without any discrimination as between different foreign countries of destination.

(B.)—Import and Export Prohibitions.

Article 46.

The system of prohibition or restriction of imports or exports which certain States have introduced temporarily to protect their finances or to control their markets is in principle injurious from the point of view of the economic restoration of Europe. Every country has nevertheless the right, unless precluded by treaties, to prohibit absolutely the importation of goods of certain descriptions in the interests of national health, national security, national morals or for other special purposes, or to allow the importation of specified

commodities only if consigned to recognised organisations either for the purpose of giving effect to a State monopoly or for seeing that the whole importation is put to a specified use, but prohibitions framed for any such purpose should be publicly announced and as limited in extent as possible. Such prohibitions and monopolies should not be used for the purpose of discriminating arbitrarily between different foreign markets or different sources of supply.

Article 47.

Where for any reason it is desired to limit the amount of any commodity to be imported through ordinary trade channels such limitation should be effected by the medium of customs duties rather than by a system of prohibition modified by licences; every Government should at once examine the possibility of abandoning or reducing to the smallest possible dimensions the number of goods to which the latter system is applied, so that the general pre-war position in this

prices at which they are to be purchased.

Article 49.

Similar provisions *mutatis mutandis* to those laid down in articles 46 to 48 should be applied in regard to any restriction of exportation which any Government may find necessary for national security or for the purpose of conserving its economic resources; the licensing system should be such as to allow of no discrimination in regard to the prices at which the goods are to be disposed of.

(C.)—General.

Article 50.

Where the admission or transit of goods of any description into any country or the duties leviable thereon are dependent on the fulfilment of particular technical conditions with regard, for instance, to their constitution, their purity, their district of origin, their sanitary condition, the Governments should come to arrangements with each other providing for the accept-

regard may be attained so soon as possible, and in any case before... save in so far as it has been modified by general international conventions concluded since the outbreak of war.

Article 48.

Pending the complete abolition of the system of prohibition accompanied by licences, licences should be granted on conditions which are publicly announced, unambiguously stated and uniformly applicable. Any trader should accordingly be in a position easily to estimate in advance whether and under what conditions a licence is procurable. Administration should be on the simplest lines possible and every arrangement should be made to secure that applications for licences are dealt with expeditiously by competent bodies organised for the purpose. In the grant of licences there should be no discrimination of any kind in respect of the nationality of the importer, the origin of the goods or their nature, nor should the grant be dependent on the

ance, in accordance with rules and principles mutually agreed, of certificates issued by competent scientific institutions or recognised authorities or bodies in the country of origin of the goods.

Article 51.

The necessary steps should be taken to secure that the preceding provisions should be observed in the letter and in the spirit by all Government authorities, central or local, and that no regulations of an administrative character shall be issued which would conflict therewith.

Article 52.

It is desirable to arrange for enquiry to be made from time to time through a suitable organisation, *e.g.*, the League of Nations, into the progress made by the various States in carrying these principles into operation.

Article 53.

All the Governments concerned should inform immediately the organisation referred to in article 52

of all changes in customs tariffs or in the regulations relating to prohibition or restriction of imports or exports.

Note 1.—In addition to the provisions contained in articles 41-53, a suggestion was considered that resolutions should be submitted to the Genoa Conference for acceptance providing during a certain period for the mutual accord to each other by all the nations represented of the treatment of the most-favoured-nation in customs matters, subject to certain reservations which would be necessary to meet special difficulties. Whilst it was generally recognised that on purely economic grounds some such provision could be welcomed in the present general situation, some of the experts did not feel able to accept the proposals as presented.

Note 2.—The experts have also considered the question of facilitating the use of arbitration clauses in commercial contracts relating to foreign business. They agreed that the question was one calling for careful

Article 55.

It is desirable that, in the matter of passport visa regulations, all countries should at once adopt and put into practice in their entirety the recommendations of the International Conference on Passports, Customs Formalities and Through Tickets held at Paris in October 1920, under the auspices of the Provisional Committee on Communications and Transit of the League of Nations.

Note.—The more important of the Paris resolutions may be summarised as follows:—

- (a.) The abolition of the visa for exit.
- (b.) In general all entrance visas to be valid for one year. The validity of a transit visa to be the same as the period of the validity of the visa of the country of destination.

(c.) The maximum fees charged for visas to be:—

Entrance visa.....10 francs gold.
Transit visa 1 franc gold.

(d.) The transit visa, unless for exceptional reasons (*e.g.*, undesirables), to be issued without enquiry solely upon production of the entrance visa for the country of destination, in addition to transit visas for the intermediate countries.

Chapter III.—Protection of Industrial Property and Copyrights.

Article 56.

It is desirable that all European States which have not already done so should at once take steps to adhere to the International Convention of Paris of the 20th March, 1883, as revised at Washington in 1911, for the protection of industrial property and to the International Convention of Berne of the 9th September, 1886, revised at Berlin on the 13th November, 1908, and completed by the additional protocol signed at Berne on the 20th March, 1914, for the protection of literary and artistic work.

Article 57.

Pending such adhesion, every European State should, in so far as industrial, literary and artistic property is not now reciprocally protected as between itself and other States, give effective protection to such property on condition of reciprocity; and should further—save in so far as such rights have been or shall be dealt with by the Treaties of Peace with Germany, Austria, Hungary, Bulgaria and Turkey—recognise, restore and protect all rights in such property belonging to the nationals of other States which would now be in force in its territory, but for any exceptional legislative or administrative action taken in consequence of war or revolution between the 1st August, 1914, and the present date.

Note.—In the opinion of some of the experts, it is highly desirable that any European State which is not already a party thereto should adhere to the arrangement signed at Madrid

on the 14th April, 1891, for the repression of false indications of origin.

Section III.—Transport Section.

Article 58.

Efficient transport is an essential requisite for the revival of production and trade. It is therefore desirable that States should continue to devote their unremitting efforts to the restoration and improvement of the organisation of their railways, harbours and other means of communication; where necessary, surveys of requirements should be made under adequate expert direction, and where the present resources of any State appear to be inadequate to restore the equipment and structure of these undertakings, including the fuel supply, steps should be taken without delay to secure assistance, whether from the international corporation, when established, or from other suitable sources.

Article 59.

The principles of the Agreement for the Regulation

of International Railway Traffic signed at Porto Rosa on the 23rd November, 1921, should immediately be applied to all the European States represented at Genoa. The Council of the League of Nations should be invited to enquire into the measures already taken to carry the Porto Rosa Agreement and Recommendations into effect.

Article 60.

It is desirable that representatives of the railway administrations of the States concerned should attend a conference to define what further steps are necessary to restore international traffic conditions at least as satisfactory as those existing before the war, and should agree upon recommendations to their Governments.

Similar conferences should be held in regard to water communications and harbours.

It is desirable that favourable consideration should be given to the recommendations of these conferences with a view to their immediate application, or, if neces-

sary, to the conclusion as early as possible of conventions to give effect to them.

Article 61.

The conditions of international transport should not be determined by political considerations, but rather by commercial and technical considerations, as in the case of the conventions concluded at Barcelona on the 20th April, 1921, regarding Freedom of Transit and the Régime of Navigable Waterways of International Concern, together with the additional protocol to the latter convention, and the recommendations relative to the International Régime of Railways. It is desirable that the various other conventions provided for in treaties now in force should be prepared and put into operation as soon as possible.

註 報告書公文省略

九七 四月七日 神野大藏次官ヨリ
植原外務次官宛

ゼノア會議ノ日本關係対露債権係数ニ関スル件

三月二十二日着在倫敦森財務官発高橋大藏大臣宛電報特第二一
号

ゼノア會議準備ニ関スル専門家會議ノ議題ニ供スベキ英国側提
案要領報告ノ件

別紙甲号

特第二一号

(三月二十二日接受)

来ル三月二十日開催セラルベキゼノア會議準備ニ関スル
experts 會議ノ議題ニ供スベキモノトシテ英国側ヨリ内示
セル提案要領左ノ如シ但シ本件ハ当分泌密ヲ要ス

第一、対露經濟財政協約ノ基礎トナルベキ協定条項

一、債務ノ承認

A 国家ノ債務

(一)露国政府ハ前政府ノ発行セルA外国貨幣国債及Bル
ーブル貨幣外国債ニ対スル義務ヲ承認スAノ所持者
ニ対シテハ露国政府ハ其未払利子及今後五個年間ノ
利子ニ相当スル新証券ヲ交付シルーブル公債ハ協定
スル率ニ依リ pound sterling ニ換算ス本協定ハ外
国人ノ所持シ且ソヴェエト政府ノ債務廃棄ノ期日以
前ヨリ所持セルモノニ適用ス

(二)露国政府ハ外国人ニ対スル自治体又ハ公共事業ノ債

一 欧洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 九七

附屬書一

三月二十二日着在倫敦森財務官発高橋大藏大
臣宛電報特第二一号

ゼノア會議準備ニ関スル専門家會議ノ議題ニ
供スベキ英国側提案要領報告ノ件

二 三月二十三日着在倫敦森財務官発高橋大藏大
臣宛電報特第二二号

日本關係対露債権ニ関スル数字通知方稟請ノ
件

三 三月二十三日着在倫敦森財務官発高橋大藏大
臣宛電報特第二三号

日本關係対露債権ニ関スル数字訂正ノ件

四 四月五日高橋大藏大臣発在倫敦森財務官宛電
報會議第一号

日本關係対露債権ニ関スル数字回報ノ件

官房秘丙第四五号

大正十一年四月七日

大藏次官 神野 勝之助(印)

外務次官 植原 正直殿

ゼノア會議ニ関スル件

標記ノ件ニ関シ森財務官ヨリ別紙甲号乙号丙号ノ通來電有
之候ニ付別紙丁号ノ通返電致置候此段及通牒候也

(附屬書一)

務ノ弁済ヲ承認スヘシ其利子ニ付テハ(一)ノA証券ニ
対スルト同一ノ取扱ヲナス

(二)露国政府ハ英国、仏国等ノ政府ニ対スル債務若干額
ヲ承認ス此以外ニ於テハ政府間ニ於テ相互ニ何等ノ
要求ヲナサズ

B 個人間ノ債務

(四)露国政府ハ露国ニ対スル物品、労役ノ供給及露国政
府ノ怠慢ニ基ク個人財産ノ損失ニ関シ賠償仕払ノ義
務ヲ承認ス

(イ)賠償ノ基礎ハ一九一七年十一月七日ノ財産價格ト
シ其後弁済セラレタル額ヲ差引

(ロ)債権者ノ撰択ニ依リ財産ノ回収ニ依ル弁済ヲ受ケ
得回収ノ条件ニ付議纏マラザル時ハ露国債務委員
会ニ附議ス、各国政府モ亦露国民ニ対シ前記同様
ノ賠償ヲナス、但シ各国政府ガ自国民ノ為ニ露国
臣民ニ対シ債務ヲ弁済スル時ハ新露国証券ヲ以テ
スルコトヲ得、他国民ノ當テ利害關係ヲ有セル事
業ニシテ露国国有トナリタル企業ニ付テハ追テ立
案スヘシ

二、債務委員会及混合仲裁裁判所

- (四)、賠償要求及(一)(二)項ニ関スル爭議ハ混合仲裁裁判所之ヲ決定ス露國債務委員会ハ露國及他ノ關係國ヨリノ同數ノ委員及第三國ノ委員長トヲ以テ組織シ混合仲裁裁判所ノ任命(脱字?)債務ヲ新露國債券ニ換算スルコト債券ノ発行等ヲ取扱フ

三、賠償証券

- (六)賠償ニ用フル為メ磅、法等ニテ new bondヲ發行シ決定債務額及之ニ対スル一九一七年十一月以後ノ未払利子及将来ノ利子額ニ対シ交付スヘシ、該 bondハ債務委員会ノ決定ニ依リ償還セラルヘシ

四、

- (六)外國寺院、慈善団体財産ノ恢復ニ関スル規定

五、商業及其他ノ便宜

- (八)領事協定ノ規定
- (九)外國人ノ入國、出國通信商業取引ノ促進手續、身体ノ保護ニ関スル規定
- (十)外國会社ニ対スル商業上其他ノ便宜
- (十一)外國会社又ハ個人ニシテ露國ニ於テ商業ニ従事スル

集中シ各國金準備獲得ノ競争ヨリ生スル金購買力ノ動搖ヲ避クヘシ

二、信用貨幣制度確定シ信用恢復スルトキハ個人信用亦行ハルヘキモ現在ニ於テハ經濟上有力ナル諸國ヲシテ復活ノ目的ノ為メ直接協同セシムヘキ特種機關ノ必要ヲ認ム故ニ

- (一)各國ハ國際会社並ニ國內会社ノ設立計畫ヲ贊シ其活動ヲ援助シ

- (二)信用ノ供与ヲ得ント欲スル國ハ國際会社其他ニ依リ速ニ担保財産ノ提供ニ関シ必要ナル手段ヲ講スヘシ

三、為替

- (一)為替變動ノ人為的制限ハ有害ナリ故ニ速ニ之ヲ廢止スヘシ

- (二)或國ノ為替下落相當程度恢復シタル後ハ其國ヨリノ輸入ニ対スル制限ヲ一箇年內ニ撤廢スヘシ

第三、經濟決議

一、關稅率及制限

- (一)一九二一年十一月 Portosa Conferenceノ決議ノ実行ヲ促ス事

者ニ対スル公平待遇

- (一)露國ノ國際同盟諸協約ヘノ加入
- (二)商業協約ヲ速ニ締結スル協定

第二、財政決議

一、通貨

- (一)歐洲經濟復旧ノ主要條件ハ通貨價值ノ安固ニ在リ然ルニ各國ガ予算不足ヲ補フタメノ紙幣發行借上金ヲ為ス間ハ通貨ノ「コントロール」ハ望ムヘカラス
- (二)通貨改良ノ一策ハ或種ノ銀行間ノ繼續的協力ヲ發展セシムル事ナリ中央銀行(必スシモ歐洲ノ銀行ニ限ラス)ノ永續的結合ハ信用政策ノ協調ヲ促スヘシ
- (三)歐洲各國ノ貨幣本位ヲ共通ナラシムルハ望マシキ所ナリ此ノ為ニハ金本位採用ノ外ナク今日此目的ヲ各國政府ニ於テ宣言スル事利益ナリ金本位ニ復スル為ニ各國ハ予算ノ均衡新貨幣單位ノ設定ヲ企画スヘシ
- 右ノ比価ヲ維持スル方法トシテハ中央銀行ノ聯合ノ外ニ金為替本位ニ基ツク國際協定ヲ結ビ二三ノ國ニ gold centreヲ置キ其他ノ諸國ハ在外預金ノ形式ヲ以テ金準備ヲ維持スヘシ斯クシテ貨幣用ノ金需要ヲ

(一)關稅制限及關稅ノ決定原則左ノ通り

A、稅率及輸入制限表ヲ屢變更セサル事

B、衛生治安風俗上ヨリ絶對的ニ又ハ專賣制度其他ノ目的ヨリ相對的ニ特殊物品ノ輸入ヲ禁止シ得右ノ禁止ハ公示シ又其範圍ハ出來得ル丈ケ制限スル事

C、輸入ヲ制限セントスルトキハ特許制度ニ依ラズ

關稅ニ依リテ行フ事各國ハ特許輸入品範圍ノ縮少ヲ攻究シ戰前狀態ノ復歸ヲ計ルコト

D、特許制度ノ避ケ難キ場合ニハ公平ナル審査委員會ノ下ニ行フ事

E、輸出制限ヲナス必要アルトキハ前述C及Dノ趣旨ニ依リ実行スルコト

(二)右原則ノ適用ヲ確保スルタメ國際聯盟ハ適當ノ機關ニ依リ各國ニ於テモ右原則ノ実行狀態ヲ調査スルコト又各國ハ右機關ニ対シ關稅ニ關スル變更ヲ通知スル事

二、外國人ノ商業行為ニ關スル取扱ニ付テハ外國人及外國会社ニハ內國人ト同一ノ課稅ヲナスコト

三、其他万国工業所有權並ニ文学的美術的著作權保護条約ニ関スル法律上ノ保証及交通ニ関スル決議案アレト

モ省略ス (三月十八日)

(附屬書二)

三月二十三日着在倫敦森財務官宛高橋大蔵大臣宛電報特第二二号

日本關係対露債權ニ関スル数字通知方稟請ノ件

別紙乙号

特第二二号

(三月二十三日接受)

特第一一号第一ノ一ニ関シ本邦關係対露債權左記項目別ニ大体ノ数字至急御通知相成度尚不明ノ分ハ取調ノ上ニテ宜シ

第一、本邦政府所有ト民間所有トニ區別シ

A、露国政府発行ノ外国貨幣証券額

B、ソヴィエト政府債務廢棄宣言以前ニ獲得シ且現ニ所有スル露国政府発行ルーブル証券額

C、露国自治団体並ニ公共事業ニ対スル債權額及之等ノ發行セル証券額

第二、右第一以外ニ本邦政府ノ露国政府ニ対シテ有スル債權額及同政府ニ負フ債務額

ル本邦人私有財産ニ対スル損害額

特第一一号第一ノ(四)ノ(イ)中一九一七年十一月十七日ハ十一月一日ノ誤 (三月二十一日)

(附屬書四)

四月五日高橋大蔵大臣発在倫敦森財務官宛電報會議第一号

日本關係対露債權ニ関スル数字回報ノ件

別紙丁号

會議第一号

貴電特第一二号及第一三号ニ関シ当方ノ調査セル数字左ノ如シ

第一A 本邦政府所有ノ分 (大正十一年三月末日現在)

一、対旧露国政府債權

イ、円払露国大蔵省証券

二四〇、〇五三、〇六七円八〇

右ニ対スル未収入利子額

五三、〇二三、〇二二円九二六

ロ、露国大使支払証明書

四八、八二〇、九六一円四二

右ニ対スル未収入利子額

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 九七

第三、一九一七年十一月十一日以前ニ本邦民間ヨリ露国政府又ハ個人ニ供給シタル物品勞役ノ対価支払未済額及露国政府ノ作為怠慢ニ基キ同日以前ニ生シタル本邦人私有財産ニ対スル損害額

第四、ソヴィエト政府ニ依リ国有化セラレタル露国人ノ企業ニ投資シ居リタル本邦民間當業者アラハ其詳細尚右各項中會議ニ公表ヲ許サザルモノアラハ其ノ旨附記相成度

(三月二十日)

(附屬書三)

三月二十三日着在倫敦森財務官宛高橋大蔵大臣宛電報特第二三号

日本關係対露債權ニ関スル数字訂正ノ件

別紙丙号

(三月二十三日接受)

特第一二号第三ヲ左ノ通り訂正

本邦民間ヨリ

A、勞農政府、前政府、公共団体、会社又ハ個人ニ対スル債權又ハ是等ニ供給シタル物品勞役ノ対価支払未済額但一九一七年十一月一日前後ヲ區別スルコト

B、勞農政府又ハ其 agents ノ行為又ハ怠慢ニ基キ生シタ

八、八一九、一九三円二一一

計

三五〇、七一六、二四五円三五七

本邦民間所有ノ分 ナシ

B 本邦政府所有ノ分

一、対旧露国政府債權

露国政府軍事公債証券 二、七七八、一五〇留九三

右ニ対スル未収入利子額 一六七、二一一留五〇七

計

二、九四五、三六二留四三七

本邦民間所有ノ分 (民間ニ於ケル当初売出額ニシテ現在保有額ハ不明ナリ)

一、……露国政府短期軍事公債

一四、一六九、三五〇留〇〇

二、……露国政府自由公債

三、三二三、〇〇〇留〇〇

計

一七、四八二、三五〇留〇〇

C 本邦政府所有ノ分

一、……西比利亞鉄道財政援助資金

八、〇〇〇、〇〇〇円〇〇

本邦民間所有ノ分

一、……對莫斯科市借款 二二五、一六一円三五
備考右第一、A、Bニ於ケル對露債權ニ對スル未収入利
子額ハ大正十年十月三十一日迄ノ概算調ナリ正確ナ
ル金額ハ調査ノ上追報スヘシ

第二、右第一以外ニ本邦政府ノ露国政府ニ對シテ有スル債
權額及同政府ニ負フ債務額ナシ

第三、A一、軍需品以外對露貿易未決済債權（一九一七年
十一月一日前ノモノ）

三、一〇六、九九〇円〇〇
二三、八七二、九一六留〇〇
三三四、七一二磅〇〇
B一、滿洲里ノ部 九五三、二四二円七六〇
二、黒河ノ部 四〇七、一一一円一二〇
三、武市ノ部 三、五六二、〇二五円七六〇
四、哈府ノ部 一、六六四、〇六六円三六〇
五、「チタ」ノ部 三、四二二、四七三円〇四〇
六、海拉爾ノ部 一六四、六八五円〇〇
七、「ウエルフネ、ウヅンスク」ノ部 八〇四、一五七円三六〇

八、「イルクーツク」ノ部 八四一、三一〇円二〇〇
九、「イマン」ノ部 七、四〇〇、〇〇〇留〇〇〇
十、「ネルチンスク」ノ部 一二六、三七七円四〇〇
十一、「カムチャートカ」ノ部（キジカ） 九九、一四一円三八〇
十二、ニ港ノ部 二八八、九六九円五二〇
十三、歐露各地ノ部 四、六五〇、七八九円六七〇
十四、哈府公共施設損害ノ部 一、八四七、七七〇円五〇〇
十五、哈府武解事件損害ノ部 一二、二二七、八一五留七六
十六、漁業ニ関スル部 六二、九一九磅八志一四片
七、一二九、三三〇円四二〇

計 二五、九七九、二一〇円四九〇
一九、六一七、八一五留七六〇
六二、九一九磅八志一四片

第四、ソヴィエト政府ニ依リ国有化セラレタル露国人ノ企
業ニ投資シ居リタル本邦民間業者ノ有無不明

備考

一、前記第三Bノ分ハ当事者ヨリ随意ニ外務省ヘ届出デ
タル額ヲ計上セルモノニシテ其中ニハ露国側ニ請求シ

得ザル性質ノモノヲ包含スルト共ニ一方右届出以外ニ
モ被害者ナキヲ保セズ要スルニ右ハ大体ノ見当迄ニ申
進スル次第ニ付御含アリタシ
二、尼港事件損害ハ申告アリシ六件分ノミニテ他ノ大部
分ハ未タ申告ナシ殊ニ本件ニ関シ外務省ハ単ニ本邦人
私有財産ニ對スル損害ノミナラズ精神的損害及国家ニ
對スル損害ヲモ併セテ何レカノ機会ニ要求スル意向ナ
ルニ依リ御含相成度

三、西比利亞鐵道援助ニ付テハ前記ノ外同鐵道關係本邦
派遣監督員ノ給与等約二百万円アリ（大正十一年四月
五日）

九八 四月八日 内田外務大臣ヨリ
在ゼノア經濟財政會議代表宛（電報）

露国政府ノ貸借對照表ニ掲記スベキ日本政府
ノ債權ニ関スル件

第二号

大藏大臣ヨリ森財務官ヘ

貴電第一五号ニ関シ

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 九八

D、西比利亞鐵道財務援助資金

右換算邦貨（但一留一円〇三二ノ割）

二、八六七、〇五一円七五九

二、八〇九、四八一留二六

C、露国政府軍事公債証書

四八、八二〇、九六一円四二

B、露国大使仕払証明書

二四〇、〇五三、〇六七円八〇

A、円払露国大藏省証券

二、貸借對照表ニ掲記スヘキ露国政府ニ對スル我政府ノ債
權左ノ如シ但シ未払利子ハ追報ス

一、「ゼノア」會議準備委員會決議報告案中一九一四年八
月一日ヨリ一九一七年十一月七日迄ノ間ニ露国政府ニ政
府ヨリ貸付ラナシタル国ノ銀行ニ露国政府ノ預金殘額ア
ルトキハ之ヲ其国ノ政府ニ引渡シ其金額ノ範圍ニテ貸付
額ト相殺スルノ規定アルニ付林大使宛外務大臣發電第三
号ノ露国政府ノ資金中横浜正金銀行保管ノ分モ本邦政府
ノ對露国政府貸借對照表中ニ政府所有露国大藏省証券ト
相殺ノ目的ヲ以テ掲記セラレ度

(イ)聯合委員會經由支出ノ分

八、〇〇〇、〇〇〇円

(ロ)直接支出ノ分

一、五八五、〇七八円一二五
計 三〇一、三二六、一五九円一〇四

A、ニハ帝國政府カ旧露國政府軍需品代金支払ノ為引受ケタルモノ二二一、六六七、〇〇〇円ト民間軍需品供給者ヨリ帝國政府ノ買上ケタルモノ一八、三八六、〇六七円八〇錢トノ兩者ヲ包含シ後者中ニハ更ニ右買上期日ニ於ケル未払利息一二四、一〇一円三四錢ヲ包含ス故ニ真正ノ額面金額ハ二三九、九二八、九六六円四六錢ナリ

B、ハ露國政府ニ対スル我政府ノ債權ト認ムヘキ形式ヲ具備スルモ全部民間軍需品供給者ヨリ帝國政府ノ買上ケタルモノニシテ買上期日ニ於ケル未払利息八六五、〇七七円一七錢ヲ包含ス証明者ハ本邦駐劄露國大使又ハ商務官、大使館附武官等ナリ

C、モ亦全部民間軍需品供給者ヨリ帝國政府ノ買上ケタルモノニシテ証書金額前記ノ如クナルモ帝國政府ノ買

上價格ハ一、〇〇〇、〇七一円九四〇ナリ而シテ買上期日ニ於ケル未払利息三五、〇八一留二六哥ヲ包含ス(森財務官宛大藏大臣發電、會議第一号第一(B)一、露國政府軍事公債証書ノ金額誤算アリ前記ノ如ク訂正ヲ要ス又同未収入利子ハ円ノ誤從テ計ヲ削除相成度)

D、ハ列國トノ協定ニ基キ支弁シタルモノ

以上ノ外露貨預金証書四、八〇二、二七八留一六哥政府買上價格邦貨二、〇八一、八四六円〇二錢アリ預金証書所有者ハ本邦個人ニシテ銀行ハ浦塩松田銀行ナレハ露國政府ニ対スル我政府ノ債權ト認ムヘキ形式ヲ具備セサルモ右本邦個人カ右預金証書ヲ取得シタル原因ハ露國政府ニ対スル軍需品供給ナルニ依リ可然御措置相成度

三、帝國政府ノ露國政府ニ対スル債務ナシ然レトモ準備委員會報告第一編第一款第六條ニ依レハ対独平和条約第一一六條ノ規定ニ抵触セサル限りニ於テ第五條ニ定ムル差引額ニハ露西亞國民カ敵國ノ陸海軍軍行動又ハ其他同性質ノ行動ヨリ直接ニ受ケタル損失及ヒ損害ニ対スル一切ノ請求及ヒ其他第五條ニ定ムル一覽表採用ノ時ニ於テ確定セル一切ノ請求ヲ加フヘキコトトナリ居レルヲ以テ林

大使發電第二一一号(四)ニ述フル如ク露國側ヨリ西北比利亞ニ於ケル我行動等ニ関シ種々ナル對抗要求ヲ提出スヘキコト疑ヲ容レス然ルトキハ之カ對抗策トシテ我方ヨリ尼港事件損害ヲ一覽表ニ掲グルニ非サレハ後日之ヲ勞農政府ニ請求スルコト至難ト察セラル就テハ大藏大臣發森財務官宛電報會議第一号第二及備考二ノ次第アルニモ拘ハラス此際尼港事件損害額ヲ一覽表ニ計上スルコトヲ有利トセズヤ

四、日露貸借対照表ニ計上スヘキ金額ノ四月十日迄ノ利息目下計算中但前記二ニ述フル如ク未払利息ノ一部ハ債權額中ニ包含セラル

九九 四月十九日 在ゼノア經濟財政會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

聯合國代表者ヨリ勞農露國外相ニ交付セル覺書ニ対シ我方ガ留保ヲ為セル旨報告ノ件

第五三号 (四月二十日接受)

往電第二九号ニ関シ

露國問題ノ紛糾ハ英、仏、伊、白ト露國間ノ關係ニ局限ス
一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 九九

ルヲ得ザルニ至リ且十七日ノ內協議會ヨリ日本代表者モ出席協議ニ参加スル事トナリタル事情ハ往電第四三号及第四七号ニテ申進シタル通りニシテ貴電第一一号ノ御趣旨モ右情勢ノ下ニ尽力スベキ考ナリ

然ル処(一)「ソヴェエト」政府ノ對聯合國要求ノ拒絕(二)對露戰時政府債權ノ一部放棄並 Financial claims ニ對スル利息支払ノ延期及延滞利子ノ一部免除(三)外國々民ニ對スル Debts 及 Financial obligation ニ関シテハ露國ニ減額ノ特

典ヲ与ヘザル件ニ関シ英、仏、伊、白ノ四國代表者ハ日本代表ノ同意無クシテ別電第五四号ノ如キ覺書ヲ作製シ四月十五日「チチュリン」ニ交付シタル事十七日五國相談會ノ席上ニテ判明セリ右覺書ハ總テ債權者タル聯合國政府ヲ主格トシテ作製シタルガ故ニ(恰モ日本政府モ既ニ承諾シタルガ如キ外觀ヲ呈シ甚不都合ニ付)早速前記四個國代表者ニ対シ(一)該覺書ハ日本代表ノ承諾無クシテ露國側ニ交付セラレタルモノナル事(二)日本ハ露國ニ對シ約十億金貨法ノ債權者タルガ故ニ日本全權ハ本國政府ニ諮ラズシテ該債權ノ全部又ハ一部ノ放棄ニ同意スル事能ハザル事(三)右事情ニ基キ日本全權ハ日本ノ関スル限り該覺書ノ趣旨ニ賛同スルヲ

得ズシテ玆ニ留保ヲナス旨ヲ公文ニ認メ三全權署名ノ上十八日之ヲ議長「ファクタ」ニ手交シ其写ヲ英、仏、白代表者ニ手交セリ

前記覚書ニ対スル説明書並我方留保ノ結果ニ関スル卑見後電ス

在欧米各大使へ転電シ、在欧各公使へ郵送セリ

一〇〇 五月六日 在米國佐分利臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

諸新聞ハ米國銀行家ノ对独借款応諾ニ異議ナ
キ旨ノ大統領意向ヲ伝ヘタル件

第二七〇号 （五月七日接受）

五月六日新聞報

一、諸新聞ハ「モルガン」ノ渡欧ニ關聯シ「ホワイト、ハ
ウス」ヨリ出デタル所トシテ大統領ハ米國銀行家ガ对
独借款ニ応ズルコトニ異議ナク歐洲ノ經濟狀態回復ニ
ハ米國銀行家ノ投資ガ最モ有効ナルベシトノ意見ナル
旨ヲ伝フ

二、五日北京発A・P其他ノ電報ハ吳軍ノ大捷ヲ報シ之ニ
關シ三四ノ新聞ハ吳ノ成功ヲ喜ブノ趣旨ノ論說ヲ掲ゲ

及独逸へ転電アリタシ

尚貴電第二七〇号モ紐育ゼノア及独逸へ転電アリタシ

一〇二 五月十一日 在米國佐分利臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

米國閣議ニ於テ議セラレタルゼノア會議及露

國問題ニ關スル各通信員ノ報道振報告ノ件

第二八一号 （五月十二日接受）

九日ノ閣議ニ於テ國務長官ヨリ「ゼノア」會議ニ關スル報
告アリ延テ露國問題ノ審議アリタル由ナルガ右ニ付各通信
ノ報ズル所ヲ綜合スルニ大要左ノ通

一、米國政府ハ大体ニ於テ「ゼノア」會議ノ露國問題ニ関
スル提案ハ同政府ノ意見ニモ合致セリト認メ居レリ又
「ゼノア」會議ガ勞農政府ノ承認ニ対シ國際上ノ義務ノ
履行ヲ条件トシタルコトニ同意見ナリ

二、從來通り「ゼノア」會議ニ干与セザルコト及露國ガ國
際的義務ヲ承認シ且昨年三月ノ米國政府ノ声明ノ通り露
國自ラ其ノ内部整理ノ実ヲ挙グルニアラザレバ承認セザ
ルコトニ閣議決定ス

三、米國政府ハ露國問題ニ付「ゼノア」會議ガ満足ナル結

一 歐洲復興及賠償問題ニ關スル諸會議開催ノ件 一〇二 一〇三 一〇四

居レリ

一〇一 五月十一日 内田外務大臣ヨリ
在米國佐分利臨時代理大使宛（電報）

歐洲復興問題ニ対スル米國側ノ態度ニ關シ貴
官ノ觀測提示方訓令ノ件

第二四二号

貴電第二七〇号其他貴方面ヨリノ報道ヲ綜合スルニ歐洲復
興問題ニ対スル米國側ノ態度ハ近来漸次變転ノ模様アルヤ
ニ見受ケラルル処申ス迄モナク米國ノ態度如何ハ復興事業
ノ成否ニ多大ノ影響アルハ勿論本問題ニ対スル帝國ノ政策
決定上特ニ重要ノ關係ヲ有スル次第ニ付

(一)独逸方面投資ニ關スル米國財界ノ意気込並具體的計画
(二)對露財政援助及利源開發ニ關スル米國朝野ノ意向並具體
的計画ノ有無

(三)米國財業者ハ歐洲復興會社ニ対シテハ依然参加ノ意向ナ
ク独立シテ活動セントスルモノナリヤ否ヤ

(四)聯合國間戰時債務整理問題ニ対スル米國側ノ態度
等ニ關シ此ノ際貴官ノ御觀測取纏メ電報アリ度シ

右訓令トシテ在紐育總領事ニ転電シ參考トシテ「ゼノア」

果ヲ見ザル咄ニハ從來通り独立シテ對露方針ヲ定ム可シ
「ゼノア」ニ転電シ各大使ニ転電セシム

一〇三 五月十二日 内田外務大臣ヨリ
在ゼノア經濟財政會議代表宛（電報）

露國問題ニ対スル我態度ニ關スル中外商業社

說通報ノ件

第五三号

十二日中外商業社說大要

ゼノア會議ニ於ケル露國内外人財産返還問題ハ愈々重大ヲ
加ヘ来レリ我態度ハ慎重ナルヲ要ス露國問題ノ解決ハ世界
人類ノ恒久的福祉ニ至大ナル關係ヲ有ス我國モ飽マデ列國
ト協調ヲ保チ全局ノ利害ニ顧ミテ進ムコトヲ要ス但シ如何
ニスルモ協調デキズ各國自由行動ニ出ヅルノ余儀ナキニ至
レル場合ニハ万已ムヲ得ズ我國モ特殊ノ方針ニ基キテ行動
セザルヲ得ザルベク其対策ハ今ヨリ講研シ置カザルベカラ
ズ

一〇四 五月十六日 在米國佐分利臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ゼノア會議ニ於ケル露國問題ヲ論評セル紐育

タイムス記事ノ大要報告ノ件

第三〇〇号

(五月十八日接受)

五月十四日紐育タイムスハ華府特電トシテ大要左ノ記事ヲ掲載シ居レリ

「ゼノア」會議ニ対スル当地政界ノ觀察点最近注目スヘキモノアリ過日大統領ガ「ゼノア」會議ノ露国問題ニ対スル措置ハ大体ニ於テ当国政府ノ方針ニ合致シ居ルコトヲ非公式ニ述ベタルコト(往電第二八一号参照)及銀行家「ヴァンダリッブ」ガ露国ノ共產主義ト爾余ノ諸国ノ資本制トハ到底調和スルコト能ハザルモノナル故「ゼノア」會議ハ失敗ニ終ルベキモノナリト述ヘタルコト即チ之ナリ而シテ此ノ二箇ノ觀察ハ米國ガ「ゼノア」會議ヨリ離レ露國ガ自ラ建設的改革ヲ行フ迄忍耐持久シ居ルコトノ誤ラザルヲ裏書スルモノナリ而シテ「ゼノア」會議ハ仮令実効ヲ收メズシテ終了ストスルモ問題ノ真相ヲ明ニシ諸國ノ對露政策ヲ夫々合致セシムル丈ノ効果ハ之アリト云フベシ即チ結局各國ハ米國ノ監視ノ政策ヲ採用シ露國人民ノ將來ニ同情シ確實ナル合理ノ政府ノ建設セラルル迄過激派ニ對シテハ正式交渉ヲ避ケ且之ニ援助ヲ与ヘザルノ外ナカルヘシ尚「ゼノ

府及國民ノ同情ヲ公表シタル後別電第三〇二号ノ通参加ヲ拒絶シ居レリ

(別電)

五月十六日在米國佐分利臨時代理大使發内田外務大臣宛電報第三〇二号

海牙會議招請ニ對シ米國ノ回答

第三〇二号

This government however is unable to conclude that it can helpfully participate in the meeting at the Hague, as it would appear to be a continuance under a different nomenclature of the Genoa conference and to be destined to encounter the same difficulties if the attitude disclosed in the Russian memorandum of May 11 remains unchanged.

An inescapable and ultimate question would appear to be the restoration of productivity in Russia, the essential conditions of which are still to be secured and must in the nature of things be provided within Russia herself.

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一〇四

ア」會議ノ唯一ノ具體的成果タル露独條約ニ関スル消息通ノ觀察ニ依レハ露國ハ之ニ依リ他國ヲシテ恐怖セシメ妥協ヲ早メシメントノ魂胆ニ出デ又独逸ハ露國ノ經濟ヲ独占セムトシ會議ニ於テ「スチンネス」案ノ承認ヲ期待シ居リタルモ其望ナキヲ知ルニ至リ单独條約ヲ締結シタルモノナリ然レトモ米國ハ露独條約ニ對シ何等不安ヲ感ズルモノニアラズ何トナレバ独逸ハ目下經濟上困難ニ到底露國ニ對シ其地歩ヲ確立スルノ余裕ナキノミナラズ独逸ノ資本主義ハ共產制ノ下ニ於テハ他國ト同様ノ障礙ニ遭遇スレハナリ「ゼノア」ニ転電シ英仏独ヘ郵送ス

一〇五 五月十六日

在米國佐分利臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

海牙會議ノ招請ニ對シ米國政府參加拒絕ノ件

別電

同日在米國佐分利臨時代理大使發内田外務大臣宛電報第三〇二号

海牙會議招請ニ對シル米國政府ノ回答

第三〇二号

(五月十七日接受)

米國政府ハ海牙會議ノ招請ニ関スル回答文ヲ公表セリ右回答文ハ冒頭ニ於テ露國民並露國ノ經濟回復ニ對スル米國政

While this government believes these conditions reasonably clear, it has always been ready to join with the governments extending the present invitation in arranging for an inquiry by experts into the economic situation in Russia and necessary remedies. Such inquiry would appropriately deal with the economic prerequisites of the restoration of production in Russia without which it would appear to be lacking any sound basis for credits.

It should be added that the Government is most willing to give serious attention to any proposals issuing from the Genoa conference or any later conference; but it regards the present suggestions in the apparent response to the Russian memorandum of May 11 as lacking in view of the terms of the memorandum, in the definiteness which would make possible the concurrence of this government in the proposed plan.

一〇六 五月十九日

在米國佐分利臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

米國ガ海牙會議參加拒絕ニ至レル事情ニ関ス
ル消息通ノ説明報告ノ件

第三〇九号

(五月十九日接受)

往電第三〇一号米國政府ノ回答ニ関シ消息通ヨリ聞ク処ニ依レバ最初在伊米國大使ヨリ仏國側ガ露國委員會ニ米國ノ加入ヲ要望スル旨ノ報告アリ其際委員會ハ単ニ經濟上ノ問題ヲ議スルモノト解セラレタルヲ以テ國務長官ハ在伊大使ニ政府ハ同委員會ニ同情ヲ有スル意味合ヒノ回答ヲ發シタリ夫レガ為在伊米國大使ハ米國政府ノ參加ガ有望ナル趣旨ノ「ステートメント」ヲ出シ且當國新聞ニ現レタル「ゼノア」通信モ概シテ米國ノ參加ニ付樂觀的口吻ヲ帶ビ居タリシ処其後當國政府ハ海牙會議ニ關スル正式ノ招請ニ接シ始メテ当初考ヘ居タル所トハ相違シタル事ヲ知り取急ギ參加拒絕ノ回答ヲ發シタル次第ナリト云フ又大統領ハ十六日ノ新聞記者接見ノ際一記者ガ米國政府ノ回答ハ露國問題ニ對スル米國ノ參加ヲ全然排除スルモノナリヤトノ意味ヲ質問セルニ對シ Door is still open ト明カニ答ヘタルガ右ハ大

ルハ却テ露國復興ノ障害ヲ為スモノナリ

二、海牙會議ヲ専門家ノ委員會ト呼フモ十一日ノ露國回答ヲ基礎トシ露國問題カ議セラルル以上「ゼノア」會議ト同ジコトヲ繰返スニ過ギス

三、米國政府ハ露國經濟事情ニ關スル科學的審査ノ委員會ニ獨露委員ヲ加フルコトニ反對セズ但シ露國委員參加ノ前提條件トシテ露國側カ十一日ノ回答ヲ撤回スルヲ要ス又右委員會ニ米國政府カ參加スルトスルモ政治問題ヲ討議セズト云フ明瞭ナル諒解ヲ要ス右二個ノ條件カ充塞セラレザル以上米國ハ參加セザルヘシ

四、米國政府ハ露國ノ實情ニ付比較的正確ナル知識ヲ有スト信ズルモノナルガ他ノ諸政府ト共ニ一致シタル意見ヲ得ルガ為前記審査委員會ヲ設置スルニ賛成スルモノナルコト尚同委員會審査ノ結果ハ露國ノ經濟復興ニ對スル主タル障害ハ勞農主義ナルコト明瞭トナルベキヲ信ス

五、露國側カ十一日ノ回答ニ宣明セル主張ヲ捨テザル限り露國財政援助ハ問題トナラズ米國議會ガ現在ノ露國ニ對シ一仙タリトモ金ヲ貸サザルベキハ勿論他ノ諸國モ枯渴セル財政状態ニ鑑ミ政府トシテハ露國借款ニ応スヘキ地

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一〇八

統領ニ於テ米國ハ全然手ヲ引キタルニ非ズ場合ニ依リテハ何等カ措置ヲ執ルノ意アル事ヲ世間ニ知ラシメントノ趣旨ニ出デタルモノト解セラルト言ヘリ
右參考迄

「ゼノア」及在歐洲各大使ヘ転電セリ

一〇七 五月二十日

在米國佐分利臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

米國國務長官ガ同國ノ海牙會議不参加ニ関シ
新聞記者接見ノ際与ヘタル説明ノ大要報告ノ
件

第三一六号

(五月二十一日接受)

「ゼノア」ニ於テハ米國政府ヲ海牙會議ニ引込マントシ招請國代表者中ニハ今尚米國參加ヲ断念セザル模様有ルヨリ當國政府ハ此ノ上ノ誤解ヲ避クル為十七日在英米國大使ニ對シ更ニ詳細ナル訓令ヲ發シタル趣ニテ右訓令ハ發表セラレザルモ右ニ關シ十八日新聞記者接見ノ際國務長官ノ与ヘタル説明ナリトシテ新聞紙ノ報スル所大要左ノ通

一、海牙又ハ其ノ他ノ土地ニテ「ゼノア」會議ヲ繼續シ勞農政府ヲシテ此ノ上其ノ承認並外國ノ放資ヲ夢想セシム

位ニ非ズ從テ露國財政援助ハ結局銀行借款ニ依ル外無キ処一般資本家カ投資ノ保障無クシテ之ニ応ゼザルベキハ謂フヲ俟タズ露國經濟復興ノ事業ハ大規模ニ為スヲ要スヘキ処 Gruppe 会社カ耕作作用トシテ南露ニ五万「エーカー」ヲ買入レタリト云フカ如キ小規模ノモノハ必ズ失敗ニ終ルヘシ云々

「ゼノア」及在歐各大使ニ転電セリ

一〇八 五月二十七日

在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

海牙會議ニ對スル仏國ノ態度ニ關シ同國首相
ノ談話報告ノ件

第三九四号

(五月二十八日接受)

二十七日「ボアンカレ」氏ニ面会シ時局ヲ談ゼルガ本使ノ問ニ對シ彼ノ答フル要領左ノ通

一、「ゼノア」會議ハ露國問題以外ニ經濟財政交通ニ關スル事項アリタル為多少ノ効果ヲ収メ得タリト云フヲ得ベケンモ海牙會議ハ對露問題ノミナレバ此点ニ失敗セバ何等得ル所ナシ

二、「ゼノア」會議ハ兎モ角「カンヌ」決議ヲ基礎トスル

ヲ得タルモ海牙ニハ何等抛ル可キ根拠ナシ確實ノ基礎アリテサヘアノ始末ナルヲ思ヘバ海牙會議ノ結果思遣ラル三、故ニ我ニ多少ノ希望ヲ持タシムル事実起ラザル限り仏國ハ海牙ニ委員派遣ヲ躊躇セザルヲ得ズ余ハ最終決心ヲ取ル前一応議會ニ諮ル可キモ議會ハ多分委員派遣ニ反対スルナラム

四、最近「ジュスラン」大使ヲシテ米國國務卿ノ意見ヲ問ハシメタルニ國務卿ハ「ソヴィエト」政府ガ「ゼノア」會議ニ於ケル態度ヲ全然放棄セザル限り如何程勸誘ヲ受クルモ米國ハ決シテ對露交渉ニ参加セズト言明セリト云フ五、所謂國際公債ニ関シ米國銀行家ハ応募ノ意向十分ナルモ成否ハ伯林ノ態度ニ懸ル伯林ニテハ藏相ト外相ト反目ノ關係有ルノミナラズ「ウィルト」内閣ガ痛ク信望ヲ落セルニ付前途何トモ言ヘズ

六、五月三十一日ハ迫リ来リタルモ前段ノ始末ニテ時局ハ逼迫セリ仏國ハ決スル所アリ静ニ發展ヲ俟ツノミ云々在歐米各大使ヘ転電シ在欧洲各公使ヘ郵送セリ

一〇九 五月二十七日

在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

於テ虐待セラレ排除セラレタル兩國ガ互ニ密接ニ提携スルハ自然ニシテ技術的能力ヲ有スル独ト資源ニ富メル露トノ結合ノ結果ハ誠ニ恐ルベク吾人ハ独逸ヲ軍事のニ無力ト為シ得ルモ露國ノ武裝ヲ解除スルコトヲ得ザルヲ知ラザルベカラズ

茲ニ於テ吾人ハ屬領代表者ト協議ノ結果露國救援ノタメ「ソヴィエト」ト交渉スベシトスル第三法ニ依ルノ外ナシトノ結論ニ達シ交渉ヲ進メタルモ財産沒收ト革命前ノ債務不承認ノ問題難關トナレル結果仏白伊英ト「ソヴィエト」

ト内談ヲ遂ゲ且数次ノ往復ヲ経テ同四國ハ就中其對露債權ヲ輕減(?)スルコトヲ承諾シ「ソヴィエト」亦其主張ヲ緩和シタルガ五月一日以來露國側ハ俄然其態度ヲ改メテ極メテ強硬トナリ此二点ヲ神聖ナリト固執シテ動カザルニ至レリ是實際ヲ知ラザル空論者流ノ説行ハレタルガ為ニシテ彼等ノ意見ハ全人口ノ一割ニ滿タザル過激ナル都市労働者ノ意見ニ過ギザルモ「ソヴィエト」ハ之ヲ基礎トスル寡頭政治ナルヲ如何セン然リト雖モコハ主義上ノ難關ニシテ實際上ノ難關ニ非ズ海牙會議ハ正ニ此實際の方面ヨリ露國問題ヲ解決スベク主義ノ問題ハ既ニ「カンヌ」ニ於テ決定セ

ゼノア會議ニ関スル英國首相ノ報告演說中露國問題ヲ論ジタル部分ノ要領報告ノ件

第三三〇号 (五月二十八日接受)

往電第三二二号ニ関シ

五月二十五日首相「ゼノア」會議報告演說ハ冒頭對独賠償及對仏問題ハ之ヲ論ザルト前提シ次デ會議ノ目的及各委員會ノ為シタル事業ヲ略述シ最後ニ詳シク露國問題ヲ論ジタルモノナルガ其ノ要領左ノ如シ

露國ノ窮迫セルコト露國ノ復興ハ外國ノ援助ニ俟タザルベカラザルコト及同問題ハ之ヲ現在政權者タル「ソヴィエト」ト交渉スルノ外ナキコトノ三点ハ吾人ノ第一ニ知ラザルベカラザルトコロナリ又本問題解決ハ第一武力使用第二無承認第三「ビット」ノ政策(或ハ政府ノ主義行動ノ慘忍ト否トハ之トノ間ニ關係ヲ有スルコトヲ妨グルモノニアラズトノ政策)遂行ノ三法ヲ出デザルガ右ノ内第一ハ何人モ之ヲ「ゼノア」ニ於テ提議シタルモノナク第二ニ関シ若シ露國ヲ放任セバ彼ハ愈々極端ナル共產主義の若クハ軍國的団体トナルベク斯ノ如クシテ如何ニ歐洲ノ平和ヲ確保スルヲ得ベキカ此ノ点ニ就キ考慮スベキハ露独協約ナリ會議ニ

ラレタルヲ以テ之ヲ議スルノ要ナシ聞ク所ニ抛レバ沒收財産ノ回收若クハ補償(「コンセッション」等ノ形ニテ)ノ如キモ實際の見地ヨリ觀察スレバ案外容易ナリト云フ信用供与又海牙ニ於テ議スベキ事項タルベク又此實際の解決法亦決シテ難事ニ非ズト思考スルモ此間吾人ハ歐洲ノ紛擾ヲ防止スルヲ必要トス然ルニ各國ガ他ヨリノ侵略ヲ惧レ兵ヲ擁スル限り各國間ノ紛争ハ絶ニルコトナカルベシ是非侵略協定アル所以ナリ海牙會議成功セバ國境問題次デ確定スベク斯クテ歐洲ノ平和ハ始メテ到来スベシ

予ハ「ゼノア」會議ヲ終局のニ成功スベシト云フモノニ非ザルモ既ニ大事業ヲ成シタリト云フヲ憚ラズ同會議ニシテ失敗センカ歐洲ノ状況慘タルモノアラン

一一〇 五月三十日

在米國佐分利臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

海牙會議招請ニ對スル米國拒絕ノ経緯ニ関シ
國務長官及英仏兩國大使ノ為シタル談話報告ノ件

第三三九号(大至急)(極秘) (五月三十日接受)

米國政府ハ海牙會議招請ニ對シ不参加ノ回答ヲ發シタルモ

右回答中ニハ露国經濟狀態審査ノ為諸国ト協力スルノ意アルコトヲ示シ又其後ニ於テモ果次ノ拙電ニ依リ御承知ノ通新聞紙上時々米国政府ガ或種ノ会合ニ参加スルノ意アル旨ヲ報道スルノミナラズ一二有力ナル新聞記者トノ会談及大統領秘書ノ内話等ニ徴シ大統領自身ハ歐洲ノ會議ニ色氣アルモ「ヒューズ」「フーヴァー」ニ掣肘セラレ居ルヤノ疑モアリ旁々此際事態ヲ明瞭ナラシムル為五月二十五日午前國務長官ニ同日午后英國大使ニ越エテ二十七日午後仏國大使ニ会談シタル処其要点ハ左ノ通ニシテ米英仏三国ガ差当リ本件ニ関シ如何ナル諒解ヲ有シ又如何ナル立場ニ在ルヤヲ知ル為御参考ノ一端ト相成ルベシト思考スルニ付報告ス一、國務長官トノ会見

「ヒューズ」氏ハ米國ハ最初仏國ノ問合ニ対シ好意的の回答ヲ為シタルモ其後正式ノ招請ニ接シテ會議ノ性質全ク予期ニ反セルコトヲ知り参加ヲ拒絕シタル次第ナルガ米國政府ノ立場ハ海牙會議招請ニ対スル回答發送後五月十七日「チャイルド」大使ニ宛テタル訓令中ニ詳細説明シアリトテ右訓令ヲ読ミ聞カセタルガ其内容ハ往電第三一六号新聞所報ト大同小異ナリ(訓令ハ發表セザルモノナ

ルモノナリト答ヘタリ

二、英國大使トノ会見

「ゲデス」大使ハ海牙會議問題ニ付事態ノ混乱ヲ来セルハ全ク「チャイルド」外一二者ガ誤ツテ「ロイド・ジョージ」其他ニ誤解ヲ与ヘタルニ起因ス右ニ関スル自分ノ意見ハ八日許前英國首相ニ宛タル長文ノ電報ニ尽シアリトテ之ヲ讀ミ聞カセタリ

右ハ同大使ト國務長官トノ会見ノ内容ヲ詳細ニ記述シタル上同大使ノ意見ヲ加ヘタルモノニシテ要スルニ海牙會議招請ノ附屬書ニ記載セル事項ハ何レモ「ヒューズ」氏ノ反対スル所ニシテ同氏ハ「ゼノア」會議カ露国政府承認問題及對露借款問題ニ重要ナル地位ヲ与ヘタル為漸次衰勢ニ赴カントスル露国政府ニ対シ新ナル勢力ヲ加ヘタルモノト認メ同會議ノ結果ニ対シ全然不満足ノ意ヲ表セルコトヲ伝ヘ且同大使ノ意見トシテ「ヒューズ」氏ガ國務長官タル間米國ガ「ソヴィエト」政府ト共ニ會議ニ参加スルコト絶対ニ無之カルヘキ旨ヲ断定シ居レリ

本官ハ然ラバ米國政府参加ノ問題ハ今日ニ於テモ最早存在セズトノ大使ノ意見ナリヤト念ヲ押シタルニ其ノ通ナリト

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一一〇

レドモ本官一個ノ參考迄トシテ摘要ヲ國務長官ヨリ貰受ケタルニ付本件ニ関スル部分ヲ為念別電第三四〇号ニテ電報ス)

右ニ対シ本官ハ米國政府ガ海牙會議ニ参加スル為ニハ先ヅ露國ガ五月十一日ノ覺書ヲ撤回スルコト又審査事項ハ全然經濟的ニシテ農業工業交通等ノ狀態ヲ攻究スルニ止ムルノ必要アル処本件ニ付テハ諸國政府トノ間ニ其後何等交渉アリタルヤト質問シタルニ「ヒューズ」氏ハ諸國ハ右米國政府ノ意見開示ニ拘ラズ当初ノ予定ノ通ニ事態ヲ進行セシメタルモノニシテ其後今日迄何等新ナル發展ナシト答ヘタリ次ニ本官ハ米國政府ハ露國ノ実情ニ付明瞭ナル知識ヲ有スト信ジ居ラルル趣ナルガ米國政府ニ於テハ遠カラザル将来ニ於ケル「ソヴィエト」政府ノ没落ヲ予見セラレ又ハ然ラザルモ露國現政府ガ漸次ニ共產主義ヲ棄ツルニ至ルベシトノ見据ヲ付ケ居ラルルガ如キコトアリヤト質問シタルニ(政府当局ニ於テ斯カル意見ヲ有スル旨予テ仄聞シ居リタルニ付此機會ニ於テ質問シタルナリ)「ヒューズ」氏ハ露國政治上ノ将来ヲ予想スルハ容易ノ業ニ非ズ米國ガ露國ノ事情ニ付知識ヲ有スト言ヘルハ単ニ經濟上ノ事情ヲ意味ス

答ヘ更ニ本官ヨリ大統領ハ新聞記者トノ会見ニ於テ動モスレバ米國ノ参加ガ尚問題トナルガ如キ口吻ヲ漏セルニ付テハ如何ナル感想ヲ有セラルルヤト質問セルニ対シ大使ハ大統領ノ言辭ハ常ニ曖昧ニシテ實際会见ニ列セル者ヨリ親シク現場ノ実情ヲ聞キテモ曾テ要領ヲ得タルコトナキニ依リ大統領ノ言ニハ全ク重キヲ置カズト答ヘタリ

三、仏國大使トノ会見

「ジュスラン」氏ハ本官ノ問ニ答ヘテ海牙會議正式招請ニ先ダチ仏國政府ガ同氏ヲ通シテ米國政府ノ意嚮ヲ問合セタルニ対シ國務長官ハ明瞭ニ賛意ヲ表シタルノミナラズ米國政府ハ今日ニ於テモ依然其ノ提唱セル条件ニ合スル會議ニハ参加スルノ意思ヲ有スル次第ニシテ自分ハ現ニ昨二十日朝「ヒューズ」氏ト会见シタル後其ノ意味ヲ本國ニ報告セリト謂ヘリ本官ハ更ニ仏國政府ニ於テハ海牙會議ノ性質ヲ變更シテ米國ヲ参加セシメムト試ミ居ラルル次第ナリヤト問ヘルニ大使ハ直ニ言ヲ挿ンデ仏國政府自身未ダ海牙會議ニ対シテ承諾ヲ与ヘ居ラズ仏國政府ハ「ソヴィエト」政府ト共ニ海牙會議ニ列スルヲ欲セザルコト等ニ関シ米國政府ト意見ガ一致スル次第ナリ但兩國ガ何等協同的行動ニ

出ヅルハ米國政府ノ欲セザルトコロナリト言ヘリ
尚本官ヨリ往電第三七七号ノ三「紐育トリビュン」ノ
Forrestノ通信ニ言及シタルニ大使ハ自分ハ國務長官ト会
談ノ模様ヲ昨夕電報シタルノミナルヲ以テ今朝掲載ノ通信
ニ仏國政府ガ華府ニ於ケル会見ノ結果ニ依リ海牙會議ニ參
加ノ決定ヲ為シタリト言フハ行過ギタル通信ナリト評シタ
リ本官ハ右以上立入りテ質問スルコトハ之ヲ避ケタルモ海
牙會議乃至之ニ關聯セル問題ニ關シ仏國ガ米國政府ト意見
ヲ交換セルハ明ナリ

在仏大使ヲ經テ各大使ヘ転電

一一一 六月一日 在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

露國問題專門會議ニ於テ本邦委員ノ執ルベキ

態度ニ付請訓及意見具申ノ件

第四〇六号

（六月二日接受）

近ク海牙ニ開カルベキ露西亞問題專門會議ニ於テ本邦委員
ノ執ルベキ態度ニ就キ今回森財務官ノ巴里出張ヲ機會トシ
同官ト協議シタル結果左ノ諸点ニ就キ帝國政府ノ訓令ヲ仰
グト同時ニ御參考迄ニ卑見申進ス

委員ハ孤立シテ争ハザルヲ得ザル立場ニ陥ルヤモ測ラレ
ズ然レドモ海牙ニ於テ出来得ル限りノ讓歩ヲ為シ尽クス
時ハ西比利亞問題ノ解決ニ際シテ他ノ問題ト交換的ニ讓
歩ヲ為ス便宜ヲ失ヒ帝國ノ不利勘カラザルベク去リトテ
日本独リ英、露其他ト論争スルコトハ一面与國ノ同情ヲ
失ヒ他面益々露西亞ノ反感ヲ激発スル結果ト為ラムコト
ヲ怖ル執レニシテモ本邦委員ノ立場ハ相当困難ナルベシ
ト思ハルルニ付委員ノ進退ニ關スル帝國政府ノ御訓令ハ
成ルベク詳細ニ至急御電訓相成リタシ

三、戦争債務ノ減額ハ本邦ニ最重要ナル利害アル問題ナル
モ之ニ就キ一層讓歩ヲ求ムベシト期待セラルルニ付右ノ
場合ニハ仏國ト歩調ヲ一ニスベシ然レドモ仏國不参加ノ
場合會議ノ大勢讓歩ニ傾キ日本独リ其主張ヲ固守スルモ
露西亞側トノ交渉ニ際シテハ少数意見ハ交渉ノ基礎条件
タリ得ザルヲ以テ我主張ヲ貫徹シ得ザル場合ニハ結局全
然讓歩スルカ又ハ會議ヲ脱退スル外ナク此点ハ尤モ最初
ノ十日間ノ利害關係國間ノ會議ニ於テ我態度決定ノ必要
ヲ生ズベク日本ガ列國ト共ニ露西亞委員トノ交渉ニ入ル
ヤ否ヤヲ決スル必要ハ多分六月二十日前後ニ起リ来ルベ

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一一一

一、海牙會議ニ於テ討議ノ基礎タルベキ条件ハ明白ナラズ
ト雖結局「ゼノア」會議ガ五月二日附露西亞全權ニ宛テ
タル「ノート」ヲ出発点トシテ双方ヨリ歩ミヨルヨリ外
ニ適當ノ方法ナキモノト思ハル從テ「ゼノア」會議ニ際
シ我全權ノ帝國政府ヨリ受ケタル訓令ハ今後其儘專門委
員ニ対スル訓令ト心得差支ナキモノト思考スルモ特ニ帝
國政府ニ於テ御變更相成ルベキ点アラバ至急御回電相成
リタシ

將又專門家會議ニ於テハ政治問題ヲ論ズベキ限リニアラ
ズト雖他ノ問題トノ關係上露西亞ハ日本ノ行動ヲ批議ス
ルコトアリ得ベク右ノ場合ニハ西比利亞ニ關スル限り華
盛頓會議ノ全權ニ対スル帝國政府ノ訓令及「ゼノア」ニ
於ケル本使聲明ノ範圍内ニ於テ日本ノ平和的意思ヲ闡明
スルコトハ前以テ允許シ置カルル様致シタシ

二、尤モ五月二日ノ覺書ニ対スル露西亞ノ回答（「ゼノア」
發往電第一八〇号）ガ極メテ強硬ナルニ顧ミ露西亞トノ
協定成立ノ為ニハ一層讓歩ノ態度ヲ示サザルベカラズ英
伊諸國ハ戦争債務私有財産其他ニ就キ更ニ讓歩ヲ提議ス
ルコトアルベク殊ニ仏白兩國ガ參加セザル場合ニハ帝國

シ本邦委員ハ如何ナル程度迄讓歩シ差支ナキヤ「ゼノ
ア」宛貴電第四一号ハ仏國不参加ノ場合ニハ全ク適用ナ
キコトト解スベキヤ

蓋シ今回ノ海牙會議ハ「ゼノア」會議ノ繼續ト看做シ居
ルモ政治的ニハ「ゼノア」會議ト重要ノ程度ニ於テ大差
アルヲ以テ日本カ中途會議ヨリ脱退スルモ其影響ハ「ゼ
ノア」會議ヨリ脱退スル程ニ重大ナラザルベシ但本件ノ
為ニ英伊露其他トノ關係ニ累ヲ及ボスコトナキ様随分慎
重ノ考慮ヲ要スベキハ勿論ナルヲ以テ本邦側ノ主張ヲ貫
徹シ得ザル場合ニ執ルベキ窮極ノ措置ニ就キ篤ト御詮議
ノ上御回示相成リタシ御承知ノ通會議ハ十五日ヨリ利害
關係國ノ会合ニ始マリ二十六日ニハ露西亞側トノ交渉ニ
入ル予定ニ付會議ノ形勢如何ニ依リテハ到底一々請訓ノ
上進退ヲ決シ難キ場合多カルベキヲ以テ前以テ右ノ場合
ニ処スル措置方御垂示相成リタシ

四、露西亞側ハ極力「クレデット」ヲ得ン事ニ尽力ス可ク
若シ他國政府ヨリ露西亞政府ニ「クレデット」ヲ与フル
問題起ル場合ニハ本邦委員ハ如何ナル態度ニ出ヅ可キヤ
尚ホ國際会社ニ關シテハ西比利亞ノ關係モアリ全然無関

心ノ態度ニ出ヅル事對露政策上如何カト存セラルルニ付幾分ニテモ日本ガ参加スル様御考慮相成様致度何分御決定次第電報アリ度シ

五、私有財産ニ付テハ前掲五月二日附覚書ノ方針ヲ支持ス可シ尚ホ本件ニ関シ極東西伯利亞殊ニ沿海州及薩哈連ニ於ケル財産保護ニ付テハ貴電第一八〇号末段ノ次第モアリ追テ特別ノ協定ヲ為スヲ適當ト思科スルヲ以テ他日別途ノ協定ヲ為ス妨ケトナラザル事ニ充分注意ス可シ在英大使へ転電シ在欧米各大使へ郵送セリ

一一二 六月三日 内田外務大臣ヨリ
在本邦伊国大使宛

海牙會議招請ニ対シ回答ノ件

欧二普通第四〇号

以書翰啓上致候陳者「ゼノア」會議議長「シヤンツェル」氏ヨリ帝國政府ニ対シ「ゼノア」會議決議ニ從ヒ予備の意見ヲ交換シ且六月二十六日ヨリ開始セラルヘキ交渉ノ任ニ当ルヘキ委員會ノ構成ノ問題ヲ決定スル為メ海牙ニ帝國代表者派遣方招請ノ電報ヲ五月二十九日付貴翰ヲ以テ御伝達相成致敬承候

仏国首相ノ外交方針ニ関スル下院演説大要報

告ノ件

第四一六号

(六月四日接受)

仏国下院ニ於テ過日来引続キ行ハレタル外交質問ニ対シ「ボアンカレ」ハ本月一日大要左ノ如キ外交方針及經過ヲ説明セリ

一、上部「シレンジア」ノ Gleiwitz 及 Petersdorf ニ於ケル仏国兵死傷事件ニ関シテハ同地ハ聯盟委員會ノ管轄ニ属スルヲ以テ之ガ処分ハ同委員會ニ依リ嚴重ニ行ハルベク吾人ハ斯ノ如キ不祥事ハ再ビ繰返サレザル事ヲ望ム仏国軍同地駐屯ノ任務ハ近々終了スベク其駐屯ハ単ニ現状維持ニ外ナラズ

二、近東問題及「アンゴラ」条約ニ関シテハ事頗ル機微ニ属シ仏国ハ英伊兩國及土耳其ト充分商議ヲ遂ゲ一ノ対案ヲ得之ヲ希臘並「アンゴラ」(脱)セルモ孰レモ未ダ之ヲ承諾スルニ至ラズ然モ吾人ハ尚近東ノ平和ガ迅速ニ樹立センコトヲ祈リテ已マズ

三、「ゼノア」會議ニ関シテハ(會議成立ノ顛末及仏国全權ニ対スル訓令ノ内容ヲ詳述シ)同會議ガ予期ノ結果ヲ得

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一一四

帝國政府ハ右招請ヲ受諾シ代表者二名並ニ若干數ノ専門委員ヲ派遣スヘク其氏名等ハ成可ク速ニ追報可致候尚右ノ次第ハ在蘭帝國公使ヲ經テ蘭國政府ヘモ通報可致候ニ付右様御承知相成度此段回答旁本大臣ハ玆ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

一一三 六月三日 内田外務大臣ヨリ
在本邦伊国大使宛

海牙會議參列日本委員氏名通知ノ件

欧二普通第四一号

以書翰致啓上候陳者海牙會議ニ帝國代表者派遣ノ儀ニ関シテハ本月三日附欧二普通第四〇号ヲ以テ不取敢回答申進置候玆今般帝國政府ハ帝國代表委員トシテ大使館參事官佐藤尚武及大藏事務官關場偵二ヲ又専門委員トシテ大使館書記官岡本武三同芦田均東京帝國大学教授法学博士鳩山秀夫及三菱商會社支配人山内恭治ヲ同會議ニ派遣可致候ニ付右様御承知相成度此段申進旁本大臣玆ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

一一四 六月三日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ザリシヲ以テ仏国ノ責任ニ歸スベカラズ仏国ガ当初ヨリ同會議ヲ不成功ニ終ラシムルノ意図ナカリシコトハ右訓令ニ徴スル(脱)露國全權ノ態度其他「ラバロ」条約ノ如キ事件出来セルニ拘ラズ仏國全權ガ始終隱忍シテ本會議及諸種ノ委員會ニ協調ヲ保チ此事業ニ貢獻センコトヲ努メタルニ見ルモ明ラカナリ同會議ハ吾人ノ予見セルガ如ク政治的部分ニ於テハ全然失敗ニ歸シタルモ經濟的部分ニ於テハ其成績有効ナルモノアリ而シテ仏國専門家ガ之ニ貢獻セル所少カラズ軍備制限ハ「チチェリン」ノ希望ニ拘ラズ會議ノ問題トナラズ又賠償問題ハ「ラチナウ」ノ主張ニ拘ラズ仏國全權ノ極力反抗ニ依リ討議ニ上ラズ「ラバロ」条約ハ夙ニ世間周知ノ事態ノ一表現ニ外ナラズシテ之明カニ「ヴェルサイユ」条約違反ナリ仏國ハ私有財産問題ニ関シ白耳義ノ反対ナカリセバ原案ノ儘通過セシメタルナラント謂フガ如キハ誤レリ仏國ノ主張ハ当初ヨリ変リタルコトナク唯其會議ヲ捉ヘタルノミ若シ「ゼノア」會議失敗シタリトセバ夫ハ「ソヴィエト」代表ノ不遜ノ態度ノ責ニ歸セザルベカラズ

四、海牙會議ニ付テハ仏國ハ全然行動ノ自由ヲ留保シ未ダ

一六一

何等決定シ居ラズ予ハ之ガ決定ニ先立チ予メ之ニ関スル保障(?)ト他國ノ意見トヲ確カメントス執レニセヨ同會議ニ参加スルト否トハ議會ノ同意ヲ得タル上ナラザル可カラズ米國ノ参加ナクシテ歐洲ノ經濟的復興ハ到底望ムベカラズ

五、歐洲經濟ノ紊乱ヲ以テ平和条約中ノ對独賠償条約ニ関シ仏國ノ態度ヲ批難スルモノアルモ之レ誤レリ歐洲現状ニ對スル唯一ノ救済法ハ秩序ト平和ノ間ニ各人ヲシテ業ニ就カシムルニアリ独逸ノ非行ヲ追及スルモノニアラズ要ハ独逸ガ条約ヲ誠實ニ履行サヘスレバ平常ノ關係ニ復歸スルヲ得ヘシ仏國ハ平和的國民ナリ條約ノ履行ヲ得バ歐洲復興ニ協力スルハ素ヨリ其ノ欲スル所ナリ

六、對独制裁ニ関シ必要ノ場合ニ各國政府カ单独行動ヲ執リ得ルハ平和条約中 Gouvernements respectifs ト規定セルニ依リ明ナリ仏國ハ素ヨリ列國ト協調ヲ欲シ又单独行為ノ困難ハ認ムルモノナルモ一切ノ手段尽キ他ニ方法ナキ場合ニハ吾人權利ノ行使ヲモ犠牲トスルヲ得ズ

七、吾人ハ歐洲復興ニ協力スルヲ辭セザルモノナルモソハ私有財産ノ原則ヲ条件トス而シテ「ソヴィエト」ハ其原則

別電 六月四日在仏國石井大使宛内田外務大臣宛電報

第四二〇号

仏國政府ノ海牙會議ニ對スル回答電書

第四一九号

(六月五日接受)

仏國政府ハ六月二日附書簡ヲ以テ要領別電第四二〇号ノ通電書ヲ差越シ右電書陳述ノ諸条件ヲ以テ海牙專門家會議ニ於テ実績ヲ収ムルノ必要条件ト思考スルニ付テハ右回答ヲ帝國政府ニ通報スルト共ニ速ニ之ニ對スル我政府ノ意見承知シ度キ旨申越セリ

尚新聞報ニ依レバ本件電書ハ同時ニ伊國議會(?)及海牙會議ニ招待セラレタル他ノ諸國ニモ送附セラレタル趣ニテ右ニ對スル各國ノ回答如何ニ依リ仏國政府ハ六月十五日ノ準備會議乃至同二十六日ノ本會議出席如何ヲ決スベキ由ナリ同電書全文ハ三日公表セラル

在歐米各大使在歐洲各公使へ郵送セリ

(別電)

六月四日在仏國石井大使宛内田外務大臣宛電報第四二〇号

仏國政府ノ海牙會議ニ對スル回答電書

第四二〇号 (別電)

「ゼノア」會議ハ露國全權ニ於テ五月十一日附回答ヲ以テ

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一一五

ヲ否認ス吾人ハ露國民救済ニ滿腔ノ同情ヲ有スルモ現在ノ「ソヴィエト」ノ固持スル主義ヲ擁護スル何等ノ理由ヲ有セス

八、「ゼノア」ニ於テ吾人ハ小協商國及波蘭ト協調ヲ保持セリ

九、英仏協商ニ至リテハ何等之ヲ弱ムルモノナキノミナラズ吾人ハ更ニ經濟的協定ニ依リ一層之ヲ強メムトス吾人ハ「ゼノア」ニ於テモ近東問題ニ於テモ將又賠償問題ニ於テモ常ニ英國ニ對スル友情ヲ披瀝シ協調ノ実ヲ挙げ來レリ其間若干ノ事件ニ付常ニ意見ノ一致ヲ期シ難キモノアリトスルモ之レ英仏ノ關係ヲ傷クルニ足ラズ吾人ハ同盟ノ為メニ釐レタル英仏ノ兵ガ同一ノ墓ニ眠ルヲ思ハバ何者カ此同盟ヲ裂クニ至ルモノアラムヤ

在歐米各大使へ郵報セリ

一一五 六月四日

在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

仏國政府ヨリ同政府ノ海牙會議ニ對スル回答

電書ヲ差越シ右回答ヲ日本政府ニ通報方依頼

越ノ件

態々露國民救済ニ関スル申出ヲ遠ザケ又一月十日ノ露國招待ノ各種条件ヲ斥ケタル結果何等實際的効果ヲ収ムル事ヲ得ザリキ然レドモ參列國ノ多数ハ右回答末段ノ提議ニ鑑ミ更ニ勞農政府トノ意見ノ相違点ヲ審議スル為六月二十二日以降專門委員會ノ集合ヲ承諾セリ尚露獨ヲ除ク「ゼノア」參列ノ諸國ハ右專門委員會ノ露國トノ交渉条件ヲ審議スル為同月十五日代表者ヲ海牙ニ派遣スルノ外之等代表者ハ露國側委員會トノ交渉ノ任ニ當ル可キ委員會ノ組織ヲ決定スル事トナリ居レリ

仏國全權ハ海牙ニ派遣セラルルハ專門委員ノミト思料シタリ然レドモ右「ゼノア」採用ノ勸告ハ專門委員會ノ外政府代表者ノ集合ヲ予想ス而モ之等代表者ガ政府代表者ナル可キヤ外交代表者ナル可キヤヲ明カニセズ又彼等代表者ニ於テ專門委員ヲ任命シタル後交渉ヲ共ニ繼續シテ會議ニ参加ス可キヤ將又勞農側ノ政治又ハ外交代表者ト折衝ス可キヤ否ヤヲ明カニセズ執レニセヨ右專門委員集合以前ノ意見交換ハ極メテ迅速ナラザルヲ得ズ蓋シ對露通告ニ依リニ遅クトモ六月二十日迄ニ露國ヲ含マザル委員會代表國名並該諸國委員名ヲ勞農政府ニ通告スルヲ要スルヲ以テナリ即チ

僅々五日内ニ海牙會議被招集國ハ専門委員會ノ對露交渉条件同委員會ノ組織並同委員會ニ参加ス可キヤ否ヤヲ決定スルヲ要ス對露問題ノ重要且至難ナル伊國外相モ六週間ノ「ゼノア」會議モ尚短キヲ憾メリ從ツテ若シ実績ヲ挙ゲント欲セバ予メ的確ニ全權ガ其提議ヲ受ケタル原則ヲ全然拒否シタル今日益然リトス「ゼノア」參列諸國ガ「カンヌ」原則墨守ノ必要ヲ認メタルハ当然ニシテ會議ノ經過ニ顧ミ右ハ実ニ對露政治並通商關係開始ノ最小条件ナル事明カトナレリ

然ルニ五月十四日ノ回答ニ於テ露國カ拒否シタルハ実ニ之等ノ原則ナリ而シテ右回答ハ之ヨリ先キ露國全權カ配布シタル覺書ト関連セル処同覺書タル其ノ正式撤回ヲ見ルニ至ル迄仏國専門委員ヲシテ討議再開ノ已ムヲ得ザルニ至ラシメタルモノナリ故ニ仏國トシテハ右覺書ト其ノ授ヲ一ニスル五月十一日ノ回答ニ對シテモ同様ノ態度ヲ執ルノ外ナク從ツテ勞農政府ニ於テ右回答ヲ撤回セザル限り「ヘーグ」會議ハ行詰リトナルカ若クハ歐洲ノ屈服ヲ意味スルニ至ル可シ「ゼノア」ニ於テ露國全權ハ「カンヌ」原則ノ不明瞭ヲ唱ヘタリ故ニ玆ニ更ニ本原則ヲ明瞭ニスルヲ要スル処実

敦準備委員會ノ事業ハ元ヨリ不完全ヲ免カレズ而カモ海牙ニ於テ論ズ可キ三点即チ債務私有財産並ニ歳入ニ関シ何等ノ疑ヲモ存セシメザルヲ必要トス

先以テ海牙委員會ハ以上三点ノ範圍ヲ逸脱セザルヲ要ス即チ専門委員會ハ財政經濟上ノ實際問題ヲ論ズルニ留マリ政治問題ニ携ル事アルベカラズ海牙ニ於テ新ニ原則宣言ノ口実ヲ与ヘ其ノ実勞農全權ニ宣伝ノ機會ヲ与フル事アル可カラズ

債務ハ分テ國家間債務ト對個人債務トニスヘク前者ニ関シ其成立ノ時期ヲ問ハズ之ヲ承認スルハ根本原則ナリト雖直ニ其元利ノ償還ヲ求メムトスルニアラズ露西亜ノ支払能力並經濟力ノ回復ニ応ジ支払ヲ受クベキ便法ヲ講ゼムトスルノミ第一委員會ニ参加セル二三聯合國ヨリ交付シタル五月二日附覺書ハ他日聯合國間ニ於テ戰爭債務ノ一般の決済ヲ為スニ當リ考慮セラルベキ右債務ノ減額ニ言及セルモ露國獨リ特別ノ恩恵ヲ受クベキ筋合ニアラズ右ハ露國ガ聯合國ト同一ノ責任ヲ取ルヲ条件トスベシ露國カ「ゼノア」ニ為セル五百億金留ノ要求ノ如キハ固ヨリ論議ノ途ナシ後者ニ関シテモ債務承認ノ原則ハ動カスベカラザルノミナラズ右

際露國全權ガ「ゼノア」ニ於テ認メタルハ各國對内主權ノ尊重ニ関スル「カンヌ」第一原則ノミナリ然レ共第二第三ノ兩原則ハ一國カ他國ト財政並ニ通商關係ニ入ルノ要件ナリ「ゼノア」ニ於ケル露國全權ノ誤解ハ他國政府カ公私兩資本ヲ自由ニ処分シ得可シト思考セラレタル事ナリ然レ共公資本ノ運用ニハ議會ノ承諾ヲ要シ私資本ノ利用ハ個人ノ自由ニ任スル外ナシ即チ資本ハ其ノ欲スル処ニ從ヒ流転ス「カンヌ」第二第三第四原則ハ資本流転ノ一般原則ヲ示スニ外ナラス資本家ハ其ノ財産權利利潤ニ関シ保障ナキ國ニ投資セズ保障アル國ニ投資スルニ至ルハ当然ナリ即チ第一原則ト第二以下トハ何等ノ矛盾ナク各國ハ其ノ国内立法ヲ自由ニスルノ權アルモ他國ノ援助ヲ求ムルニハ其ノ要求スル条件ヲ滿タスヲ要ス即チ「カンヌ」第一原則ヲ受諾シ他ヲ受諾セザルハ自國ノ孤立ヲ意味ス故ニ露國ノ国内法上私有財産ノ保障ナシトセバ右保障ニ関スル特殊ノ規定ヲ設クルヲ要ス可シ而シテ之ガ実行ニ當リ国内立法ノ變更ニ依ルカ他國人ニ對スル特權附与ノ方法ニ依ルカハ資本需要國ノ自由ナリ

以上糺明ノ結果「カンヌ」原則実行ノ方法如何ト云フニ倫

原則ハ地方団体若クハ公共団体ノ負ヘル債務ニ迄及ブベキヤ明ナリ唯個人債務ノ決済ハ債權者ト債務責任者トノ直接協定ニ依リ協定不成立ノ場合ニ限り債務仲裁所ノ決定ヲ仰クベク露國ハ予メ右決定ニ從フ旨ヲ約スベキナリ

海牙委員會ハ「ゼノア」ニ於テ協議ヲ見サリシ個人所有權ノ問題ヲ討議スヘキモ從來露國ノ經濟の發展ニ貢獻シタル外國人ノ個人所有權並特權ハ飽迄權利自体ノ回復ヲ原則トセザルベカラズ唯其回復不可能ナルモノニ就テノミ事態ノ變動ニ基ク已ムヲ得ザル措置トシテ右ニ代ルベキ他ノ權利ノ附与若クハ混合仲裁裁判所ノ定ムヘキ其他ノ賠償方法ヲ認ムベキモ賠償ハ常ニ直ニ流通シ得ヘキ正金ヲ以テセラルルコトヲ要シ利子ヲ附セザル証券ヲ以テスルカ如キハ許容スヘカラズ又右個人所有權ノ回復ハ完全ナルベク旧所有者ニ於テ安心シテ經營ニ從事シ中途放棄ノ已ムナキニ至ラシムルガ如キコトアルベカラズ

海牙委員會ハ又信用問題ヲ考究スヘシ露國復興ガ外國資本ノ助力如何ニ係ルコトハ倫敦會議ニ於テ既ニ認メタルトコロニシテ露國ニ於ケル現今ノ經濟狀態ニ大ナル變更ナキ限り外國人ハ旧事業ノ繼續新事業ノ開始

ヲ拒絶スヘキコトモ亦一般ニ認メタルコロナリ露国ヘノ
外国投資ニハ必要ナル保障ヲ設定スルコトヲ要ス而シテ露
国復興ハ其農業ノ復興ヨリ始ムルヲ要スルコトハ戦前ニ於
テ尅千万噸ノ農産物ヲ輸出セルモ今ヤ国内消費ノ半ヲモ産
出スル能ハズ之即チ怖ルヘキ饑饉襲来ノ原因ナリ

「ゼノア」ニ於ケル「ソヴィエト」全権ハ国債ノ必要ヲ説
クモ復興実行策ヲ吐露セザリキ斯ノ如キ態度（五月十一日
覚書）ヲ変更セザル限り列国ハ露国国民ノ為何等救済策ヲ
講スルコトヲ得ザルナリ農業復興ハ露国生存ノ基礎ナリト
雖モ彼等農民ハ其生活ヲ保障セラルルニ非ズンバ有効ニ其
ノ活動ヲ初メザルベシ此ノ意味ニ於テ現在ノ状態ヲ改善ス
ルハ一ニ掛リテ「ソヴィエト」制度自身ニ在リ此等問題ハ
「ゼノア」會議ニ於テ解決セラレザリキ若シ海牙ニ於テモ
解決ヲ得ズンバ何ノ利益ノ存スルモノゾ露国經濟状態ヲ明
確ニシ其ノ救済策ヲ確立スルコト委員會ノ重要問題ナリ露
国政府ガ右ニ関スル聯合國及中立国ノ研究ニ助力スルヲ拒
絶セムカ彼ノ態度ハ五月十一日覚書ニ於ケルト異ナラザル
ヲ示スノミニテ彼ト商議スルコト絶対ニ不可能ナルヲ証ス
ベシ約言スレハ海牙ニ於テハ

一一六 六月八日 内田外務大臣ヨリ
在仏国石井大使宛（電報）

海牙會議ニ関スル仏国ノ提案覚書ニ対スル日

本政府ノ対応方ニ付訓令ノ件

第三一七号

貴電第四一九号ニ関シ仏国政府ノ提案ハ結局國際的約定ヲ
以テ「ソヴィエト」政府ノ根本組織ニ迄変更ヲ加フルコト
トナルベク右ハ到底露国側ノ承諾スル所トナラザルベキノ
ミナラズ之ヲ「ゼノア」ニ於ケル形勢ニ徴スルニ英伊諸国
ノ対露方針トモ著シキ懸隔アルニヨリ海牙會議参加ニ決シ
タル今日仏国提案ニ賛同スルニ於テハ英伊諸国トノ協調ヲ
害スルコト大ナルベク從テ海牙會議開始以前ニ該提案ノ根
本義ニ触レ我方意見ヲ表明スルコトハ機宜ニ適セズト存ゼ
ラルルニヨリ右覚書ニ対シテハ我方ハ「カンヌ」並ニ「ゼノ
ア」兩會議ノ決議及精神ニ基キ海牙會議ニ参加スルコトヲ
決シ且我專門委員ヲシテ右ノ趣旨ニヨリ行動セシムベキコ
トヲ指摘スル外単ニ同覚書末段ニツキ（一）対露条件ヲ露国政
府ニ提出前可成明確ニ協定スルニ至ラムコトハ我方ノ希望
スル所ナルモ海牙委員會ハ各国政府ニ対スル勸告案ノ成立
ニ努ムヘシトスル「ゼノア」決議ニ顧ミ海牙會議カ或種決

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一一六 一一七

第一、露国ノ承認スルヲ要スル諸条件ノ明確且完全ナル案
ヲ露国政府ニ提出前全会一致ヲ以テ協定スルコトヲ要ス

第二、露国經濟状態ノ根本的研究ヲ要ス

第三、「ゼノア」ニ於ケルガ如キ空漠タル概念の文章ヲ露
国全権ニ送付スルコトナク露国經濟ノ恢復方案及信用問題
ヲ考慮セル詳細ナル具体案ヲ作成スルコトヲ要ス
第四、然レトモ右ノ如キ具体案並露国ヲシテ承認セシムヘ
キ諸条件ノ審議ハ本月十五日ヨリ二十日ニ至ル限ラレタル
日時ニ於テ善クスル能ハズ「ゼノア」ニ於テ六週日ヲ經過
シテ為シ得ザリシモノヲ海牙ニ於テ五日間ニ成就セムトス
ルハ不可能ナリ

第五、露国問題ノ解決ハ十分ナル日時ヲ要スル問題ナリ今
日迄成功セザリシハ躁急ニシテ不十分ナル研究ヲ以テセル
ガ故ナリ僅ニ着手サレタル事業ヲ海牙ニ於テ継続セムトス
ルニ於テハ宜シク秩序的ナルヲ要シ又「ゼノア」會議ヲ開
催シタル肝要ノ精神ヲ棄ツルコトナク諸方面ヨリ事物ヲ觀
察スルヲ要スヘシ

在欧米各大使及在欧洲各公使へ郵送セリ

定ニ到達スル場合ニモ各国政府ハ直ニ右決定ニ拘束セラル
ルモノニアラザルニヨリ右決定ハ必ズシモ全会一致ヲ以テ
為スノ要ナカルベシト思考スルコト（二）露国經濟状態ノ根本
的研究ヲ緊要ノ事業ナリト思惟シ從テ露国政府ノ助力ヲ希
望スルコト（三）海牙ニ於テ可成詳細ナル具体案ヲ作製スルニ
至ラムコトハ我方ノ賛同スル所ナリ但シ（四）右具体案作製ノ
目的ヲ達成セムカ為メ何等特別ノ事情發生セザル限り「ゼ
ノア」決議ニ規定セラレタル会期ノ變更ヲナスベキ必要ヲ
認メズ（五）ハ其精神ニ於テハ何等異存ナシ以上ノ趣旨ヲ以テ
仏国政府ニ回答シタキ処右ニ関シ在英大使ト御打合せノ上
何等御異見ナキニ於テハ右ノ趣旨ニ依リ可然仏国政府ヘ回
答方取計ハレ度シ

右在欧米各大使及和蘭ニ転電アリタシ

一一七 六月十日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

仏国覚書ニ対スル対露方針ニ付稟申ノ件

第四四一号

（六月十一日接受）

貴電第三一七号ニ関シ

前段御来示ノ次第モ有リ此際仏国政府ニ回答スルコトナク

海牙會議開催前日本政府ノ態度ヲ何等「コミット」セザル方然ルベキカト思考セラルルニ付御異存ナキ限り右様取計フコトト致シタシ

一一八 六月十一日 内田外務大臣ヨリ
在仏国石井大使宛（電報）

海牙專門家會議參列ノ政府代表者及專門委員

ニ対シ訓令ノ件

第三二一號

海牙專門家會議ニ參列スヘキ帝國政府代表者及專門委員ニ
對シ左記訓令傳達セラレタシ

一、海牙專門家會議ハ「ゼノア」決議第五項ノ通り各國政府ニ對スル共同勸告案ノ作成ニ努ムヘク右勸告案成立スル場合ニモ直ニ之ヲ以テ各國政府ヲ拘束シ得ザル義ナルニ付万一右ノ点ニ付更改ヲ加ヘムトスルガ如キ企画アル場合ニハ之ヲ阻止スル様取計ハルヘシ

二、「ゼノア」會議帝國全權ニ對スル訓令ハ本訓令又ハ今後發セラルベキ訓令ニ依リ變更セラレザル限り其儘海牙會議代表者ニ對スル訓令ト心得ラルヘシ

三、戰時債務ノ減額又ハ免除ニ關スル問題ニ付テハ仏白加

○六号（）末段ノ通り措置セラルヘシ

六、海牙ニ於ケル各國代表者ハ露西亜委員ト交渉ヲ行フヘキ委員選出ノ運ビニ至ルベキ処右委員會ニハ帝國代表者モ之ニ参加スルコトト相成様取計ハルヘシ

七、在仏大使來電第四〇六号（四）「クレデット」及國際会社ニ關スル件ハ追テ電報ス

右在歐米各大使及在蘭公使ニ転電アリタシ

一一九 六月十一日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

海牙會議ニ關スル仏國提案ニ對スル我對処方

針ニ異存ナキ件

第三五一號 至急

（六月十二日接受）

本官宛在仏大使宛電報第七〇二号
大臣宛閣下宛電報第三一七号ニ關シ
本使ニ於テハ右意見ニ何等異存ナシ

一一〇 六月十三日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

海牙會議ニ關スル仏國政府覚書ニ對スル英國政府ノ回答要点報告ノ件

一 歐洲復興及賠償問題ニ關スル諸會議開催ノ件 一一九 一二〇

入ノ場合ハ「ゼノア」全權宛第四一號訓令ノ趣旨ヲ体シ
処理セラレ度仏白ノ参加セザル場合ニハ從來ノ態度ヲ保
持シ帝國ノ有スル對露債權ハ全部戰時中ニ發生シ且其大
部分ガ民間債權ニ由來スル点ニ於テ英國等ト其事情ヲ異
ニシ從テ減額又ハ免除ヲ困難トスル事情ヲ説明スルト共
ニ我方ニ有利ナル様會議ノ大勢ヲ馴致スルコトニ努メラ
レタク若シ會議ノ大勢我方ニ不利ニシテ脱退ノ止ムナキ
ニ至ルカ如キ場合ニハ更ニ請訓セラルヘク其余裕ナキ時
ハ此ノ点ノミニ關シ贊否ヲ留保シ直ニ電報セラルヘシ

四、私有財産回復問題ニ付テハ五月二日附對露覚書ノ方針ヲ支持セラレ差支ナシ但シ「ソヴィエト」制ヲ採ラザル東部西伯利ニ就テ別途ノ協定ヲ為スヲ妨ゲザル旨明確ニシ置クラ要スルコトハ在仏大使來電第四〇六号（四）所載ノ通り

第三五四号

（六月十三日接受）

海牙會議ニ關シ

六月二日附仏國覚書ニ對スル英國回答發表セラル要点左ノ通り

一、海牙會議ハ專門家會議ナルヲ以テ英國政府ハ專門家以外ノ資格ニ於テ其代表者ヲ送ラントスルモノニ非ズ

二、主義ハ既ニ「ゼノア」ニ於テ決定セルモノナルニ付予備會議ヲ開キ更ニ之ヲ議スルコトニ反對ス

三、海牙會議以前ニ五月十一日附露國覚書ヲ撤回セシメントスルニ反對ス英國政府ハ「ゼノア」ノ總會ノ決議ニヨリ取扱ハラレタルモノト認メ海牙ニ於テハ之ヲ度外視スベシトノ意見ニ一致ス

四、「カンヌ」決議ハ海牙會議ノ審議ヲ支配スベク又該決議ハ全体トシテ之ヲ承認スベキモノナリトノ意見ニ一致ス
五、私有財産ニ關シテハ英國政府ハ外國人ガ其返還ヲ請求スル權利ヲ有ストノ仏國ノ主張ニ反對ス但シ右ニ關スル賠償ハ shadowy 非ズ real タルベシトノ意見ニ一致ス

原文郵送ス 仏伊蘭白ヘ転電セリ

一二一 六月十四日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

仏国覚書ニ対スル英国回答ニ対シ更ニ仏国政

府回答ノ件

第四五六号

（六月十五日接受）

往電第四一九号仏国覚書ニ対スル英国回答ニ対シ本月十二日附ヲ以テ仏国政府ハ更ニ回答ヲ発シ同写ヲ当方ニ差越シタルガ同時ニ露西亜ヲ除ク海牙會議参加国政府ニモ右写ヲ送附シタル趣ニテ新聞ニモ其内容公表セラレタリ要領左ノ通り

一、五月十四日ノ議事録ハ種々解釈ノ余地ヲ存シ現ニ或国ハ外交代表者ヲ送リタルニ英政府ガ海牙會議ヲ以テ単ナル専門家會議トシ何等決定の取極ヲ為シ得ザルモノトノ解釈ヲ下シタルハ仏国政府ノ満足スル所ナリ

二、英政府ハ二十六日露西亜委員ト会スルニ先チ具体的協定ヲ遂グル必要無シト主張スルモ「ゼノア」ニ於テ四分五裂シタル儘ニテ露西亜委員ト相会センカ唯其乗ズル所トナランノミ而カモ多数国政府ハ何レモ先ヅ露西亜ヲ除ク参加国間ニ於テ對露提出条件ニ関シ協調一致スルノ必要ヲ感じ

得実地調査ヲ行ヒ右計画ノ大綱ヲ定メンコトヲ提議シタルニ過ギズ

七、海牙會議ノ議題ハ債務個人所有權並ニ信用ノ三問題ニ限り一切政治問題ニ触レザルベク而シテ右ニ対スル仏国政府ノ所見ハ六月二日附覚書ニ之ヲ尽セリ海牙ニ於テ右三件ノ解決ヲ得ザレバ露西亜ハ遂ニ利權獲得運動者ノ競争ニ委セラルベシトノ兆候見ユルモ若シ右ニシテ正当ナル所有權者又ハ特權者ノ權利利益ノ剝奪横領ヲ意味スルナラバ斯ノ如キハ露国トノ国交回復ヲ不可能ナラシメ右横暴ヲ許ス国ノ人民ニ対スル報復手段ヲ招致セザレバ已マザルベシ之ヲ要スルニ之等根本原則ニ関シ三ヶ国間ニ充分ナル了解ナクンバ海牙會議モ亦「ゼノア」會議ノ轍ヲ踏ムニ至ラン英、伊、蘭、白へ転電セリ

一二二 七月十八日 在海牙佐藤海牙會議代表ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

リトヴィノフ來翰要領報告ノ件

第五七号

（七月十九日接受）

七月十六日「リトヴィノフ」來翰要領

諸外国カ露国ノ經濟的復興ニ必要ナル「クレディット」ヲ

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一二二 一二三

居レリ

三、英国ノ主張ニ從ヘバ五月十一日附露国覚書ハ事實上撤回セラレタリト云フ可キモ右覚書接到後委員會ヲ脱退セル仏国トシテハ全行動ノ自由ヲ留保セザルヲ得ズ

四、場合ニモ依リテハ「カンヌ」決議ヲ海牙會議ノ絶対条件トスルハ全然同意見ニシテ「ゼノア」ニ於ケル露西亜ノ態度ニ鑑ミ特ニ然リ

五、仏国ト雖モ国家ノ徵收權ハ之ヲ認ムレドモ露西亜ノ現狀ヲ以テシテハ右ニ対スル賠償ハ到底不可能ナリ從ッテ露西亜自身ノ為ヨリスルモ個人所有權自体ノ回復ヲ原則トシ賠償ヲ例外トセザルベカラズ又通商開始ノ基礎条件トシテ個人所有權ノ保障ヲ求ムル仏国ノ主張ハ敢テ露西亜主權ニ干渉スルモノト見ルベカラザルノミナラズ關係国ニ於テ總テ此主張ニ一致センカ露西亜モ亦之ヲ認ムルニ吝ナラザルベシ現ニ最近ノ露伊條約ニ於テ露西亜ハ伊太利ニ対シ露ノ讓渡シタル權利ノ将来ニ関シ保証ヲ与ヘ居レリ

六、露国ノ復興ニ関シ仏国ハ決シテ ultimatum ノ形式ヲ以テ既定計画ヲ強ヒントスルモノニ非ズ只慎重ヲ期センガ為必要ニ応ジ露西亜専門家ヲ諮問シ特ニ勞農政府ノ同意ヲ

供与スルニ非ザレバ露国ガ戰前債務ノ承認其ノ他ノ要求ヲ認ムルモ其ノ実行到底不可能ナリ露国ハ本會議ニ於テ諸外国ヨリ此ノ点ニ付何等ノ回答ヲモ得ル能ハザリキ私有財産ノ返還ニ関シ満足ヲ得ザルノ故ヲ以テ諸國ガ直チニ會議ヲ打切ラントスルハ「ゼノア」會議ニ於ケル諸國ノ態度及六月十一日附ニテ英国政府カ露西亜主權ノ作用トシテ私有財産ヲ国有トスル事ヲ認メタル事實ト矛盾ス露西亜ハ旧所有權回復ノ主義ヲ認ムル事ヲ得ザルモ損害ヲ受ケタル所有者ニ対シ賠償支払ニ異議アルニ非ズ唯々信用供与ノ問題及諸外国ノ露西亜ニ対スル請求ヲ承知シタル後賠償ノ形式ヲ討議セントシタルノミ若シ諸國ガ私有財産回復ノ問題ヲ ultimatum ノ形式ニテ要求スルヲ止メ且露国ノ經濟的援助ニ参加スル国並ニ其ノ割合及形式ヲ明示スルヲ諾スルニ於テハ本會議ニ於テ一般的協定ニ到達スル事困難ナラズト思考ス仍テ露西亜全權ハ討議継続ノ基礎ヲ見出ス為三小委員會ノ議長ト露西亜側ト会商セム事ヲ提議ス

在欧洲各大使公使へ郵報セリ

一二三 七月二十日 在海牙佐藤海牙會議代表ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

海牙會議終了ノ決議文ニ關スル件

第六〇号

(七月二十一日接受)

往電第五九号ニ関シ

露国提案中「若シ参列国委員ガ同時ニ本国政府ニ移牒シ其意見ヲ求ムルコトニ同意ナラバ」ノ文句ニ就テハ十九日ノ混合委員會ニテ既ニ疑義ヲ生シ白国委員ヨリ露国委員ニ説明ヲ求メタル次第ナル処同日白国委員開催ノ晚餐会ニテ佐藤ガ英白両委員ヨリ内密ニ聴取リタル所ニ依レバ同日午前ノ混合會議當時ハ英国側ハ少クトモ會議繼續ヲ希望シ居リタルモ混合會議後英国委員ガ单独ニテ露国委員ト会合先方ノ意見ヲ聞キ特ニ右文句ノ意味ヲ確メタル処露国側ハ同電所載ノ約束ヲナスヲ以テ「ソヴィエト」政府承認ノ条件トナサントスル真意ナルヲ発見シ玆ニ英国委員モ全然愛想ヲ尽カシ態度ヲ約変シテ午後ノ議長會議ニ臨ミ強テ仏白ノ主張ニ反対スルコトナク遂ニ會議終了ノ決議文ニ同意スルニ至レルモノナリト言フ右ノ次第ニテ主要国委員間ニ大ナル意見ノ懸隔ヲ来サザル内ニ會議終了シ参列委員全部満足ヲ表シ居レリ

月十五日ニナシタル約束ニ依ルモノナリト信ズルガ故ニ敢テ他国政府ノ同意ヲ須ヒズ

「ゼネヴァ」聯盟總會日本代表ヘ郵送セリ

一二五 十月十七日

在仏国松田臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛

独逸賠償問題ニ關シ英国賠償委員提出ノ解決

案送付ノ件

附屬書 右英国委員提出ノ解決案

附記 十月六日英国委員提出ノ独逸賠償問題根本的解決案

公第六二〇号

大正十一年十月十七日

在仏

臨時代理大使 松田 道一(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

英国委員覺書独逸現状対応策送付ノ件

本件關係書類添ノ通り玆ニ及御送付候条御査閱相成度此段申進候 敬具

追而本書ハ公第六一五号ヲ以テ送付致シ置候覺書ノ要旨

一 欧洲復興及賠償問題ニ關スル諸會議開催ノ件 一二五

在欧洲各大使公使在米大使ヘ転電セリ

一二四 九月十三日

在仏国佐藤臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

海牙會議決議ニ關スル九月六日附仏国政府ノ

覺書報告ノ件

第六二三号

(九月十四日接受)

海牙會議決議(海牙往電第六五号)ニ關シ本月六日附仏国政府ハ大要左ノ覺書ヲ送り越セリ

海牙會議非露西亞委員會ハ七月二十日ノ議事ニ於テ露西亞ニ於ケル外人既得權擁護ニ關スル決議ヲナシ他方米国政府ハ自国民ト勞農政府トノ契約ニシテ他国民ノ既得權ヲ侵害スベキモノハ之ヲ保障セザル旨公表セリ仏国政府ハ右事實ヲ海牙會議非参列国殊ニ独逸ニ諒知セシムルヲ利益ナリト信ズ仏国政府ハ米国政府ノ見解ニ全然同意ナルノミナラズ所有權者ノ同意ナクシテ外国人間ニ締結セラレタル契約ニシテ其露西亞ニ於ケル既得權ヲ侵害スベキ契約ナル時ハ(契約者ノ国籍如何ヲ問ハズ)凡テ之ヲ認容セザルコトヲ宣言ス

右宣言ハ國際法ノ原則ニ基キ且在露外交団ガ一九一八年二

ニ有之新聞紙ニ公表セルモノニ候

(附屬書)

独逸賠償問題ニ關シ英国委員ブラッドベリー提出ノ解決案

REPARATION COMMISSION

14th October, 1922.

OFFICIAL COMMUNIQUE.

COMMUNIQUE 171.

Sir John Bradbury has proposed to the Reparation Commission a comprehensive plan for enabling the German Government to balance its budget and stabilise the mark.

His proposals are:

(1) To relieve the German budget almost entirely of the cost of Peace Treaty charges for two or possibly for four years by enabling Germany to obtain credits to cover such charges.

(2) To fix the exchange value of the mark by an arrangement under which the Reichsbank would sell gold for paper marks at a fixed price to be determined

by a Mixed Commission.

(3) To reorganise the Reparation Commission and transfer it to Berlin.

His arguments in favour of these three proposals, which he regards as mutually interdependent, may be briefly summarized as follows:—

The plan of stabilising the mark by the sale of gold at a fixed price is only feasible if the Reichsbank is relieved of the necessity of creating new credits—whether its own position justifies such action or not—through being compelled to discount Treasury Bills for Government expenditure.

If the further expansion of the floating debt could be stopped there would be no serious difficulty in stabilising the mark at a level very much higher than its present exchange value without danger to the gold reserve, seeing that the existing supply of currency is very much below the requirements of the country.

The complete collapse of the mark has, however,

The arrangement proposed is that the Powers receiving the Peace Treaty payments should agree to guarantee German five year Treasury Bonds to the respective amounts to be received.

The Powers entitled to receive cash payments would accept those payments in the form of 5 year bonds which they would themselves negotiate under their own guarantee. Those receiving deliveries in kind would give their guarantee to German Bonds to an amount equal to the value of the deliveries which the German Government itself would be entitled to negotiate.

It is proposed that the bonds should be payable in gold or in the currency of the guaranteeing country (at the rate of exchange of the date of issue) at the option of the holder but that the guarantee should be limited to the currency value.

The Reparation Commission would reserve the right to require a part of the cost of the deliveries in kind

made the immediate restoration of budget equilibrium — of which there was a fair prospect six months ago — quite impossible, unless the budget can for the time being be relieved of the Peace Treaty charge, and without budget equilibrium the continued expansion of the floating debt cannot be arrested.

A mere suspension of payments in foreign currencies would not now be sufficient to provide the necessary relief, since the rapid rise which is taking place in German internal prices is daily increasing the burden on the budget, as measured in paper marks, of the deliveries in kind.

The alternatives therefore in Sir John Bradbury's opinion are either a complete suspension of cash payments and an almost complete suspension of deliveries in kind for a considerable period or some arrangement under which the German Government shall be enabled to obtain resources for financing the Peace Treaty charges without expanding the floating debt.

to be met from the German budget in which case the Powers receiving the deliveries would be called upon to guarantee bonds to an amount equal only to the percentage of the total value not so met.

The arrangement would operate in the first instance for two years, but the Reparation Commission would have power to continue it so far as might be necessary for a further two years. The Allied Governments would be asked to undertake that before it is brought to an end they would consider the whole question of the aggregate liabilities of Germany under the Peace Treaty with a view to their permanent adjustment to her capacity of payment and to their liquidation by a series of foreign loans.

The plan contemplates that the final adjustment of debts between Allies should take place at the same time as this settlement, and recommends that the Allied Governments should consider the possibility of immediate arrangements to meet the difficulties which will

arise in the interval between the present time and this general settlement.

The underlying idea of the plan is to avoid the suspension of Peace Treaty payments—a course which would create very serious embarrassment to the budgets of the Allied countries—but at the same time to extend to Germany the credit facilities necessary to enable her to re-establish her own currency and budget.

The expedient of the guarantee is intended, however, only as a temporary arrangement to tide over the interval until Germany can adjust her system of taxation to the new level of values and re-establish her own credit.

The plan is only likely to be successful if

(1) the facilities given are extensive enough to make the balancing of the German budget a possible proposition.

(2) if they are used by Germany for the purpose for which they are granted.

(一)ノ取極ニ依リ馬克ノ交換価値ヲ固定セシメ、其取極ニ

基キ「ライヒスバンク」ハ一ノ混合委員会ニ依リ定メラ
ルル一ノ固定価格ヲ以テ紙幣馬克ニ対シ金ヲ売却スヘキ
コト

(三)賠償委員会ノ組織ヲ變更シ之ヲ伯林ニ移スコト

右三項ハ「ブラッドベリー」卿ノ意見ニ依レハ互ニ関係ヲ
有スルモノナリ卿ガ右三提議ノ為ニ論スル所ヲ要約スレハ
左ノ如シ

一ノ固定価格ヲ以テ金ヲ売却シ馬克相場ヲ安定セシメムト
スル計画ハ、「ライヒスバンク」ガ政府ノ支出ノ為ニ大蔵
省証券ノ割引ヲ強制セラレ（銀行自身ノ地位ガ斯カル行為
ヲ認ムルト否トヲ問ハズ）新ナル貸出ヲ為ス必要除カルル
トキノミ可能ナリ

若シ流動公債ガ更ニ増加セムトスル趨勢ヲ阻止スルヲ得ム
カ現在独逸国ニ於ケル通貨ノ供給ハ国ノ必要ニ比較シ遙ニ
少キニ鑑ミ金準備ヲ何等脅スコト無クシテ現在ノ交換価値
ヨリ遙ニ高キ相場ニ於テ馬克ヲ安定セシムルコト必ズシモ
重大ナル困難ヲ伴フモノニ非ザルベシ然レドモ馬克ハ根本
ヨリ崩壊シ居レルヲ以テ六ヶ月以前ニハ充分見込アリシ所

Sir John Bradbury thinks that these conditions can only be secured if the supervision of the working of the arrangements is entrusted to a body which will not only enjoy the financial confidence of Germany and her creditors, but which can also act in closer cooperation with the German Government. He accordingly regards the reconstitution of the Reparation Commission and its transfer to Berlin as an integral part of the plan.

（附記）

十月六日英國賠償委員「ブラッドベリー」卿提出ノ独逸賠償問題
根本的解決案

英國賠償委員「ジョン・ブラッドベリー」卿ハ千九百二十
二年十月六日賠償委員会ニ対シ遠觀的ノ一案ヲ提出セリ本
案ハ從來屢々蹉跌ヲ見タル独逸国賠償問題ヲ根本ヨリ解決
セムカ為ニ独逸国ヲシテ予算ノ均衡ト馬克相場トノ安定ヲ
得セシムムコトヲ企図セルモノニシテ其ノ要綱左ノ如シ
(一)独逸ヲシテ平和条約ノ負担額ヲ并済スルノ信用ヲ得セシ
ムル方法ニヨリ独逸国予算中ヨリ該負担額ノ費用ヲ殆ン
ト全部削除スルコト

ナルモ現在ニ於テハ予算ノ均衡ヲ直ニ回復セシムルコト殆
ント全ク不可能ニシテ之ガ為ニハ暫ク予算中ヨリ平和条約
ニ基ク負担ヲ免レシムルノ他ナシ而シテ予算ノ均衡ニシテ
得ルコト能ハザラムカ流動公債増加ノ趨勢ガ継続スヘキハ
必然ニシテ之ヲ阻止スルコト不可能ナルベシ今日ニ於テハ
単ニ外国通貨ニ依ル支払ヲ停止スルノミニテハ必要ナル救
済ヲ与フル為ノ充分ノ手段ト云フコト能ハズ独逸国内ニ於
ケル対内価格ノ暴騰甚シキモノアルヲ以テ実物引渡ノ予算
ハ紙幣馬克ニ於テ計算スルニヨリ巨大ノ額ニ上リ日々負担
ヲ増加セシメツアルナリ

故ニ「ジョン・ブラッドベリー」卿ノ意見ニ依レバ採用シ
得ベキ手段ハ相当ノ期間現金支払ヲ全部停止スルト同時ニ
実物引渡ヲモ殆ント全部之ヲ停止スルカ或ハ又独逸国政府
ヲシテ流動公債ノ増加ヲナサシメズシテ平和条約ニ基ク負
担ノ支払ヲ為スコトヲ得ル財源ヲ得セシムル手段ヲ講ズル
ノ他ナシ

「ブラッドベリー」卿ノ提議セル方法ハ平和条約ニ依ル支
払ヲ受領スル国ハ各々受領スヘキ額ニ対シテ五箇年期限独
逸大蔵省証券ヲ保証スルコトニ同意セザルベカラズト云フ

ナリ現金受領国ハ五箇年期限ノ証券ニ依リ之ヲ受領シ右証券ハ自ラ保証ヲ為シテ之ヲ取引スヘシ

実物受領国ハ引渡物ノ価格ニ等シキ額ノ保証ヲ独逸証券ニ与フヘシ

右証券ハ独逸国政府自ラ之ヲ取引スルコトヲ得ルモノトス証券ハ持参者ノ選択ニ從ヒ金又ハ保証国通貨(発行日ノ為替率ニ於テ)ニ依リ支払ハルヘキモ保証ハ後者ノ範圍ニ限ラルヘシ

賠償委員会ハ引渡物価格ノ一部ヲ独逸国予算中ヨリ支払ハムコトヲ要求スル權利ヲ留保スヘシ此ノ場合ニ於テハ実物支払ヲ受クル国ハ如上ノ如キ支払ナキ残額ニ等シキ額ノミノ証券ノ保証ヲ要求セラルヘシ

本取極ハ差当リ二年間有効ノモノトナスモ賠償委員会ハ必要アルニ於テハ更ニ二年間之ヲ継続スルノ權ヲ有スヘシ同盟国政府ハ本取極ノ有効期間終了以前ニ独逸国ノ平和條約ニ基テ總テノ債務ニ関スル全局ノ問題ヲ独逸国支払能力ニ永續の調和ヲ為スノ見地ヨリ且連續の外債ニ依リ債務ノ整理ヲ為スノ見地ヨリ考慮スルノ措置ヲ要求セラルヘシ

本案ハ同盟国間ノ債務ノ決定の整理ヲ独逸国債務問題ノ決

トヲ要ス

「ジョン・ブラッドベリ」卿ハ右条件ハ本案実施ノ監督カ独逸国及其ノ債權者ヨリ財政上ノ信頼ヲ受クルノミナラズ又独逸国政府ト密接ナル協力ヲ為シテ活動スルコトヲ得ル機關ニ委ネラレタル場合ニ於テノミ満足ニ実施セラルヘキモノナリト思考ス依リテ卿ハ賠償委員会ノ改造ト其ノ伯林移転トヲ以テ本案ニ欠クヘカラサル条件ナリトス

一二六 十月二十八日 在仏国松田臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

武府國際會議開催ノ実現悲觀的ナル旨ノ賠償

委員会内ノ觀測報告ノ件

第六二六号 (十月二十九日接受)

賠案第三三一号

賠償委員会ノ伯林滞留ハ二三週間ニ亘ルベク又英國現下ノ政狀ヨリシテ使節ヲ米國ニ派遣スルコトモ急速ノ運ニハ行カズ從テ仏國等ノ希望スル武府國際會議モ予想ノ通ノ開催不可能ナルコト最早明白トナレリ伝フルトコロニ抛レバ英國ハ米國ノ輿論ト自國ノ立場ヨリシテ余リ武府國際會議ニ乘氣ナラズ寧ロ賠償委員会ヲシテ独逸ノ窮狀ニ對スル焦眉

定ト同時ニ行ハザルベカラズト為ス而シテ同盟国政府ハ現時ヨリ此ノ一般の整理決定ニ至ル間ニ生スヘキ困難ニ処スル為直ニ手筈ヲ整ヘ得ルヤ否ヤニ付審議スヘシト勸告スルモノナリ

本案ノ根本的理想ハ平和條約ニ基テ支払ノ停止ヲ避クルニ存ス(若シ平和條約ニ基テ支払ニシテ停止セラレムカ同盟国ハ財政上重大ナル困難ニ遭遇スヘシ)然レトモ亦之ト同時ニ独逸国ニ其ノ通貨ト予算トヲ立直スコトヲ得セシムガ為ニ必要ナル信用取得ノ手段ヲ得セシムトスルモノナリ

然レトモ保障ノ手段ハ独逸国カ新シキ價格ニ對シ租税制度ノ整理ヲ行ヒ自己ノ信用ヲ回復スルニ至ル迄ノ過渡期間ヲ越サムガ為ノ單ナル一時的ノ手段トシテ企圖シタルニ過ギザルナリ

本案ハ左ノ条件カ満足セラルル場合ニ於テノミ成功ノ望ヲ有ス

(一)独逸国ノ予算均衡ヲ可能ナラシムルニ充分ナル便宜ヲ許与セザルベカラズ

(二)尤モ独逸国ハ之ヲ許サレタル目的ニ對シテノミ用フルコ

ノ急ニ応酬セシメ國際貸借ノ問題ハ将来ニ譲ラム意嚮ラシク「ブラッドベリ」及米國非公公式委員等モ同様ノ意嚮ナル旨内話セルコトアリ白國首相カ最近賠償委員会ノ伯林訪問成功セバ兎ニ角ナレドモ十二月中ニ武府國際會議ヲ召集スルコト到底見込ナシト語リタリト言フハ真相ナルベク右會議仮令開催セラルルニ至ルトモ明年ノコトナルベシトハ賠償委員会内一般ノ所説ナリ

英独白ヘ転電セリ

一二七 十二月十三日 在仏国奥山臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

賠償問題等ニ関スル聯合國會議開催ニ付仏國

政府側ノ意見報告ノ件

第八三九号 (十二月十四日接受)

英発大臣宛電報「東欧部長トノ会见談」ニ関シ仏外務省政務局長ニ確メタルニ来ル一月二日巴里ニ於テ首相會議ヲ続行シ時間アラバ「ブラッセル」ニ於テ又時間無キトキハ巴里ニ於テ同四日カ五日ヨリ Allies ノ會議ヲ開催スル趣ナリ首相會議ガ不満足ニ終ルモ尚且「アリエ」ノ會議ヲ開クヤト尋ネタルニ兎ニ角一月十五日前ニ前記兩市ノ一ニ於テ

會議ヲ開ク心算ナリト答ヘタリ就テハ寿府宛電第三一号ノ趣旨ニ依リ會議出席者ヲ予メ指定シ置カルコト準備ノ都合ヨリスルモ便宜ナリト思考ス
英、白、「ローザンヌ」ヘ「転電セリ
米、独、伊、海牙ヘ暗送セリ

一二八 十二月十五日 在ローザンヌ近東平和會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

賠償問題ニ関シ我政府ノ採ルベキ根本の方策

ニ付林大使ヨリ意見稟申ノ件

第五三〇(機密) (十二月十六日接受)

林ヨリ

賠償問題倫敦首相會議ハ結果ヲ見ズシテ延期セラレ来週初メ巴里ニ於テ再開サレ続イテ同地若クハ武府ニ於テ關係諸邦ヲ召集シテ正式會議ヲ開カルベキヤニ見ユ

却説帝國トシテハ國際債務ノ問題ニハ關係ナク賠償問題ニ関シテモ帝國ノ有スル地位ハ賠償額ノ割合甚ダ僅少ナルニ顧ミ(不明)論ズルニ足ラザルノミナラズ問題發展ノ如何ニ依リテハ将来果シテ賠償金ヲ受ケ得ルノ時機アルベキヤ將又幾何ニ減ゼラルベキヤ頗ル覺束ナシ輕少ノ權利ト望ナ

第一一〇

仏来電第八三九号ニ関シ林大使ヘ

該 Alliés ノ會議ニハ閣下ノ御出席ヲ得バ最好都合ト存ゼラルルニ付是非御差繰リ相成度万一右不可能ナルニ於テハ從來ノ關係上松井大使ヲ煩シ度キ意嚮ナルニ付右ノ場合合同大使ニ於テ海牙會議ノ方ヲ一時差繰リ得ラルヘキ御見込ナリヤ至急御協議ノ上何分ノ儀御回電相成度シ
松井大使ニ「転電アリ度シ

一二〇 十二月十六日 在伊國藤井臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

賠償及債務問題ニ関スル倫敦會議ニ伊國ノ提出セル覺書ノ要点報告ノ件

第二五七号 (十二月十八日接受)

十五日「ムッソリニ」羅馬ニ帰着直ニ閣議ヲ開キ過日「ムッソリニ」ガ倫敦會議ニ提出セル覺書ヲ之ニ通告シタル趣ニテ其ノ全文公表セラル其ノ要点左之通

伊國政府ハ独逸ヲ復活スルガ為英白仏其ノ他ノ聯合國ヲ破壊スルコトノ極メテ不当ナルコト、從テ賠償問題ヲ処理スルニ当リテハ同時ニ聯合國間ノ債務問題ヲ閑却シ得ザルコ

キ希望ノ下ニ次第二依リテハ「ルール」占領ト言フガ如キ歐洲問題ノ渦中ニ投ジ且會議ニ於テ大イニ主張ヲ述ブル訳ニモ行カザレバ却テ國家ノ威信ニモ關係スベシ就テハ卑見ヲ以テスレバ帝國政府ニ於テ爾後独逸ヨリ受クベキ要償額ヲ放棄スルノ廟議ヲ定メラレ

一、次回ノ會議ニ於テ帝國ハ歐洲平和ノ為自己ノ要求額ヲ放棄スルコトノ宣言ヲ為シタク

二、或ハ會議ニ臨ムコトナク後ノ宣言ヲ為スカ

何レノ方法ヲ採ルモ爾後賠償問題ニ関スル會議ニ此關係

(?)ノ態度ニ出ヅルコト大國ノ執ルベキ措置トシテ寧ロ機宜ニ適セザルヤト思考ス右宣言ハ仏國ノ感情ヲ害ハズ又他聯合國内ノ協調ヲ害セザル点ニ注意ヲ要スベキニ付テハ前記ノ主義御採用ノ上ハ宣言ノ形式ニ関シ併セテ御考量ヲ煩シタク

一二九 十二月十六日 内田外務大臣ヨリ
在ローザンヌ近東平和會議代表宛
(電報)

賠償問題等ニ関スル聯合國會議ニ林大使ノ出席方要望ノ件

席方要望ノ件

トヲ確言シ之ヲ以テ先決問題トナサンコトヲ提議ス

伊國政府ノ見解ヲ約言スレバ左ノ如シ

(一)部分的又ハ遅延の解決ヲ避クルコト

(二)伊國政府ハ賠償額ノ如何ナル部分ヲモ放棄シ得ザルコト尤英國政府ニシテ自國ノ對聯合國債權ヲ公正ニ決済スル場合ニハ聯合國モ亦賠償額ノ之ニ相当スル割合額ヲ独逸ノ為ニ放棄スベキコト右ノ如キ決済方法ハ英國輿論ノ支持スル所ナル可ク又「バルフォア、ノート」ノ趣旨ト合致スルモノト信ズ

(三)他ノ會議ニ於テ追テ決定スベキ方法及担保ヲ以テ独逸ニ

「モラトリウム」ヲ許シ且独逸ニ貸付ヲ為スコトニヨ

リテ独逸債務ノ残額ヲ決済スルコト

此ヲ以テ伊國政府ハ左ノ提案ヲ為サントス

(一)聯合國ハ次ノ方法ニ依リ証券ノ決済ヲナスコトニ一致ス

(a)奧地利國及洪牙利國ヨリ讓渡ヲ受ケタル國有財産ノ価額

(對奧二百八、對洪百九十一)

(b)奧地利國及洪牙利國ノ負担トセラル可キ賠償債務額(對

奧百七十九、對洪百六十三)

(c)勃牙利ノ負担トセラルベキ賠償債務額

- (d)元本債務トシテ計上スベキ債権ニシテ独逸ノ為ニ賠償委員會ノ承認シタル諸債権トノ相殺、右債権トハ例ヘバ讓渡ヲ受ケタル独逸国有財産ノ価額第三附屬書ノ実行ニ依リ讓渡ヲ受ケタル商船ニ就キ独逸ノ貸方ニ計上セラレタル価額ト右讓渡ヲ受ケタル聯合國ノ借方ニ計上セラレタル価額トノ差額(千九百二十二年三月十一日巴里聯合軍財政協定十二)「ザール」炭坑価額ノ一部(同協定九)及海底電信線ノ価額等ナリ
- (e)仏伊其他ノ賠償ノ權利國ガ戰時中又ハ戰爭ノ為英國ト締結シタル債務トノ相殺
- 残額アルトキハ該残額ニ聯合國ノ対米債務ノ公平ナル決濟ノ行ハルル場合ニ於テ之ヲ放棄スベシ
- (二)右ニ依リ独逸ノ賠償債務ハ証券(a)及(b)ノ債務額即五百億金貨馬克ニ減ゼラルヘシ
- (三)右五百億金貨馬克ノ支払ニ就キ二年ノ「モラトリウム」ヲ独逸ニ許与スベシ
- (四)独逸政府ハ最低三十億金貨馬克ノ債券ノ発行ニツキ独逸ノ銀行及産業会社ノ保障ヲ千九百二十三年一月十五日前ニ取付クルコトヲ約ス

針ニ付林大使ニ訓令ノ件

別 電 十二月十九日内田外務大臣発在ローザンヌ近東

平和會議代表宛電報第一四号

右聯合國會議ニ対スル我方針ニ付訓令

第一三号

往電第一一号ニ関シ林大使ヘ

該會議ニ対スル帝國政府ノ方針本日ノ閣議ニ於テ別電第一四号ノ通決定シタルニ付御含置相成度右ハ同會議全權確定ノ上電訓スヘキモノナル処右以前ニ於テモ必要ノ場合可有之ヲ慮リ不取敢申進スル次第ナリ

仏ヘ転電アリ度シ

(別 電)

十二月十九日内田外務大臣発在ローザンヌ近東平和會議代表宛電報第一四号

右賠償問題ニ関スル聯合國會議ニ対スル我方針ニ付林大使ニ訓令

第一四号

賠償問題等ニ関スル聯合國會議ニ付テハ其ノ議題未タ判明セサル今日詳細ノ意見ハ之ヲ決定スルコトヲ得サルモ一方從來ノ経過ニ徴シ且他方世界財政經濟上ノ不安ヲ一日モ速ニ除去セントスル見地ニ基キ大体左ノ通ノ腹案ヲ定メタル

- (四)右ノ貸付ニ対スル担保トシテハ現ニ賠償優先權ヲ設定スル独逸政府ノ或種ノ歳入ヲ之ニ充当ス、賠償委員會ハ之ニ付同意ヲ与フ可シ(対独二百四十八)
- (六)賠償權利國ハ対独平和条約第八編附屬書ニ從ヒ現物ノ引渡ヲ繼續スベキコトヲ独逸ニ要求スルコトヲ得右現物ノ引渡ニ対シテハ引渡ヲ受ケタル國ノ毎年負担スル貸付金ノ割賦額ニ於テ独逸ニ支払ハル可シ
- (七)「モラトリウム」ノ期間内ハ賠償委員會及担保委員會ハ独逸ガ馬克相場ノ安定、担保委員會ノ要求セル必要ノ改革ノ実行、歳出入均衡ノ恢復及復旧費ノ削除ニ就キ必要ノ措置ヲ執リツツアリヤ否ヤヲ(脱)スベキ租税ノ收納額ヲ成ルベク増加シ貨幣ノ膨張ヲ蔽ニ戒ムベシ
- (八)「モラトリウム」ノ期間ヲ經過シ且独逸ノ信用恢復セラレタル咄、独逸ハ賠償支払ヲ再開スベシ
- 在歐各大使、勞山ヘ郵送セリ

一三一 十二月十九日 内田外務大臣ヨリ
在ローザンヌ近東平和會議代表宛 (電報)

賠償問題等ニ関スル聯合國會議ニ対スル我方

ニ付必要ニ応シ右ノ趣旨ニ依リ可然御措置相成度ク尤モ會議ノ議題及各国ノ提案具体化スルニ於テハ出来得ル限り事情ヲ具シテ予メ請訓セラレタシ

一、一般賠償問題

(イ) 賠償総額軽減問題ニ関シテハ本来支払計画所定ノ額ハ独逸ノ支払能力ノ如何ヲ顧慮セスシテ決定セラレタルモノナルヲ以テ今後独逸ヲシテ確實ニ支払ヲ為サシメムカ為ニハ此際独逸ノ支払能力ニ相応スル程度迄賠償総額ヲ減少スルノ方針ヲ確立スルコト可然從テ帝國政府ハ本問題ニ対シテハ主義トシテハ之ニ賛成スルノ意向ヲ有ス而シテ其軽減ノ程度如何ニ付テハ帝國トシテハ直接ノ利害關係比較的少キニ鑑ミ大勢ニ順応スルノ決心ナルモ独逸ニ対シ過當ニ圧迫ヲ加フルコトハ成ルヘク之ヲ避ケタキ考ナリ尚本問題ニ関スル細目ニ付テハ左ノ通御心得相成タシ

甲、聯合國間ノ債務整理問題ニ關係ナク減額ヲ為ス場合ハ独逸ノ支払能力ニ照シ公正ナリト認メラルル限り勿論差支ナシ

乙、債務問題ト關聯セシムル場合ニ於テ

(A) 債務ヲ有スル聯合國力各自ノ債務ヲ免除セラルル

額タケ其ノ独逸ヨリノ受領額ヲ減少スルコトハ是又差支ナシ

(B) 聯合國全体ニ付キ(米國ノ入ルト否トヲ問ハス)

各國ノ有スル債務總額タケ賠償總額ヲ減少スル場合ニ於テハ我國ノ如ク免除セラルヘキ債務ヲ有セサル國ニ付テハ「スパー」協定ノ分配率ヲ増加セシメ得ヘキ訳合ナルモ今日ニ於テ分配率ノ變更ヲ主張スルハ却テ紛擾ヲ生スル虞アルヲ以テ現状維持ニテ差支ナシ

(C) 支払延期及支払方法ノ變更問題ニ關シテモ同様ノ趣旨ニ依リ適當ノ程度ニ於テ之ヲ承認スルヲ可トス唯英國賠償委員提案(在仏大使來信公第六一五号及第六二〇号)ニ掲ケタル独逸ノ証券ニ對シ取得シタル実物ノ額ノ範圍内ニ於テ保証ヲ為スノ点ハ成ルヘク之ヲ避ケ度キモ大勢之ニ傾カハ本邦ハ取得シタル実物売払代金ノ範圍内ニ於テ保証ヲ為スコトニ異存ナシ尚現金支払ヲ減シテ実物支払ヲ増加スルコトハ我國ニ取り実行上困難ヲ見ルモ大勢ニ順応シテ差支ナシ

(D) 賠償金品ノ分配問題ニ付テハ帝國ニ對スル「スバ

左ノ方針ニ依リ適宜措置セラレタシ

(I) 戦争債權ノ意義ニ就テハ「ゼノア」海牙兩會議ニ於テ決定セラレタル通主張スルコト

(II) 債權帳消ヲ実行スル場合ニハ之ヲ右戦争債權ニ限ルト共ニ相互主義ニ依ルヘキコト

(III) 右ノ意義ニ於テ帝國ノ有スル戦争債權ハ本年八月在仏大使宛往電第四四号所報ノ通円払露國大藏省証券九千五百九十一万七千円(ゼノア宛往電第三四号丙參照)及仏國政府円払大藏省証券二千万円(三千三百十六万円中千三百十六万円ハ本年十月償還済)ノミナル処其内對仏債權ニ對シ我方ニ於テ免除セラルヘキ戦争債務皆無ナルヲ以テ右ハ相互主義ノ適用上当然帳消ヨリ除外セシムヘキコト

(IV) 万一相互主義ノ採用不可能ナル場合ニ於テモ前記對仏債權二千万円ハ本年十月全部償還ヲ受クヘキ筈ナリシヲ仏國政府ノ懇請ニ依リ已ムナク明年十月迄貸替ト為シタルモノナルヲ以テ之ヲ帳消ヨリ除外セシメ日仏間ノ直接交渉ニ依リ処理スルコト

(V) 對露債權ハ今次會議ノ問題外ニ屬スヘキモ若シ予想ニ

一、協定ノ率ハ協定當時及其後ニ於ケル経緯ニモ鑑ミ飽迄之ヲ維持セラレ度シ仏國案(在仏大使來信機密公第六四号)末段ノ分配案ニ關シテハ同案ニ予見セルカ如キ費用ハ各國夫々支出等ノ標準ヲ異ニスルヲ以テ公平ナル結果ヲ得難キノミナラス前記「スパー」協定ノ率ヲ根本的ニ變更スルノ結果ヲ生スヘキヲ以テ本案ニ對シテハ絶対ニ反對ナリ

(二) 現金吐出ノ件ニ付テハ屢次訓令ノ通我國ノ頗ル困難トスル所ナルニ付万一大藏大臣協定第六条ノ變更問題起ル如キコトアルモ是亦絶対ニ反對セラレ度シ

二、賠償問題中賠償額軽減及支払延期ニ對スル保証ノ問題ハ今次會議ニ於テ最モ困難ナル論点ノ一ト予想セラルル処極端ナル独逸ノ財政管理又ハ「ルール」地方産業管理ノ如キハ却テ独逸ノ支払能力ヲ減少セシメ帝國ニ取り不利ナル結果ヲ招クコトアルヘク殊ニ仏國カ单独ニテ右産業管理又ハ軍事占領ヲ実行スルカ如キコトナラハ聯合國間ノ協調ヲ破リ延イテハ一般平和ヲ毀害スルノ虞アルヲ以テ特ニ英國側ト密接ナル聯絡ヲ保タレ右ノ如キ極端ナル決定ニ達スルコトナカラシムル様御配慮アリタシ

三、聯合國間債務問題討議ニ上ルコトナル場合ニハ大体

反シテ討議セラルルコトナル場合ニハ更メテ請訓セラレタシ尚前記ノ外臨時國庫証券特別會計ノ所有ニ係ル對露債權アルモ森財務官ノ説明ニ依レハ「ゼノア」會議ニ於テ之ヲ戦争債權ニ非サルモノトシテ聯合國各國ノ同意ヲ取付ケタル趣ナレハ本問題討議ノ場合ニハ飽ク迄右事実ヲ主張スルコト(「ゼノア」宛往電第二号第三四号及前掲在仏大使宛往電第四四号參照)

(一) 支那ハ今回ノ會議ニ參列スルコトナカルヘク從テ對支借款整理問題ハ討議ニ上ルコトナカルヘキモ万一何レカノ國ヨリ發議セラルルコトアリテモ之カ討議ニハ絶対ニ反對スヘキコト(本邦ノ對支借款中ニハ純然タル戦争債權ナク政府ニ於テ本邦銀行ニ對シ資金ヲ融通シタル參戰借款二千万円及參戰追加借款百六十万円並兵器借款三千二百万円ハ何レモ名稱ハ兎モ角前掲(II)ノ原則ニ依リ帳消ヲ受クヘキモノニ非ス)

四、對独借款問題ニ就テハ若シ之ヲ政府間ノ借款トスル場合ニハ帝國政府財政ノ現状ニ顧ミ到底參加シ難シ又若シ之ヲ民間ノ借款トナス場合ニハ我財界ノ現状ニ鑑ミ余リ多クヲ期待シ得サルヘキモ我資本家ニ對シ招請ヲ發セラ

ルコトハ異存ナシ尤モ右ノ場合ニモ帝國政府ハ右借款ニ付保証ヲ与フルコトヲ得ス尚國際借款問題トハ關係ナク日独間限りノ民間借款ハ帝國政府ニ於テ何等異存ナク現ニ在仏大使宛往電第五九七号ノ通日本銀行ト「ライヒスバンク」トノ間ニ一千万円当座貸越ノ交渉進行中ナリ此点貴官限りノ御含迄

附 歐洲復興國際会社設立問題一件

一三二 一月十二日 在カンヌ林最高會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

歐洲復興國際会社設立問題ニ関シ稟申ノ件

第二十九号

(一月十三日接受)

往電第一九号末段不取敢一万磅醸出ノ件ハ我カ持分僅カ二万円ニ止マル儀ニモ有之カ支出方往電第一七号「ゼノア」會議參列稟申ト共ニ至急御決定ヲ請フ尚ホ往電第二一号(内)末段二百万磅ノ件ハ附屬甲号表「アンネックス」未定ノ為メ分配額不明ナルモ日本(脱)復興ニ対スル關係極メテ薄キ事情ニ顧ミ其ノ割合ハ左迄多額ニ上ルコト万々無之見込ナリ又往電第二一号(内)子会社ヲ各国内ニ設クル件ヲ其ノ儘日本ニ適用セントスルハ總テノ点ニ於テ我カ事情ニ通

ズマジト認メタルニ付一月十一日開場ガ本件会社設立問題担当委員長タル英國陸軍大臣「エヴァンス」ニ會談ノ機會アリシヲ幸ヒ日本ハ子会社ノ經營スヘキ業務モ格別ナク且到底急速スル会社設立ノ事務整フヘシトモ思ハレス歐洲諸國トハ自ラ全ク事情ヲ異ニスル次第ヲ述ヘシメタルニ同大臣ハ是ヲ諒トシ居タル趣ナリ就テハ右子会社設立ノ点ハ必ズシモ(脱)更ニ言明シ置ク事ニ取計フヘシ
在欧米各大使及聯盟總會代表ヘ転電セリ

一三三 一月十九日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

歐洲復興國際会社設立準備委員會日本側代表指令
方英國政府ヨリ督促ノ件

第二十六号 (一月二十日接受)

本使宛在仏大使宛第一二〇号

「カンヌ」會議決定歐洲復興國際会社設立準備委員會日本側代表者ニ関シ十八日英外務省ヨリ指名方督促シ来リタルニ付十三日「カンヌ」ニ於テ通告シ置キタル通開場ヲ出席セシムル旨並同官貴地駐在ニ付開會期日出來得ル限り速ニ當館ヘ通知方申送り置ケリ

一三四 一月二十日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

歐洲復興國際会社設立準備委員會日本側代表ヲ大

久保正金支店長トシタル件

第二十八号

(一月二十一日接受)

本使宛在仏大使宛電報第一二〇号ニ関シ
外務省ヨリ追ツカケ公文ヲ以テ英國ニ於テハ本件準備委員會ニハ政府ト關係ナキ實業家ヲ出席セシムベキニ付日本委員モ官吏ニ非ザルコトヲ希望スル旨申越シタル処他國側ノ振合ハ未ダ明カナラザルモ当事者ニ於テハ本件會議開催ヲ急ギ居ル模様ニ付開場ノ代リニ大久保正金銀行支店長ヲ出席セシムルコトニ變更シタルニ付右御承認ノ上右ノ事情正金本店ヘ御通知置ヲ乞フ

一三五 一月二十日 神野大藏次官ヨリ
田中外務次官代理宛

歐洲財政經濟復興策ニ関シ大藏省ノ意見回答

ノ件

官房秘丙第六号

大正十一年一月二十日

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一三四 一三五

外務次官代理 田中 都吉殿
大藏次官 神野勝之助(印)

歐洲財政經濟復興策ニ関スル件

本年一月六日欧二普通合第一二二号ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件ニ関シテハ最高會議既ニ終了後ニ有之候ヘドモ右ハ主トシテ来ルヘキ國際經濟會議ノ問題トナルヘキ義ト被存候
条當省ノ意見左ノ通及回答候也

第一、歐洲經濟復興機關ニ本邦参加ノ可否

歐洲經濟復興ノタメニスル國際商事会社ニ本邦ノ参加スルハ主義ニ於テ異議ナキモ本邦ハ他ノ参加諸國ト事情ヲ異ニシ特殊ナル地位ニ在ルニ顧ミ本邦實業家カ幾何ノ出資ヲ為シ得ルヤ否ヤハ今日ノ処全ク不明ニ属シ該商事会社ノ目的及組織等ヲ今一層詳ニシ實業家ノ意見ヲ徴シタル上ニ非ザレバ明言難致但シ設立費用一万磅ノ五國均等負担ハ已ムヲ得ザルモノト被存候

第二、對露通商開始ニ本邦参加ノ可否

對露通商開始ニ関シ聯合各國ト協調スルハ不可ナシト雖モ若シ勞農政府ニ對シ右開始ノ前提条件トシテ旧露國政府ノ債務ヲ承認セシムル場合ニハ本年一月十一日秘丙第二号ヲ